

第101図 C区縄文時代前期～晩期土器実測図(5)

るほど丁寧な研磨となる。口縁部は「く」字状に屈曲する。1040は、口縁部内面直下に横方向の沈線を施す。口唇部は丸みを帯びる。1041は外反する口縁で、口縁端部に内外面とも弱い沈線を入れ、端部を丸く仕上げる。1042は、頸部に断面三角形のリボン状突起を丁寧に貼り付ける。

10類土器(1043～1046, 第99図)

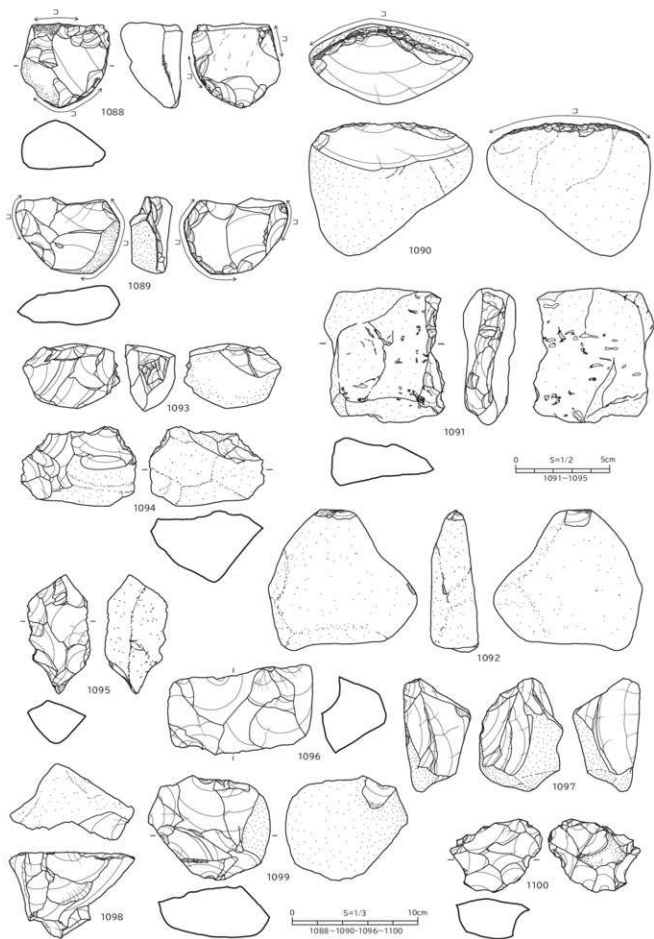
1043は突帯断面形が半円である。1044の突帯断面形は厚みのある台形である。1045の突帯断面形は三角形状で、ヘラ状工具で等間隔に異方向の刻目が入る。1046の突帯断面形は台形で、突帯上に斜めの刻目を等間隔に施す。突帯は工具等で丁寧に貼り付ける。

11類土器(1047～1060, 第100図)

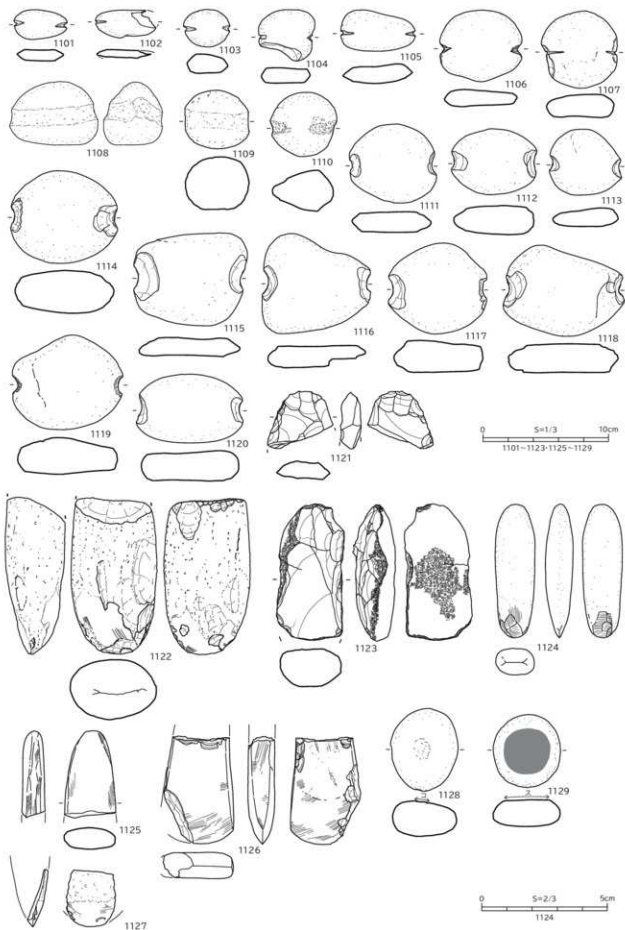
1047・1048は、口縁部が直線的に開き、内外面とも丁寧なナデ調整である。口唇部から口縁部外面に横方向の長・短沈線文を施す。1049の外表面は3条の楕円状工具による横方向の細沈線を施す。1050は直立する口縁部で口唇部は丸みを帯びる。外面に横方向で2条の貝殻刺突文を施す。1051は外反する口縁部で、内面は横、外面は斜方向の貝殻条痕である。1052は口縁端部から外側に屈曲する。内外面ともに丁寧なナデ調整を施し、横方向の沈線文を数条施す。1053は口縁部がわずかに内湾し、口唇部は丁寧なナデにより平滑に仕上げる。外面は斜方向の沈線文の後、横方向主体の沈線文が数条入る。1054は、口縁部が直線的に開き、器壁が薄い。内面は丁寧なナデ調整で、外面に貝殻による刺突文を横方向に2条施す。1055・1056は直立する口縁部である。口唇部を丁寧なナデ調整により平滑に仕上げた後、工具等で押圧する。押圧部の余分な粘土が内側に張り出す。内面は横方向の貝殻条痕文で、外面は多方向の粗い調整を施す。器壁は薄い。1055・1056は出土位置が近接し、同一個体の可能性が高い。1057はやや直立した口縁部で、端部のみ外側に屈曲する。口唇部は丸みを帯び、内外面ともに丁寧なナデ調整である。1058は口縁部下位～胴部片で、下部に向かって窄む器形となる。内外面と



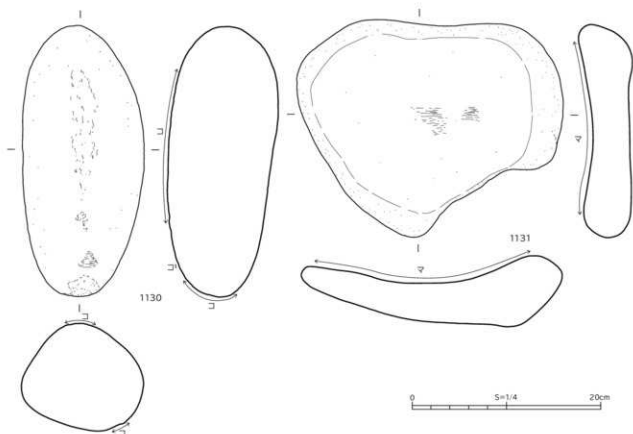
第102図 C区縄文時代前期~晚期石器実測図(1)



第103図 C区縄文時代前期~晚期石器実測図(2)



第104図 C区縄文時代前期~晚期石器実測図(3)



第105図 C区縄文時代前期~晚期石器実測図(4)

も横ないし斜方向の貝殻条痕文が施され、指頭痕も見られる。器壁は薄い。横方向の曲面がほぼ平らな点から、大きな胴部径と推測される。1059は胴部片で、内外面とも横方向の貝殻条痕調整の後、外面に丁寧なナデ調整を施す。外面には煤が付着する。1060は底部付近であり、内外面とも縦方向の貝殻条痕調整で、内面に丁寧なナデ調整が加わる。

12類土器(1061~1065,第100・101図)

1061~1065は平底で、1062はわずかな上げ底、1063~1065は網代底である。

土器片錘(1066・1067,第101図)

1066は貝殻条痕文、1067は無文土器胴部片を用いる。紐掛け部分は切目である。

(2) 石器(1068~1131)

遺構・包含層(Ⅱ層)から出土した石器ならびに後世の遺構の埋土中に混入した石器64点を図化掲載した。個別の詳細は、石器観察表(第4表)を参照されたい。

(a) 遺構出土石器(1068~1071,第102図)

1068~1071はSC20出土である。1068・1069は長軸に紐掛けを持つ打欠石錘である。1070は砂岩製石核で、礫面から打面調整を介さず幅広くで不安定な剥片を剥離する。1071は砂岩製石核転用の敲石である。

(b) 包含層出土石器(1072~1131,第102~105図)

打製石鏃(1072~1074,第102図)・石錐(1075,第102図)・削器(1076~1078,第102図)

打製石鏃・石錐・削器は、早期以前のものが遺構掘削等に伴って混在している可能性があって、厳密には区分できていないが特徴的な3点を図化掲載した。1074は砂岩製の打製石鏃で、特異な石材利用である。1075は剥

片末端にうすい菱形の錐部を設けるもので、錐部はやや長めとなる。1076はつまみ部の欠損した石匙の可能性
がある。1078は、左側縁から右側縁上側に二次加工し刃部とする。

二次加工剥片(1079～1083,第102図)・剥片(1084・1085,第102図)

全て砂岩製である。転磨された礫面から、打面調整を介することなく剥片を剥離しているものが多い。1085のよ
うに石質の影響等もあって剥離の衝撃で縦方向に割れてしまったものや、1083のようにバルブが著しく発達す
るものがある。その他、頁岩製二次加工剥片や砂岩製剥片も出土している。

素刃石器(1086～1090,第102・103図)・礫器(1091・1092,第103図)

全て砂岩製で、二次加工剥片・石核と同質の砂岩が用いられている。1086は二次加工剥片の縁辺が部分的
に特徴的に潰れるものである。1087～1089は石核等を転用したと見られ、剥片剥離したま器面整形等する
ことなく、その縁辺に顕著な潰れ・摩滅が残される。1090は転磨礫の一端を大きく割り出して刃部としている。礫
器は、素刃石器としたものと同様の形態で、縁辺の潰れ・摩滅のないものをまとめた。

石核(1093～1100,第103図)

砂岩製5点・頁岩製4点を図化掲載した。重量は39.3g～436.0gと幅広く、頁岩製のものが多い。い
ずれもよく転磨された礫が用いられ、打面調整を介することなく、礫面からそのまま剥片を剥離するものが多い。
また、石質によっては、剥離が抜けきれず、剥離面が強く波打つもの等がある。いずれも不定形剥片を剥離する。

切目石錘(1101～1107,第104図)・有溝石錘(1108～1110,第104図)・打欠石錘(1111～1120,第104図)

切目石錘はホルンフェルス・砂岩・頁岩の薄めの転磨礫が用いられる。1107は打ち欠き後に切目が入れられ
ている。欠損品を除くと、12.2～37gと軽量である。有溝石錘は砂岩・霧島山系多孔質安山岩が用いられ、後者
はやや特異な石材利用である。紐掛けとなる溝は長軸方向に太く敲打により削り込まれ、溝が全周するもの・部分
的なものがある。重量は105～238gと個体差が大きい。打欠石錘は全て砂岩製で、長軸を打ち欠いて紐掛けを
作出する。1119は細かな打ち欠きを連続させている。重量は、軽い方から62.3g、90.2・93.0g、151.5・
160.5g、192.2・212.8g、256g、289.3gと、いくつかのまとまりを持ちつつ、最軽量のもの最重量のものど
で約4.6倍の開きがある。これらの打欠石錘は、出土位置が重複する首畑式土器の時期のものと思われる。

打製石斧(1121,第104図)

打製石斧は1点のみ出土した。1121は基部側のみ残存するものと考えたが、素刃石器の一部あるいは刃部側
のみ研磨された磨製石斧の基部の可能性もある。

磨製石斧(1122～1127,第104図)

1122は尾鈴山酸性岩類製で、やや特異な石材利用となる。剥離整形の後に敲打整形し、刃部周辺のみ研磨
するもので、基部側に向かって幅・厚みともやや減じている。1123は砂岩製で、磨製石斧を敲石等として転用し
ている。1124は頁岩の棒状楕円礫の一端のみを研磨して刃部とする。1125～1127はホルンフェルス製で、
1125は全面研磨されたものである。1126は全体に偏平なもので、両側面とも面取りが見られ、横断面は、隅が
丸くつやや膨らんだ長方形となる。1127は刃部片であり、研磨面に接して敲打痕が残る。

凹石(1128,第104図)・磨石(1129,第104図)・台石(1130・1131,第105図)

全て砂岩製で、縄文時代早期以前あるいは弥生時代以降のものである可能性も残る。1131の正面は、水分に
由来すると考えられる褐色・黒色の付着物が見られる凹面が広がり、石皿状になっている。

第4節 縄文時代早期の遺構と遺物

1 概要

C区のVI層上面の標高は9.2m～10.0mで、中央部からやや南側は極めて浅い谷状地形となっている。確認調査及び本調査中の先行トレンチにより、アカホヤ火山灰層(III層)直下の黒褐色土層(IV層)は、遺構・遺物とも含まれない無遺物層と把握されたため、赤化礫が露出しはじめる深度(IV層下部～V層上面)までアカホヤ火山灰層(III層)とともに重機により除去した。

遺物包含層であるV層は、C区全体に層厚約10cm堆積している。遺構、遺物ともに緩やかな谷状地形を囲むように確認できた。V層を掘り進めると、C区北半(説明の便宜上、B7～E7Gr.から北をC区北半、B8～E8Gr.から南をC区南半と呼ぶ)から赤化礫が集中して出土した。V層中の赤化礫の広がり(以下、散礫と呼ぶ)をさらに掘り下げていく過程で、赤化礫・遺物ともしだいに出土量が減少し、平地式建物跡1軒(SB5)、集石遺構16基(SI1～SI16)、土坑95基(SC21～SC115)、小穴105基(うち7基がSB5を構成)を検出した。散礫ならびに集石遺構と土坑は平面分布が重複し、C区南半では散礫と土坑のみが分布する。集石遺構は、全16基がC区北半に分布する。小穴の埋土には全てIV層の黒褐色土が混じり、大半がV層上面で検出された(第106・107図)の等高線は、VI層上面で作成)。

また、これらの遺構や遺物包含層から、加栗山式土器や下剝峯式土器などの貝殻土器や無文土器などの破片、打製石鏃、台石等の縄文時代早期の遺物が多数出土し、少量の細石刃・細石刃核等(旧石器時代の遺物)が混在していた。

2 遺構

(1) 平地式建物跡

散礫等の分布とは裏腹に、小穴はC区中央のB6～D6Gr.を中心に105基が検出された(第108図)。これらの小穴のうち、一定の間隔で円形に巡り有機的な関連性が認められるものについて調査時に検討した結果、平地式建物跡の柱穴と積極的に評価した。

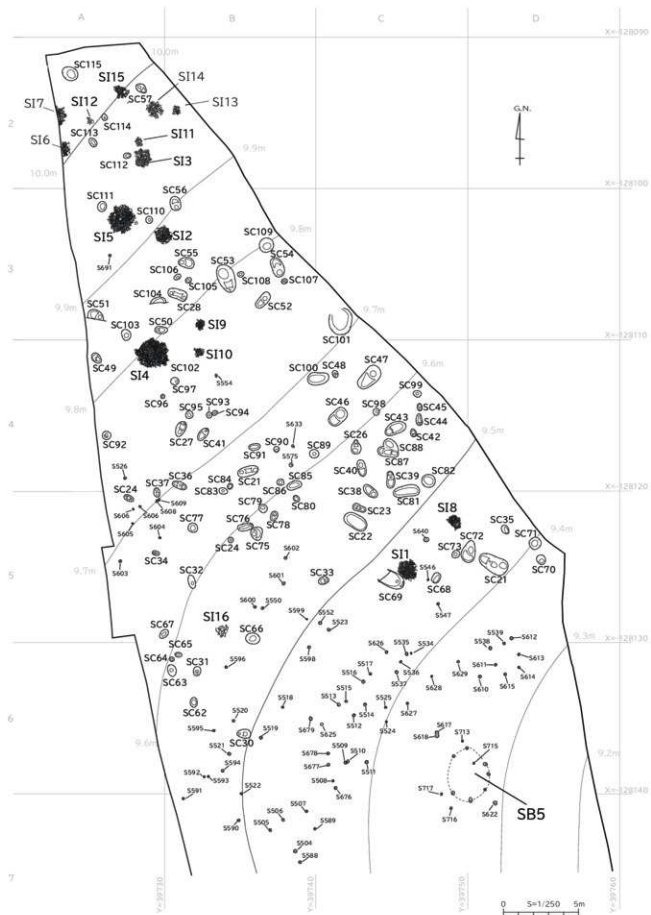
1号平地式建物跡(SB5, 第109図)

C区の中央東端のC6～D6Gr.に位置する。円形に巡る7基の小穴群を柱穴列と考えた。各柱穴を結んだラインは不整形形で、長軸3.7m、短軸2.82mである。柱穴は、径18.0cm～34.0cmで、検出面からの深さは12.0cm～22.0cmである。柱穴間の距離は不均等で、柱穴の多くはやや内側に向かうような形で下端を形成している。柱穴埋土には黒褐色土(IV層)が混入している。なお、柱穴列の内側に小穴1基があるほか、柱穴列に伴う炉や土坑はなく、柱穴内からの遺物も確認されなかった。

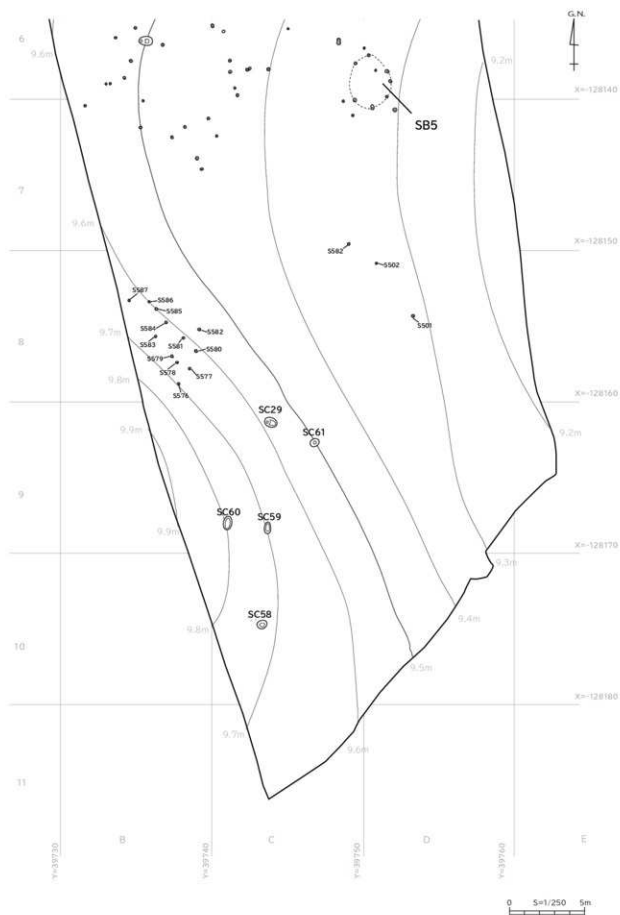
(2) 散礫

V層を掘り下げると、赤化した破砕礫(以下、赤化礫)がC区のほぼ全体に分布し、散礫として記録した。赤化礫の出土位置の記録は、拳大未満の小さな赤化礫については3次元座標を与えることなく掘削土とともに取り上げ、拳大以上の赤化礫53,067点については、3次元座標を与えた上で取り上げた(第110図)。赤化礫の疎密については、特にB5～D5Gr.のC区北部の標高9.8m～10.0m付近で高密度となり、標高9.4m以下の低所ではしだいに疎となる。高密度な範囲では、文字どおり足の踏み場もないような赤化礫の広がりが見られる。

報告では、赤化礫の密集具合を平面的に検討し、1～8号散礫を認定した。これは、現地調査の過程で、ある程度視覚的にとらえていた赤化礫の疎密について、3次元座標をもとに分布状況図を作成したことで初めて認定するに至ったものである。特に、1・2号散礫間の境界、後世の遺構により分析された3号散礫、そして密度の相対的に低



第106図 C区縄文時代早期遺構分布図(1)



第107図 C区縄文時代早期遺構分布図(2)

い4～6号散礫の抽出において、3次元座標が極めて有効であった。

散礫を構成する礫の石材は、大半が砂岩で、わずかに頁岩が見られた。遺物との関係では、散礫中に土器(多くは3cm×4cmほどの小片)、石器(磨石等の礫石器および石器生産に伴う膨大な数mmサイズのチャート製剥片)等の遺物が含まれたほか、散礫を下げきったところで置きざされた台石が複数検出された。散礫中に炭化物が混在することはあったが、集中した出土や材木状に残るものはなく、いずれも径1cm未満の碎片であった。

1号散礫(第110図)

A2・B2・B3Gr.の標高9.9～10.0mに位置する。北東側が調査区外へわずかに広がっているものの、ほぼその全体を調査したものと考えられる。平面的には、おおよそ8m×10mの範囲で分布し、一群として報告するものの、複数単位に細分される余地を残す。下部には2・3・5～7・11～15号集石遺構があり、特に2・3・5号集石遺構は配石を伴うもので、中でも5号集石遺構は規模の大きいものである。1号散礫の中で、赤化礫の分布が最も密なのは、2・3・5号集石遺構に囲まれた範囲である。

2号散礫(第110図)

A3・A4、B3・B4Gr.の標高9.7～9.9mに位置し、おおよそ8m×8mの円形に平面的に広がる。下部には4・9・10号集石遺構があり、特に4号集石遺構は配石を伴う規模の大きなものである。赤化礫の分布は、4号集石遺構を中心に広がっている。

3号散礫(第110図)

C5Gr.の標高9.4～9.5mに位置する。後世の遺構(竪穴建物内の土坑等)により破壊されているが、平面的には、おおよそ4m×6mの範囲で分布する。下部には、11号集石遺構があり、11号集石遺構に重複する範囲から南側にかけて分布する。

4～6号散礫(第110図)

A5・B4・B5・C4・C5Gr.の標高9.5～9.7mに位置する。礫が全体に散漫に広がっている範囲であり、1～3号散礫に比べて密度が低いものの、中でもやや密になっている範囲を抽出し、それぞれ東から4号・5号・6号散礫とした。それぞれ、平面的におおよそ7m×7m、5m×4m、3m×4mの範囲となる。

7・8号散礫(第110図)

南端のC8・C9・C10・D9Gr.の標高9.3～9.7mに位置する。北半に位置する1～6号散礫と比べ、礫量が少なく規模も小さいものの、礫が密集した状況を明確に読み取れるため、散礫とした。7・8号散礫の広がりになり、土坑5基(SC29・SC58～61)が分布する。

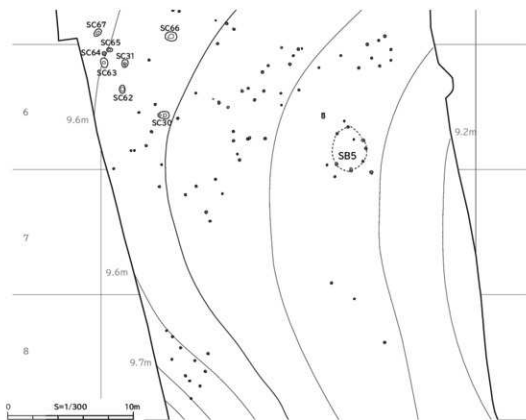
(3) 集石遺構

散礫を取り上げる過程で、特に赤化礫が密集する、あるいは黒ずんだ土の中に高密度に赤化礫が分布する等の特徴により集石遺構と判断した。集石遺構は16基(S11～S116)あり、全てV層中の検出である。集石遺構を構成する礫は、散礫と同じく、赤化し破砕した砂岩礫および少量の頁岩礫であった。また、全16基のうち15基が掘り込みを有し、そのうち5基については掘り込みの底面から人頭大の偏平な赤化礫による配石が確認された。これらの特徴をもとに本遺跡で確認された集石遺構を便宜上、以下のⅠ～Ⅲ類に分類した。なお、集石遺構等を構成する礫について、次のように呼び分ける。

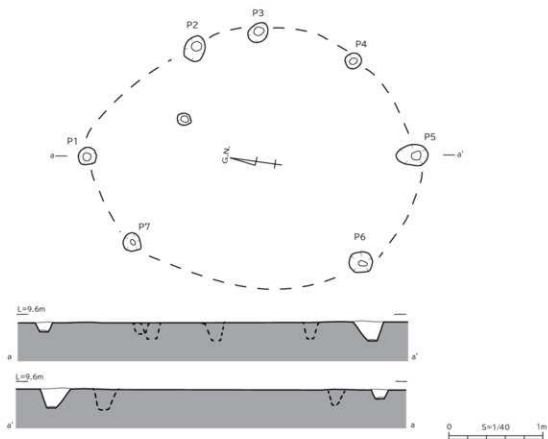
配石：意図的に土坑底面に配置されたとみられる礫。多くの場合、大型偏平な転磨礫で赤化している。

充填礫：土坑内に充填された礫。多くの場合、破砕礫で赤化している。

転磨礫：転磨面を保って割れ等のない礫。



第108図 C区縄文時代早期小穴群分布図



SB5

第109図 C区縄文時代早期遺構実測図(1)

破碎礫：被熱等により転磨礫が破碎されたもの。

赤化礫：被熱により表面が赤色に変色した礫。

集石遺構Ⅰ類：5基

掘り込み中に配石を伴い、配石上に礫が充填される一群である。平面径2m前後のもの1.2～1.5m前後のものがある。掘り込みの深さは0.4m以下である。SI1～SI5が相当する。

集石遺構Ⅱ類：10基

配石を伴わず、掘り込み中に赤化礫が充填される一群である。平面径1m前後のもの0.7m前後のものがある。掘り込みの深さは0.3m以下である。SI6～SI15が相当する。

集石遺構Ⅲ類：1基

掘り込みを伴わず、散礫とは別に、赤化礫のみが集中するものである。SI16が相当する。

【集石遺構Ⅰ類】

1号集石遺構(SI1,第111図)

C5Gr.に位置し、1.50m×1.32mの範囲で検出された。掘り込みの平面形は楕円形で、東壁が外へ張り出したような形となっている。壁は全体にレンズ状の緩い傾斜で立ち上がる。配石は8点の赤化した大型偏平の転磨礫で構成され、うち南寄りに並ぶ2点が接合する。配石は、中央に1点の礫があってその周囲を他の礫が囲むような配置となっている。充填礫・配石と地山の境に、充填礫間の黒色土とほぼ同質の黒色土(2層)が堆積する。充填礫・配石間の埋土(1層)及び2層とも炭化物を多く含んでいたことから、1層から4.2kg・2層から7kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、いずれからも炭化物片・虫瘤が回収された。土器・石器等の遺物は出土していない。

2号集石遺構(SI2,第111図)

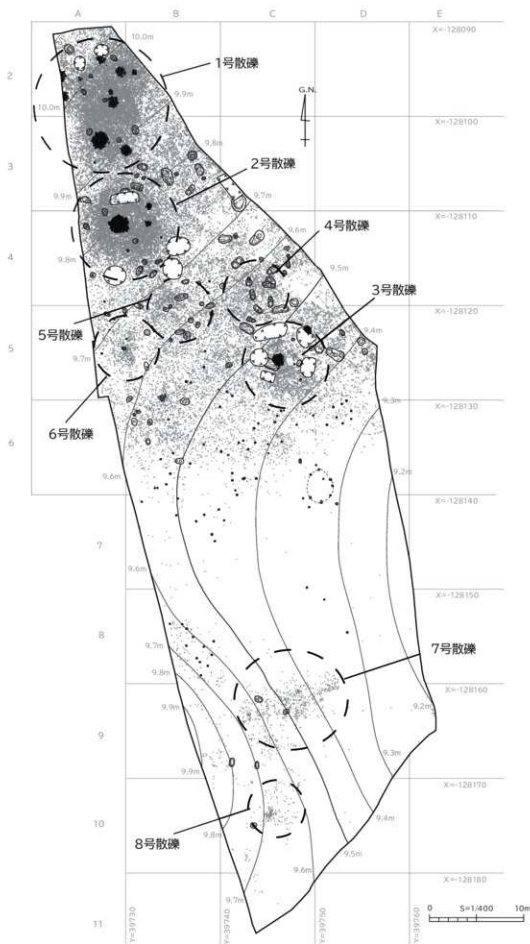
A3Gr.に位置し、1.26m×1.17mの範囲で検出された。掘り込みの平面形は円形で、断面形は浅いすり鉢状である。掘り込み中に充填された破碎礫は赤化が顕著で、磨石(1391)・台石(1390)が混在していた。配石は9点の大型偏平の転磨礫(うち台石が転用されたもの3点(1387～1389)で構成され、全体に赤化が著しく、被熱によると思われるヒビ割れも観察された。配石は上下2段に分かれ、下段石2点の上に7点が重ねられている。充填礫の間は暗褐色土(1層)で、充填礫・配石と地山の境に、1層とほぼ同色の土で炭化物・地山土ブロックを含む土が堆積する(2層)。2層から6kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片のみ回収された。

3号集石遺構(SI3,第111図)

A2Gr.に位置し、1.26m×1.11mの範囲で検出された。掘り込みの平面形は不整形円形で、断面形はお椀状である。検出面においては、東半に比べ西半に大ぶりの赤化礫が多く見られる。配石は、中心に1石を置き、その周囲に7石を配し、いずれの礫も赤化している。充填礫・配石は炭化物を含む黒色土(1層)に含まれ、1層と地山の境に、炭化物を多く含み、地山土ブロックが混在する暗褐色土(2層)が薄く堆積する。縄文土器の小片が出土したが、図化していない。なお、1層から2.8kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片が回収された。

4号集石遺構(SI4,第112図)

A4Gr.に位置し、2.16m×2.07mの範囲で検出された。配石が上下差をもって2面で検出された点や掘り込み平面・断面形の状況から、本来的には3基の集石遺構であったものが重複して、見かけ上、1基の集石遺構となっている可能性が高い。



第110图 C区縄文时代早期散磑分布图

最初の集石遺構(SI4-1)では、掘り込み底面中央に配石を確認。配石は、中心に1石を置き、その周囲に5石を配し、さらにその外側にも数点の石が並べ置かれるものであり、いずれの礫も赤化している。掘り込みの推定径は2mと、3基の中では最も大きく、平面正円形の掘り込みである。

SI4-1の西半に重複して2番目の集石遺構(SI4-2)が掘り込まれる。SI4-1のおよそ2/3の平面規模であり、配石はない。集石遺構としての認定は、SI4-1・SI4-3それぞれに配石があった点からするとやや根拠が弱くなるものの、西側に張り出した不自然な掘り込み平面および底面の状況による。

3番目の集石遺構(SI4-3)は、SI4-1・SI4-2の重複部分の南側に掘り込まれたもので、一般的な集石遺構のように地山面に礫を配するものではなく、SI4-1の充填礫の上に配石を持つものである。配石は8点の大ぶりの礫からなり、赤化が顕著である。配石の存在から認定された集石遺構であり、やや南側に張り出した掘り込みの平面形を根拠にその範囲を推定した。これらの重複関係により、見かけ上、本遺跡最大径の集石遺構となっている。当初は、西側から東側に向かうような検出状況であり、その時点で断面Aラインを設定し、半裁・図化を進めていったが、のちにSI4-3のものと同判明した配石下に不自然な破砕礫が挟いたことや、充填礫を外していく過程で東側に密集した赤化礫の範囲が広がっていったこと、さらにその広がった範囲の下から明瞭な配石(のちにSI4-1のものと同判明)があったことから、改めて断面Bを設け、断面図を作成した。

充填礫・配石は炭化物を含む黒色土(1層)にあり、1層と地山面との境に薄く、地山土ブロックを含む暗褐色土(2層)が堆積する。土器小片が出土した。なお、断面Aラインにおいて1層から5kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片のみ回収された。

5号集石遺構(SI5, 第111図)

A3Gr.に位置し、2.04m×1.95mの範囲で検出された。掘り込みの平面形は円形で、断面形は浅いすり鉢状である。掘り込み平面の広さに対し、配石は掘り込み底面中央の狭い範囲に置かれている。配石は、4点の偏平礫からなり、いずれも赤化している。充填礫・配石は炭化物を多く含む黒色土(1層)中にあり、1層と地山面の境に微細な炭化物粒を多く含む暗褐色土(2層)が薄く堆積する。1層から1.2kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片のみ回収された。また、土器・石器等の遺物は出土していない。

【集石遺構Ⅱ類】

6号集石遺構(SI6, 第112図)

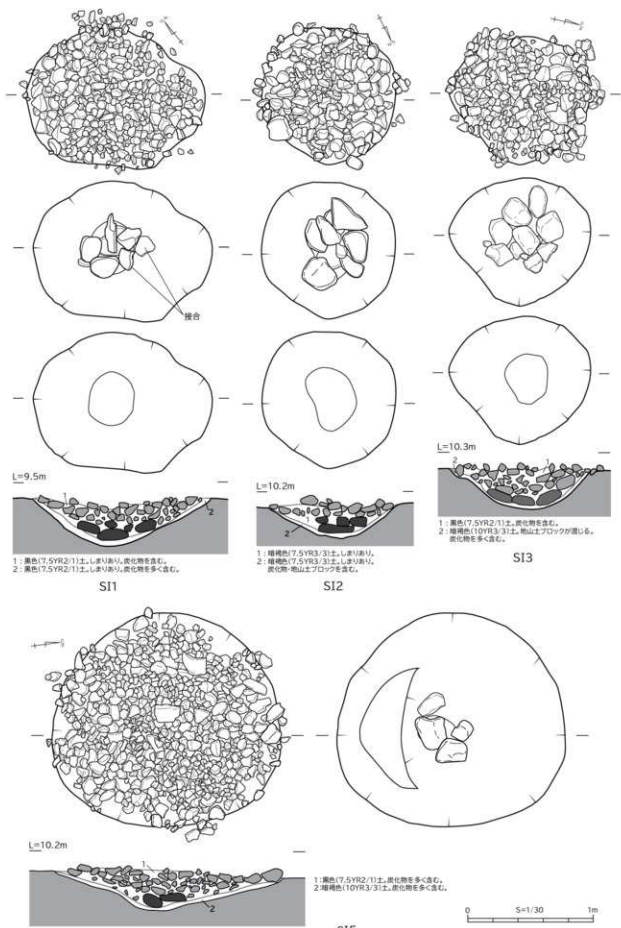
A2Gr.に位置し、C区壁に続くため全形は不明だが、0.99m×0.54m+αの範囲で検出された。掘り込みは明瞭でなく、赤化礫は比較的低密度が低いので、散礫の一部である可能性も残る。赤化礫は、炭化物を伴う硬質の黒色土(1層)中に含まれる。出土遺物のうち敲石(1393)を図化掲載した。

7号集石遺構(SI7, 第112図)

A2Gr.でSI6の北側に位置している。SI6同様、C区壁に続くため全形は不明だが、1.32m×0.60m+αの範囲で検出された。掘り込みが明瞭でないことから、散礫の一部である可能性も残る。赤化礫は、炭化物を伴う硬質の黒色土(1層)中に含まれ、強く赤化した大ぶりの垂角礫が特徴的に見られる。1層から3.5kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片のみ回収された。また、土器・石器等の遺物は出土していない。

8号集石遺構(SI8, 第113図)

C5Gr.に位置し、1.05m×0.87m+αの範囲で検出された。遺構の約3分の1が後世の遺構に削平を受けているが、掘り込みの平面形は円形と推測され、断面形は深い皿状である。赤化礫は褐色土(1層)に含まれ、同埋土が黒色系でなく褐色系と明るい点や、破砕礫が少なく、むしろ赤化した完形の棒状楕円礫が目につく点も、他の集石



第111図 C区縄文時代早期遺構実測図(2)

遺構と差別化できる。何らかの機能の差、あるいは年代等の差を示す可能性がある。赤化礫中に含まれていた敲石2点(1398・1399)を図化掲載した。

9号集石遺構(SI9,第113図)

B3Gr.に位置し、0.78m×0.75mの範囲で検出された。掘り込みの平面形は円形で、断面形は浅いすり鉢状である。赤化礫は暗褐色土(1層)に含まれ、掘り込みの中央部が高密度となり、充填上部では、破砕礫が比較的少なく、完形で赤化した円礫が目立つ。遺物は出土していない。

10号集石遺構(SI10,第113図)

B4Gr.に位置し、0.72m×0.63mの範囲で検出された。掘り込みの平面形は楕円形で、断面形は皿状である。赤化礫は暗褐色土(1層)に含まれ、破砕礫よりも扁平楕円形の赤化礫が目につく。他の集石遺構と比べ、礫の赤化が弱い。遺物は出土していない。

11号集石遺構(SI11,第113図)

A2Gr.に位置し、0.69m×0.63mの範囲で検出された。掘り込みの平面形は円形で、断面形は皿状である。赤化礫は扁平で円形の赤化礫が多い。赤化礫は、地山土に似たにぶい黄褐色土(1層)に含まれている。1層と地山面との境が不明瞭なから、地山土より1層の方が若干暗い色であったため、その違いを捉えながら掘削した。遺物は出土していない。

12号集石遺構(SI12,第113図)

A2Gr.に位置し、0.75m×0.66mの範囲で検出された。報告では集石遺構に含めたが、中央付近に赤化礫を多く含む土坑ともいえるような埋土状況である。赤化礫には台石状の大ぶりの礫が破砕したものがある。暗褐色土(1層)から、下剝釜式土器(1132)・山形押型土器(1133)・チャート製剥片・凹石1点(1392)等が出土した。

13号集石遺構(SI13,第113図)

B2Gr.に位置し、0.66m×0.63mの範囲で検出された。掘り込みは円形であり、掘り込み壁の立ち上がりは緩やかに傾斜する。赤化礫は炭化物を含む暗褐色土(1層)に含まれ、やや大ぶりの亜角礫が目立つ。

14号集石遺構(SI14,第113図)

A2Gr.に位置し、1.35m×1.23mの範囲で検出された。中心から東側よりも西側に赤化礫が集中する。掘り込みの立ち上がりは全体的に緩やかで、赤化礫も密度が低いことから、浅い凹部に赤化礫が流れ込んだ可能性も疑えない。赤化礫は掘り込み埋土(1層)の上部にのみ含まれ、礫中から珪質頁岩製石核1点(1397)が出土した。また、1層中には、大量のチャート製剥片(大半は1cm未満の小片)とともに、辻タイプ土器(1134)・二次加工剥片(1394～1396)等が出土した。なお、1層から0.5kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片のみ回収された。

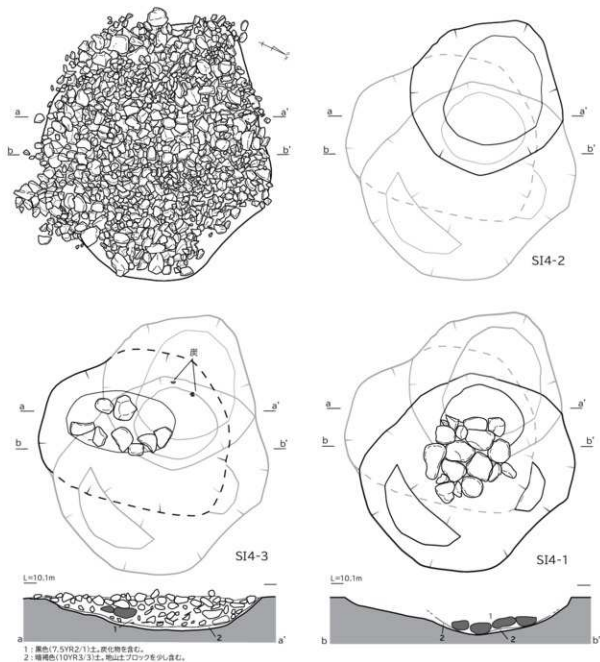
15号集石遺構(SI15,第113図)

A2Gr.に位置し、1.11m×0.84m+αの範囲で検出された。後世の遺構に削平を受けているが、掘り込みは楕円形と考えられる。赤化礫は暗褐色土(1層)に含まれる。遺物は出土していない。

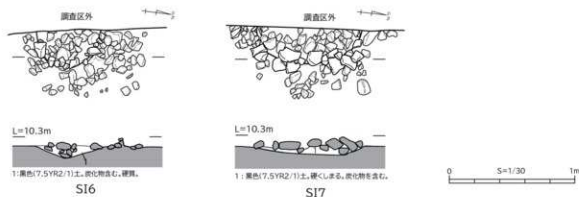
【集石遺構Ⅲ類】

16号集石遺構(SI16,第113図)

B5Gr.に位置し、0.30m×0.27mの狭い範囲で検出された。礫11点で構成され、人頭大で大きく、他の集石遺構とは赤化礫のサイズが異なる。散礫から独立した位置で赤化礫が重なり合って検出されたことから、何らかの掘り込みを伴うものとしてその検出に努めたものの、最終的に掘り込みのない集石遺構とした。



SI4



第112図 C区縄文時代早期遺構実測図(3)

(4) 土坑

散礫を完全に除去したV層下部(あるいはVI層上部)になってはじめて、にじみ状のわずかな土色の違いで土坑を検出した。これは、土坑の掘り込み面がV層下部(あるいはVI層上部)にあるということではなく、散礫が残っている時点では、平面プランを明確につかみにくい点や埋土と地山土の土色の差が明瞭となるまで検出が困難という点で、やや下層での検出となったに過ぎない。土坑の本来的な掘り込みは集石遺構等と同じと思われる。

土坑は95基が検出され、うち90基がC区北半、5基がC区南半に分布する。いずれの土坑も、陥穴状遺構や炉穴・連結土坑のように性格が特定されるものではなかった。特に炉穴・連結土坑については、検出時の平面形や規模等からそれと推測されるものもあったが、埋土中から炭化物等は出土するものの、炉穴・連結土坑の特徴の1つでもある焼土を伴うものは皆無であった。土坑内の遺物は、出土しないか、出土しても土器の小片等が流れ込んだようなもので占められ、意図的に土坑内に置かれたようなものはなかった。

土坑の報告にあたっては、その平面形や床面のパターンから、便宜上、以下のI～Ⅲ類に分類した。

土坑Ⅰ類：8基

平面形が楕円形もしくは隅丸方形で、床面に2か所の落ち込みが見られる一群。SC21～SC28が相当する。

土坑Ⅱ類：29基

平面形が楕円形もしくは隅丸方形で、床面に1か所の落ち込みが見られる一群。SC29～SC57が相当する。

土坑Ⅲ類：58基

平面形が楕円形もしくは円形で、断面形が皿状およびお椀状となる一群。SC58～SC115が相当する。

【土坑Ⅰ類】(SC21～SC28)

21号土坑(SC21, 第114図)

D5Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸2.04m、短軸1.04m、深さは0.14mである。壁の立ち上がりは緩やかで、底面に落ち込みが見られるものの、浅く終わる。人為的な掘り込みでない可能性も残るが、土坑として記録した。埋土中に炭化物を多く含む。出土遺物のうち、下剝釜式土器(1135)を図化掲載した。

22号土坑(SC22, 第114図)

C5Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.60m、短軸0.90m、深さは0.32mである。検出面の埋土(1層)は硬く、炉穴等の可能性を念頭に掘り下げた。南側壁の立ち上がりはやや緩やかであるのに対し、北側壁は直立に近い。埋土中に炭化物を含む。出土遺物のうち、下剝釜式土器(1136)・無文土器(1137)を図化掲載した。

23号土坑(SC23, 第114図)

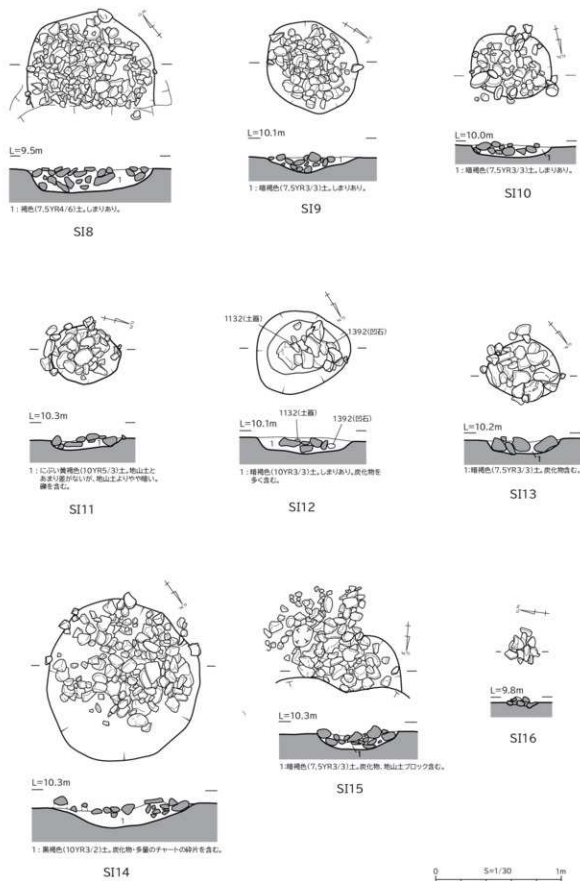
C5Gr.に位置し、SC22に隣接する。瓢箪状の不整楕円形で、長軸0.90m、短軸0.50m、深さは0.20mである。壁の立ち上がりはやや緩やかで、2か所の落ち込みは極端に深くなるものではない。埋土中には赤化礫が含まれ、縄文土器小片が出土した。

24号土坑(SC24, 第114図)

A4Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.68m、短軸0.38m、深さは0.20mである。検出面の埋土(1層)が硬く、炉穴等の可能性を念頭に掘り下げた。壁の立ち上がりはやや緩やかで、2か所の落ち込みのうちの一つがやや深くなる。遺物は出土していない。

25号土坑(SC25, 第114図)

B4Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.40m、短軸0.68m、深さは0.28mである。壁の立ち上がりは



第113図 C区縄文時代早期遺構実測図(4)

やや急傾斜となる。床面の西側にお椀状の落ち込みが見られる。埋土中には赤化礫が含まれ、チャート製剥片が出土した。

26号土坑(SC26,第114図)

C4Gr.に位置する。平面形は不整形で、北側部分が突出している。2基が切り合う可能性も残るが、1つの土坑として記録した。長軸0.96m、短軸0.66m、深さは0.20mである。壁の立ち上がりはやや緩やかで南側の床面がやや深く落ち込む。出土遺物のうち、チャート原石(1400)を図化掲載した。

27号土坑(SC27,第114図)

B4Gr.に位置する。平面形は不整形で、長軸1.08m、短軸0.64m、深さは0.16mである。南側壁の立ち上がりは緩やかで、北側壁は、床面の落ち込みに伴い急傾斜となる。遺物は出土していない。

28号土坑(SC28,第114図)

A3Gr.に位置する。平面形は不整形で、長軸1.32m、短軸0.68m、深さは0.24mである。検出面の埋土(1層)は硬く、炉穴等の可能性を念頭に掘り下げた。西側壁はやや緩やかだが東側壁はやや直立に立ち上がる。床面は西側と東側が中央部分からやや落ち込む。埋土中には赤化礫が含まれ、縄文土器小片が出土した。

【土坑Ⅱ類】(SC29～SC57)

29号土坑(SC29,第114図)

C9Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.84m、短軸0.64m、深さは0.24mである。東側壁は緩やかだが西側壁は床面の落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土はややしまりが無い。遺物は出土していない。

30号土坑(SC30,第114図)

B6Gr.に位置する。平面形は不整形で、長軸0.92m、短軸0.60m、深さは0.24mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、西側の床面に落ち込みが見られる。遺物は出土していない。

31号土坑(SC31,第114図)

B6Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.64m、短軸0.52m、深さは0.24mである。北側壁は緩やかに立ち上がり、南側壁は床の落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土は硬質でしまりがある。遺物は出土していない。

32号土坑(SC32,第114図)

B5Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.88m、短軸0.44m、深さは0.16mである。壁は緩やかに立ち上がり、床面のほぼ中央部に落ち込みが見られる。深さが浅いため人為的な掘り込みでない可能性も残るが、土坑として記録した。遺物は出土していない。

33号土坑(SC33,第114図)

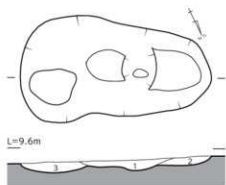
B5Gr.に位置する。平面形は不整形で、長軸0.72m、短軸0.52m、深さは0.20mである。北側壁は緩やかに立ち上がり、南側壁は床の落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土からチャート製剥片が出土した。

34号土坑(SC34,第114図)

A5Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.48m、短軸0.32m、深さは0.16mである。東側壁は緩やかに立ち上がるのに対し、西側壁は床面の落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土は硬い。遺物は出土していない。

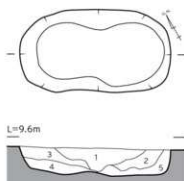
35号土坑(SC35,第114図)

D5Gr.に位置する。平面形は不整形で、長軸0.64m、短軸0.44m、深さは0.08mである。VI層下部まで下がって検出したもので、本来はより深い土坑であった可能性が高い。壁は緩やかに立ち上がり、床面の南側に浅い落ち込みが見られる。埋土中から、縄文土器小片・チャート製剥片が出土した。



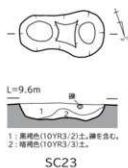
- 1: 暗褐色(10YR3/3)土。
- 2: 濃い黄褐色(10YR5/3)土。
- 3: 濃い黄褐色(10YR5/3)土。2層より炭化物を多く含む。

SC21



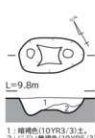
- 1: 黒褐色(10YR3/1)土。硬くしめる。炭化物を含む。
- 2: 黒褐色(10YR3/2)土。炭化物を含む。
- 3: 暗褐色(10YR3/3)土。炭化物を含む。
- 4: 暗褐色(10YR3/4)土。1-3層よりしなりに穴ける。炭化物を含む。
- 5: 灰黄褐色(10YR4/2)土。1-3層よりしなりに穴ける。炭化物を含む。

SC22



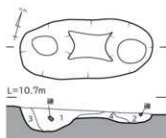
- 1: 黒褐色(10YR3/2)土。硬くしめる。
- 2: 暗褐色(10YR3/3)土。

SC23



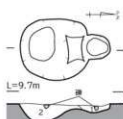
- 1: 暗褐色(10YR3/3)土。
- 2: 濃い黄褐色(10YR5/3)土。

SC24



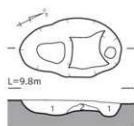
- 1: 黒褐色(10YR3/2)土。硬くしめる。硬を含む。
- 2: 暗褐色(10YR3/2)土。
- 3: 暗褐色(10YR3/3)土。硬くしめる。
- 4: 濃い黄褐色(10YR5/3)土。1-3層より軟弱。

SC25



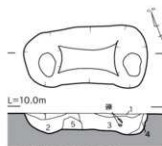
- 1: 暗褐色(10YR3/3)土。硬くしめる。
- 2: 濃い黄褐色(10YR5/4)土。

SC26



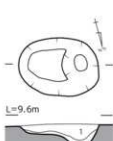
- 1: 暗褐色(10YR3/3)土。
- 2: 濃い黄褐色(10YR5/3)土。

SC27



- 1: 黒褐色(10YR3/2)土。硬くしめる。
- 2: 濃い黄褐色(10YR5/3)土。
- 3: 暗褐色(10YR3/3)土。1層より硬くしめたいが硬弱を多く含む。
- 4: 濃い黄褐色(10YR5/4)土。ややしなりに穴ける。
- 5: 濃い黄褐色(10YR5/3)土。ブロック状でややしなりに穴ける。

SC28



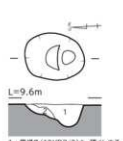
- 1: 黒褐色(7.5YR3/1)土。しなりあり。
- 2: 暗褐色(7.5YR3/3)土。しなりあり。

SC29



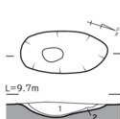
- 1: 黒褐色(7.5YR3/1)土。しなりあり。硬くしめる。
- 2: 暗褐色(7.5YR3/3)土。しなりあり。粘土上ブロック(1-3cm)を少量含む。

SC30



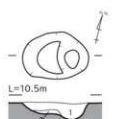
- 1: 黒褐色(10YR3/2)土。硬くしめる。
- 2: 暗褐色(10YR3/3)土。硬くしめたいが硬弱を多く含む。

SC31



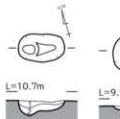
- 1: 黒褐色(7.5YR3/1)土。しなりあり。粘土上ブロック(1-10cm)を少量含む。
- 2: 暗褐色(7.5YR3/3)土。しなりあり。粘土上ブロック(1-3cm)を少量含む。

SC32



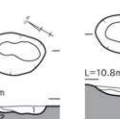
- 1: 暗褐色(10YR3/3)土。硬くしめる。
- 2: 濃い黄褐色(10YR5/3)土。

SC33



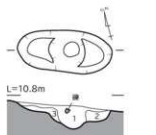
- 1: 暗褐色(10YR3/2)土。硬くしめる。
- 2: 黒褐色(10YR3/3)土。硬くしめたいが硬弱を多く含む。

SC34



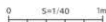
- 1: 暗褐色(10YR3/3)土。
- 2: 暗褐色(10YR3/3)土。暗褐色土ブロック(1cm)を含む。

SC35



- 1: 暗褐色(10YR3/2)土。硬くしめる。硬を含む。
- 2: 黒褐色(10YR3/3)土。硬くしめたいが硬弱を多く含む。
- 3: 濃い黄褐色(10YR5/3)土。L層に穴ける。

SC36



第114図 C区縄文時代早期遺構実測図(5)

36号土坑(SC36,第114図)

B4Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.00m、短軸0.48m、深さは0.24mである。西側壁は緩やかに立ち上がるのに対し、東側壁は床面の落ち込みに伴いやや急傾斜となる。埋土は硬質で、赤化礫を含む。

37号土坑(SC37,第115図)

A5Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.64m、短軸0.44m、深さは0.12mである。南側壁は緩やかに立ち上がり、北側壁は床面の落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土中に赤化礫を含む。

38号土坑(SC38,第115図)

C5Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.08m、短軸0.58m、深さは0.20mである。西側壁は緩やかに立ち上がり、東側壁は床面の落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土中には赤化礫や多くの炭化物が含まれ、チャート製剥片が出土した。

39号土坑(SC39,第115図)

C4Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸1.12m、短軸0.56m、深さは0.24mである。壁の立ち上がりはやや急傾斜で、床面の中央やや北に落ち込みが見られる。埋土中には赤化礫が含まれ、剥片(桑ノ木津留産黒曜石製、姫島産ガラス質安山岩製、チャート製)が出土した。

40号土坑(SC40,第115図)

C4Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.12m、短軸0.54m、深さは0.18mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、床面の北側に落ち込みが見られる。南隣のSC38と同じく埋土中には赤化礫・多くの炭化物が含まれ、縄文土器小片が出土した。なお、炭化物を多く含む1層について3.2kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片のみ回収された。

41号土坑(SC41,第115図)

B4Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.98m、短軸0.56m、深さは0.18mである。壁はやや緩やかに立ち上がる。床面の東側に落ち込みが見られる。埋土は硬く、埋土中から縄文土器小片・砂岩製剥片が出土した。

42号土坑(SC42,第115図)

C4Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.52m、短軸0.40m、深さは0.16mである。南側壁は緩やかに立ち上がり、北側壁は床面の落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土はにぶい黄褐色系で明るく、地山土の色に近い。遺物は出土していない。

43号土坑(SC43,第115図)

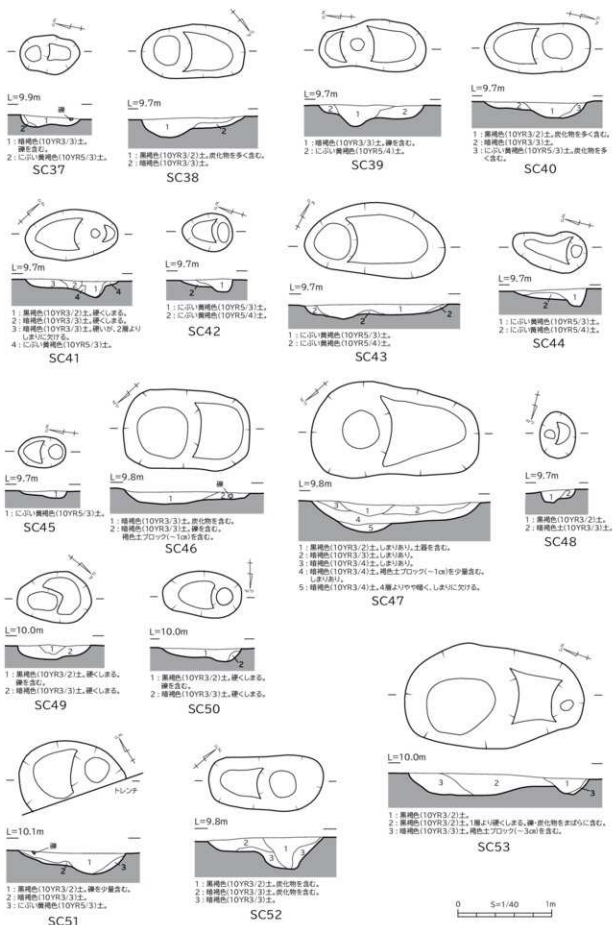
C4Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.48m、短軸0.80m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、床面の西側に浅い落ち込みが見られる。埋土はにぶい黄褐色系で明るく、地山土の色に近い。遺物は出土していない。

44号土坑(SC44,第115図)

C4Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.80m、短軸0.44m、深さは0.20mである。北側壁は緩やかに立ち上がり、南側壁は床面の落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土はにぶい黄褐色系で明るく、地山土の色に近い。遺物は出土していない。

45号土坑(SC45,第115図)

C4Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.50m、短軸0.34m、深さは0.08mである。北側壁は緩やかに立ち上がり、南側壁は落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土はにぶい黄褐色系で明るく地山土の色に近いもので、埋



第115図 C区縄文時代早期遺構実測図(6)

土中から砂岩製二次加工礫片(1401)が出土した。

46号土坑(SC46,第115図)

C4Gr.に位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.34m、短軸0.88m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、床面の北側に浅い皿状の落ち込みが見られる。埋土中には炭化物・赤化礫が含まれ、下剝峯式土器(1138)が出土した。

47号土坑(SC47,第115図)

C4Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸1.76m、短軸0.96m、深さは0.32mである。他の土坑よりも大きな平面プランであり、炉穴等の可能性も考慮しつつ掘り下げた。壁はやや緩やかに立ち上がり、床面の東側に浅い皿状の落ち込みが見られる。埋土中には炭化物が含まれ、押型文土器(1139)が出土した。

48号土坑(SC48,第115図)

C4Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.52m、短軸0.36m、深さは0.18mである。東側壁の立ち上がりは床面の落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土中から、桑ノ木津留産黒曜石製剥片が出土した。

49号土坑(SC49,第115図)

A4Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.80m、短軸0.56m、深さは0.16mである。東側壁は床面の落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土は硬質で赤化礫が含まれ、チャート製剥片が出土した。

50号土坑(SC50,第115図)

B3Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.84m、短軸0.52m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、床面の西側に浅い落ち込みが見られる。埋土中には赤化礫が含まれ、チャート製剥片が出土した。

51号土坑(SC51,第115図)

A3Gr.に位置する。トレンチで削平を受けているが、平面形は楕円形と推測され、長軸1.12m、深さは0.24mである。壁はやや緩やかに立ち上がる。床面の東側にお椀状の浅い落ち込みが見られる。埋土中には赤化礫が含まれ、チャート製剥片が出土した。

52号土坑(SC52,第115図)

B3Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸1.20m、短軸0.60m、深さは0.36mである。壁の立ち上がりはやや緩やかで、床面中央の東側に落ち込みが見られる。埋土中には炭化物が含まれ、縄文土器小片・チャート製剥片が出土した。

53号土坑(SC53,第115図)

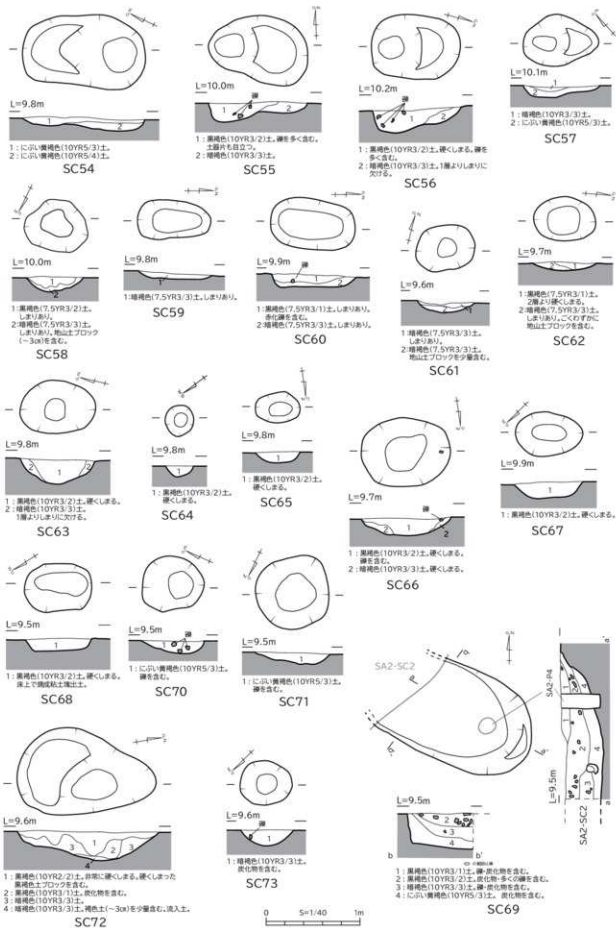
B3Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸1.92m、短軸1.12m、深さは0.22mである。他の土坑よりも大きな平面プランであり、炉穴等の可能性も考慮しつつ掘り下げた。壁はやや緩やかに立ち上がり、床面の北側は浅い皿状に、南側はお椀状に落ち込みが見られる。埋土中には、炭化物・赤化礫が含まれる。

54号土坑(SC54,第116図)

B3Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸1.32m、短軸0.80m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、床面の南側に浅い皿状の落ち込みが見られる。埋土中から、桑ノ丸式土器小片・桑ノ木津留産黒曜石製剥片が出土した。

55号土坑(SC55,第116図)

A3Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸1.04m、短軸0.76m、深さは0.20mである。東側壁は緩やかに立ち上がり、西側壁は床面の落ち込みに伴い急傾斜となる。出土遺物のうち、下剝峯式土器(1140)・無文土



第116図 C区縄文時代早期遺物実測図(7)

器(1141)を図化掲載した。

56号土坑(SC56,第116図)

A3・B3Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.92m、短軸0.68m、深さは0.28mである。北側壁は緩やかに立ち上がり、南側壁は床面の落ち込みに伴い急傾斜となる。埋土中には、赤化礫が多く含まれる。

57号土坑(SC57,第116図)

A2Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.80m、短軸0.56m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、床面の西側に浅い落ち込みが見られる。人為的な掘り込みでない可能性も残るが、土坑として記録した。埋土中からチャート製剥片が出土した。

【土坑Ⅲ類】(SC58～SC115)

58号土坑(SC58,第116図)

C10Gr.に位置する。平面形は不整形で、長軸0.68m、短軸0.56m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土中から山形押型文土器小片が出土した。

59号土坑(SC59,第116図)

C9Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.78m、短軸0.36m、深さは0.08mである。浅いため人為的な掘り込みでない可能性も残るが、土坑として記録した。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は浅い皿状である。遺物は出土していない。

60号土坑(SC60,第116図)

C9Gr.に位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸0.88m、短軸0.56m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土中には、赤化礫が含まれる。遺物は出土していない。

61号土坑(SC61,第116図)

C9Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.64m、短軸0.52m、深さは0.12mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。遺物は出土していない。

62号土坑(SC62,第116図)

B6Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.64m、短軸0.48m、深さは0.08mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は浅い皿状である。埋土は硬質で、遺物は出土していない。

63号土坑(SC63,第116図)

B6Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.80m、短軸0.56m、深さは0.28mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土は硬質で、剥片(姫島産ガラス質安山岩製、チャート製)が出土した。

64号土坑(SC64,第116図)

B6Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.32m、短軸0.32m、深さは0.12mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土は硬質で、遺物は出土していない。

65号土坑(SC65,第116図)

B6Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.48m、短軸0.32m、深さは0.12mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土は硬質で、遺物は出土していない。

66号土坑(SC66,第116図)

B6Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.96m、短軸0.76m、深さは0.18mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土は硬質で、縄文土器小片、チャート製剥片が出土した。

67号土坑(SC67,第116図)

A5Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.72m、短軸0.48m、深さは0.18mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土は硬質で、チャート製剥片が出土した。

68号土坑(SC68,第116図)

C5Gr.に位置する。平面形は不整楕円形で、長軸0.70m、短軸0.48m、深さは0.12mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土は硬質で、焼成粘土塊(1142)が出土した。

69号土坑(SC69,第116図)

C5Gr.に位置し、S11に隣接する。後世の遺構に北西側を削平されている。平面形は楕円形と推測され、深さは0.44mである。他の土坑よりも大きな平面プランであり、炉穴等の可能性も考慮しつつ掘り下げた。東側壁は緩やかに立ち上がるのに対し、南北の壁はやや直立する。断面形は皿状である。埋土は1～4層に分かれ、各層とも多くの炭化物および赤化礫が含まれる。遺物は3層を中心に多く含まれ、そのうち下割釜式土器(1143・1144・1149)・無文土器(1145・1147・1148)・押型土器(1146)・磨石(1402)・凹石(1403・1404)・打製石鏃(1405～1409)を図化掲載した。なお、3層から6.4kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片のみ回収された。

70号土坑(SC70,第116図)

D5Gr.に位置する。平面形は不整円形で、長軸0.64m、短軸0.58m、深さは0.16mである。北側壁は緩やかに立ち上がるのに対し、南側壁はやや急傾斜となる。断面形はお椀状である。埋土は明るく、にぶい黄褐色系である。埋土中には赤化礫が含まれ、縄文土器小片が出土した。

71号土坑(SC71,第116図)

D5Gr.に位置する。平面形は不整円形で、長軸0.78m、短軸0.76m、深さは0.12mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土は明るく、にぶい黄褐色系のもので、赤化礫が含まれていた。埋土中から、縄文土器小片、チャート製剥片が出土した。

72号土坑(SC72,第116図)

C5Gr.に位置し、近接してSC73がある。検出面の埋土(1層)は硬く、炉穴等の可能性も念頭に掘り下げた。平面形は不整楕円形で、長軸1.48m、短軸0.92m、深さは0.32mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土中には炭化物が含まれ、微細剝離片(1410)が出土した。

73号土坑(SC73,第116図)

C5Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.56m、短軸0.48m、深さは0.18mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土中には炭化物が含まれ、下割釜式土器(1150)が出土した。

74号土坑(SC74,第117図)

B5Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.38m、短軸0.36m、深さは0.12mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土中からチャート製剥片が出土した。

75号土坑(SC75,第117図)

B5Gr.に位置し、SC76に隣接する。平面形は不整円形で、長軸0.88m、短軸0.76m、深さは0.20mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。出土遺物のうち、打製石鏃(1411・1412)を図化掲載した。

76号土坑(SC76,第117図)

B5Gr.に位置し、SC75に隣接する。平面形は不整楕円形で、長軸1.04m、短軸0.52m、深さは0.12mであ

る。東側壁は緩やかに立ち上がるのに対し、西側壁はほぼ直立する。断面形は皿状である。遺物は出土していない。

77号土坑(SC77,第117図)

B5Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.64m、短軸0.64m、深さは0.18mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土は硬質で赤化礫が含まれ、チャート製剥片が出土した。

78号土坑(SC78,第117図)

B5Gr.に位置する。平面形は不整形円形で、長軸0.64m、短軸0.48m、深さは0.18mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土は硬質で赤化礫が含まれ、チャート製剥片が出土した。

79号土坑(SC79,第117図)

B5Gr.に位置する。平面形は不整形円で、長軸0.56m、短軸0.52m、深さは0.20mである。壁はやや急傾斜で、断面形はお椀状である。埋土中には赤化礫が含まれ、縄文土器小片、チャート製剥片が出土した。

80号土坑(SC80,第117図)

B5Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.50m、短軸0.38m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土は硬質で、チャート製剥片が出土した。

81号土坑(SC81,第117図)

C4Gr.に位置する。他の土坑より大きな平面プランであり、炉穴等の可能性も考慮しつつ掘り下げた。平面形は不整形円形で、長軸1.76m、短軸0.80m、深さは0.08mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土に赤化礫を含む。出土遺物のうち、底面上から出土した台石(1414)を図化掲載した。

82号土坑(SC82,第117図)

C4Gr.に位置する。平面形は不整形円で、長軸0.92m、短軸0.88m、深さは0.12mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土に赤化礫を含み、出土遺物のうち、下割釜式土器(1151)を図化掲載した。

83号土坑(SC83,第117図)

B5Gr.に位置する。平面形は不整形円形で、長軸0.60m、短軸0.40m、深さは0.14mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土は硬質で、赤化礫が多く含まれる。遺物は出土していない。

84号土坑(SC84,第117図)

C区中央よりやや北側のB4Gr.に位置する。平面形は不整形円で、長軸0.40m、短軸0.32m、深さは0.08mである。壁はやや直立し、断面形は皿状である。埋土中に赤化礫が多く含まれる。遺物は出土していない。

85号土坑(SC85,第117図)

B4Gr.に位置する。平面形は不整形円形で、長軸1.00m、短軸0.56m、深さは0.16mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土中からチャート製剥片が出土した。

86号土坑(SC86,第117図)

B4Gr.に位置する。平面形は不整形円で、長軸0.48m、短軸0.44m、深さは0.16mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。遺物は出土していない。

87号土坑(SC87,第117図)

C4Gr.に位置する。他の土坑より大きな平面プランであり、かつ切り合っているという点からも炉穴等の可能性も考えながら掘り下げた。平面形は不整形円形で、長軸1.40m、短軸0.64m、深さは0.16mである。西側壁は緩やかに立ち上がるのに対し、東側壁はほぼ直立する。断面形は皿状である。SC88と切り合い関係にあり、SC88より新しい。埋土は1～3層に分かれ、1・2層を中心に炭化物や赤化礫が含まれた。同層中から剥片(チャート製、

ガラス質安山岩製)も出土した。なお、1層から8.5kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片のみ回収された。

88号土坑(SC88,第117図)

C4Gr.に位置する。SC87に削平を受けているが、平面形は楕円形だと推定される。深さは0.12mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。SC87より古い。埋土中には炭化物・赤化礫が含まれ、チャート製剥片が出土した。

89号土坑(SC89,第117図)

B4Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.64m、短軸0.56m、深さは0.24mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土中に赤化礫が含まれる。遺物は出土していない。

90号土坑(SC90,第117図)

B4Gr.に位置する。平面形は不整形円で、長軸0.36m、短軸0.36m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。遺物は出土していない。

91号土坑(SC91,第117図)

B4Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.78m、短軸0.40m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土中に赤化礫が含まれる。出土遺物のうち、桑ノ木津留産黒曜石製打製石鏃(1413)を図化掲載した。

92号土坑(SC92,第117図)

A4Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.56m、短軸0.56m、深さは0.20mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土は硬質で、チャート製剥片が出土した。

93号土坑(SC93,第117図)

B4Gr.に位置し、SC94と近接する。平面形は不整形円で、長軸0.40m、短軸0.40m、深さは0.16mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土は硬質で赤化礫が含まれる。遺物は出土していない。

94号土坑(SC94,第117図)

B4Gr.に位置する。平面形は不整形円で、長軸0.40m、短軸0.32m、深さは0.12mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土中に赤化礫や多くの炭化物が含まれる。遺物は出土していない。

95号土坑(SC95,第117図)

A4Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.52m、短軸0.50m、深さは0.18mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土中に炭化物が多く含まれる。遺物は出土していない。

96号土坑(SC96,第117図)

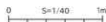
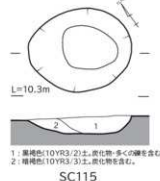
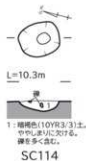
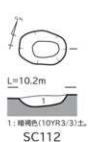
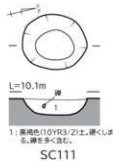
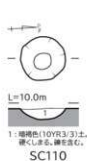
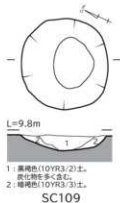
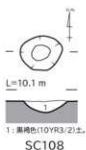
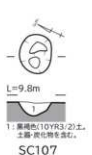
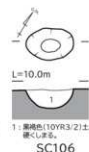
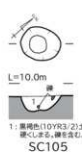
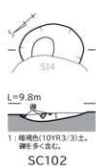
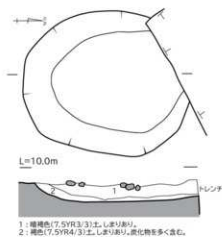
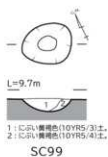
A4Gr.に位置する。平面形は小型の不整形円で、長軸0.32m、短軸0.28m、深さは0.08mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。遺物は出土していない。

97号土坑(SC97,第117図)

B4Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.56m、短軸0.52m、深さは0.20mである。西側壁は緩やかに立ち上がるのに対し、東側壁は急傾斜となる。断面形はお椀状である。埋土中に炭化物が多く含まれる。遺物は出土していない。

98号土坑(SC98,第117図)

C4Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.48m、短軸0.44m、深さは0.16mである。壁は緩やかに立ち上



第118図 C区縄文時代早期遺構実測図(9)

がり、断面形はお椀状である。埋土は明るく、にぶい黄褐色系である。遺物は出土していない。

99号土坑(SC99,第118図)

C4Gr.に位置する。平面形は不整形円で、長軸0.52m、短軸0.44m、深さは0.12mである。壁や断面形・埋土の特徴はSC98と同じである。遺物は出土していない。

100号土坑(SC100,第118図)

B4Gr.に位置する。平面形は不整形円で、長軸1.40m、短軸0.88m、深さは0.20mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土中から下割釜式土器小片が出土した。

101号土坑(SC101,第118図)

C3Gr.に位置する。下層確認トレンチに削平を受けているが、他と比べ平面の広い土坑である。平面形は円形だと推定され、深さは0.24mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。検出面では赤化礫がやや集中したため、当初は集石遺構として認識したものの、断面の状況から埋土上部(1層)に赤化礫を多く含む土坑とみなした。1・2層とも炭化物が多く含まれ、下割釜式土器小片が出土した。なお、1層から13.5kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片のみ回収された。

102号土坑(SC102,第118図)

A4Gr.に位置する。SI2により削平を受けているが、平面形は楕円形と推定できる。深さは0.12mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土中に赤化礫が多く含まれ、チャート製剥片が出土した。

103号土坑(SC103,第118図)

A4Gr.に位置する。平面形は不整形円で、長軸0.72m、短軸0.60m、深さは0.16mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土は全体的にしまりに欠け、赤化礫が多く含まれる。遺物は出土していない。

104号土坑(SC104,第118図)

A3Gr.に位置する。SC17に削平を受けているが平面形は楕円形だと推定できる。深さは0.20mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。遺物は出土していない。

105号土坑(SC105,第118図)

A3Gr.に位置する。平面形は不整形円で、長軸0.44m、短軸0.36m、深さは0.18mである。北東壁はやや緩やかに立ち上がるのに対し、南西壁は急傾斜となる。断面形はお椀状である。埋土は硬質で赤化礫が含まれ、無文土器小片・チャート製剥片が出土した。

106号土坑(SC106,第118図)

A3Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.52m、短軸0.36m、深さは0.20mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土は硬質で、チャート製剥片が出土した。

107号土坑(SC107,第118図)

B3Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.40m、短軸0.34m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。埋土中に炭化物が含まれ、燃糸文土器(1152)が出土した。

108号土坑(SC108,第118図)

C区北側のB3Gr.に位置する。平面形は不整形円で、長軸0.44m、短軸0.36m、深さは0.12mである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はお椀状である。遺物は出土していない。

109号土坑(SC109,第118図)

B3Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.96m、短軸0.92m、深さは0.16mである。壁は緩やかに立ち上

がり、断面形は皿状である。埋土1層は炭化物が多く含まれ、剥片(チャート製・ホルンフェルス製)が出土した。なお、1層から14kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片のみ回収された。

110号土坑(SC110,第118図)

A3Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.48m、短軸0.48m、深さは0.12mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土は硬質で、赤化礫が含まれる。遺物は出土していない。

111号土坑(SC111,第118図)

A2Gr.に位置する。平面形は円形で、長軸0.68m、短軸0.60m、深さは0.20mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土は硬質で、赤化礫が多く含まれ、チャート製剥片が出土した。

112号土坑(SC112,第118図)

A2Gr.に位置し、S15に近接する。平面形は楕円形で、長軸0.48m、短軸0.36m、深さは0.12mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。遺物は出土していない。

113号土坑(SC113,第118図)

A2Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.64m、短軸0.44m、深さは0.16mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土に赤化礫が多く含まれる。遺物は出土していない。

114号土坑(SC114,第118図)

A2Gr.に位置する。平面形は不整形円形で、長軸0.44m、短軸0.36m、深さは0.12mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土はややしまりに欠け、赤化礫が多く含まれる。遺物は出土していない。

115号土坑(SC115,第118図)

A2Gr.に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.08m、短軸0.88m、深さは0.20mである。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。埋土1層に炭化物および赤化礫が多く含まれ、縄文土器小片が出土した。同層から1kgの土を採取しフローテーションを実施した結果、炭化物片のみ回収された。

3 遺物

(1) 土器(第119～138図)

(a) 土器の分類

第V層から出土した縄文土器(深鉢)について、特に南九州に既存の土器型式との対応関係から次の13～21類に分類し図化掲載した。なお、小片であることや器面の風化等で情報が不足する資料もあるため、本項で記した分類が既存の分類基準とは必ずしも合致しない場合がある。

13類 加葉山式土器

全体の器形は円筒形または角筒形であり、丁寧な整形・調整を行う。口縁部外面には横位の貝殻腹縁刺突文を2～3段、胴部には、貝殻条痕調整ののち貝殻腹縁刺突文を施し、上部には粘土付加手法による瘤状・模状の突起を数段巡らすものがある。口唇部と底部付近の外面に縦位のキザミが見られる。

14類 別府原式土器

全体の器形は、口縁部がやや外反する円筒形で、底部は窄まる。外面には、横位または斜位の浅い貝殻条痕文を施し、口縁部には刺突文が見られるものもある。また、内面の調整は丁寧なナゲまたはミガキを行う。

15類 下剝峯式土器

全体の器形は円筒形で、口縁部は直行またはやや内湾するものがある。口唇部は平坦で内側に肥厚するものも

見られる。内面は丁寧なデ調整を行い、外面は口縁部から胴部に至るまで貝殻腹縁刺突文を施す。本遺跡では、刺突の施文方法に特徴が見られることから、次のように二つに細分した。

15a類・・・貝殻腹縁を器面に対し垂直方向に押し当て、連続した半裁竹管文状に施文されている一群。

15b類・・・貝殻腹縁の一部または工具を器面に押し当て、隅丸方形状に施文されている一群。

16類 辻タイプ土器

全体の器形は円筒形で、口縁部は直行する。外面は斜方向の短丈線文を組み合わせて羽状を成し、その上位または下位に横方向の押し引き文を帯状に施す。

17類 桑ノ丸式土器

全体の器形はバケツ状で、口縁部は直口ないし内湾し、口縁部内面が肥厚するものが多い。外面には、短い貝殻条痕や沈線によって羽状文や流水文などを施す。胎土は、きめが粗く礫粒を含んでいるものも多いが、内面はミガキカナデで丁寧に調整を行う。

18類 押型文土器

軸棒に刻みを施し、回転させながら器面の全体もしくは一部に施文する。全体の器形は、口縁部から底部にかけて丸みを帯びて窄むものが多い。口縁部は、外反、内湾、直立の3つのパターンがある。本書では、施文の形により3つに細分した。

18a類・・・楕円形の押型文を施した一群。

18b類・・・山形の押型文を施した一群。

18c類・・・同一個体内で、楕円押型文と山形押型文を施した一群。

19類 塞ノ神式土器

全体の器形は口縁部がラッパ状に開くものが多い。施文的特徴として、胴部に凹線文の区画内に摺糸文を充填させたもの、曲線や直線の凹線文で幾何学的に施文したもの等が多く報告されているが、障ノ元遺跡では、斜方向を中心とした異方向の貝殻条痕文を筋状に巡らしたものが卓越している。

20類 無文土器

全体の器形は、底部にかけて窄み、底部形態は、平底、丸底、尖底がある。器壁の厚みは、約5mm～1cmと幅広い。胎土には、混和材として利用した植物の繊維痕が見られるものが多い。

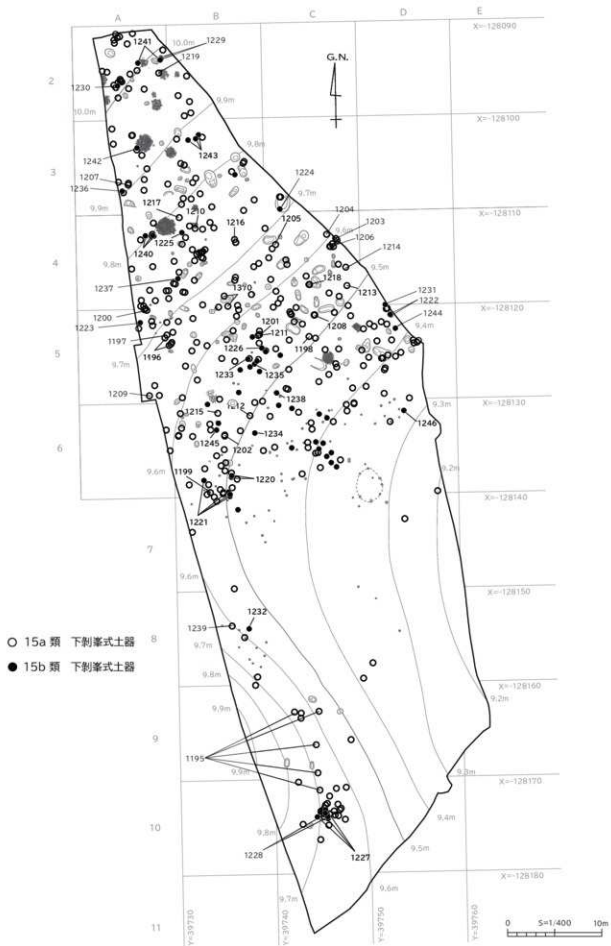
なお、本書で分類した無文土器の中には、摩耗が著しく、本来の文様が磨れて見かけ上で無文化し、この一群に分類されたものも存在する。

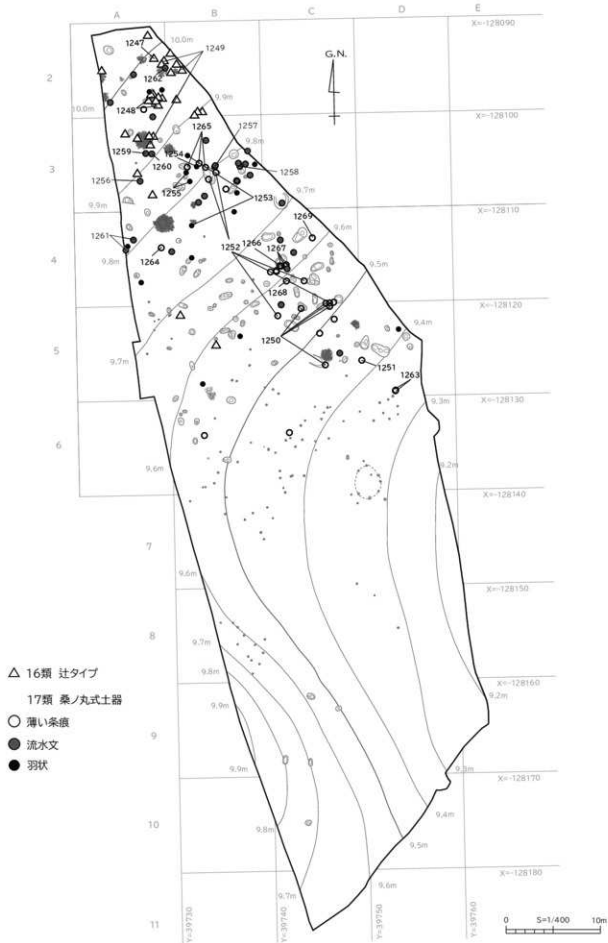
21類 その他の土器

上記の分類に属さない、もしくは分類不能の一群とした。

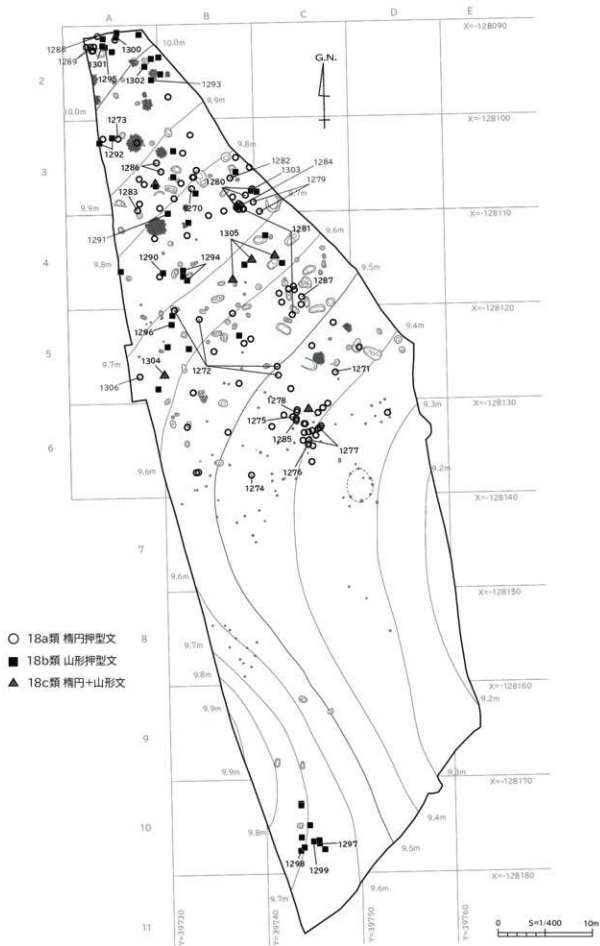
(b) 出土分布(第119～125図)

土器は全体的にC区北半から集中して出土しており、15類・18b類・20類土器に限っては南端にも一定のまとまりをもって出土した。類別の分布状況に関して、13類土器の出土分布(第119図)は、A3・B3Gr.以北に密集し、C区中央に向けて徐々に疎となる。概ね1号・2号・5号散礫と分布が重なる。14類土器の出土分布(第119図)は、相対的に出土量は少量だが、13類土器の分布とほぼ重なる。15類土器の出土分布(第120図)は、C区北半に散漫的に出土する。また、C区南半のC10Gr.からもまとまって出土しているが、遺構の分布とは重ならない。また、同一個体が10mほど離れた箇所から出土したものがある。16類土器の出土分布(第121図)は、数は少量だが集石遺構と分布が重なるものが数点ある。17類土器の出土分布(第121図)は、北半に散漫的に広がっている。15類土器

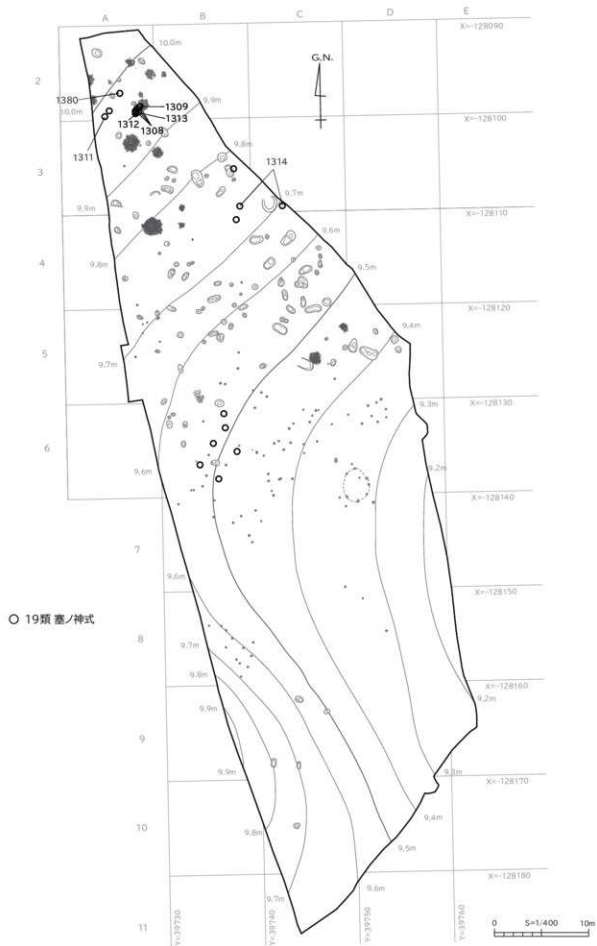


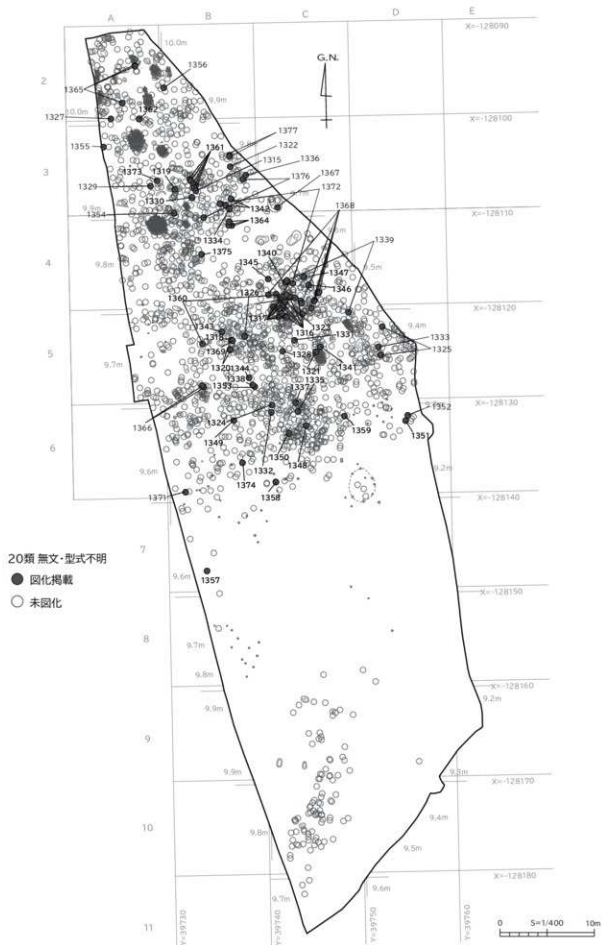


第121図 C区縄文時代早期土器分布図(3) [16・17類土器]

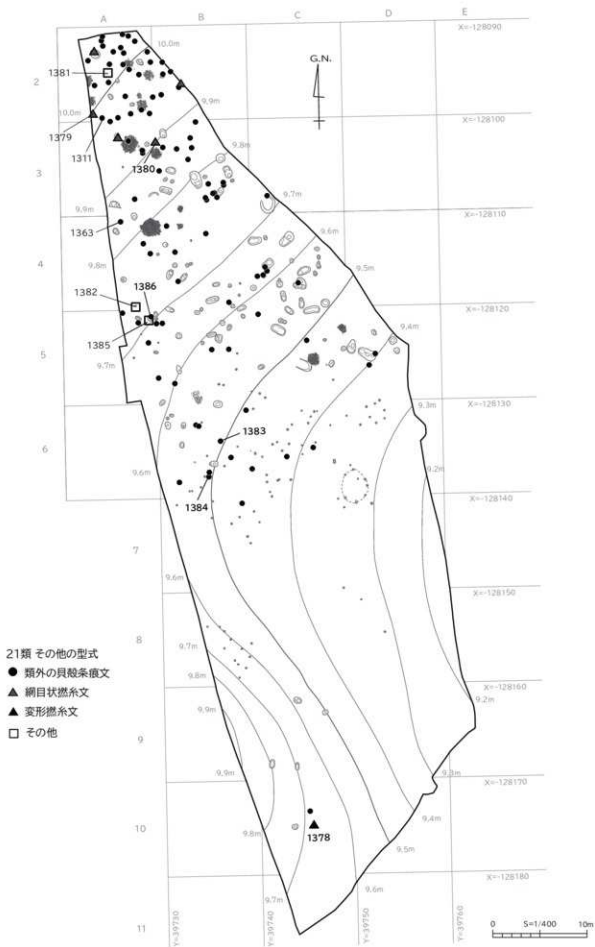


第122図 C区縄文時代早期土器分布図(4) [18類土器]





第124図 C区縄文時代早期土器分布図(6) [20類土器]



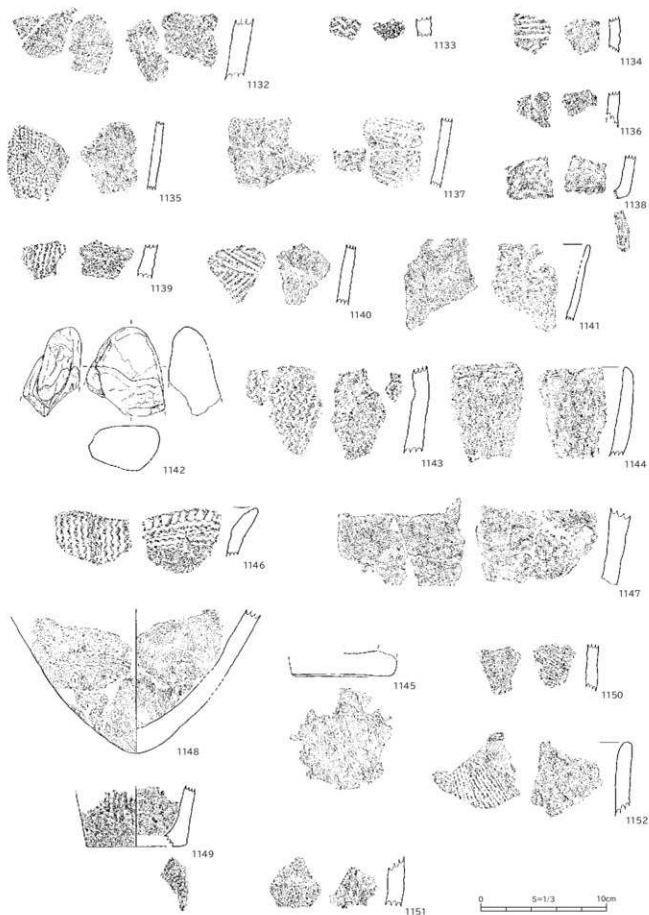
と同様、同一個体が10mほど離れた箇所から出土したものが数点ある。

(c) 遺構出土土器(1132～1152, 第126図)

1132・1133はSI12から出土した。1132は15b類(下剝峯式)土器で、外面は斜方向へのナデ調整後、貝殻腹縁の一部または工具を器面に押し当て、隅丸形状の文様を施す。1133は18b類(山形押型文)土器であり、内面はナデ調整を行い、外面には横方向の明瞭な山形文を施す。1134はSI14から出土し、16類(辻タイプ)土器に属する。外面に横方向の沈線文と短沈線文を施す。一部に斜方向の短沈線文も見られることから、短沈線を組み合わせて羽状に施文していると考えられる。1135はSC21から出土し、15b類(下剝峯式)土器に属する。内面は丁寧にナデ調整を行い、一部に炭化物の付着が見られる。外面には、貝殻腹縁の押圧による隅丸形状の文様を斜方向に施す。1136・1137はSC22から出土した。1136は15a類(下剝峯式)土器に属する。内面は、横方向にナデ調整を行い、外面は縦方向に貝殻腹縁刺突文を施す。1137は20類(無文)土器で、内面は斜方向にナデ調整を行い、貝殻条痕文が残る。外面は斜方向に丁寧なナデ調整を行う。内外面ともに胎土に含まれる混和材の繊維痕が見られる。1138はSC46から出土し、15a類(下剝峯式)土器に属する。内面はナデ調整を行い、外面はナデ調整後、貝殻腹縁刺突文を施す。平底の底部から若干膨らみをもちながら斜めに胴部が伸びる。1139はSC47から出土し、18a類(楕円押型文)土器に属する。内面はケズリ調整を行い、外面は縦方向に楕円押型文を施す。胎土には、白色や透明の細粒を含む。施文方向から押型文の割と新しい段階の資料だと考えられる。1140・1141はSC55から出土した。1140は、15b類(下剝峯式)土器に属する。内面は丁寧にナデ調整を行い、外面は、斜方向に貝殻腹縁を押し当て、横方向の羽状文を施す。胎土に白色粒を多量に含む。1141は、20類(無文)土器に属する。口唇部は丸みを帯び、口縁部はやや直立に立ち上がる。胎土に4mm以下の褐色粒を多量に含み、混和材の繊維痕も見られる。1142はSC68の底面上から出土した焼成粘土塊である。土器製作過程等において、余剰の粘土が火中に混入して焼成されたものと考えられる。1143～1148はSC69から出土した。1143～1145は15a類(下剝峯式)土器に属する。1143の内面は、横方向にナデ調整を行い、数か所に指頭痕も見られる。外面は、縦方向に貝殻腹縁刺突文を施す。1144は、やや内湾する口縁部である。口唇部は丸みを帯びる。内面は横方向に丁寧にナデ調整を行い、外面は斜方向、縦方向に貝殻腹縁刺突文を施す。口唇部に施文はない。1145は、底部の破片で平底を呈する。内面は、ナデ調整を行い、貝殻条痕が残る。胎土の様相から、1144と同一個体の可能性も考えられる。1146は18b類(山形押型文)土器の口縁部である。大きく反外し、緩やかな波状口縁をもつ。内面の口縁端部には、工具等による押圧痕が見られ、その下に2～3条の山形押型文を横方向に施す。外面は、口縁部直下から縦方向に山形押型文を施す。1147・1148は20類(無文)土器に属する。1147は、胴部破片で、器壁は1cm程度の厚みがある。内面はナデ調整を行い、数か所に指頭痕が見られる。外面は、斜方向にナデ調整を行う。器面には胎土に含まれる混和材の繊維痕が見られる。1148は、胴部から底部が残存し、底部は卵状の尖底を呈する。器壁の厚みや内外面の調整が1147と類似していることから、同一個体の可能性が高い。1149は、底部片で、平底を呈する。1150はSC73から出土し、15a類(下剝峯式)土器に属する。内面は斜方向にナデ調整を行い、外面は縦方向に貝殻腹縁刺突文を施す。1151はSC82から出土し、15a類(下剝峯式)土器に属する。内面はナデ調整を行い、外面は、小ぶりの貝殻の腹縁による刺突文を縦方向に施す。1152はSC107から出土し、21類(その他)土器に属する。軸棒に燃糸を巻き付け、器面上を回転し、帯状に施文したものである。

(d) 包含層出土土器(1153～1386)

V層から土器片3,128点が出土し、平面・垂直的な出土位置を記録して取り上げた。土器片は、主に縄文時代



第126図 C区縄文時代早期土器実測図(1)

早期前葉から中葉のものであり、後葉のものも見られた。分類別の出土分布は第119～125図で示したとおりであり、C区中央付近の浅い谷地形を挟んだ南北の緩斜面で多く出土し、特にC区北半に集中していた。土器片の多くは掌大の破片であり、近隣同士で接合するものがみられた一方で、完形品に復元されるものはなかった。以下に分類ごとに報告する。また、個別の詳細は、土器観察表(第3表)を参照されたい。

13類土器(1153～1178, 第127・128図)

1153～1155は口縁部破片で、口縁端部に横位の貝殻腹縁刺突文が3条巡る。1155は平坦な口唇部にへら状工具等でのキザミが見られる。1156・1157は口縁部から胴部にわたるやや大きめの破片である。口縁部内面は横方向、胴部内面は縦方向に強い工具ナデを行う。外面は、斜方向に貝殻条痕文を施したのち、縦方向に貝殻腹縁刺突文を施す。口縁部外面に複数段の楔状突起が巡る。1157は胎土や施文の様相から、1156と同一個体の可能性が考えられる。1158～1161は胴部上部の破片であり、楔状突起の周囲に細長い工具等での刺突または押し引き痕が見られる。1162～1170は、胴部の破片で、縦方向に貝殻腹縁刺突文を施す。器面は丁寧なナデ調整を行う。1163・1164・1169は斜方向に帯状の貝殻条痕文を施す。1165・1166・1168は縦方向に貝殻腹縁刺突文を施し、13類の中では、施文間隔が密である。1167は唯一、角筒形土器の破片と分かるもので、器壁は5mm程度である。1170は、斜方向に櫛状の細い原体を用いた施文が見られる。1171～1178は底部破片である。外面端部に斜方向もしくは縦方向の刺突文を等間隔に施す。1172・1175・1178は底部から胴部に向けてほぼ直立に伸び、1171・1173・1174は外に広がるように立ち上がる。

14類土器(1179～1194, 第128・129図)

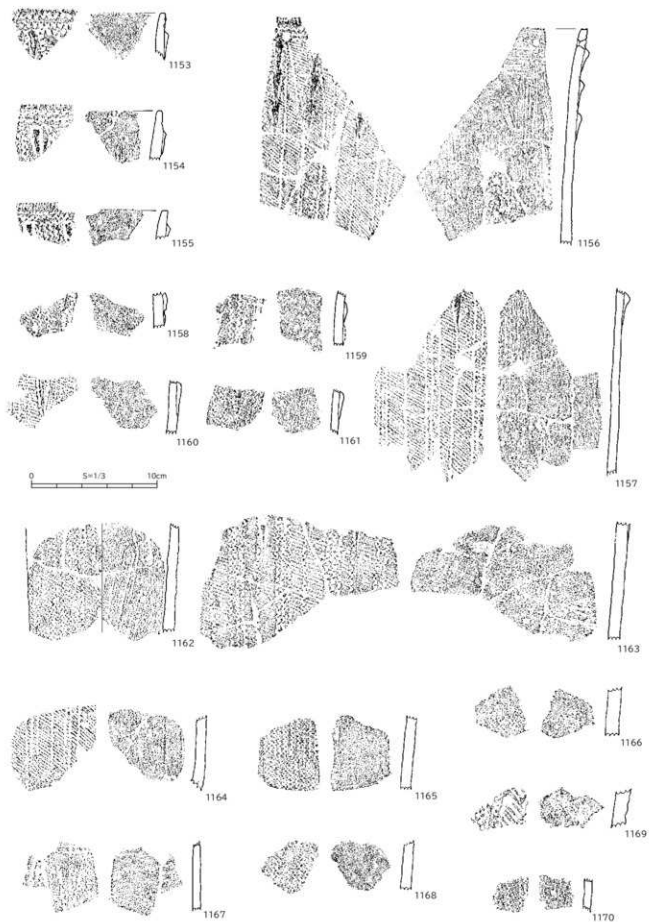
1179～1183は口縁部破片である。内面は丁寧なナデ調整を行う。1179は、平坦な口唇部で、口縁部はやや外反する。外面端部と胴部は斜方向、その間は横方向に浅い貝殻条痕文を施す。1180は、口縁端部に横方向の波状文、その下に斜方向の貝殻条痕文を施す。1181は口縁部外面に斜方向の貝殻条痕文を施す。1182は、口縁端部に斜方向(右上がり)の工具等による刺突文、その下に斜方向(左上がり)の貝殻条痕文を施す。器面は丁寧にナデ調整を行う。1184～1194は胴部破片である。内面は丁寧にナデ調整を行い、外面は斜方向に浅い貝殻条痕文を施す。

15a類土器(1195～1219, 第129～130図)

1195～1207は口縁部破片で、口縁端部に横方向に数条の貝殻腹縁刺突文を巡らし、その下に斜方向でV字状、胴部中位から底部にかけては縦方向の貝殻条痕文を施す。1195は、口縁部から底部にわたって接合したものである。破片が横に伏したようにまとまって出土した。1203～1205・1207は、口縁端部に斜方向または縦方向の貝殻腹縁刺突文を施す。施文間隔は15a類の他の土器を比べると疎である。1208～1217・1219は胴部破片である。このうち、1208～1212・1215・1216は、胎土の色調が灰褐色でImm白色粒を多く含む。施文原体の大きさに個体差がある。1217は、横方向の鋸歯状に腹縁刺突を施し、施文原体が極めて小さい。1218は底部付近の破片である。胴部下部の施文が縦方向の貝殻腹縁刺突文から縦方向の沈線文に変わる。

15b類土器(1220～1246, 第130・131図)

1220～1231は口縁部～胴部片である。いずれもわずかに内湾する器形で、口縁部文様帯をもつ。1220・1221は、口縁部が肥厚し、口唇部は丸みを帯びる。口縁部外面に横方向の貝殻腹縁刺突文を2～3条巡らせ、その下に、斜方向または縦方向の貝殻腹縁刺突文を器面全体に施す。1222・1223は口縁部外面に横方向の貝殻腹縁刺突文を3条巡らせ、その下に、斜方向の貝殻腹縁刺突文を施す。1224・1225は平坦な口唇部で、口縁部はやや内湾する。口縁端部には横方向の貝殻もしくは工具での刺突文を7条巡らせ、その下に同様の文様を斜



第127图 C区縄文時代早期土器実測図(2)

方向に施す。1226は、やや平坦な口唇部をもち、口縁部は肥厚する。口縁端部には横方向の貝殻もしくは工具での刺突文を3条巡らし、その下に同様の文様を縦方向に施す。また、瘤状突起が口唇部に被せるように付着する。1227・1228は、貝殻腹縁刺突文を口縁端部に横方向に1条、口縁部外面には縦方向に等間隔に巡らせ、その下に横方向、胴部には斜方向と、部位によって刺突文の向きを変化させる。1229・1230は口縁部が肥厚し、口唇部は内傾する。1229は鋸歯状を、1230は口縁端部に斜方向の貝殻腹縁刺突文で羽状を成す。いずれも胎土に1mm以下の白色粒を多く含む。1231は、口縁部外面に斜方向の貝殻腹縁刺突文を巡らす。1232～1245は胴部破片で、貝殻腹縁または櫛状工具での刺突文を斜方向に施す。1232～1234は、斜方向の貝殻腹縁刺突文を施す。胎土には2mm以下の金雲母や白色粒を多く含む。1238・1239は、指でつまみ上げたような細長い突帯を作った後に斜方向の刺突文を施す。1242は、横方向の貝殻腹縁刺突文または貝殻押引文を帯状に施しており、清武上猪ノ原遺跡第5地区でも酷似したものが出土している。1244・1245は施文間隔が15b類の他の土器と比べると疎である。1246は底部破片で器面の風化が著しい。底部から胴部へ外に広がるように伸びる。

16類土器(1247～1249, 第131図)

1247～1249は、口縁部から胴部の破片である。胎土には、2mm以下の灰白色粒を含む。口縁部外面には、工具で長い沈線文を数条巡らせ、その下に斜方向の短沈線文を組み合わせて綾杉状に施文する。胴部にはこの繰り返しで帯状に同一文様帯を施す。

17類土器(1250～1269, 第132・133図)

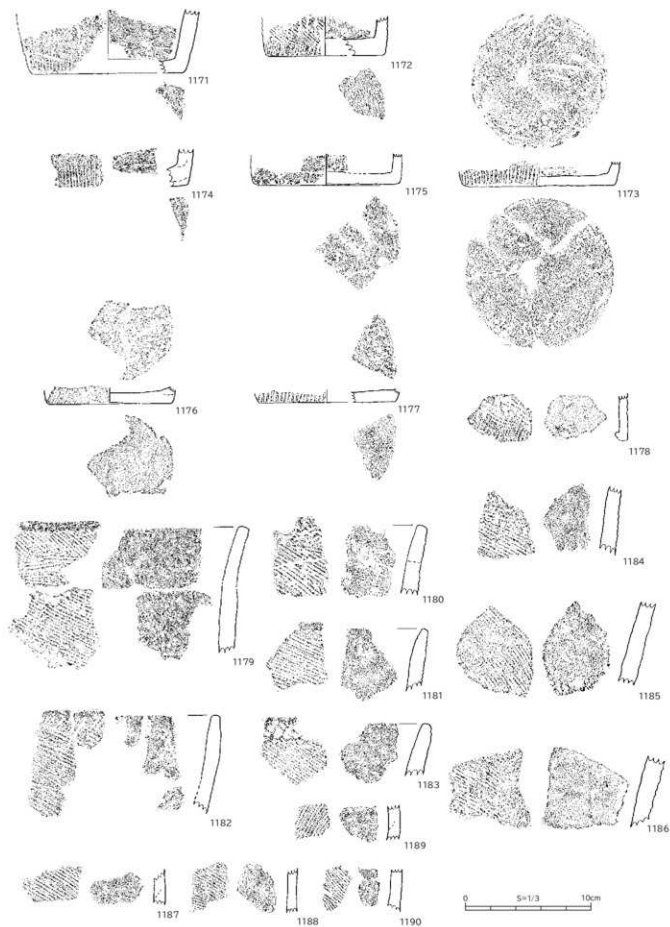
1250～1252は器面全体に櫛歯状工具で縦方向の沈線文を施す。1250は、口縁端部に横方向の刺突文を3条巡らせ、その下に縦方向の短沈線文を施す。器面は胴部から底部にかけて風化が粗い。1253・1254は、内面は横方向の丁寧なナゲ調整を施す。外面は、器面全体にへら状工具で斜方向の短沈線文を綾杉状に施す。1254には補修孔が見られる。1256～1262は貝殻条痕によって流水状に施文したもので、施文原体の大小により区別される。1263・1264は櫛歯状工具で縦方向の沈線文を施したもので、1250～1252より施文間隔がやや広い。1265～1269は器面全体に横方向に浅い貝殻条痕文を施す。内面は雑なケズリの後に横方向のナゲ調整を施す。胎土には、金雲母や灰白色粒を多く含む。1265・1266は口縁部で、肥厚し、口唇部はわずかに内傾する。

18a類土器(1270～1289, 第133・134図)

1270・1271は、外面に横方向の小さい楕円形押型文が施される。1270は口縁部で、やや直立し口縁内部にも外面と同様の文様を施す。1272～1274は、短い原体を用いて外面を横方向に回転させることにより帯状施文が数段に見られる。このうち、1275～1278は口縁部内面にも同様の施文原体で横方向の文様を施す。1279～1283は外面に斜方向の楕円形押型文を施す。1284・1288は、内外面に斜方向の同一原体を用いた文様を施す。1286は、斜方向と縦方向の押型文を併用する。1287・1289は、口縁部付近の破片であり内面に二段の施文が見られる。1287はわずかに外反し、内面の上位には縦方向の櫛状文、その下位には横方向の押型文を施す。1289は、口縁端部に向かって外反しながら立ち上がり、内面には明瞭な稜をもつ。内面の上位には棒状工具による刺突文、その下位には、連珠状の押型文を施す。

18b類土器(1290～1303, 第134図)

1290～1303は、口縁部～胴部付近の破片である。小さく浅い原体を回転させ、帯状に文様を施す。1292・1293は器壁が厚めで、胎土は白っぽく、3mm以下の角閃石が含まれる。在地ではなく、中九州地域からの流入



第128図 C区縄文時代早期土器実測図(3)

が考えられる。1294・1295は横方向の丹精な押型文である。1297～1299は文様単位の大きさの割には浅い。出土位置も近いことから同一個体の可能性が考えられる。1301は、山形の文様を横方向と縦方向を組み合わせた施文が見られ、一部にナデ消されている箇所がある。1302・1303は内外面ともに押型文の施文が見られる。1302は、口縁部が外反し、外面は縦方向の押型文を施す。内面に横方向の押型文を施し、その下部に明瞭な稜が見られる。1303は、外面は横方向の押型文、内面上位は、工具での刺突文を巡らせ、その下に横方向の押型文を施す。

18c 類土器(1304～1306, 第134図)

1304～1306は、口縁部はほぼ直立に立ち上がる。内面上部には、横方向の押型文が1段に見られる。外面は、口縁部に横方向の押型文を器面全体に施し、一部に横方向の押型文を帯状に有する。施文パターンが等しく、出土位置も近いことから同一個体の可能性が考えられる。1306は小片で情報が足りないが、文様構成、出土位置から判断すると、1304・1305と同一の可能性が有る。

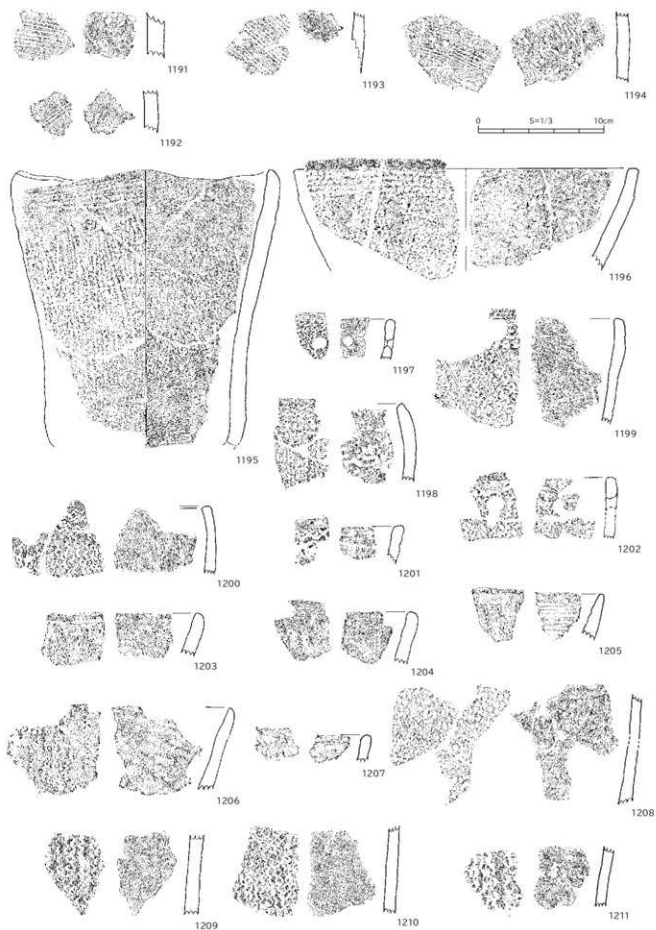
19 類土器(1307～1315, 第134・135図)

1307～1309は口縁部破片である。口唇部は丸みを帯び、横方向のナデ調整を施す。口縁部はわずかに外反する。口縁部内面は横方向にナデ調整を施し、口縁部外面には、左から右方向に貝殻を利用したと思われる4段の短沈線文を巡らせ、その下に、同一原体で斜方向を基調とした沈線文を施す。1309は、口縁部がやや波状に隆起する。1310・1311口縁部付近の破片である。いずれも内面は横方向の丁寧なナデ調整を施す。外面上位に斜方向と縦方向の沈線文、その下位には同施文具による左から右方向に数段の短沈線文を巡らせ、さらにその下には横方向の沈線文を施す。施文具は、いずれも貝殻を原体としている。1312・1313は貝殻もしくは櫛歯状工具を原体とし、斜方向に明瞭な沈線文を施す。1314・1315は胴部破片である。器壁は厚く、内面の調整は粗い。外面は斜方向と横方向の浅い沈線文を施す。

20 類土器(1316～1377, 第135～138図)

1316～1356は、口縁部または口縁部付近の破片であり、内面は横方向のナデで器面調整を施し、貝殻条痕が残る。胎土は赤みを帯び、器面には、胎土に含まれる混和材の繊維痕が見られる。1316・1317は、器壁の調整、厚み、胎土の特徴、出土位置等に共通点が多いことから同一個体と考えられ、推定口径は24.8cmである。口縁部はわずかに外反する。1320は外側からの穿孔が見られる。1322の内面には、横方向に加えて斜方向のナデ調整も見られる。1323は、口唇部が外側にわずかにつまみ出される。1327～1330は器壁が厚く、指頭痕が数箇所に見られる。1331～1338は、口縁部破片のうち、胎土が灰褐色の一群である。口縁部は直立またはわずかに外反するものがある。器壁は薄く、器面には、胎土に含まれる混和材の繊維痕が見られる。1331は、口縁部に煤の付着が見られる。1332は、端部に内外の両面からの穿孔がある。1333は、端部に凹凸が目立ち、指でつまんで整形したと考えられる。1334～1338は、内面に明瞭な調整痕が残る。1337は器面調整がやや粗い。1339～1341の内外面は丁寧な横方向のナデ調整を施すものである。口縁部が肥厚し、やや内湾している器形の特徴からは、口縁部文様帯のない桑ノ丸式土器の可能性も否めない。1340・1341・1345は穿孔が見られ、1341・1345は外面からの穿孔である。1342は、推定口径12.8cmの小型の深鉢であり、口縁部に煤の付着が見られる。1352は、器面調整がやや粗く、胎土には最大6mmの白色粒を含む。外面の風化が著しく、胎土の色調も他と比べて明るため、無文に見えるが他に分類される可能性もある。1354～1356は器壁に厚みがあり、外反する。1354は、口縁部内面に未貫通の穿孔痕が見られる。

1357～1365は胴部破片である。器壁はやや厚く、器面には、胎土に含まれる混和材の繊維痕が見られる。



第129図 C区縄文時代早期土器実測図(4)

1361は、内面に明瞭な貝殻条痕文を施す。器壁は薄い、大きめの深鉢であると考えられる。1363は、外面に多方向の浅い条痕文が見られる。1364は、器壁が厚く、内面の調整は粗い。1365には内外面ともに、混和材の繊維痕が多くみられる。1366・1367は底部付近の破片である。底部に向かって窄み形状を成す。

1368～1377は底部破片で、平底になるものが多数を占める。器壁は底部から胴部に広がるように立ち上がる。1368・1370は、底部中央が緩やかに盛り上がる。1375は、底の中心が窪み、高台状となる。1377は胴部への立ち上がりから平丸底もしくは尖底になる可能性がある。底部はいずれも推定径が10cm前後で、小型深鉢と考えられる。

21類土器(1378～1386,第138図)

1378～1380は軸樫に燃糸を巻き付け、器面上を回転させることにより文様を施す。18類にも分類できるが、出土点数が極端に少ないため、別途分類した。1378の口縁部はわずかに外反し、斜方向に羽状の燃糸文を施す。1379・1380は、格子状の燃糸文を施す。赤茶色の胎土や出土地点など共通点が多いことから、同一個体の可能性が考えられる。1381は、口縁部付近の破片で、内面は風化が著しい、外面は、縦方向の浅い条痕文を施した後、棒状工具で横、縦方向に沈線文を施す。1382は、口縁部の破片で、口縁部は直立し、口唇部は丸みを帯びる。内面は丁寧なナデ調整を施し、指頭痕が数か所に残る。外面は、端部から胴部にかけて横方向の深い条痕文を施す。胎土には、光沢のある黒色粒や5mm以下の白色粒を含む。文様、形態の特徴から中原式土器に相当するものか。1383・1384は口縁部が直立し、口唇部は舌状に伸びる。内外面ともに、横方向もしくは斜方向の条痕文を施す。器壁は薄く、硬質である。胎土には、3mm以下の白色粒、褐色粒、黒色粒を含む。1385は、口縁部破片で、内面は、ケズリの後、横方向の丁寧なナデ調整を施し、粒状の圧痕も見られる。口唇部も丁寧なナデ調整が成され、内面との境に稜をもつ。外面は、端部に垂下する短凹線、その下に横方向の2条にわたる刺突文、さらにその下に垂下する短凹線を施す。破片から推測すると、さらに短凹線が続くと思われ、辻タイプの様相に似ている。1386は外面に薄い横方向の貝殻条痕文を施す。

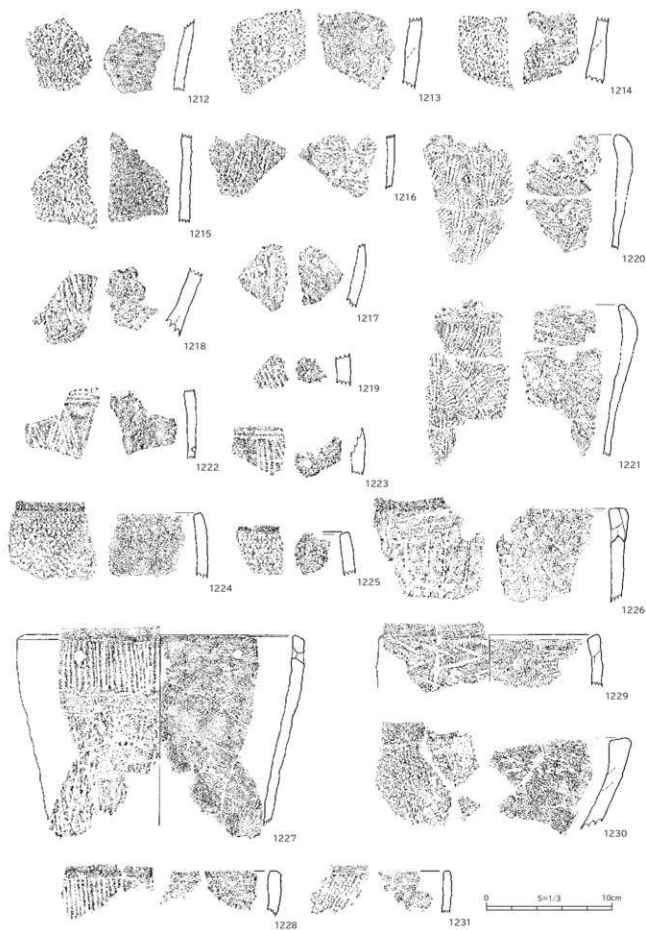
(2) 石器

(a) 出土分布(第139～146図)

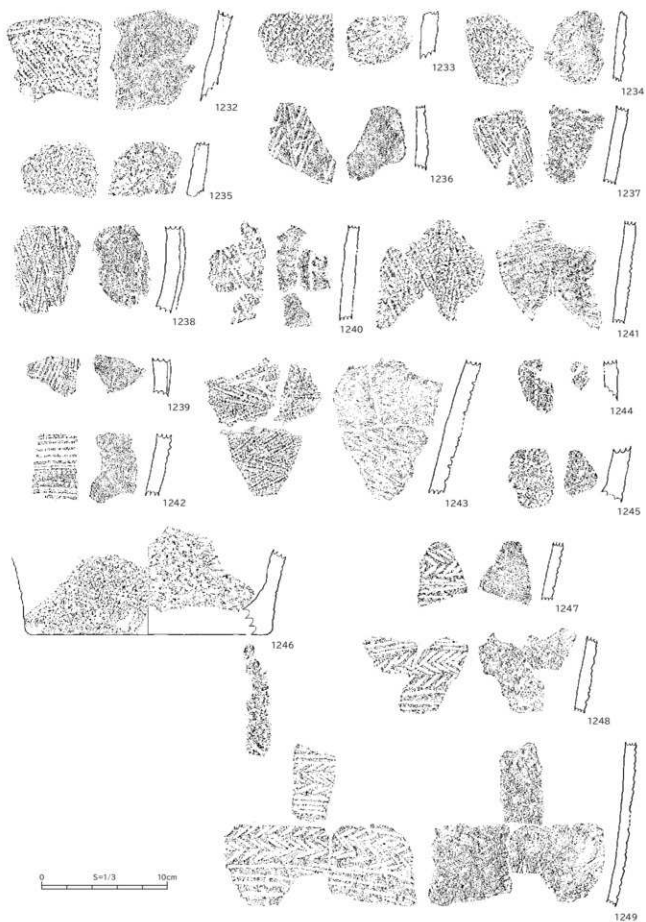
石器も土器同様、C区中央より北半に集中して出土しており、その中でも特にB5・B6・C5・C6Gr.に密集し、先述した5号・6号散礫とやや重なる。出土石器の大半はチャート製の剥片石器であり、頁岩・珪質頁岩製がこれに次ぐ。どの石材においても、製作過程において剥離を伴う剥片石器(打製石礫・二次加工剥片等)が出土した周囲に剥片(砕片)が多く出土していることから、石器製作の作業場が存在したと考えられる。外来の石材である黒曜石(桑ノ木津留産・姫島産・針尾産)に関しては、剥片石器の周囲から出土した剥片(砕片)の点数がさほど多くなく、チャート・頁岩・珪質頁岩製石器と様相が異なっている。

(b) 遺構出土石器(1387～1414,第147・148図)

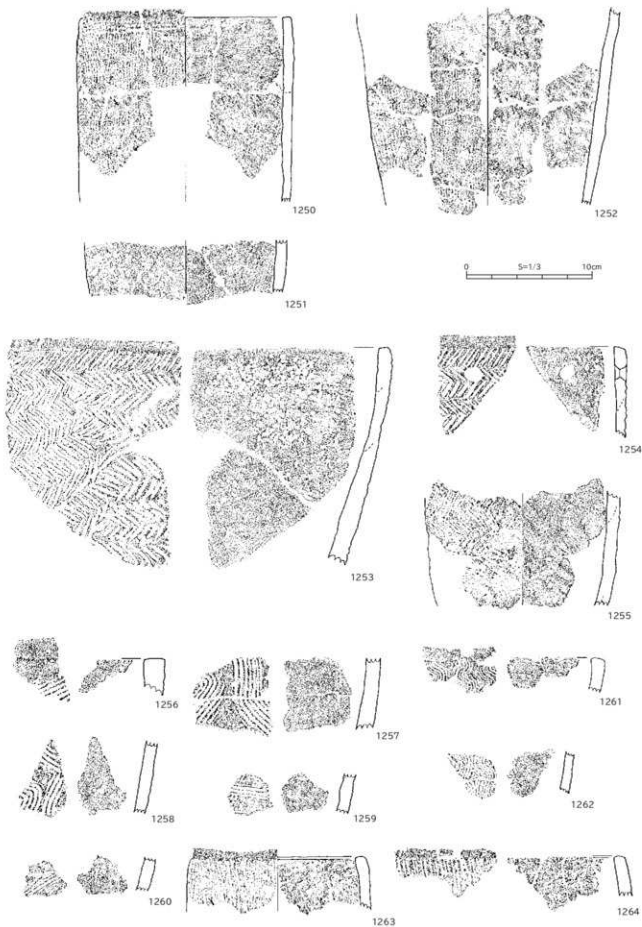
1387～1391はSI2から出土し、1387～1390が砂岩製台石・1391が砂岩製磨石である。1387～1389は配石に転用されたもので、正面の緩い凹面に弱い摩滅がある。1390の正面の深い凹面は、整形・使用によるものでなく、コンクリーションや礫等が剥離してきた凹面が転磨されたものであり、一見すると石皿のように見える台石である。1391は、正面・裏面とも顕著な磨面となり、ともに中央に弱い敲打痕がある。左右側面にも敲打痕がある。器面全体が赤化する。1392はSI12から出土した砂岩製凹石である。正面・裏面中央に浅く凹む敲打痕があり、全体に弱く磨滅する。右から下面に部分的に敲打痕がある。器面全体が弱く赤化する。1393はSI6から出土した砂岩製敲石で、上下端に敲打痕がある。1398・1399はSI8から出土した砂岩製敲石であ



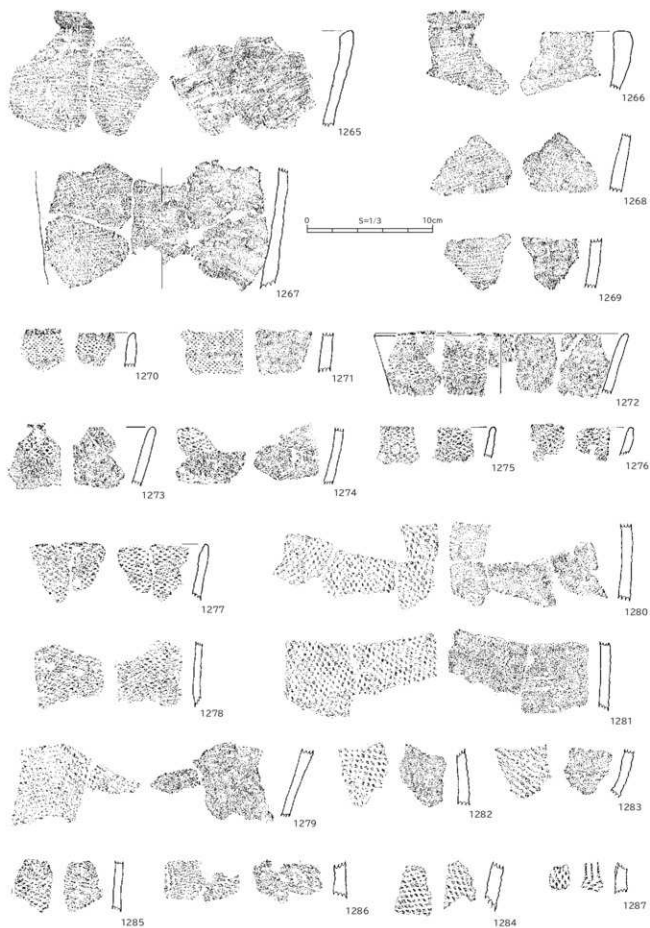
第130図 C区縄文時代早期土器実測図(5)



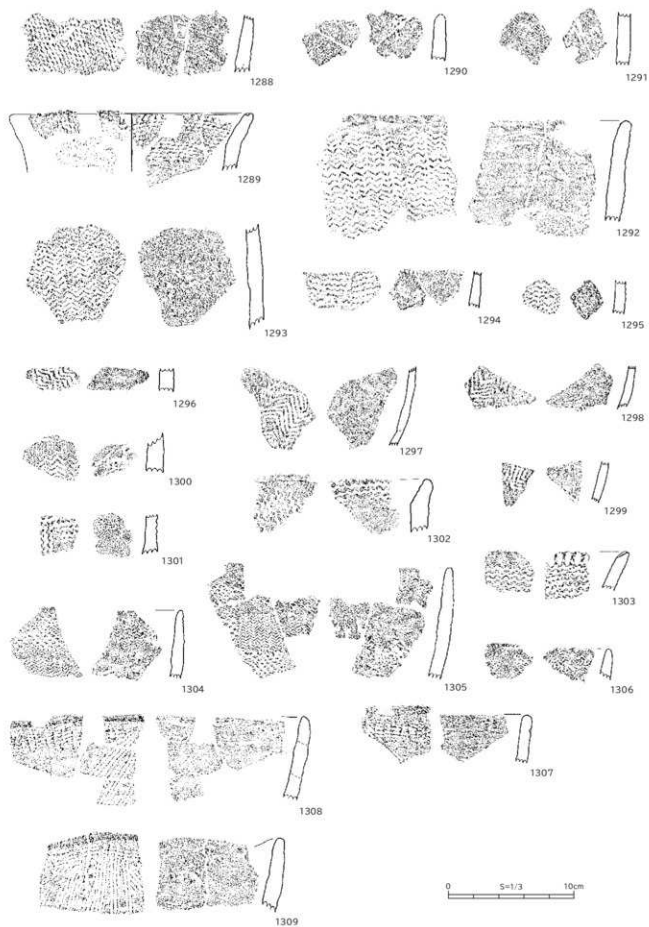
第131図 C区縄文時代早期土器実測図(6)



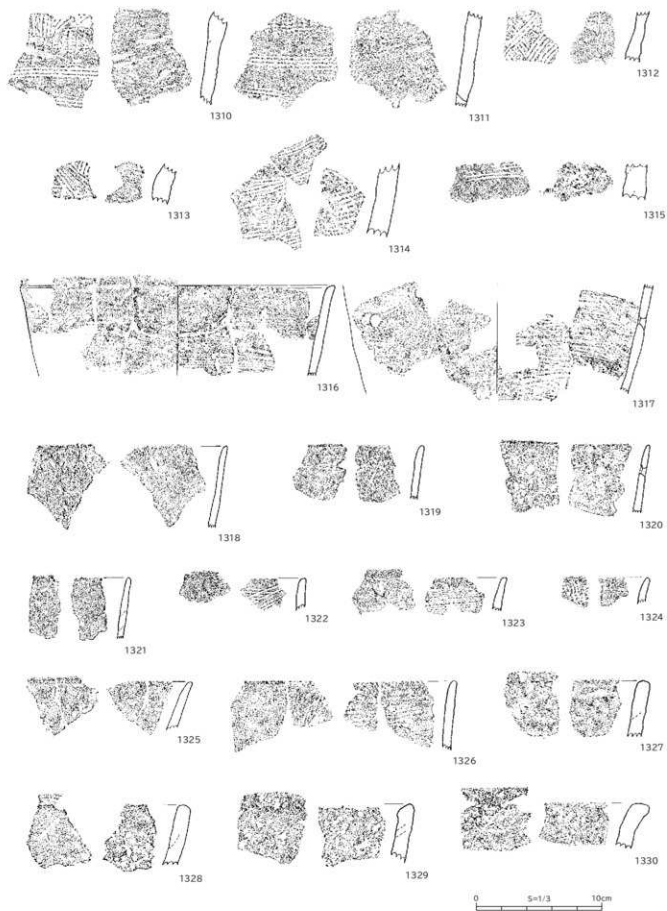
第132図 C区縄文時代早期土器実測図(7)



第133図 C区縄文時代早期土器実測図(8)



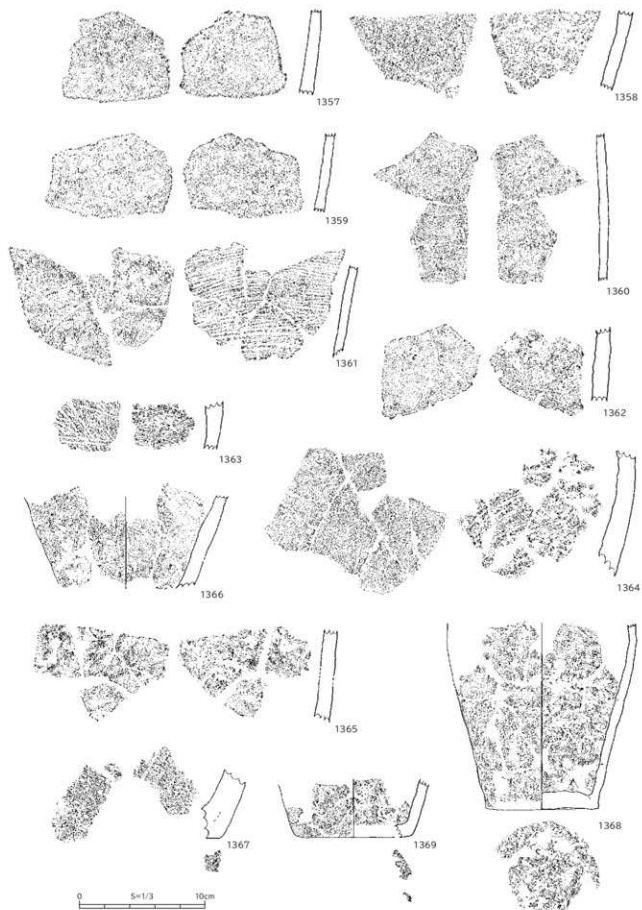
第134図 C区縄文時代早期土器実測図(9)



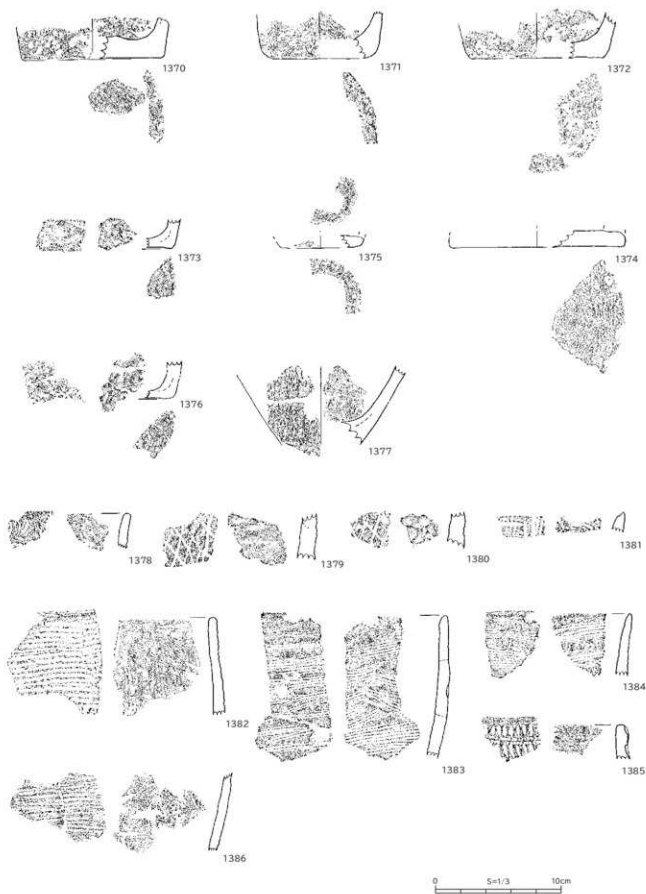
第135図 C区縄文時代早期土器実測図(10)



第136図 C区縄文時代早期土器実測図(11)



第137图 C区縄文時代早期土器実測図(12)



第138図 C区縄文時代早期土器実測図(13)

る。1398は器面全体の風化が著しく、1399は、正面を中心に黒色の付着物が見られる。1394～1397はSI14から出土し、1394～1396がチャート製二次加工剥片、1397が珪質頁岩製石核である。1394～1396はいずれも削器の類いか。1397は石質が粗く、多くの剥離面が強い階段状になる等、アクシデンタルな剥離に終始する。打面転移しつつ、不定形剥片を剥離する。1400は、SC26から出土したチャートの原石であり、よく転磨されている。1401は、SC45から出土した二次加工礫片である。粗質の砂岩礫片に挟り状の二次加工をするもので、あまり例を聞かない。1402～1409はSC69から出土し、1402が砂岩製磨石、1403・1404が砂岩製凹石、1405～1409が打製石鏃である。1402の正面は弱い磨面で、右下側に面的な敲打痕がある。裏面は磨面の可能性もあるが、風化で不明瞭である。1403は、正面・裏面の中央に浅く凹む敲打痕がある。1405・1406はチャート製、1407～1409は桑ノ木津留産黒曜石製である。1410はSC72から出土したチャート製微細剥離剥片である。縦長剥片の左側縁に微細剥離がある。1411・1412はSC75から出土し、1411はチャート製打製石鏃未製品、1412は頁岩製打製石鏃である。1413は、SC91から出土した桑ノ木津留産黒曜石製打製石鏃である。1414は、SC81から出土した砂岩製台石で破砕著しい。

(c) 包含層出土石器(1415～1604, 第149～156図)

遺物包含層であるV層から9,297点の石器が出土し、土器と同様、平面・垂直的な出土位置を記録して取り上げた。以下では、器種別に主な190点を図化し、報告する(第136～143図)。個別の詳細は、石器観察表(第4表)を参照されたい。

石鏃(1415～1485, 第149・150図)

石鏃は248点出土し、1485が部分磨製石鏃である以外は、打製石鏃である。残存状況では、全体形のわかるもの102点・先端のみ残存するもの87点・片脚あるいは両脚部のみ残存するもの59点となる。全体形のわかるものには、器形が正三角形をし、基部の挟りが極めて深いもの、器形が二等辺三角形をし、基部の挟りが深いもの、器形が二等辺三角形をし、挟りが浅いもの、器形が正三角形または二等辺三角形をし、挟りが浅いものが見られる。1432は、左側縁先端側が大きく欠損した後に再加工され、再び石鏃先端を作り出したものである。1446は、使用に伴い、先端側からの大きな剥離が入る。1448は、剥片形状そのまま活かし、基部側の挟り、先端部の細かい加工のみをもって石鏃に仕上げている。1485は、裏面中央付近を部分的に研磨する。

石錐(1486～1494, 第150図)

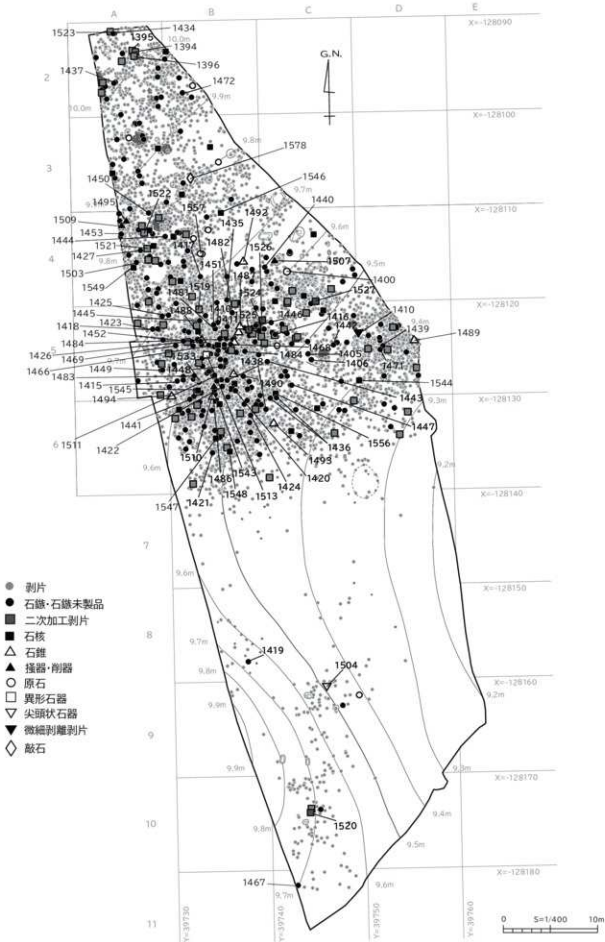
石錐は10点出土した。10点中9点がチャート製で占められ、チャート製のものには、素材剥片をほぼそのまま生かしつつ、末端に錐部を設けるもの(1486・1488・1489)と打点側の厚みを錐部とするもの(1487・1490)、石鏃に近い全周的な二次加工とともに錐部を設けるもの(1492～1494)がある。1491は頁岩製で、下端に断面三角形の錐部を設けている。削器の可能性を残す。

削器(1495～1500, 第150図)・搔器(1501・1502, 第150図)

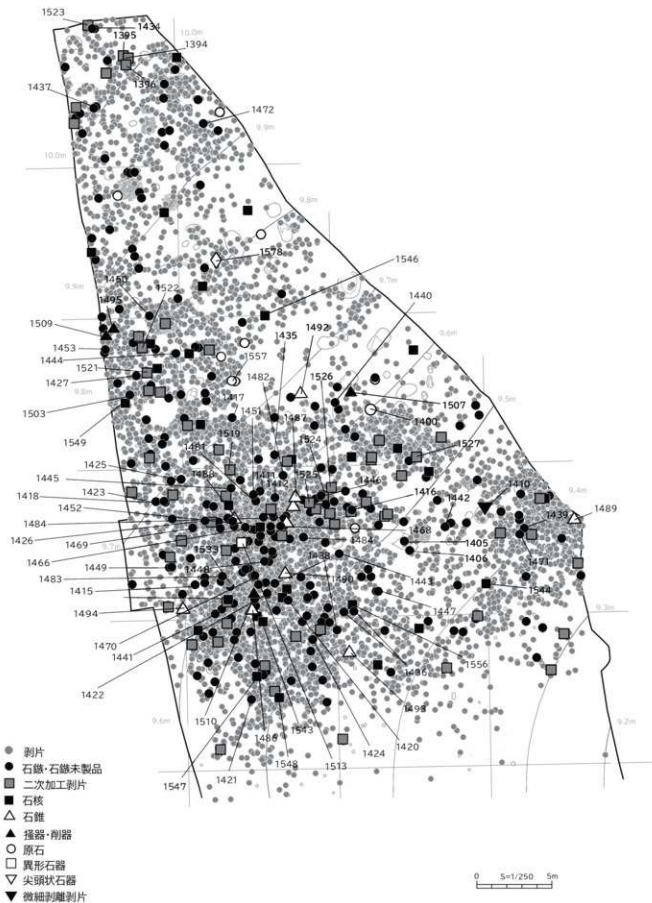
1495～1500は削器である。削器は12点出土した。チャート・頁岩系の石材が多用され、定型的なものはない。1500は、器面全体の稜線や凸面となる剥離面が磨滅する。磨滅は使用によるものと推定される。1501・1502は搔器である。出土した2点全てを図化した。2点とも長さ2cm未満で小形である。

尖頭状石器(1503～1510, 第151図)

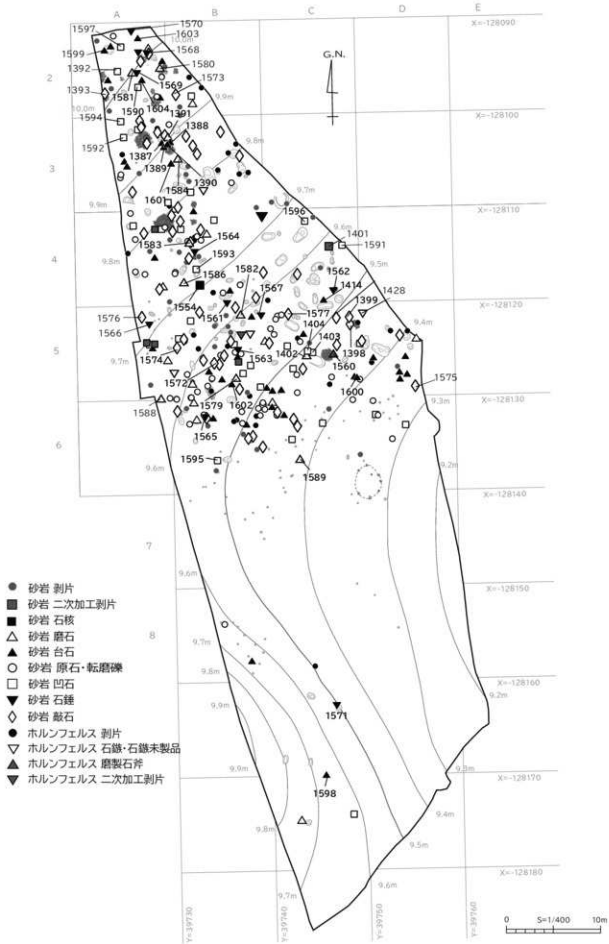
尖頭状石器には、尖頭部を意識したと考えられるものをまとめており、打製石鏃の未製品等も含まれる可能性がある。粗く正面・裏面を整形後に周縁に細かな加工を入れるものであり、特徴的なものとして、1507は正面が強く突出する。1508・1509はいずれかの側縁に礫面を残しつつ先端を尖頭状に整形している。1503～1505は



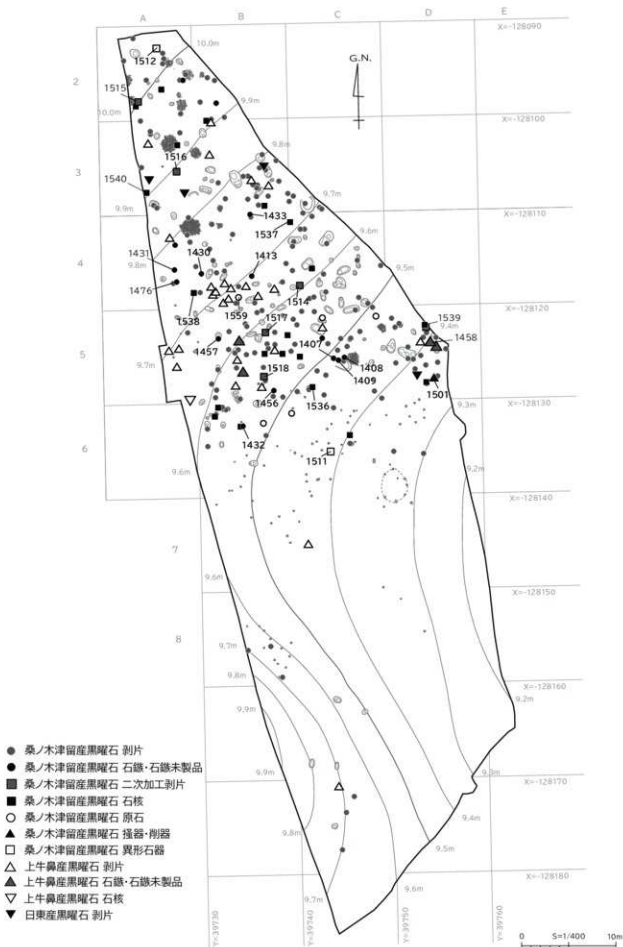
第139図 C区縄文時代早期石器分布図(1) [チャート]



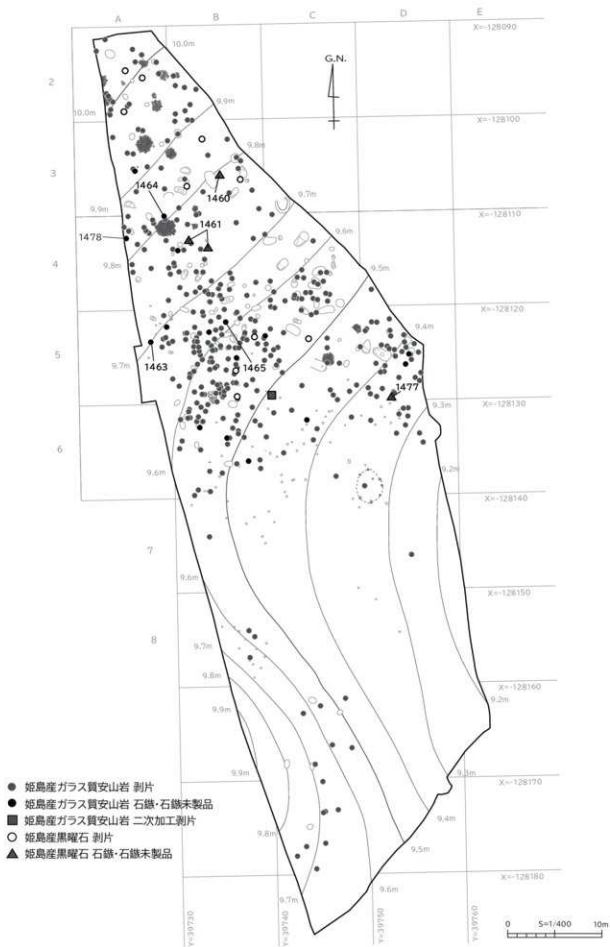
第140図 C区縄文時代早期石器分布図(2) [チャート]



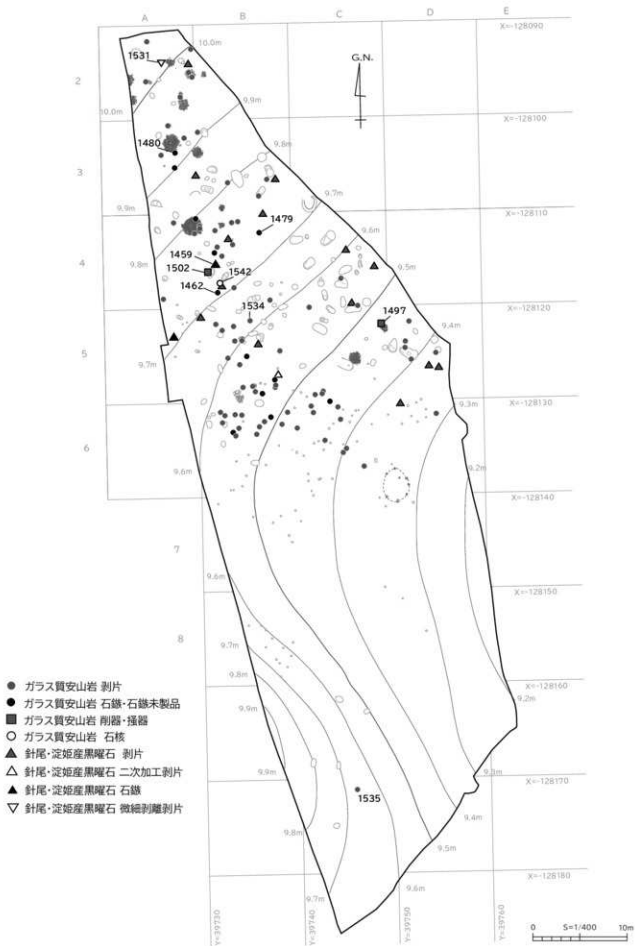
第141図 C区縄文時代早期石器分布図(3) [砂岩・ホルンフェルス]



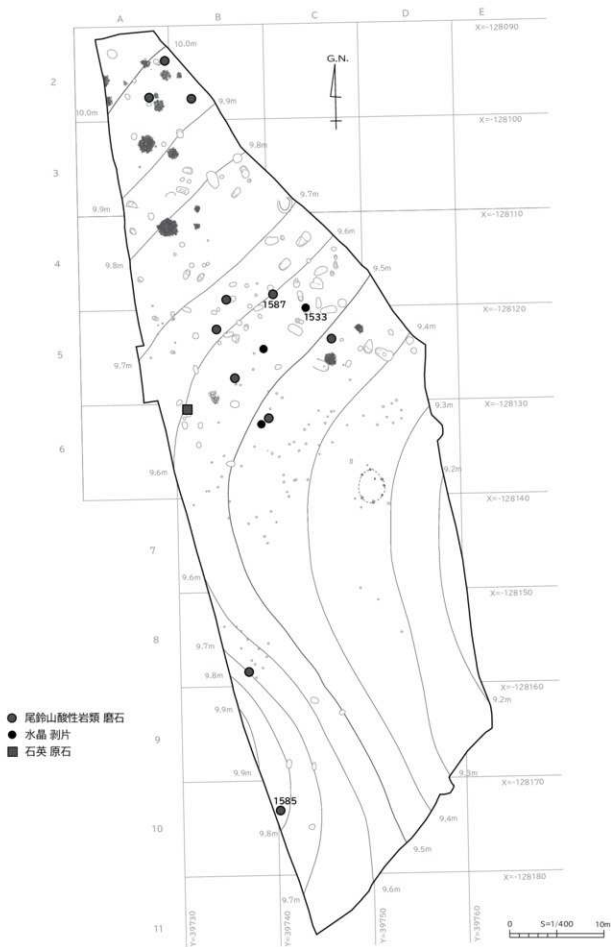
第143図 C区縄文時代早期石器分布図(5) [黒曜石(桑ノ木津留・上牛鼻・日東)]



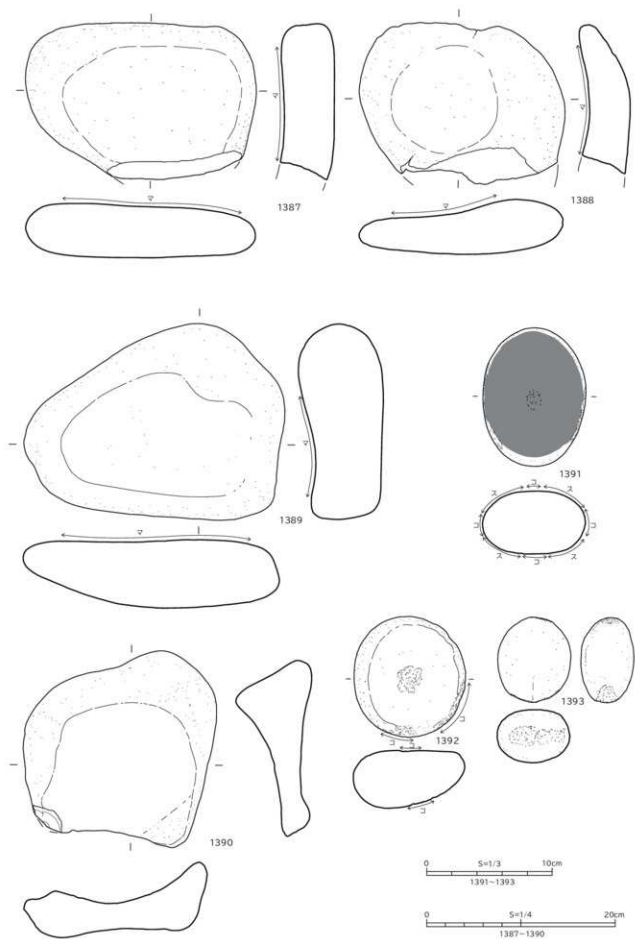
第144図 C区縄文時代早期石器分布図(6) [姫島産黒曜石・姫島産ガラス質安山岩]



第145図 C区縄文時代早期石器分布図(7) [針尾・淀姫産黒曜石・ガラス質安山岩]



第146図 C区縄文時代早期石器分布図(8) [尾鈴酸性岩類・水晶・石英]



第147図 C区縄文時代早期石器実測図(1)

裏面の加工が先行し、次いで正面を加工する。

異形石器(1511～1513,第151図)

3点全てを図化した。1511は石鏃に似た細かい調整加工により整形するもので、横位にすると石匙のような見かけになる。1512は長さ2.1cmと小形ながら、断面円形から凸レンズ形になるよう全面を剥離整形するもので、中央の瘤状の段差は整形不良の可能性がある。1513は長さ1.2cmとかなり小形品で、周縁に細かな剥離を入れて木の葉状に仕上げている。

二次加工剥片(1514～1530,第151図)・微細剥離剥片(1531,第151図)・剥片(1532～1535,第151・152図)

1514～1530は二次加工剥片である。中には、石錐や削器・尖頭状石器等に近いものもある。1531は微細剥離剥片である。1532～1535は剥片である。縦長剥片を指向したものを図化した。1532はチャート製で、打面を上下入れ替えつつ剥離されたものである。1533は水晶製で、正面下に結晶面が取り込まれている。1534・1535はガラス質安山岩製で、同石材の剥片剥離の一端を報告する観点で図化した。

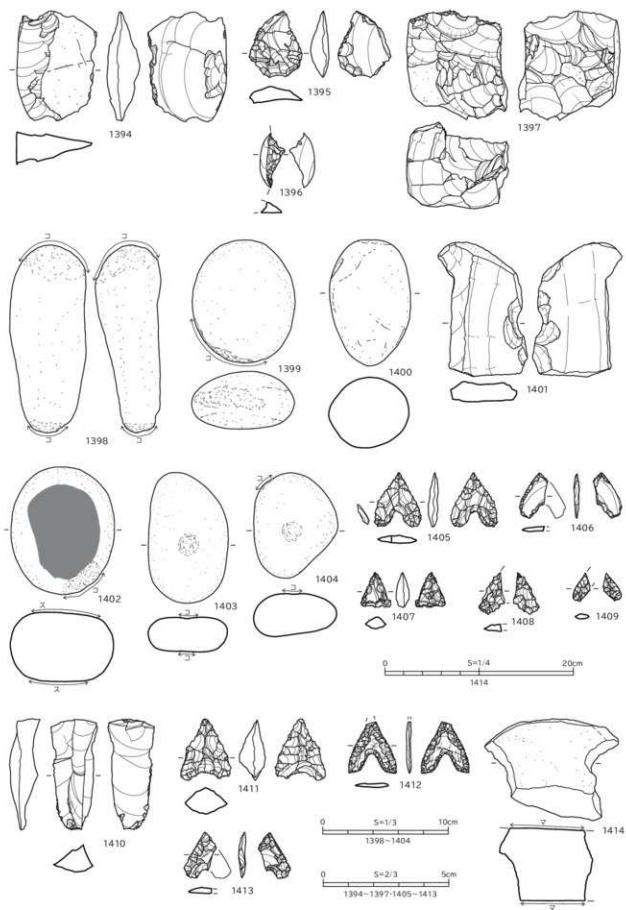
石核(1536～1556,第152・153図)・原石(1557～1559,第153図)

1536～1556は石核である。石核は、石材別に点数の多い方から、桑ノ木津留産黒曜石製19点・チャート製16点・頁岩製10点をはじめ、全体で59点出土した。1536～1540は桑ノ木津留産黒曜石を用いたもので、上下面あるいは上面より縦長剥片等を剥離するもの(1536・1537・1539)や不定形剥片を剥離するもの(1538・1540)等がある。1542は本遺跡では少数派の石材による石核で、ガラス質安山岩の厚手の剥片から不定形剥片を剥離する。1543～1549・1556はチャートによる石核で、不定形で小形の剥片を剥離する。やや特異な剥片剥離として、1544が右面(小口)等で縦長に近い剥片を剥離し、1547が剥片を石核としている。1546は赤チャートを用いて求心状に不定形剥片等をそれぞれ剥離する。1541・1550～1553は頁岩を用いたもので、1550が同一打面から周周にわたって縦長に近い剥片を剥離、1551が分割円礫から剥離、1552が剥片素材の石核から剥離する。この他、大形の石核として、1553は元々、石核状の剥離面に覆われたものが水流等で転磨された頁岩礫を用い、不定形剥片を剥離する。1554は砂岩を用いたもので、礫面あるいは剥離面を打面として、裏面は亀の甲羅状に周縁から求心状に不定形剥片を剥離する。1555は珪質頁岩を用いたもので、節理が著しい等の石質不良のため、剥片剥離はイレギュラーな割れが多いものの、不定形剥片を剥離する。1557～1559は原石である。原石は24点出土し、うち16点をチャートが占める。

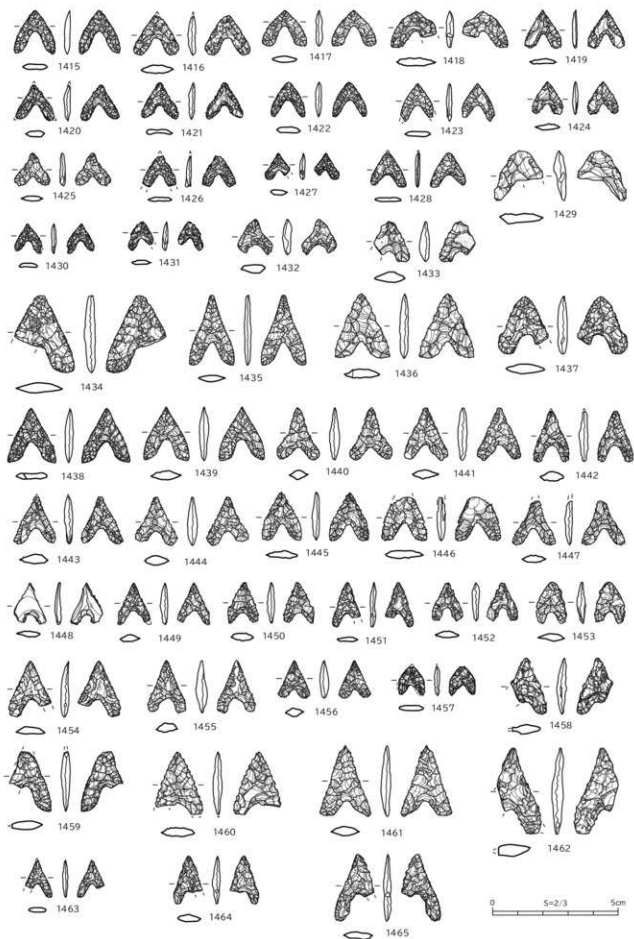
磨製石斧(1560,第153図)・打欠石錘(1561～1571,第153図)

1560は磨製石斧である。ホルンフェルス製で、刃部のみ残存する。おおよそ器面全面が丁寧に研磨されており、刃縁には刃こぼれがある。1561～1571は打欠石錘で、全て砂岩製である。1561～1566は短軸打欠、1567～1569・1571は長軸打欠であり、1570は長軸・短軸ともに打ち欠く可能性があるが、長軸上の打ち欠きは被熱により生じたヒビの影響した可能性が高い。1566は正面・裏面中央に弱いあばた状の敲打痕がある。敲石(1572～1578,第154図)・磨石(1579～1589,第154図)・凹石(1590～1597,第154・155図)

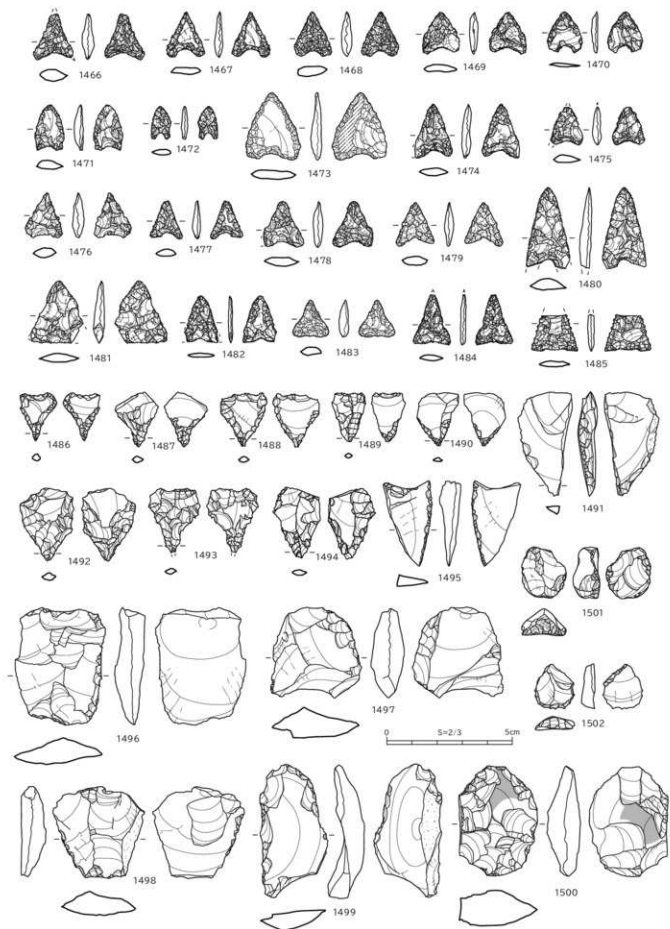
1572～1578は敲石である。敲石は140点出土した。1578のみチャート製で、他は砂岩製である。未図化石資料に鉄丸石製のもの1点がある。平面形は、楕円形から棒状のもの、不定形なものまであって、敲打痕の位置も、上下端や側面、棒状の中央付近等、石器ごとに様々である。1574は、正面・右面・裏面・左面とも中央付近に敲打痕が集中し、正面・裏面は敲打により浅く凹むものである。1575は棒状礫の正面に特徴的に2か所の凹みがあり、正面・左面境の稜上にも部分的に敲打痕ある。1579～1589は磨石である。磨石は35点出土し、石材別に点数の多い順で、砂岩製22点・尾鈴山酸性岩類製12点等となる。平面形は、円形から楕円形のもので占められ



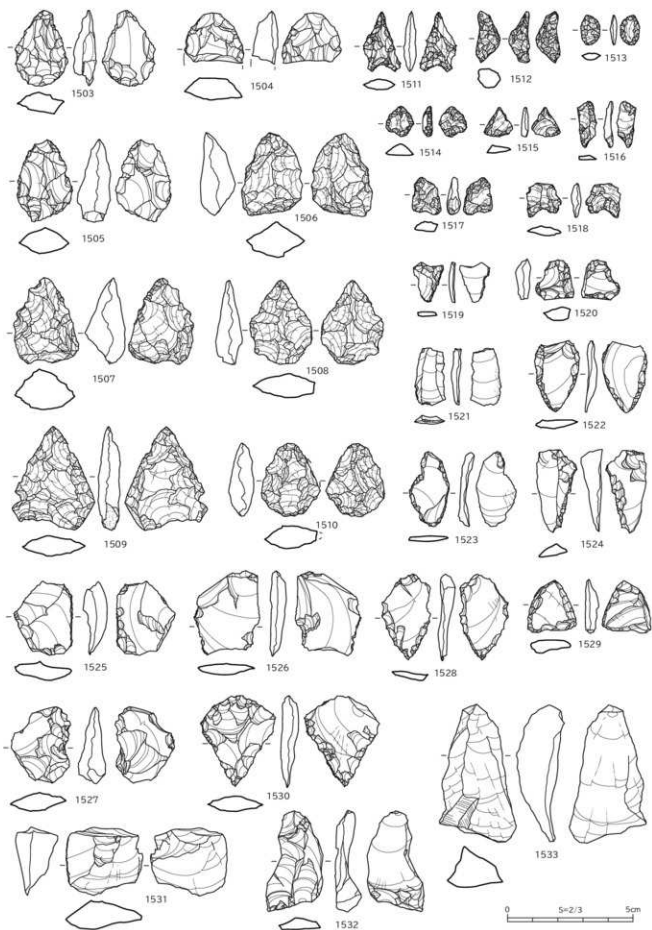
第148図 C区縄文時代早期石器実測図(2)



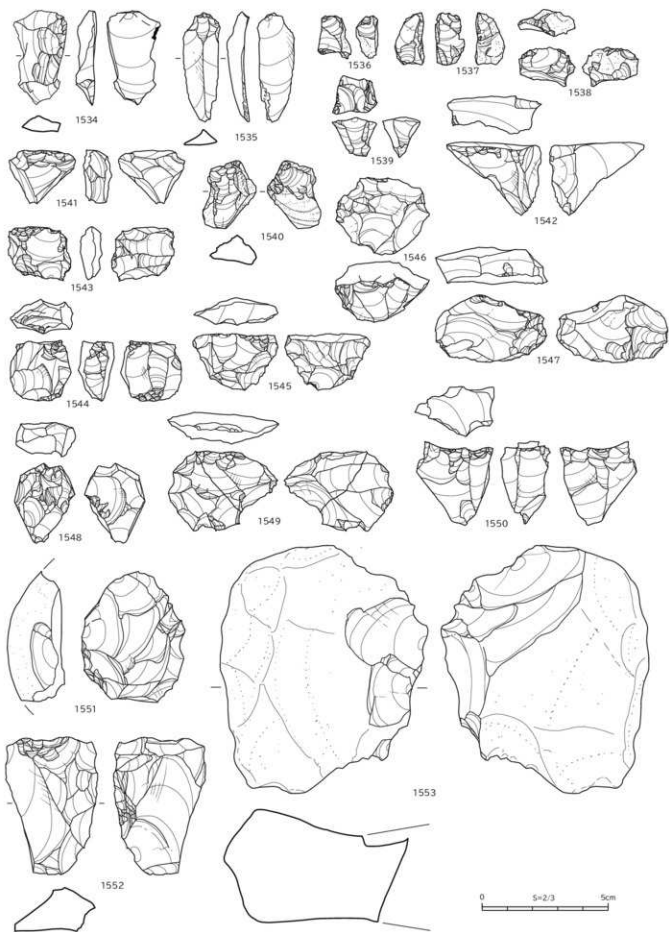
第149図 C区縄文時代早期石器実測図(3)



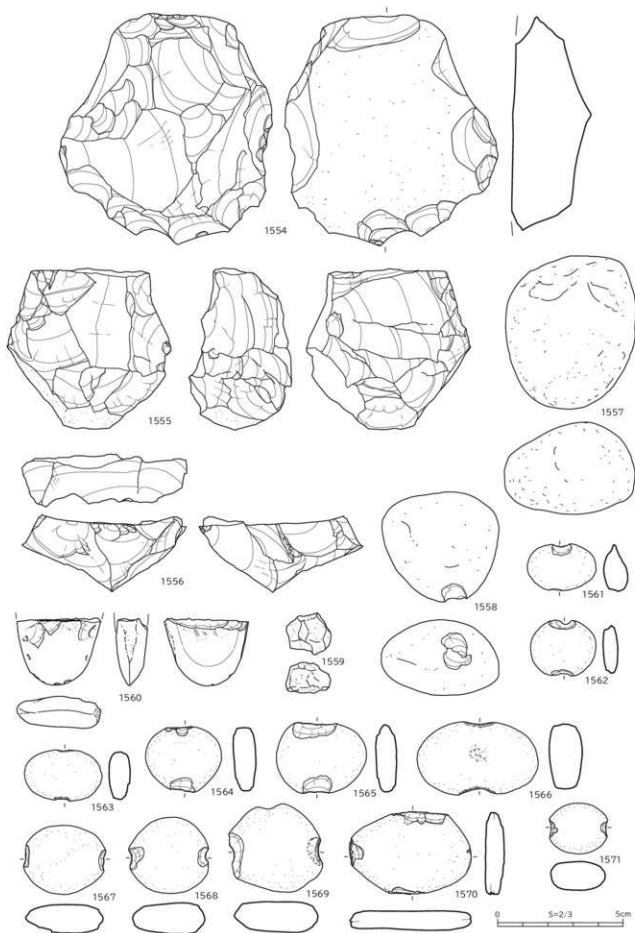
第150图 C区縄文時代早期石器実測図(4)



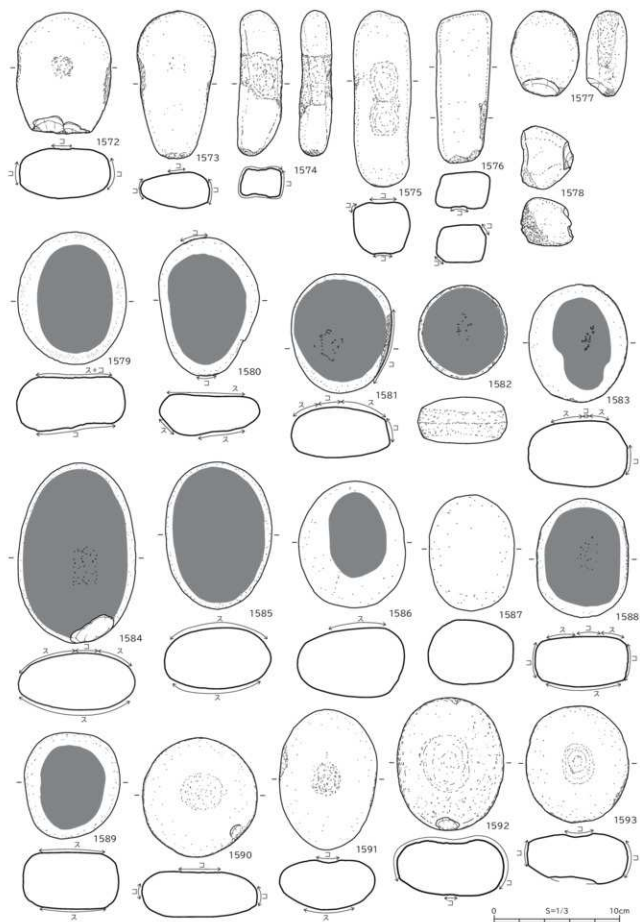
第151図 C区縄文時代早期石器実測図(5)



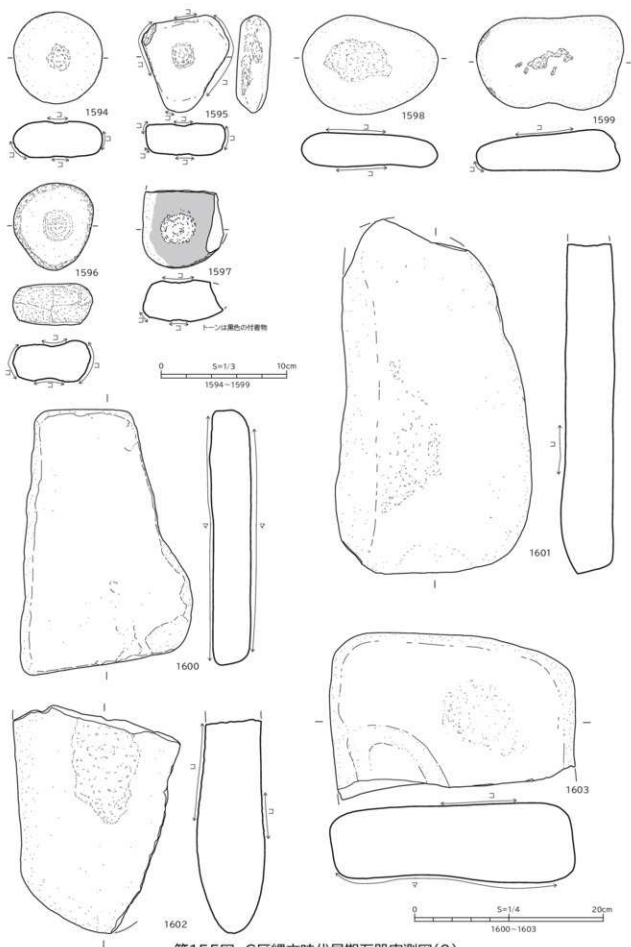
第152図 C区縄文時代早期石器実測図(6)



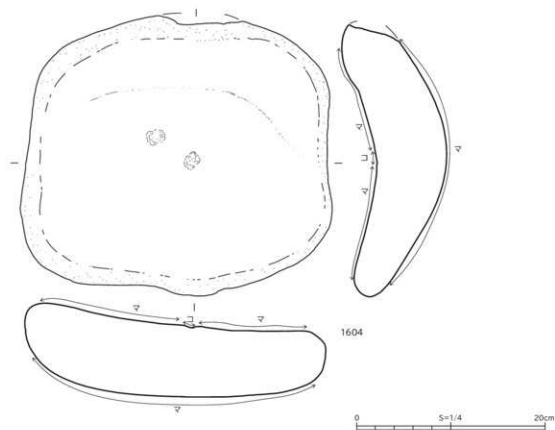
第153図 C区縄文時代早期石器実測図(7)



第154図 C区縄文時代早期石器実測図(8)



第155図 C区縄文時代早期石器実測図(9)



第156図 C区縄文時代早期石器実測図(10)

る。砂岩製のもの(1579～1584・1586・1588・1589)には、正面・裏面あるいは側面等に敲打痕が確認できるものが一定数ある。1582・1588のような、全面に敲打痕が巡るものもある。尾鈴山酸性岩類製のうち、1585は正面・裏面とも顕著な磨面があり、1587は明瞭な磨面はないものの、礫面本来の凹凸を残しつつ、礫面の全体が滑らかになっている。1590～1597は凹石である。凹石は11点出土し、全て砂岩製である。平面形は、円形から楕円形のものが大半である中、1595は平面三角形の扁平な礫が用いられる。敲打痕は深く入るものやあばた状に浅い凹面をなすもの等がある。1597は一面に黒色の物質が付着している。

台石(1598～1604,第155・156図)

台石は39点出土し、全て砂岩製である。破片になって出土したのも一定数ある。完形品で見ると、サイズには、平面10cm×15cmほどの小さなものから30～40cm四方ほどの大きなものまでがある。使用痕には、敲打痕・摩擦やそれらが組み合わさったものがある。1604の正面はボウル状の凹面、裏面には上下に強く湾曲する凸面がある。正面・裏面とも磨滅しており、正面中央に狭深な敲打痕がある。

第5節 旧石器時代の遺物

1 概要

旧石器時代の細石刃・細石刃核等が、V層中から縄文時代早期の遺物に混在して少量出土した。これに伴う遺構はない。また、C区北西に隣接する深耕された畑（縄文時代の土器・石器・赤化礫等が多く採集される）での表採資料に、旧石器時代の掻器が含まれていた。細石刃等の出土を受け、VI層以下に旧石器時代の遺構・遺物が包含される可能性が出てきたため、下層確認トレンチで精査した結果、VI層以下は遺構・遺物とも皆無であった。

2 遺物

(1) 出土分布(第157図)

出土分布についてグリッド別に見ると、B3Gr.から細石刃9点(1605～1611・1614・1616)、B4Gr.から細石刃核4点(1617・1619・1621・1622)が出土し、その周辺になるB2Gr.から細石刃1点(1613)、C5Gr.から細石刃2点(1612・1615)、B5・D5Gr.から細石刃核(1618・1623)が出土した。

(2) 石器(第158図)

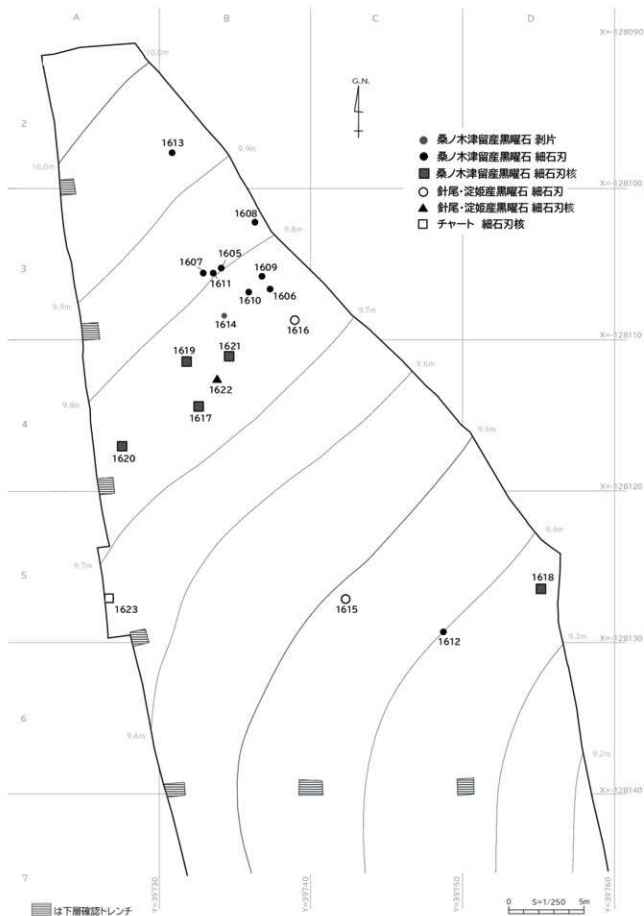
1605～1616は細石刃、1617～1623は細石刃核である。石材は、主に桑ノ木津産留産黒曜石が用いられ、針尾・淀姫系黒曜石、チャートは少数である。細石刃の法量は、長さ0.7～1.4cm、幅0.4～0.5cm(1610のみ幅0.7cm)で、使用痕と見られる微細剥離が側縁に見られるものが多い。細石刃核は、礫面どうしあるいは礫分割面と礫面とに挟まれた小口側に作業面を持つものが特徴的である。打面は、打面調整ない剥離面のもの、打面調整を介するもの、先行する細石刃剥離面を打面とするものがある。1624は、珪質頁岩製の厚みある剥片下部部に刃部を設けた掻器である。

第6節 時代不明の遺構

埋土や遺物等から時代の特定に至らなかった遺構2基について報告する。遺構は2基ともアカホヤ火山灰層を重機で除去した後の縄文時代早期面(IV・V層)の精査過程で検出されたが、埋土から見て、本来的にはアカホヤ火山灰層よりも上位から掘り込まれたものである。各遺構の報告のとおり、埋土最上部はアカホヤ火山灰の一次堆積に近いものとなっていることが原因となって、アカホヤ火山灰層上面で検出しえなかったものと考えられる。1号不明遺構はA4Gr.、2号不明遺構はC8Gr.で検出された。

1号不明遺構(SX1,第159図)

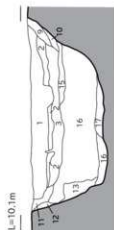
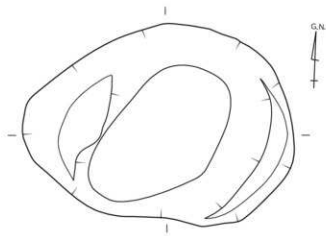
平面形は長軸2.88m、短軸2.06mの歪な楕円形で、断面形は深さ0.82mの逆台形を呈する。底面は白色粘土層まで及び、水平でなく凹凸が見られた。壁面は約45°前後で外開きに立ち上がり、部分的に弱いテラス状の段差や底面付近での傾斜変化がある。埋土は、おおそ西から東方向へ、流れ込んだように堆積している。まず、西壁面から底面にかけて、砂利を含む硬質の暗褐色土(19層)あるいは粘質のある褐色土(18層)・粘質の強い灰白色土(17層)が薄く堆積し、その後鋭角な稜を持つ砂岩礫から砂利まで(径10～15cm)を含む黄褐色土(16層)が40cmほどの厚さで、級化することなく堆積する。目視では、宮崎層群砂岩層の崖錐堆積物に近い垂角礫で、ネジリ鎌で剥離可能なほど軟質なものもある。その上には、赤味を帯びたにぶい赤褐色土(15層)が遺構北側このみ堆積する。地下水等の影響で赤変したものと考えられる。この15・16層上面は、遺構底面と誤認されるほど硬質



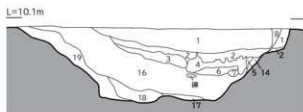
第157図 C区旧石器時代遺物分布図



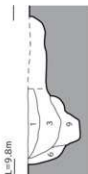
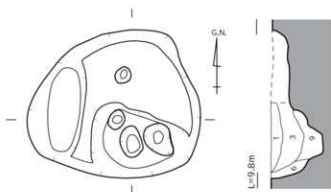
第158图 C区旧石器时代石器实测图



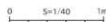
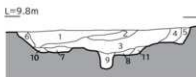
- 1: 黄褐色(10YR8/8)土。アカホヤ火山灰の粘層に近い。砂利・砂層の間に硬土ブロックをわずかに含む。
- 2: 黄褐色(10YR8/8)土。
- 3: 灰黄褐色(10YR5/2)土。砂層。
- 4: 灰黄褐色(10YR4/2)土。砂層だが硬質。
- 5: 黄褐色(10YR4/2)土。褐色土をわずかに含む。
- 6: 褐色(10YR4/1)土。砂層。
- 7: 褐色(10YR4/1)土。
- 8: 褐色(10YR5/3)土。褐色土をわずかに含む。
- 9: 暗褐色(10YR3/3)土。砂利を含む。硬質。
- 10: 暗褐色(10YR3/3)土。粘土の流土か。
- 11: 黄褐色(10YR6/8)土。褐色土をわずかに含む。
- 12: 暗褐色(10YR3/3)土。粘土の流土か。
- 13: 暗褐色(10YR3/3)土。粘土の流土か。12層より硬い。
- 14: 暗褐色(10YR3/3)土。粘土の流土か。
- 15: 濃い赤褐色(5YR5/4)土。礫を含む。
- 16: 黄褐色(10YR5/6)土。礫を含む。
- 17: 灰白色(10YR7/1)土。粘質土。褐色土をわずかに含む。
- 18: 褐色(10YR6/7)土。粘質土。褐色土や礫・炭化物を少量含む。
- 19: 暗褐色(10YR3/3)土。砂利を含む。硬質。



SX1



- 1: 黄褐色(10YR8/8)土。アカホヤ火山灰の粘層に近い。砂利・砂層の間に硬土ブロックをわずかに含む。
- 2: 暗褐色(10YR6/6)土。しまりなし。砂層。砂礫(5mm)を少量含む。
- 3: 暗褐色(10YR6/6)土。しまりなし。砂層。砂礫(5mm)を多く含む。
- 4: 濃い黄褐色(10YR5/4)土。しまりなし。砂層。砂礫(5mm)を多く含む。3層よりやや暗い色調でもって分離。
- 5: 灰黄褐色(10YR4/2)土。しまりなし。砂層。砂礫(5mm)を多く含む。
- 6: 暗褐色(10YR3/3)土。アカホヤ火山灰ブロック(5cm)を多く。砂礫(5mm)を多く含む。5・6層は土質内層を定める。
- 7: 暗褐色(10YR6/6)土。しまりなし。砂層。赤黄(5cm)を多く含む。
- 8: 暗褐色(10YR6/6)土。しまりなし。砂層。赤黄(5cm)を多く含む。
- 9: 黄褐色(10YR5/6)土。砂層。
- 10: 暗褐色(10YR3/3)土。しまりなし。砂層。砂礫(3mm)をわずかに含む。
- 11: 暗褐色(10YR3/3)土。しまりなし。砂層。砂礫(3mm)をわずかに含む。



SX2

第159図 C区時代不明遺構実測図

でなだらかな面であった(土層断面写真はこの時点のもの)。次いで、東壁際及び南北壁際にのみ、砂利を含む硬質の暗褐色土(9層)や地山土の流土と見られる暗褐色土(10・12～14層)・黒色土をわずかに含む黄褐色土(11層)が堆積した後に、砂質が強く灰色味を帯びた土(3～7層)・アカホヤ火山灰の純層に近い土(1・2層)が堆積する。砂質が強く灰色味を帯びた土(3～7層)は、上位の3～5層の方が黄色味を帯び、また4層はかなり硬くしまっている。また、3～7層中には、わずかにアカホヤ火山灰の粒子が見られる。1・2層は、アカホヤ火山灰の一次堆積に近いものの、ごくわずかながら砂利や3～7層に近い砂質が強い灰色味を帯びた土の小塊を含んでいる。また、2層は、1層に比べ濃い黄褐色であり、1層に染みこんだ雨水による微細粒粘土の浸透沈殿の可能性もある。8層は、3～7層に近い土が1層中に局所的に見られたもので、樹根等による攪乱であると思われる。遺物はチャート破片が少量出土したが、いずれも地山土の流土と見られる箇所からの出土であって遺構の年代を示すものではない。また、18層中には少量の炭化物が含まれていた。なお、1号不明遺構と重複して検出された柱穴群について、報告では本遺構とは別物として扱ったが、1号不明遺構埋没後に意図的に同所へ柱穴群を掘り込んだ可能性も完全には排除できない。

2号不明遺構(SX2, 第159図)

1号不明遺構と、深さや底面構造の差異がある一方で、埋土の堆積構造は極めて似ている。平面形は長軸1.82m、短軸1.56mの歪な楕円形で、断面形は基本的に深さ0.28mの浅い逆台形を呈する。南東側は深く掘り下がり、最深部で検出面から深さが0.56mとなる。底面は浅い箇所が暗褐色土、深く掘り下がった箇所では褐色土となり、浅い側の底面に1基、深く掘り下がる底面に3基の小穴がある。立ち上がりは、南壁のみ80°前後と急である一方で、他は50°前後と緩やかな外開きとなる。埋土は、1号不明遺構と同様に、おおよそ西方向から東に向かって、あたかも流れ込んで堆積していったような堆積構造である。まず、底面付近に、5cm大までの亜角礫や地山土ブロック等を含む明黄褐色・黄褐色・暗褐色土(7～11層)が薄く堆積した後に、壁際の全周に、アカホヤ火山灰ブロックや砂礫粒を含む灰黄褐色・暗褐色土(5・6層)が斑状に堆積する。その内側に、灰色味を帯び、砂質が強くしまりのない土(2～4層)・アカホヤ火山灰の純層に近い土(1層)が傾に堆積する。遺物はチャート破片が少量出土したが、いずれも地山土ブロックとともに見られたものであり、遺構の年代を示すものではない。

第2表 主要遺構一覧表

竪穴建物跡(SA)・竪穴建物内の土坑(SA-SC)

調査区	検出Gr.	報告遺構番号	実測番号	平面形	長さ(m)		深さ(m) (最深部)	主な出土遺物	時期	備考
					長軸	短軸				
C区	B8/B9 C8/C9	SA1	S1	花卉状(円形)	9.24	6.78+α	0.30	甕/壺/高坏/鉢/ニニチュア土器台石/磁石/軽石製品/鉄製の針/鉄鏝/胎	古墳前期 (河野VI期)	開仕切り壁あり、/主柱穴7/床上に炭化材多。
C区	C9	SA1-SC1	S369	楕円形	1.50	1.26	0.15	磁石		
C区	B9	SA1-SC2	S366	不整形円形	1.59	0.70	0.10			伊。
C区	C5	SA2	S45	花卉状(円形)	8.13	7.41	0.33	甕/壺/高坏/器台/鉢/甌/甗土器品/台石/打欠石鏝/磁石/軽片/石鏝/袋状鉄滓/刀子/棒状鉄片		開仕切り壁あり、/主柱穴4/床上に炭化材多。
C区	C5	SA2-SC1	S136	楕円形	2.07	1.41	0.75	土師器片		
C区	C5	SA2-SC2	S137	円形	1.89	1.86	0.66	鉢/ニニチュア/磁石	古墳前期 (河野VI期)	
C区	C5	SA2-SC3 SA2-SC4	S139	楕円形	3.69	1.50	0.66	壺/鉢/台石/磁石		
C区	C5	SA2-SC5	S141	不整形丸方形	2.01	1.65	0.60	甕/鉢/割片/石鏝/打欠石鏝/転磨機/煮化機		
C区	C5	SA2-SC6	S142	不整形丸方形	2.13	1.50	0.66	土師器片/台石/磁石/三角鉄片		
C区	C5	SA2-SC7		不整形円形	1.29	0.90	0.25			
C区	B4/C4	SA3	S92	花卉状(円形)	7.44	6.48	0.27	甕/壺/高坏/器台/鉢/台石/磨石/磁石/凹石/打欠石鏝/石鏝/不明鉄片	古墳前期 (河野VIa~VI期か)	開仕切り壁あり、/主柱穴5。
C区	B4	SA3-SC1	S353	楕円形	0.78	0.63	0.10	壺/高坏/鉢/ニニチュア/台石/棒状鏝/軽石製品		
C区	B4	SA3-SC2	S343	楕円形	0.54	0.39	-	-		
C区	C4	SA3-SC3	S293	円形	0.39	0.39	0.12	鉢		
C区	D5/D6	SA4	S3	方形	5.52	5.07	0.20	甕/壺/高坏/器台/甗/鉢/ニニチュア/台石/磁石/凹石/磁石製品/鉄鏝/筒/小鉄片	古墳前期 (河野VI期)	主柱穴2。
C区	D6	SA4-SC1		不整形	0.81	0.66	0.10	-		
C区	A6	SA5	S8	不明	1.32+α	0.48+α	0.40+α	磁石	弥生後期後半 ~古墳前期	
C区	A5/B5	SA6	S11	方形	5.61	5.22	0.30	甕/壺/高坏/鉢/台石/有溝石鏝/転磨車/磁石		主柱穴2。
C区	A5	SA6-SC1	S239	円形	0.54	0.51	0.20	壺/鉢/台石		
C区	A5	SA6-SC2	S65	不整形丸方形	0.54	0.48+α	0.20	-	古墳前期 (河野VI期)	
C区	A5	SA6-SC3	S64	円形	0.66	0.60	0.20	-		
C区	B5	SA6-SC4	S58	円形	0.69	0.66	0.27	-		
C区	A5	SA6-SC5	S60	不整形円形	1.50	0.87	0.10	-		
C区	A5	SA6-SC6	S119	円形	0.48	0.42	-	-		伊。
C区	C4/D4 D5	SA7	S36	方形	4.2+α	4.02	0.24	甕/壺/高坏/器台/鉢/台石/磁石	古墳前期 (河野VI期)	主柱穴2。
C区	D4	SA7-SC1	S262	不整形円形	1.17	1.11	0.25			
C区	C4	SA8	S13	不整形方形	4.08	3.42	0.42	甕/壺/高坏/ニニチュア/台石/打欠石鏝/磁石	古墳前期 (河野VI期)	
C区	C4	SA8-SC1	S99	不整形円形	0.45	0.39	0.12			
C区	A4/B4	SA9	S147	方形	3.96	3.66+α	0.12	甕/壺/器台/鉢/磁石/円鏝	古墳前期 (河野VI期)	
C区	A4	SA9-SC1	S240	楕円形	0.60	0.45	0.12			
C区	C4	SA10	S93	不明	2.34+α	0.8+α	0.18		-	不明
C区	B4/B5 C4	SA11	S43	方形	3.60	2.64	0.21	甕/壺/高坏/鉢/ニニチュア/台石	古墳前期後半 (河野VIIb期)	伊。
C区	B4	SA11-SC1		円形	-	-	-			伊。
C区	B4	SA12	S125	方形	3.09	2.85	0.12	甕/壺/高坏/器台/ニニチュア/磁石製品	古墳前期後半 (河野VIIb期)	主柱穴4。
C区	B4	SA12-SC1	-	不整形円形	0.48	0.39	-			
C区	C4	SA13		不整形	2.97	1.95	-		弥生後期後半 ~古墳前期	跡り床のみ残存か・主柱穴3。
C区	C8/D8	SA14		不明	-	-	-		弥生後期後半 ~古墳前期	主柱穴4。
C区	A3	SA15		不明	-	-	-		古墳前期	主柱穴4。

竪穴状遺構(SJ)

調査区	検出Gr.	報告遺構番号	実測番号	平面形	長さ(m)		深さ(m) (最深部)	主な出土遺物	時期	備考
					長軸	短軸				
C区	A4	SJ1	S377	不整形	3.48+α	0.42+α	-		縄文前か	
C区	B4	SJ2	S241	不整形	6.51+α	1.26+α	-		~縄文後期	

土坑(SC)・小穴(SH)

調査区	検出Gr.	報告遺構番号	実測番号	平面形	長さ(m)		深さ(m) (最深部)	主な出土遺物	時期	備考
					長軸	短軸				
AR	B10	SC1	S1065	正円形	1.84	1.84	0.28	関西系埴輪/瓦	近世～近代	炭化物含む。
AR	B9	SC2	S1047	隅丸方形	1.36	1.20	0.12	瀬戸美濃系陶反碗/瓦	近世～近代	漆喰(灰白色)。
AR	B9	SC3	S1048	楕円形	1.48	1.12	0.20	須磨器/陶器/瓦	近世～近代	漆喰(残黄褐色)。
AR	B10	SC4	S1058	隅丸方形	1.44	0.88	0.22	瓦	近世～近代	漆喰(灰白色)。
AR	B9	SC5	S1038	楕円形	1.14	0.77	0.20	青磁器(磁器)	近世～近代	個別遺構図なし。
AR	B9	SC6	S1045	楕円形	1.19	0.83	0.20	青磁器(高洗)	近世～近代	個別遺構図なし。
AR	B9	SC7	S1043	楕円形	0.94	0.65	0.20	越前陶器	近世～近代	個別遺構図なし。
AR	B8	SC8	S1010	不整形円形	1.60	1.36	0.30	青磁/土師器坏	中世	
AR	B8	SC9	S1006	不整形円形	1.12	1.04	0.10	土師器坏	中世	
AR	C2	SC10	S15	不整形円形	1.46	1.06	0.82	-	縄文	
AR	C5	SC11	S112	楕円形	1.47	0.37	0.30	縄文土器	不明	
AR	B9	SH1	S1044	円形	0.22	0.19	0.10	土人形	近世～近代	個別遺構図なし。
AR	B9	SH2	S1051	円形	0.37	0.30	0.10	瓦玉	近世～近代	個別遺構図なし。
AR	B8	SH3	S1005	円形	0.57	0.49	0.30	土師器坏	中世	個別遺構図なし。
BR	B5	SC1	S34	不整形円形	1.50	0.68	0.14	縄文土器細片	縄文	
BR	A3	SC2	S55	不整形円形	0.82	0.46	0.18	-	不明	
BR	A3	SC3	S56	円形	0.38	0.32	0.12	-	不明	
BR	A3	SC4	S57	円形	0.32	0.30	0.14	-	不明	
CR	B7	SC1	S40	円形	1.88	1.72	0.36	壺/鉢/甌石	古墳前期	
CR	B6/B7	SC2	S39	円形	1.88	1.80	0.84	壺/甌/高坏/凹石/甌石	古墳前期	
CR	A6/B6	SC3	S12	円形	1.56	1.52	0.90	壺/甌/高坏/台石/甌石	古墳前期	
CR	B6	SC4	S10	楕円形	1.32	1.08	0.60	壺/高坏	古墳前期	
CR	A6	SC5	S9	楕円形	1.28	1.10	0.80	壺/高坏/鉢	古墳前期	
CR	D5	SC6	S20	楕円形	1.32	0.88	0.40	壺/甌台/鉢/ミニチュア	古墳前期	炭化物含む。
CR	D5	SC7	S6	円形	1.08	1.00	0.32	鉢/高坏	古墳前期	
CR	C4	SC8	S68	円形	1.36	1.28	0.28	壺/甌/高坏/鉢/甌石	古墳前期	漆・炭化物含む。
CR	B4	SC9	S224	円形	2.22	2.10	1.66	壺/甌/高坏/甌台/鉢/ミニチュア/台石/甌石	古墳前期	漆・甌に炭化物含む。
CR	B4	SC10	S225	楕円形	2.52	1.98	1.40	壺/甌/高坏/鉢/凹石/甌石	弥生後期後半	
CR	B4	SC11	S16	円形	1.32	1.22	0.36	鉢/甌/磨盤	古墳前期	
CR	B4	SC12	S15	円形	0.92	0.88	0.52	壺/甌/高坏/鉢/甌石/凹石	古墳前期	漆含む。
CR	B4	SC13	S18	円形	1.16	1.08	0.34	壺/高坏/ミニチュア	古墳前期	
CR	A2	SC14	S438	楕円形	1.56	1.20	0.56	壺/甌/甌磨盤	古墳前期	漆含む。
CR	A2	SC15	S439	楕円形	1.56	1.26	0.44	壺/高坏/磨石	古墳前期	
CR	B4	SC16	S221	不整形円形	1.20	0.74	0.34	高坏	古墳前期	
CR	A3/B3	SC17	S408	隅丸長方形	3.16	1.24	0.44	壺/甌石	古墳前期	漆まばらに含む。
CR	C9	SC18	S370	不整形	3.18+ α	2.84+ α	0.08	-	古墳前期	
CR	A4	SC19	S189	楕円形	1.47	1.14	0.12+ α	-	縄文前～	
CR	B4	SC20	S352	楕円形	1.38	0.84+ α	0.09	宮之迫式/打欠石罨/石積/甌石	縄文後期	
CR	D5	SC21	S574	不整形円形	2.04	1.04	0.14	下割審式/甌文/割片	縄文早期	炭化物多く含む。
CR	C6	SC22	S552	楕円形	1.60	0.90	0.32	下割審式/甌文/割片	縄文早期	炭化物含む。
CR	C5	SC23	S553	不整形円形	0.90	0.50	0.20	甌文	縄文早期	漆含む。
CR	A4	SC24	S702	不整形円形	0.68	0.38	0.20	-	縄文早期	
CR	B4	SC25	S665	楕円形	1.40	0.68	0.28	割片	縄文早期	漆含む。
CR	C4	SC26	S557	不整形円形	0.96	0.66	0.20	甌文/原石/割片	縄文早期	漆含む。
CR	B4	SC27	S659	不整形円形	1.08	0.64	0.16	-	縄文早期	
CR	A3	SC28	S649	隅丸長方形	1.32	0.68	0.24	甌文	縄文早期	漆多く含む。
CR	C9	SC29	S722	楕円形	0.84	0.64	0.24	-	縄文早期	
CR	B6	SC30	S709	不整形円形	0.92	0.60	0.24	-	縄文早期	
CR	B6	SC31	S686	楕円形	0.64	0.52	0.24	-	縄文早期	
CR	B5	SC32	S723	楕円形	0.88	0.44	0.16	-	縄文早期	
CR	B5	SC33	S668	不整形円形	0.72	0.52	0.20	割片	縄文早期	
CR	A5	SC34	S661	楕円形	0.48	0.32	0.16	-	縄文早期	
CR	D5	SC35	S634	不整形円形	0.64	0.44	0.08	甌文/割片	縄文早期	
CR	B4	SC36	S662	楕円形	1.00	0.48	0.24	-	縄文早期	漆含む。
CR	A5	SC37	S683	不整形円形	0.64	0.44	0.12	-	縄文早期	漆含む。
CR	C5	SC38	S555	楕円形	1.08	0.58	0.20	割片	縄文早期	炭化物多く含む。
CR	C4	SC39	S567	不整形円形	1.12	0.56	0.24	割片	縄文早期	漆含む。
CR	C4	SC40	S556	楕円形	1.12	0.54	0.18	下割審式/甌文	縄文早期	炭化物多く含む。
CR	B4	SC41	S663	楕円形	0.98	0.56	0.18	甌文/割片	縄文早期	
CR	C4	SC42	S561	楕円形	0.52	0.40	0.16	-	縄文早期	
CR	C4	SC43	S560	楕円形	1.48	0.80	0.16	-	縄文早期	
CR	C4	SC44	S562	不整形円形	0.80	0.44	0.20	-	縄文早期	
CR	C4	SC45	S563	楕円形	0.50	0.34	0.08	二次加工割片	縄文早期	
CR	C4	SC46	S544	隅丸長方形	1.34	0.88	0.16	下割審式/割片	縄文早期	炭化物・漆含む。

調査区	検出Gr.	報告通構番号	実測番号	平面形	長さ(m)		深さ(m) (最深部)	主な出土遺物	時期	備考
					長軸	短軸				
C区	C4	SC47	S533	不整楕円形	1.76	0.96	0.32	楕円押型文	縄文早期	炭化物含む。
C区	C4	SC48	S569	楕円形	0.52	0.36	0.18	割片	縄文早期	
C区	A4	SC49	S692	不整楕円形	0.80	0.56	0.16	割片	縄文早期	礫含む。
C区	B3	SC50	S687	不整楕円形	0.84	0.52	0.16	割片	縄文早期	礫含む。
C区	A3	SC51	S707	楕円形?	1.12	0.76+α	0.24	割片	縄文早期	礫・炭化物少量含む。
C区	B3	SC52	S570	不整楕円形	1.20	0.60	0.36	無文/割片	縄文早期	炭化物含む。
C区	B3	SC53	S631	不整楕円形	1.92	1.12	0.22	無文/割片	縄文早期	礫・炭化物少量含む。
C区	B3	SC54	S572	不整楕円形	1.32	0.80	0.16	鳥ノ丸式/割片	縄文早期	
C区	A3	SC55	S652	不整楕円形	1.04	0.76	0.20	下割箸式/無文	縄文早期	礫多く含む。
C区	A3/B3	SC56	S705	楕円形	0.92	0.68	0.28	無文	縄文早期	礫多く含む。
C区	A2	SC57	S680	不整楕円形	0.80	0.56	0.16	割片	縄文早期	
C区	C10	SC58	S727	不整円形	0.68	0.56	0.16	山形押型文	縄文早期	
C区	C9	SC59	S720	不整楕円形	0.78	0.36	0.08	無文	縄文早期	
C区	C9	SC60	S721	隅丸長方形	0.88	0.56	0.16	無文	縄文早期	赤化礫含む。
C区	C9	SC61	S725	不整楕円形	0.64	0.52	0.12	無文	縄文早期	
C区	B6	SC62	S708	楕円形	0.64	0.48	0.08	無文	縄文早期	
C区	B6	SC63	S675	楕円形	0.80	0.56	0.28	割片	縄文早期	
C区	B6	SC64	S674	円形	0.32	0.32	0.12	無文	縄文早期	
C区	B6	SC65	S673	不整楕円形	0.48	0.32	0.12	無文	縄文早期	
C区	B6	SC66	S685	楕円形	0.96	0.76	0.18	無文/割片	縄文早期	礫含む。
C区	A5	SC67	S672	不整楕円形	0.72	0.48	0.18	割片	縄文早期	
C区	C5	SC68	S545	不整楕円形	0.70	0.48	0.12	粘土製品	縄文早期	
C区	C5	SC69	S543	楕円形	1.68	1.24+α	0.44	山形押型文/辻タイプ/下割箸式/無文/磨石/凹石/打製石礫/割片	縄文早期	炭化物・多くの礫含む。
C区	D5	SC70	S636	不整円形	0.64	0.58	0.16	無文	縄文早期	礫含む。
C区	D5	SC71	S635	不整円形	0.78	0.76	0.12	無文/割片	縄文早期	礫含む。
C区	C5	SC72	S637	不整楕円形	1.48	0.92	0.32	磨面刺線割片/割片	縄文早期	炭化物含む。
C区	C5	SC73	S638	円形	0.56	0.48	0.18	下割箸式	縄文早期	炭化物含む。
C区	B5	SC74	S724	円形	0.38	0.36	0.12	割片	縄文早期	
C区	B5	SC75	S645	不整円形	0.88	0.76	0.20	打製石礫/割片	縄文早期	
C区	B5	SC76	S644	不整楕円形	1.04	0.52	0.12	無文	縄文早期	
C区	B5	SC77	S660	円形	0.64	0.64	0.18	割片	縄文早期	礫含む。
C区	B5	SC78	S669	不整楕円形	0.64	0.48	0.18	割片	縄文早期	礫含む。
C区	B5	SC79	S656	不整円形	0.56	0.52	0.20	無文/割片	縄文早期	礫含む。
C区	B5	SC80	S667	楕円形	0.50	0.38	0.16	割片	縄文早期	
C区	C4	SC81	S542	不整楕円形	1.76	0.80	0.08	下割箸式/無文/台石/割片	縄文早期	礫含む。
C区	C4	SC82	S559	円形	0.92	0.88	0.12	下割箸式/無文/割片	縄文早期	礫含む。
C区	B5	SC83	S703	不整楕円形	0.60	0.40	0.14	無文	縄文早期	礫多く含む。
C区	B4	SC84	S704	不整円形	0.40	0.32	0.08	無文	縄文早期	礫多く含む。
C区	B4	SC85	S666	不整楕円形	1.00	0.56	0.16	割片	縄文早期	
C区	B4	SC86	S657	不整円形	0.48	0.44	0.16	無文	縄文早期	
C区	C4	SC87	S658	不整楕円形	1.40	0.64	0.16	割片	縄文早期	炭化物・礫多く含む。
C区	C4	SC88	S630	楕円形?	1.08	0.76+α	0.12	割片	縄文早期	炭化物・礫含む。
C区	B4	SC89	S666	円形	0.64	0.56	0.24	無文	縄文早期	礫含む。
C区	B4	SC90	S641	不整円形	0.36	0.36	0.16	無文	縄文早期	
C区	B4	SC91	S664	楕円形	0.78	0.40	0.16	打製石礫	縄文早期	礫含む。
C区	A4	SC92	S682	円形	0.56	0.56	0.20	割片	縄文早期	
C区	B4	SC93	S658	不整円形	0.40	0.40	0.16	無文	縄文早期	礫含む。
C区	B4	SC94	S665	不整円形	0.40	0.32	0.12	無文	縄文早期	炭化物多く含む。
C区	A4	SC95	S551	円形	0.52	0.50	0.18	無文	縄文早期	炭化物多く含む。
C区	A4	SC96	S684	不整円形	0.32	0.28	0.08	無文	縄文早期	
C区	B4	SC97	S671	円形	0.56	0.52	0.20	無文	縄文早期	炭化物多く含む。
C区	C4	SC98	S639	円形	0.48	0.44	0.16	無文	縄文早期	
C区	C4	SC99	S564	不整円形	0.52	0.44	0.12	無文	縄文早期	
C区	B4	SC100	S668	不整楕円形	1.40	0.88	0.20	下割箸式	縄文早期	
C区	C3	SC101	S532	円形?	1.76	1.56+α	0.24	下割箸式	縄文早期	炭化物多く含む。
C区	A4	SC102	S701	楕円形?	0.68	0.4+α	0.12	割片	縄文早期	礫多く含む。
C区	A4	SC103	S681	不整楕円形	0.72	0.60	0.16	無文	縄文早期	礫多く含む。
C区	A3	SC104	S654	楕円形?	1.04	0.48+α	0.20	無文	縄文早期	
C区	A3	SC105	S651	不整円形	0.44	0.36	0.18	無文/割片	縄文早期	礫含む。
C区	A3	SC106	S650	楕円形	0.52	0.36	0.20	割片	縄文早期	
C区	B3	SC107	S571	楕円形	0.40	0.34	0.16	磨糸文	縄文早期	炭化物含む。
C区	B3	SC108	S642	不整楕円形	0.44	0.36	0.12	無文	縄文早期	
C区	B3	SC109	S573	円形	0.96	0.92	0.16	割片	縄文早期	炭化物多く含む。
C区	A3	SC110	S699	円形	0.48	0.48	0.12	無文	縄文早期	礫含む。
C区	A2	SC111	S698	円形	0.68	0.60	0.20	割片	縄文早期	礫多く含む。
C区	A2	SC112	S694	楕円形	0.48	0.36	0.12	無文	縄文早期	
C区	A2	SC113	S693	楕円形	0.64	0.44	0.16	無文	縄文早期	礫多く含む。

調査区	検出 Gr.	報告遺構番号	実測番号	平面形	長さ(m)		深さ(m) (最深部)	主な出土遺物	時期	備考
					長軸	短軸				
C区	A2	SC114	S690	不整形	0.44	0.36	0.12		縄文早期	礎多く含む。
C区	A2	SC115	S670	楕円形	1.08	0.88	0.20	無文	縄文早期	炭化物・多くの礎含む。
C区	C9	SH1	S94	円形	0.40	0.40	-	陶磁器	近世	
C区	A5	SH2	S100	円形	0.85	0.74	-	礎	弥生後期後半～古墳前期	
C区	B4	SH3	S304	円形	0.46	0.41	-	礎	弥生後期後半～古墳前期	
C区	D7	SH4	S325	円形	0.36	0.31	-	礎/高坏	弥生後期後半～古墳前期	

井戸(SF)

調査区	検出 Gr.	報告遺構番号	実測番号	平面形	長さ(m)		深さ(m) (最深部)	主な出土遺物	時期	備考
					長軸	短軸				
A区	A10	SF1	S1083	正円形	0.80	0.80	1.6+a		近代～	壁面はコンクリートで整形。掘削は検出面から1.6m(標高6m)。
A区	A10	SF2	S1221	楕円形	1.68	1.60	1.8+a	土製品	近世～近代	裏覆りの井戸。掘削は検出面から1.8m(標高5.5m)まで。

その他の遺構

調査区	検出 Gr.	報告遺構番号	実測番号	長さ(m)		深さ(m)	主な出土遺物	時期	備考
				長軸	短軸				
A区	B9/B10	竪穴遺構	①:S1078, ②:S1077, ③:S1076, ④:S1075, ⑤:S1074, ⑥:S1073, ⑦:S1072, ⑧:S1098, ⑨:S1071, ⑩:S1070, ⑪:S1069	6.70	3.77	0.05	イネ・オオムギ等の炭化物	中世	鉄関11集。
A区	B8	防空壕跡	S1000	4.40	2.00	0.60	陶磁器、瓦、石硯、数珠、数珠水瓶、酒瓶、化粧瓶、瓶ガラス、土師器、縄文土器	近代	
B区	B4/B5/ B6/C4/ C5/C6	煙跡	S番号なし	20.40	10.50以上	-	おはじき、近代陶磁器、ガラス、縄文土器、磨製石斧	近世～近代	
C区	C6	土器集中1	S31～34	-	-	-	壺/甕/鉢/高坏/器台/打欠石鉢/台石/割片	弥生後期後半～古墳前期	
C区	C7	土器集中2	S69	-	-	-	壺/甕/高坏	弥生後期後半～古墳前期	
C区	C5/D5	土器集中3	S103	-	-	-	高坏/鉢	弥生後期後半～古墳前期	
C区	A4	SX1	S409	2.88	2.06	0.82	チャート片	-	
C区	C8	SX2	S419	1.82	1.56	0.56	チャート片	-	

集石遺構(SI)

調査区	検出 Gr.	報告遺構番号	実測番号	長さ(m)		深さ(m)	分類	主な出土遺物	時期	備考
				長軸	短軸					
C区	C5	S11	S530	1.50	1.32	0.42	I類	-	縄文早期	配石有り。炭化物含む。
C区	A3	S12	S540	1.26	1.17	0.33	I類	台石/磨石/割片/磨石	縄文早期	配石有り。炭化物含む。
C区	A2	S13	S697	1.26	1.11	0.39	I類	無文	縄文早期	配石有り。炭化物多く含む。
C区	A4	S14	S632	2.16	2.07	0.39	I類	無文/石鏡	縄文早期	配石有り。炭化物含む。
C区	A3	S15	S646	2.04	1.95	0.39	I類	-	縄文早期	配石有り。炭化物多く含む。
C区	A2	S16	S647	0.99	0.54+a	0.15	II類	下割釜式/靱石	縄文早期	炭化物含む。
C区	A2	S17	S648	1.32	0.60+a	0.15	II類	-	縄文早期	炭化物含む。
C区	C5	S18	S531	1.05	0.87+a	0.21	II類	靱石	縄文早期	
C区	B3	S19	S548	0.78	0.75	0.18	II類	-	縄文早期	
C区	B4	S10	S541	0.72	0.63	0.15	II類	-	縄文早期	
C区	A2	S11	S696	0.69	0.63	0.12	II類	-	縄文早期	
C区	A2	S12	S689	0.75	0.66	0.15	II類	下割釜式/山形押型文/器石/割片	縄文早期	
C区	B2	S13	S655	0.66	0.63	0.15	II類	-	縄文早期	炭化物含む。
C区	A2	S14	S695	1.35	1.23	0.27	II類	辻タイプ/石硯/二次加工割片/割片	縄文早期	炭化物含む。
C区	A2	S15	S653	1.11	0.84+a	0.21	II類	-	縄文早期	炭化物含む。
C区	B5	S16	S643	0.30	0.27	0.09	II類	-	縄文早期	

掘立柱建物跡 (SB)

時期 弥生古前-弥生時代後期後半~古墳時代前期

調査区	検出Gr.	報告番号	実測番号	規模	構造	主軸方向	桁行(m)	梁行(m)	面積(m ²)	柱間寸法(m) 柱穴(A8間距離)→柱穴B	柱穴×柱穴深 (cm) (cm)	時期	伴出遺構・出土遺物等
A区	B9	SB1	P1:S1025, P2:S1030, P3:S1086, P4:S1035, P5:S1036	1間×2間以上	側柱	N-80°-W	4.1	2.7	11.0	P1(2.7)→P2(1.98)→P3(0.84)→P4(1.26)→P5	P1(45×30)-P2(48×32)-P3(56×32)-P4(66×40)-P5(48×18)	近世 近代	P2:瀬戸美濃系瓦, P3:瓦, P4:陶磁器/瓦, P5:陶磁器/瓦
A区	B7	SB2	P1:S2028, P2:S2027, P3:S2026, P4:S2001, P5:S1086, P6:S1001, P7:S1088, P8:S1220, P9:S1219, P10:S1057	1間×2間	側柱・底柱	N-3°-E	3.5	4.3	15.0	P1(2.16)→P2(2.16)→P3(1.8)→P4(1.68)→P5(2.32)→P10(2.2)→P6(3.76)→P1. 底廊:P10(0.8)→P6(1.32)→P7(3.2)→P8(0.52)→P9(2.2)→P10(2.32)→P5, P10(0.68)→P7	P1(24×40)-P2(32×32)-P3(32×24)-P4(20×24)-P5(40×48)-P6(40×24)-P7(48×56)-P8(16×8)-P9(32×36)-P10(48×48)	中世	P1.5~7:土師器片, P10:青磁
A区	C2	SB3	P1:S2, P2:S4, P3:S6, P4:S11, P5:S8	3間×1間以上	側柱	N-4°-E	5.4	1.9	10.2	P1(2.16)→P2(1.68)→P3(1.52)→P4(1.92)→P5	P1(48×40)-P2(56×40)-P3(40×56)-P4(40×32)-P5(32×24)	古代	P3:布直土器片
A区	C3	SB4	P1:S32, P2:S31, P3:S30, P4:S29, P5:S28	1間×2間以上	側柱	N-84°-W	1.8	3.6	6.4	P1(1.8)→P2(1.84)→P3(1.8)→P4(1.72)→P5	P1(32×28)-P2(32×20)-P3(32×28)-P4(32×28)-P5(24×24)	古代	P1~4:土師器片/環
A区	B6	SB5	P1:S69, P2:S74, P3:S73, P4:S72	1間×2間以上	側柱	N-28°-E	2.0	2.5	5.0	P1(2.0)→P2(1.72)→P3(1.8)→P4	P1(44×20)-P2(32×16)-P3(40×16)-P4(40×24)	古代	P1:土師器片, P4:土師器片/布直土器
A区	B5	SB6	P1:S545, P2:S204, P3:S22, P4:S510, P5:S509, P6:S514, P7:S517, P8:S518, P9:S529, P10:S527	3間×2間	側柱	N-11°-E	5.6	3.6	20.1	P1(1.92)→P2(1.76)→P3(1.88)→P4(1.88)→P5(1.76)→P6(1.84)→P7(1.84)→P8(1.84)→P9(1.6)→P10(1.84)→P1	P1(48×16)-P2(16×8)-P3(44×8)-P4(56×24)-P5(56×24)-P6(32×24)-P7(32×8)-P8(32×16)-P9(64×32)-P10(40×16)	古代	P7:土師器片, P9:土師器片/土坑(SB6-SC1)
A区	B5	SB7	P1:S117, P2:S116, P3:S19, P4:S165, P5:S144, P6:S141, P7:S138, P8:S124, P9:S167, P10:S108, P11:S110, P12:S115	4間×2間	側柱	N-27°-E	4.8	2.5	12.0	P1(1.24)→P2(0.4)→P3(1.64)→P4(1.52)→P5(1.6)→P6(1.28)→P7(1.6)→P8(1.04)→P9(1.52)→P10(0.64)→P11	P1(64×32)-P2(56×24)-P3(114×8)-P4(56×64)-P5(56×24)-P6(56×32)-P7(28×20)-P8(56×24)-P9(64×56)-P10(28×8)-P11(32×20)	古代	P1~6, 8, 9, 11:土師器片/土師器片/布直土器/磁石
A区	B5	SB8	P1:S90, P2:S89, P3:S88, P4:S87, P5:S66, P6:S534, P7:S508, P8:S511, P9:S535, P10:S523, P11:S524, P12:S526, P13:S92, P14:S91, P15:S94	4間×2間	側柱・底柱	N-21°-E	4.2	3.0	12.6	P1(0.8)→P2(0.44)→P3(1.4)→P4(1.32)→P5(1.24)→P6(1.52)→P7(1.48)→P8(1.24)→P9(0.76)→P1(1.52)→P15(1.44)→P1. 底廊:P11(1.04)→P12(1.36)→P13(1.6)→P14(0.88)→P1, P13(1.04)→P15	P1(80×32)-P2(104×24)-P3(48×32)-P4(80×40)-P5(80×48)-P6(48×36)-P7(72×36)-P8(48×24)-P9(24×12)-P10(40×12)-P11(24×16)-P12(40×40)-P13(48×32)-P14(56×56)-P15(48×24)	古代	P4:布直土器, P6:土師器片, P10:土師器片, P14:布直土器/須恵器片
A区	B7	SB9	P1:S2031, P2:S2005, P3:S2006, P4:S2009, P5:S2012, P6:S2015, P7:S2016	3間×1間	側柱	N-1°-E	5.1	2.8	14.3	P1(1.84)→P2(3.28)→P3(2.52)→P4(1.88)→P5(1.64)→P6(1.6)→P7(2.76)→P1	P1(24×16)-P2(32×16)-P3(40×12)-P4(24×16)-P5(24×16)-P6(24×12)-P7(16×8)	古代	P2, 4, 6, 7:土師器片/布直土器
A区	B7	SB10	P1:S2007, P2:S2022, P3:S2020, P4:S2018, P5:S2013	2間×1間	側柱	N-87°-W	4.4	3.0	13.2	P1(4.56)→P2(2.88)→P3(2.24)→P4(2.2)→P5(2.96)→P1	P1(32×32)-P2(40×44)-P3(32×40)-P4(24×32)-P5(24×12)	古代	P1:黒色土器片
B区	B5	SB1	P1:S41, P2:S42, P3:S29, P4:S33, P5:S35, P6:S37, P7:S38, P8:S39	2間×3間	側柱	N-78°-W	5.6	3.8	21.2	P1(1.8)→P2(1.8)→P3(2.84)→P4(0.96)→P5(1.8)→P6(1.8)→P7(2.04)→P8	P1(32×32)-P2(28×40)-P3(24×48)-P4(32×20)-P5(32×56)-P6(32×48)-P7(32×30)-P8(32×24)	近世 近代	P2:瀬戸美濃系瓦, P3:瓦, P4~5:陶磁器/瓦
C区	D7	SB1	P1:S104, P2:S105, P3:S106, P4:S107, P5:S108, P6:S109	1間×2間	側柱	N-70°-W	4.9	2.2	10.8	P1(2.2)→P2(2.64)→P3(2.28)→P4(2.25)→P5(2.4)→P6(2.16)→P1	P1(32×12)-P2(40×28)-P3(28×16)-P4(28×28)-P5(40×24)-P6(36×24)	中世	P6:土師器片
C区	B8/ C8	SB2	P1:S55, P2:S42, P3:S25, P4:S28, P5:S53, P6:S29, P7:S54, P8:S52	1間×2間	独立維持柱	N-74.5°-W	3.4	3.2	10.8	P1(1.6)→P2(1.7)→P3(3.34)→P4(1.76)→P5(1.72)→P6(3.2)→P1, P7(4.32)→P8	P1(32×20)-P2(40×20)-P3(40×16)-P4(44×30)-P5(22×26)-P6(22×24)-P7(22×28)-P8(42×32)	古墳前期	P2:土師器片
C区	B5	SB3	P1:S187, P2:S183, P3:S181, P4:S174, P5:S172, P6:S176, P7:S178, P8:S556	1間×2間	独立維持柱	N-88°-W	4.6	3.4	15.6	P1(2.1)→P2(2.24)→P3(3.16)→P4(2.2)→P6(2.1)→P6(3.32)→P1, P7(5.36)→P8	P1(32×28)-P2(32×20)-P3(20×32)-P4(20×24)-P6(20×28)-P6(32×24)-P7(64×16)-P8(28×12)	弥生古前	P2:土師器片
C区	D9	SB4	P1:S413, P2:S414, P3:S415, P4:S416, P5:S417, P6:S418	1間×2間	側柱	N-34°-E	3.5	2.8	9.8	P1(1.76)→P2(1.92)→P3(2.8)→P4(1.76)→P5(1.8)→P6(2.60)→P1	P1(16×12)-P2(16×8)-P3(20×12)-P4(12×8)-P5(16×12)-P6(16×16)	弥生古前	P3, 6:土師器片

掘立柱建物内の土坑(SB-SC)

調査区	検出Gr.	報告遺構番号	実測番号	平面形	長さ(m)		深さ(m) (最深部)	主な出土遺物	時期	備考
					長軸	短軸				
A区	B5	SB6-SC1	SS20	隅丸方形	2.20	1.92	0.20	鑄物口/土師器環/土師器壺/土師器皿/須恵器壺/布衣土器/磁石/焼成粘土塊/灰化樹皮	古代	掘立柱建物付設土坑。
C区	B8/C8	SB2-SC1	S5	楕円形	2.76	2.48	0.80	埴/壺/高坏/鉢/割片	古墳前期	掘立柱建物付設土坑。

平地式建物跡(SB)・柱穴列

調査区	検出Gr.	報告遺構番号	平面形	長さ(m)		支柱穴	柱穴径 (cm)	柱穴深 (cm)	時期	備考(出土遺物等)
				長軸	短軸					
C区	C6/D6	SB5	楕円形	3.70	2.82	7	18.0~34.0	12.0~22.0	縄文早期	遺物出土なし
C区	A4	柱穴列	楕円形	2.42	1.86	-	14.0~26.0	10.0~20.0	縄文前~晩	遺物出土なし

溝状遺構(SE)・道路状遺構(SG)

調査区	報告遺構番号	実測番号	検出延長	長さ(m)		深さ(m)	主な出土遺物	時期	備考
				上幅	下幅				
A区	SE1	S2004	13.00	0.60	0.28	0.12	型紙埋りの福器	近世~近代	
A区	SE2	S1087	4.00	0.50	-	-	碓格	近世~近代	
A区	SE3	S1085	4.00	1.40	0.80	0.20	-	近世~近代	
A区	SE4	S17	12.40	0.95	0.72	0.20	須恵器/土師器環/土師器壺/布衣土器・黒色土器	古代	
A区	SE5	S40	5.70	0.44	0.24	0.06	土師器/布衣土器	古代	
A区	SE6	S41	7.00	0.38	0.32	0.10	土師器/布衣土器	古代	
A区	SE7	S1061+S1003	11.50	0.90	0.75	0.12	土師器壺/土師器環/布衣土器	古代	
A区	SE8	S1084	12.40	0.70	0.50	0.20	土師器環/管状土鐘	古代	
A区	SE9	S1085	6.90	1.50	1.00	0.32	-	古代	
A区	SE10	S番号なし	9.30	0.80	0.48	0.20	-	古代	
A区	SG1	S541	5.30	0.70	0.30	1.20	-		
A区	SG2	S542	6.80	0.40	0.18	1.05	※ 4条全てで一括として取り上げ	近世~近代	
A区	SG3	S543	7.00	0.40	0.24	0.24	陶器/磁器/瓦/磁石/火打石/土師器/須恵器/磁石	近世~近代	
A区	SG4	S544	6.90	0.30	0.12	0.24	-		
B区	SE1	S25	13.50	1.00	0.50	0.10	縄文土器/近代陶器/陶磁器	近代以降	
B区	SE2	S1	15.00	0.80	0.48	0.44	磁石	不明	
B区	SE3	S2	14.50	0.50	0.32	0.20	-	不明	
B区	SG1	S13	6.00	0.96	0.40	0.17	-	近世~近代	
B区	SG2	S45	3.60	0.64	0.24	0.24	-	近世~近代	
B区	SG3	S46	3.92	0.40	0.16	0.30	陶器小坏	近世~近代	
B区	SG4	S47	4.00	0.40	0.20	0.26	-	近世~近代	
B区	SG5	S48	4.32	0.36	0.16	0.12	-	近世~近代	
B区	SG6	S番号なし	1.44	0.40	0.24	0.08	-	近世~近代	
B区	SG7	S番号なし	1.44	0.40	0.24	0.04	-	近世~近代	
B区	SG8	S番号なし	1.20	0.56	0.24	0.04	-	近世~近代	
B区	SG9	S52	5.20	0.40	0.20	0.14	-	近世~近代	
B区	SG10	S番号なし	5.04	0.32	-	0.04	-	近世~近代	
C区	SE1	S445	14.20	1.50	0.70	0.30	土師器/打欠石鐘/磨製石斧/磁石/台石/割片	近世	羅島新郷享保テラ含む。
C区	SE2	S446	22.20	0.90	0.40	0.30+a	縄文土器/土師器/磁石/台石/石鐘	中世	羅島文明テラ含む。
C区	SE3	S番号なし	17.00	0.70	0.40	0.50	土師器/割片	中世	羅島文明テラ含む。
C区	SE4	S447	33.00	0.80	0.10	0.50	縄文土器/土師器/割片	中世	羅島文明テラ含む。
C区	SE5	S番号なし	26.00	0.70	0.40	-	土師器/石鐘/割片	中世	
C区	SE6	S450	12.20	0.80	0.60	0.50	鉄釘/縄文土器/土師器	中世	羅島文明テラ含む。
C区	SE7	S44	3.70	0.60	0.30	0.40	土師器	中世	
C区	SE8	S448	20.90	1.60	0.20	0.30	縄文土器/弥生土器/土師器/石核/磁石/石鐘/素刃石器/割片	中世	羅島文明テラ含む。
C区	SE9	S番号なし	8.50+a	0.40+a	0.20+a	0.20	-	中世	
C区	SE10	S411	1.10	0.70	0.40	0.20	-	中世	
C区	SE11	S421	3.90	0.50+a	-	0.50+a	-	中世	
C区	SG1	S364	11.20	-	-	-	四ツ目土鐘	近世	
C区	SG2	S111	-	-	-	0.20	-	近世	
C区	SG3	S110	-	-	-	0.20	-	中世	
C区	SG4	S449	1.40	-	-	0.20+a	-	中世	
C区	SG5	S412	0.80	-	-	0.15	-	中世	

第3表 土器・陶磁器観察表

発掘 番号	類別 器種	部位	区	出土位置	法量(cm)			手法・調整・文華ほか		色調	胎土(数字単位mm)	備考
					口徑	底径	器高	外面	内面			
1	陶器 甕	口～底	A	SBI-P5	4.0	10.4	5.5	施彩/買入	灰白 灰白	緑灰		
5	陶器 鉢	口～底	A	SC1	21.2	-	-	2条の凸線/回転模ナデ	1単位11条	にぶい赤褐色 赤褐色	～2黒粒散～6灰白粒少	残存率約3/4、関西系、18～19C
14	陶器 皿	縁部中央	A	SC5	14.6	8.8	4.3	施彩/買入	紅/目出筋白	紺黒	緑灰	肥前系
15	焼酎樽 甕	口～底	A	SC7	11.2	3.6	6.1	施彩/なびび山	施彩・底に「能1060」	白	緑灰	新瓦と内側の一部にヤシ擦の付着物
16	陶器 土瓶	坪～腰	A	SC6	4.0	-	-	施彩/松竹(輪はない)	施彩	紺黒	灰白	肥前系、19C+
17	陶器 土瓶	口	A	SE2	-	-	-	回転ナデ/スス・底分付着	回転ナデ	緑	～1.5黒・赤褐色粒少/微細灰白・黒光沢粒少	口のふち、敷・スス付着。
20	陶器 小杯	胴～底	A	C6	-	2.3	-	施彩/買入/一部施彩	施彩/買入	灰白	緑灰	肥前系、17C+
21	瓦葺土器 次持色	口～底	A	B8	19.3	20.2	18.2	ナデ/スス付着	ナデ/黒色物付着	にぶい黄褐色 灰黄褐色	～8灰白粒含む～4明赤褐色粒～2黒光沢粒・黒褐色粒	残存率1/3弱、内外面とも黒化
26	陶器 甕	口	A	試掘トレンチ 2-2	12.4	20.2	18.2	回転模ナデ/黒濁	回転模ナデ/黒濁	紺黒	緑灰	残存率約1/3、耳は確定2か所、耳縁部に毎箇あり
27	陶器 甕	胴	A	試掘トレンチ 2-2	-	-	-	回転ナデ/施彩	1単位11条/一部施彩	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	～3黒光沢粒～2赤褐色粒～1黒光沢粒少	残存率：上1/7・下1/3
28	陶器 湯鉢	胴～底	A	試掘トレンチ 2-2	-	10.6	-	回転ナデ	1単位4条以上/染付	にぶい黄褐色 反黒	～4にぶい赤褐色・黒粒散～1黒褐色粒・灰白粒	残存率：底1/2、17C
29	青磁 甕	口	A	SB2-P10	-	-	-	施彩	施彩	青/ナデ	緑灰	龍泉系
30	青磁 甕	底	A	SB2-P10	-	-	-	施彩	施彩・買入多し/直施彩	青/ナデ	緑灰	龍泉系
31	青磁 甕	口	A	SC8	-	-	-	施彩/買入	施彩・買入	紺黒	緑灰	龍泉系
32	土師器 甕	口～底	A	SC8	11.1	5.8	4.3	回転ナデ	回転ナデ/染切り	黒	～1黒粒散・明赤褐色粒/微細黒赤光沢粒	残存率約1/5強
33	土師器 坪	口～胴	A	SC8	12.4	-	-	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄褐色	～0.5黒粒散/微細黒色透明光沢粒散	残存率約1/6
34	土師器 坪	底	A	SC8	-	7.3	-	回転ナデ/黒化	回転ナデ/染切り	黄褐色	～0.5黒粒散/微細黒色透明光沢粒散	残存率約1/3
35	土師器 坪	底	A	SC8	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ/染切り	黒	～1赤濁・黒粒散	残存率約1/10
36	土師器 坪	口～底	A	SC9/SH3	10.9	6.4	3.9	回転ナデ	回転ナデ/一部黒色物付着	にぶい黄褐色 黄褐色	～1黒光沢粒・明赤褐色粒/微細黒透明光沢粒	龍泉系、重命名、14C
37	青磁 甕	胴	A	B9	-	-	-	施彩	施彩	青/ナデ	緑灰	龍泉系
38	青磁 甕	底	A	一部	-	4.8	-	施彩/買入	施彩/買入	灰白	緑灰	残存率1/5、龍泉系、14～15C
39	灰青磁 甕	底	A	C7	-	6.7	-	ナデ	黄紫不明	反黒	緑灰	家徳系、黒化著しい
40	土師器 坪	底	A	SBS-P1	-	8.4	-	回転ナデ	回転ナデ/ヘラ切り	黄褐色	～1黒粒散	
41	土師器 坪	胴～底	A	SBS-SC1	-	5.7	-	回転ナデ	回転ナデ/ヘラ切り後ナデ	黄褐色	～2黒粒散～1赤褐色粒少	残存率約1/3
42	灰青磁 甕	胴	A	SBS-SC1	-	-	-	ナデ	ナデ	反	緑灰	
43	土師器 甕	口	A	SBS-SC1	-	-	-	模ナデ	模ナデ	にぶい黄褐色	～2反黒粒～1黒褐色粒・反黒粒散/微細黒透明光沢粒少	残存率1/9
44	土師器 坪	口	A	SBS-P7	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	黄褐色	微細黒粒散	
46	布衣土器 鉢	口～胴	A	SBT-P1	-	-	-	ヘラ切り後ナデ	布目痕	黒	微細灰白粒少	黒化著しい
47	布衣土器 鉢	口	A	SBT-P5	11.8	-	-	黒いナデ	布目痕/部分的に指痕有り	黒	～1.3にぶい黄褐色～2にぶい赤褐色～1黒褐色粒/微細黒黄褐色粒多	残存率約1/6
48	布衣土器 鉢	口	A	SBT-P4	11.6	-	-	ナデ/部分的に指痕有り	布目痕	黒	～4にぶい赤褐色粒～2黒褐色粒	残存率1/4強
49	布衣土器 鉢	口～胴	A	SBT-P4	-	-	-	ヘラ切り後ナデ/黒いナデ	布目痕	黒	1～10黒粒含む	残存率約1/7
50	土師器 高台付坪	底	A	SBT-P4	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	黄褐色	～3黒粒含む/微細黒透明光沢粒散	残存率1/2弱
51	土師器 甕	胴	A	SBT-P4	-	-	-	斜・縦ハケ後、斜ハケ	斜ナデ	黒	～4黒粒散含む～1透明粒少	
52	土師器 高台付坪	底	A	SBT-P8	-	7.0	-	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄褐色	微細黒粒散	残存率1/7弱
53	土師器 坪	口	A	SBT-P4	10.8	-	-	回転ナデ	回転ナデ	黄褐色	～1黒粒散・黒粒・にぶい赤褐色粒散/微細黒透明光沢粒散	
54	土師器 甕	口	A	SBT-P5	-	-	-	模ナデ	模ナデ	黒	～3赤多黒粒・黒粒散含む～1光沢粒少	
55	土師器 甕	胴	A	SBT-P6	-	-	-	縦ハケのみ	斜ナデ	黄褐色	～5黒粒散含む～1反白粒散	残存率約1/8
56	布衣土器 坪	底	A	SBT-P2	-	5.9	-	回転ナデ/ヘラ切り	回転ナデ	黄褐色	～2赤多黒粒・にぶい赤褐色粒・黒粒散/反白粒散	
57	布衣土器 鉢	口～胴	A	SBS-P14	-	-	-	ヘラ切り後ナデ/ナデ	布目痕	黒	～1黒粒散含む/微細黒透明光沢粒少	残存率1/9
58	布衣土器 鉢	底	A	SBS-P4	-	-	-	黒いナデ	布目痕	黒	2～3黒粒散含む～2黒粒少	
59	土師器 甕	胴	A	SH4	-	-	-	縦・斜ハケ	斜ナデ	黒	～5黒粒少～1赤褐色粒/微細黒透明光沢粒散	
60	土師器 甕	胴	A	SH4	-	-	-	縦・斜ハケ	斜ナデ	にぶい黄褐色	～6黒粒少～1赤褐色粒少/微細黒透明光沢粒散	
61	土師器 坪	縁部中央	A	SBS-P10	12.7	6.0	5.1	回転ナデ	回転ナデ/ヘラ切り	黒	～1白粒少/微細黒光沢粒少	黒化著しい

掲載番号	種別	部位	区	出土位置	流量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調	粒土(数単位は2mm)	備考
					口径	底径	器高	外面	内面			
62	灰土器	口	A	S88-PI4	15.2	-	-	回転模子	回転模子	灰白	横良	残存率約1/7
63	黒色土器	底	A	S810-PI	-	-	-	模子	ミガキ/高蓋子	黒黄緑	横良	～1周粒含む
64	土器	底	A	SE4	-	5.8	-	回転子	回転子/一部削り具	にじみ・黄褐色	横良	～1周粒含む/～1周粒少
65	土器	胴	A	SE4	-	-	-	模子	模子(右→左)/一部削り具	にじみ・黄褐色	横良	～2周粒含む/～1周粒少
66	灰土器	胴	A	SE4	-	-	-	格子目タタキ	削・模当て具	にじみ・黄褐色	横良	～1周粒少/～1周粒・横粒含む
67	土器	口→胴	A	SH5	-	-	-	模子/凹線/入付骨	模子/新タタキ/後子	褐色	横良	～3周粒含む/～1周粒少
69	土器	底	A	SE8	-	6.6	-	回転子	回転子/ヘラ切り後子	黄褐色	横良	～1周粒少/～0.5周粒
70	灰土器	胴	A	SH6	-	-	-	格子目タタキ	車輪タタキ	黄褐色	横良	
71	灰土器	胴	A	西前製造地	-	-	-	格子目タタキ	車輪タタキ	灰黄	横良	
72	土器	底	A	西前製造地	-	7.7	-	回転子	回転子/ヘラ切り後子	黄褐色	横良	～1周粒少
73	土器	底	A	西前製造地	-	-	-	回転子	回転子	黄褐色	横良	～2周粒少/～1周粒
74	灰土器	口	A	C6	-	-	-	回転模子	回転模子	灰白	横良	残存率約1/4
75	縄文土器	胴	A	SC11	-	-	-	模貝輪縁/前目貼付突帯	模貝輪縁/扇化タタキ	黄褐色	横良	～2透明状粒・黒光状粒・黄灰粒・灰黄緑粒・灰白粒
76	縄文土器	口	A	C6	-	-	-	ナド/スス付骨/前目貼付突帯	ナド	灰黄褐色	横良	～1透明状粒含む/～1灰白粒・黒光状粒・黄灰粒
77	縄文土器	胴	A	SC11	-	-	-	模子/前目貼付突帯	ナド	黄褐色	横良	～2灰黄粒多/～2透明状粒・黒光状粒
84	陶磁器	口	B	表録	-	-	-	施釉/口に銀線飾	施釉/口に銀線飾	灰白・濃緑	横良	灰白
85	陶磁器	胴	B	表録	-	-	-	施釉/裏人	施釉/裏人	灰黄褐色	横良	灰白
86	陶磁器	底	B	SG3	-	-	-	施釉/裏人	施釉/裏人	にじみ・黄褐色・黄灰	横良	足付・底地不明・灰粒
89	青磁	胴	B	SG1	-	-	-	施釉	施釉	灰オリーブ	横良	
90	縄文土器	口	B	磁線 BS-1	-	-	-	模子/後ミガキ・横沈線	模子/後ミガキ	にじみ・黄褐色	横良	～0.1周粒含む/～0.1周粒少
91	縄文土器	口	B	磁線 BS-1	-	-	-	模子	模ヘラミガキ	横良	～2黒光状粒/～2白粒含む/磨細無色透明光状粒	
92	縄文土器	口	B	磁線 BS-1	-	-	-	ナド	板状工具による模子	褐色	横良	～1灰白粒含む/～2無色透明状粒多/～2黒粒
97	土器	胴	C	II	-	-	-	模子	布目	にじみ・黄褐色	横良	灰黄粒・灰黄・黒黄緑粒
98	土器	底	C	一括	-	-	-	模子	布目	褐色	横良	磨・明・灰粒・黄黄緑粒
99	土器	口→底	C	SA4-B	-	-	-	模子/新ハケメ	模子	にじみ・黄褐色	横良	にじみ・黄褐色・横粒
100	灰土器	胴	C	C9C2	-	-	-	格子目タタキ/自然釉	同心目タタキ/ナド酒し	黄灰粒	横良	
101	黄磁	胴	C	一括	-	5.0	-	施釉	施釉	灰オリーブ	横良	中径[14C(後)～15C]縦長線/底の一部彫
102	陶磁器	胴	C	A4C2	-	-	-	施釉	施釉	灰オリーブ	横良	17C 遺跡(天目線)
103	陶磁器	胴	C	I	-	4.2	-	施釉/無釉	施釉	灰黄/黄灰/オリーブ灰	横良	17C 天目
104	陶磁器	胴	C	B5A2	-	4.2	-	施釉/回転子/タタキ	施釉	灰黄褐色	横良	16C～17C前半彫削/底に彫削タタキ
105	陶磁器	高台	C	SH1	-	4.4	-	施釉/無釉	施釉/砂目	灰白	横良	17C前半彫削/砂目彫削/底に彫削タタキ
106	陶磁器	高台	C	A4C2	-	-	-	施釉/無釉	施釉	灰白	横良	17C前半彫削/高台/底に彫削タタキ
116	土器	口→胴	C	SA1-B	底定	23.4	-	新工具ナド/スス付骨	新工具ナド/底定	灰黄・緑灰	横良	～3赤褐色・黒黄・黒黄緑粒
117	土器	口→胴	C	SA1-B	底定	32.7	-	新工具ナド/新子/扇	模子/扇	にじみ・黄褐色	横良	～4黒・黒黄・灰黄緑含む
118	土器	口	C	SA1-A	底定	18.0	-	コビオサエ後模子/新子	削・模子/扇・新子	にじみ・黄褐色	横良	～4黒黄緑多
119	土器	口→底	C	SA1-B	-	-	-	ナド/模子/扇	削・模子/コビオサエ/スス付骨	にじみ・黄褐色	横良	～2周粒・横粒含む/磨細透明状粒
120	土器	底	C	SA1-27-28	31.3	10.8	28.6	削ハケメ/スス付骨	削ハケメ/ナド/底付骨	明黄褐色	横良	～4灰黄粒・横粒含む/～1周粒
121	土器	底	C	SA1-16	-	-	4.4	ナド/扇縁/扇	削子	にじみ・黄褐色	横良	～5周粒/～4周粒～2粒・黄赤粒含む
122	土器	口→底	C	SA1-D-17-20-22	11.2	-	-	削子/ナド/コビオサエ/種状刺突	削子	褐色	横良	～2周粒・黒黄・暗黄・黄赤粒含む
123	土器	口→胴	C	SA1-B-D-C	9.7	-	-	削子/後模子/ナド/半後子/酒し/スス付骨/扇	新工具ナド/模ハケメ/後子/ナド/扇縁	にじみ・黄褐色	横良	～4赤褐色～1周粒状・黒黄粒・灰黄黄緑粒
124	土器	口	C	SA1-B	底定	14.6	-	模子	模子	褐色	横良	～4周粒少/～3灰白
125	黄磁	口	C	SA1-9-C	底定	17.2	-	磨細粒状文	扇化著しい	明黄褐色	横良	～3周・灰多/～1透明状粒・白粒
126	黄磁	口	C	SA1-B	底定	17.3	-	削ハケメ	ナド	褐色	横良	～6周粒含む/磨細白粒
127	黄磁	口	C	SA1-8-22-D	15.4	-	-	模ハケメ後模子/磨細粒状文	削ハケメ後模子/コビオサエ	褐色	横良	～3周粒～1磨黄赤粒

地盤 番号	種別 種別	部位	区	出土位置	法量(cm)			手法・調整・文庫ほか		色調		粘土(数単位/mm)	備考
					口径	深径	底径	外面	内面	上段・外面 下段・内面			
128	土質 混合口縁	口〜壁	C	SA1	規定 11.8	-	-	風化著しい	風化著しい	橙	〜2層状・局状状・灰黄緑色 含む		
129	土質 層	壁〜脚	C	SA1-24	-	-	-	新ナゾ	新ナゾ/コピオサエ	明赤褐色	〜2区(粘粒含む)〜2層状・塊 状状少		
130	土質 層	脚〜脚	C	SA1-11-14/ 15-A-C-D	-	-	-	新ナゾ/タズ引状ナゾ	ナゾ/コピオサエ	濃い黄褐色	〜2区(粘粒少)〜2層状少		
131	土質 層	層	C	SA1-B	-	-	-	タタキ後ナゾ/層	ナゾ/層	橙	〜3層状・〜1区(粘粒・明赤 褐色)		
132	土質 層	脚〜底	C	SA1-B	-	1.5	-	新ハケメ	コピオサエ	黄褐色	〜3層状(粘粒少)〜2層状・灰白 粘少		実地実地平床
133	土質 層	底	C	SA1/23	-	規定 3.0	-	ナゾ/層	ナゾ/層	灰褐色	〜3層状(粘粒多)・塊状明光沢 粘少		
134	土質 層	脚〜底	C	SA1-C	-	-	-	新ハケメ/墨部付近ナゾ	層ナゾ	橙	〜3層状(粘・明赤褐色) 〜2層状		不安定な平面/圧系統の影響
135	土質 層	底	C	SA1-A	-	規定 3.1	-	ナゾ	工高ナゾ/ナゾ	黄褐色	〜3区(粘粒・塊状含む)		
136	土質 層	脚〜底	C	SA1-A	-	規定 3.8	-	層・新ハケメ	新・新ナゾ/コピオサエ	濃い黄褐色	〜2層状(粘粒)〜1区(粘粒少)		丸底実地平床
137	土質 層	脚〜底	C	SA1-C	-	3.0	-	風化著しい	風化著しい	橙	〜4層状(粘粒)〜2区(粘粒少) 〜1層状少		
138	土質 層	底付近	C	SA1-B	-	-	-	タタキ後ナゾ/タズ引状ナゾ/層	層	〜3区(黄緑・2層状(粘粒)〜1 明赤褐色)・塊状明光沢含む		塊状は層	
139	土質 層	底付近	C	SA1-7	-	-	-	ナゾ	ナゾ/ハケメ/墨部付近ナゾ/灰 化付層	黄褐色	〜4層状(粘粒多)・塊状明光沢 含む		
140	土質 層	脚	C	SA1-B	-	-	-	風化著しい	風化著しい	橙	〜2区(粘粒・塊状含む)〜1 層状(粘粒・明赤褐色)		布留の高ナゾ?
141	土質 層	脚	C	SA1-B/ C9CII	規定 22.8	-	-	層・新ハケメ	新・新ハケメ	明赤褐色	〜1層状・灰白粘粒含む/〜1層 粘少		VI期(内野2023)
142	土質 層	脚	C	SA1-25	-	規定 23.1	-	スス付着/風化著しい	風化著しい	橙	〜2区(粘粒・塊状含む)〜1 明赤褐色		
143	土質 層	脚	C	SA1-B	-	-	-	ハケメ後層・新ハケメ/層ナゾ	層	〜3区(粘粒)〜2層状			
144	土質 層	口	C	SA1-18	規定 15.1	-	-	多方向へうろつき/層面 に突刺/風化著しい	多方向へうろつき	濃い黄褐色	〜4層・灰粘含む		層状土層/外面は風化が著 しい
145	土質 層	脚〜底	C	SA1-B	-	-	-	層ナゾ/新ナゾ/新ナゾ/層ナゾ	新・新ナゾ/新ナゾ/新ナゾ/層ナゾ	黄褐色	〜4区(粘粒・塊状)〜3数層状 含む		
146	土質 層	口〜底	C	SA1-A-D	規定 10.8	4.6	6.8	新ナゾ	新ハケメ/ナゾ	濃い黄褐色	〜2区(粘粒少)〜2層状少		
147	土質 層	脚〜底	C	SA1-D	-	3.2	6.2	ナゾ	ナゾ	濃い黄褐色	〜5層状・〜3層状(粘粒少)〜2 層状		不整形
148	土質 層	底	C	SA1-B	-	規定 4.0	-	新ナゾ/コピオサエ	ナゾ	黄褐色	〜3層状・層状・明赤粘含む/2 層状		
149	土質 層	口	C	SA1-D	規定 3.5	-	-	層・新ハケメ後ナゾ	ナゾ	濃い黄褐色	透明光沢・黄褐色		
150	土質 層	口〜脚	C	SA2-C/ SA2-SC3/ SA2-SC6/ C9CII	規定 28.7	-	-	層・新ナゾ/スス付着	層/ハケメ/ナゾ	橙	〜5層状・塊状(粘粒多)〜2区(粘 粒含む)		口縁部は塊付?
151	土質 層	口〜脚	C	SA2-B-C/ C9C-0II	規定 23.2	-	-	ナゾ後新ハケメ/ナゾ/スス付着	新ハケメ/新・層ハケメ/スス付着	濃い黄褐色	〜4層状・〜3区(粘粒少)		
152	土質 層	口〜脚	C	SA2-C/ C9CII	-	-	-	層ナゾ/新ナゾ/灰化物 付着	層ナゾ/新ナゾ/灰化物 付着	濃い黄褐色	〜3層状		153と同一個体
153	土質 層	脚〜底	C	SA2-B-C/ C9CII	-	5.0	-	層・新ハケメ後ナゾ	ナゾ	濃い黄褐色	〜5層状(粘粒多)		152と同一個体
154	土質 層	口〜脚	C	SA2-11-14/ B-C	16.8	-	-	層ナゾ/新ハケメ後層 ハケメ少/スス付着	層ナゾ/新工具ナゾ	橙	〜5層状(粘・塊状・灰粘粒) 塊状透明粘粒含む		製外面は内面に比べ厚層に 成り立っている。
155	土質 層	底	C	SA2-SC5	-	規定 4.2	-	ナゾ/層	ナゾ/層/色味	橙	〜3層状・〜2層状(粘粒少)〜 2区(粘粒・透明光沢)		内面にモモ痕?
156	土質 層	底	C	SA2-C	-	4.7	-	層ナゾ/スス付着	層ナゾ/スス付着	黄褐色	〜4層状(粘粒多)〜3区(粘粒少) 層		
157	土質 層	脚〜底	C	SA2-A-B/ SA2-SC3/ C5AII	-	規定 7.2	-	ナゾ後ハケメ	新・新ナゾ/新ナゾ/ナゾ	濃い黄褐色	〜3層状・灰粘粒少〜2層状 粘粒・透明光沢		
158	土質 層	口〜底	C	SA2-A/ SA2-SC3/ SA2-SC5	-	7.4	-	新ナゾ/コピオサエ	新ナゾ/灰化物付着	濃い黄褐色	〜5層状(粘粒含む)〜3区(粘 粒含む)・灰粘・明赤粘粒・層 状粘		
159	土質 層	口	C	SA2-C	-	-	-	丁寧な層ナゾ	丁寧な層ナゾ	濃い黄褐色	〜1層状(粘粒)・塊状透明光沢 粘		層ナ
160	土質 層	脚〜底	C	SA2-1-26/ A-B	-	7.7	-	新ハケメ/コピオサエ/風 変	新・新ハケメ	橙	〜3区(粘粒)〜2区(粘粒)〜2 層状少		圧系統
161	土質 層	口〜脚	C	SA2-14-B/ C/SA2- SC3/SA2- SC4	8.6	-	-	層ナゾ/層・新ハケメ/層ナゾ/スス付着	層ナゾ/コピオサエ/層ナゾ/新工具ナゾ	黄褐色	〜2層状(粘粒)・濃い黄褐色 粘粒少/〜1区(粘粒・層 状・透明光沢)		
162	土質 層	口〜底	C	SA2-B-C/ SA2-SC7/ C5AII	8.3	3.1	17.4	ハケメ後層・新工具ナゾ/ 層ナゾ/モモ痕/層	新ハケメ/コピオサエ	橙	〜4層状(粘粒)〜1透明粘・層 状・明赤粘粒		製面下部平面にモモ痕あ り/2本の平行した塊状層 SC7出土層片と接合
163	土質 層	脚〜底	C	SA2-C/ C5AII	-	-	-	ナゾ後層ナゾ	層ナゾ/新ナゾ	濃い黄褐色	〜5数層状(粘粒少)〜3層状(粘 粒)・灰粘・〜1透明 粘粒		底部層片の丸底
164	土質 層	脚〜底	C	SA2-B-C	-	規定 5.5	-	新工具ナゾ/層ナゾ/スス付着	層ナゾ/新ナゾ/層	明赤褐色	〜2層状・灰粘粒含む		
165	土質 層	口〜底	C	SA2-A/ SA2-SC2/ SA2-SC3	-	2.8	-	タタキ後ナゾ/スス付着	層ナゾ/層	明赤褐色	〜4区(粘粒)・〜1層状 粘粒少/〜1区(粘粒・塊状) 〜2区(粘粒)		
166	土質 層	脚〜底	C	SA2-14-17/ B	-	3.7	-	層・新ナゾ/層付近ナゾ スス付着/強い風化	層ナゾ	橙	〜3層状・明赤粘粒多・塊状 粘・透明光沢		底面の明赤 粘・透明光沢
167	土質 層	脚〜底	C	SA2-C	-	3.7	-	多方向へうろつき/層ナゾ/ 強いナゾ	新工具ナゾ/多方向へうろ つき/ナゾ	濃い黄褐色	〜4層状(粘粒含む)・塊状透明 粘		底部は傾斜ナゾ切り

掲載 番号	種別	部位	区	出土位置	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色塗	胎土(数単位/mm)	備考
					口径	底径	器高	外部	内部			
209	土器 高杯	胴	C	SA2-C	-	-	-	横子子後斜ヘリスギ/透かし孔	横子	褐色	1-浅黄褐色・褐色・黒褐色・赤褐色	透かし孔径0.8cm
210	土器 高杯	胴	C	SA2-B	規定 11.6	-	-	横子子後斜ヘリスギ	横子子	褐色	2-黒褐色・赤褐色	
211	土器 高杯	胴	C	SA2-C	-	規定 18.8	-	横子子	横子子	褐色	4-黒褐色→1褐色→2灰白・軟黄赤・透明光沢	V10(河野2023)
212	土器 高杯	胴	C	SA2-45-C	-	規定 21.4	-	横ヘリスギ後斜ヘリスギ	斜ヘリスギ	褐色	→3褐色少→2黒褐色多	
213	土器 高杯	胴	C	SA2-B	-	規定 16.2	-	工具子後斜ヘリスギ	工具子後斜ヘリスギ	褐色	3-灰褐色・灰褐色黒む→2灰光沢・艶黒透明光沢	
214	土器 高杯	胴	C	SA2-C	-	-	-	横子子後斜ヘリスギ/スス付着	横子子後斜ヘリスギ	褐色	2-灰褐色・赤褐色少	
215	土器 舞台	坪一舞	C	SA2-27-28-B/SA2-SC3/SA2-SC4/C5B-II	-	25.4	-	横線段状文・横子子/横ヘリスギ/横子子/透かし	横ヘリスギ/横ヘリスギ/横子子/横ヘリスギ/横子子/横子子/横子子	褐色	5-黒褐色黒む→3白→2褐色少	上半部・下半部それぞれ4分前透かし・1/4後
216	土器 舞台	受部	C	SA2-B	-	-	-	ヘリスギ(風化気味)/黒	黒	明赤褐色	2-褐色・灰白・透明光沢	口縁部が縁道を打ちもたいたか?
217	土器 舞台	受部	C	SA2-SC4	-	-	-	ヘリスギ	丁寧なナデ	褐色	褐色黒む→2褐色黒む→1黒褐色	
218	土器 鉢	口一底	C	SA2-C	-	-	-	横子子/横ヘリスギ/新ヘリスギ	横子子/横ヘリスギ	褐色	2-褐色黒む→2艶黒透明光沢	
219	土器 鉢	口一底	C	SA2-15-B	規定 19.4	-	10.2	横ヘリスギ/コビオサエ	横ヘリスギ/コビオサエ	褐色	3-褐色多→1透明光沢・白褐色	
220	土器 鉢	口一底	C	SA2-C/ C5C-II	規定 25.0	-	-	横ヘリスギ	横ヘリスギ	褐色	2-褐色・艶黒透明光沢	
221	土器 鉢	胴一底	C	SA2-18	-	3.6	-	横ヘリスギ/黒	横ヘリスギ	褐色	3-褐色多→1白・艶黒透明光沢・黒光沢	
222	土器 鉢	口一底	C	SA2-SC2-2-3/SA2-SC2	11.1	3.0	8.2	丁寧なナデ	コビオサエ/ナデ	褐色	2-赤褐色・褐色・灰白・褐色	口縁部が横子で、直径11.1cm、器高9.0cm
223	土器 鉢	口一底	C	SA2-B-C/ C5C-II	9.7	4.0	9.8	横子子/コビオサエ/新ヘリスギ	横子子/黒	褐色	3-灰褐色→2赤褐色黒む→1透明光沢	
224	土器 鉢	口一底	C	SA2-B-C/ SA2-SC3/ SA2-SC4/ C5B-II	12.1	-	規定 12.0	横ヘリスギ/横ヘリスギ/横ヘリスギ/黒	横子子/新ヘリスギ/横ヘリスギ/黒	褐色	2-褐色・黒褐色・軟黄赤黒む	
225	土器 鉢	口一底	C	SA2-A	規定 13.2	-	-	横子子	横子子	褐色	2-黒褐色・灰白	
226	土器 鉢	口	C	SA2-SC3/ C5D-II	規定 9.6	-	-	横子子後ヘリスギ	横子子後ヘリスギ	褐色	3-褐色→1灰白・光沢	口縁部ヘリスギ
227	土器 鉢	口付底	C	SA2-SC4	-	-	-	横線段状文の下に横子	横子子	褐色	1-灰白少→1黒褐色	加飾跡?
228	土器 鉢	口	C	SA2-C	-	-	-	上下に横線段状文の横子/横ヘリスギ	横子子	褐色	2-灰褐色→2褐色・褐色黒む	
229	土器 小型丸底甕	胴一底	C	SA2-C	-	-	-	調整不可	横ヘリスギ/新ヘリスギ	黄褐色	6-赤褐色→3軟黄赤・褐色・褐色・艶黒透明光沢	右系系模倣土
230	土器 鉢	口一底	C	SA2-SC3/ SA2-SC5/ SA2-B-C/ C5B-II	規定 10.4	-	-	ヘリスギ/横子子/艶黒	丁寧なナデ	褐色	2-灰褐色・赤褐色少	
231	土器 鉢	胴一底	C	SA2-C/ SA2-SC5	-	3.0	-	新ヘリスギ/ナデ/黒	ナデ	褐色	2-灰褐色・赤褐色少	
232	土器 鉢	胴一底	C	SA2-C	-	6.3	-	横子子後ヘリスギ/ナデ	横子子/ナデ	褐色	2-灰褐色・黒褐色・灰白	
233	土器 鉢	胴	C	SA2-20-A-B-C-D/ SA2-SC3	規定 14.8	6.0	-	横ヘリスギ後斜ヘリスギ/コビオサエ	横ヘリスギ/新ヘリスギ後斜ヘリスギ	褐色	3-褐色黒む/7/2の褐色黒む/艶黒透明光沢	V1b-V10(河野2023)/SC11出土群片と接合
234	土器 鉢	底	C	SA2-C	-	3.1	-	ナデ	コビオサエ	褐色	2-褐色・黒褐色・褐色黒む/1褐色黒む	
235	土器 鉢	底	C	SA2-C	-	1.8	-	新ヘリスギ/ナデ/黒	ナデ	褐色	2-灰褐色・褐色黒む→1褐色	底部に粘土付加
236	土器 鉢	底	C	SA2-SC4/ SA2-SC5	-	規定 6.3	-	横子子	横子子	褐色	2-灰白黒む→1褐色少	
237	土器 ミニチュア	口一底	C	SA2-C-D	-	1.4	-	横ヘリスギ/ナデ/黒	コビオサエ/ナデ	褐色	2-透明光沢	
238	土器 ミニチュア	口一底	C	SA2-SC2/ SA2-SC2-1	-	-	-	横ヘリスギ/ナデ/黒	コビオサエ/ナデ	褐色	5-褐色黒む→3軟黄赤/黒褐色・軟黄赤黒む	底部に貫通孔
239	土器 ミニチュア	口一底	C	SA2-D/ SA2-SC2	9.2	1.9	3.6	コビオサエ/横子子	コビオサエ/ナデ	褐色	3-灰褐色・黒褐色・灰白	
240	土器 小型鉢	口一底	C	SA2-B	規定 10.2	-	-	横ヘリスギ	横子子/コビオサエ/ナデ	褐色	→1褐色黒む	全体の1/3
242	土器 鉢	口一底	C	SA3-B/ SC1/ SC12-2/ B45-II	規定 27.9	-	-	横子子	横子子/横ヘリスギ/横子子	褐色	1-黒褐色・明赤褐色	
243	土器 鉢	口一底	C	SA2-D/ B45-II	規定 16.2	-	-	横子子/スス付着	横子子	褐色	2-褐色黒む→1赤褐色少/艶黒透明光沢	V10(河野2023)
244	土器 鉢	胴一底	C	SC9	-	-	-	横子子/スス付着	横子子	褐色	2-褐色・灰褐色・褐色黒む	243と同一か?
245	土器 鉢	口一底	C	SA3-A	規定 19.6	-	-	ナデ/スス付着	横子子/工黒/多量のスス付着	褐色	5-褐色・赤褐色多	243と同一か?
246	土器 鉢	口一底	C	SA3-D/ B45-II	規定 16.0	-	-	横子子	横子子/コビオサエ/新ヘリスギ	褐色	4-赤褐色・褐色黒む	
247	土器 鉢	口一底	C	SC9	-	-	-	新工具子/スス付着	横子子/新ヘリスギ/黒	黄褐色	4-灰白・褐色・黒褐色→1軟黄赤・艶黒透明光沢	
248	土器 鉢	口一底	C	SC9	-	-	-	コビオサエ/横ヘリスギ/横ヘリスギ/スス付着	横ヘリスギ	灰白	4-褐色→1褐色・灰白・軟黄赤→2透明光沢	全体の1/3・風化気味

掲載番号	種別	部位	区	出土位置	造量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調	胎土(数値14mm)	備考
					口径	底径	器高	外面	内面			
249	土師器 壺	底	C	SA3-2I	-	3.2	-	縦・斜ハケム/コビヤエ後修ナシ	縦へらミガキ/ナデ/黒高	にぶい	～2層紋含む	
250	土師器 壺	底	C	SC9	-	5.6	-	斜ナデ/コビヤエ/粗ナデ	斜ナデ	にぶい	～4層紋・黒高較多	
251	土師器 壺	胴～底	C	SA3-D	-	規定	-	斜ハケム/ナデ	ナデ	にぶい	～5層紋・灰粒多～2透明状灰粒・白粒	
252	土師器 壺	胴～底	C	SA3-A	-	規定	-	縦・斜工具ナデ/工具ナデ修ナシ	工具ナデ修ナシ	にぶい	～5層紋・～2層紋含む/～2層白粒	
253	土師器 壺	底	C	SA3-II	-	6.0	-	ナデ	ナデ/ナデ後コビヤエ	にぶい	～5層紋・赤高較多/粗面状白粒	
254	土師器 壺	胴～底	C	SA3-D	-	4.5	-	丁寧ナデ/指ナデ/ナデ/黒高	斜ナデ/ナデ	にぶい	～2層紋含む/～2灰粒少/1透明状灰粒	
255	土師器 壺	胴	C	SA3	-	-	-	斜ハケム	多方向ナデ	にぶい	～1灰白粒・黒高粒・黒粒	片栗系の調整土層
256	土師器 壺	口～底	C	SA3-B	9.1	7.4	17.8	斜工具ナデ/二本の線刻で山形もなす	コビヤエ/縦・斜ナデ	新製黒	～5層紋粒・灰高粒・灰白粒多	
257	土師器 壺	口～底	C	SA3-10/ B4CII	9.2	19.2	4.8	横ナデ/タタキ後横ナデ/コビヤエ後ナデ	横ナデ/コビヤエ/黒高	横	～3層・赤高較含む/～1灰白・黒光沢・透明状灰粒	伝統的逆敷瓦ノ様の技法
258	土師器 壺	口～底	C	SA3-SC1-16/ SA3-SC13-SC3-A	8.2	2.5	-	ナデ/コビヤエ/斜ハケム/斜ハケム	横ナデ	にぶい	～4層紋多/～2赤高較少	
259	土師器 壺	胴～底	C	SA3-C-D	-	規定	-	斜工具ナデ/ナデ/黒高	斜工具ナデ/黒高	にぶい	～2層・灰白～1黒光沢・黒灰粒少/透明状灰粒	内面にモミ様?
260	土師器 壺	口	C	SA3-C	規定	9.1	-	横ナデ/ハケム後横ナデ/ハケム	横ナデ/ナデ	にぶい	～3灰白粒・黒粒・～2層紋	
261	土師器 壺	口～胴	C	SC9/SC10/ SC12	規定	-	-	横ナデ/ナデ	にぶい	横	～4層紋・横高粒・横高粒含む/～3灰粒・灰白粒	
262	土師器 壺	口	C	SA3-C-D/ SC9/SC10	規定	9.4	-	縦ハケム	斜・横ハケム	横	微細白色粉多/～2層紋多	
263	土師器 壺	口～底	C	SA3-A-B/ SC13	規定	10.4	-	横ナデ/縦ハケム後横ナデ	横ナデ	にぶい	～4灰高較多	
264	土師器 壺	口	C	SA3-C	規定	12.2	-	横ナデ/横ナデ後横・やや斜ハケム	横ナデ	横	～2灰高粒・にぶい赤高粒・赤高粒	口縁部が内周
265	土師器 壺	口～底	C	SA3-17	規定	11.7	-	横・斜ナデ	横ナデ	横	～3層紋・横高粒含む/～1灰黄赤粒	
266	土師器 壺	口	C	SA3-C	-	-	-	横ナデ/横ナデ後横・斜ハケム	横ナデ後斜ハケムナデ	横	～3にぶい高粒・横高粒・灰高粒・横粒・灰白粒	口縁部上下に拡張
267	土師器 壺	口	C	SA3-A	規定	18.1	-	横ナデ/横ハケム/黒高	横ナデ/横ハケム	にぶい	～2層紋・横高粒・灰白粒少/1粗粒・透明状灰粒含む	
268	土師器 壺	胴～底	C	SA3-C	-	-	-	斜ナデ後ハケム	横ナデ/強いコビヤエ	横	～4層紋粒・横粒・灰白粒	
269	土師器 壺	胴～胴	C	SA3-A-B/ SC10	-	-	-	縦ハケム後ナデ	指ナデ後ナデ	横	～2層紋・横灰粒少/～1透明状灰粒・軟黄赤粒	接合面にモミ様
270	土師器 壺	胴	C	SA3-C	-	-	-	斜工具ナデ/スス付	横工具ナデ後コビヤエ/スス付	にぶい	～3層高粒・～2灰白粒少/～2黒高較多	
271	土師器 壺	胴～胴	C	SA3-C	-	-	-	縦ハケム後横ナデ/斜ハケム後横ナデ	ナデ/横ナデ/指高粒	にぶい	～3層高粒含む/～1赤高粒・灰白粒	
272	土師器 壺	胴	C	SC9	-	-	-	縦へらミガキ	ナデ/コビヤエ	横	～2灰高粒・赤高較多	
273	土師器 壺 唇口縁部	口	C	SA3-C/ SA3-SC1-20	6.6	-	-	縦へらミガキ/コビヤエ	横ナデ/ナデ	にぶい	～3層高粒多/～2赤高粒・黒高較少	口縁部に2層の貫通孔あり
274	土師器 壺 唇口縁部	口	C	SC9	-	-	-	横ナデ後縦線状文・横ナデ	横ナデ後縦線	横	～2にぶい高粒・黒高粒・にぶい赤高粒	
275	土師器 壺 唇口縁部	口	C	SA3-C	-	-	-	横ナデ/縦線状文	横ナデ	横	～2赤高粒・灰高粒・横高粒・白色光沢粒	
276	土師器 壺 唇口縁部	口	C	SA3-D	-	-	-	縦線状文	-	にぶい	～2灰高粒・灰粒含む/～1透明状灰粒	
277	土師器 壺 唇口縁部	口	C	SC9	-	-	-	横ナデ後縦線状文・横ナデ	横ナデ	にぶい	～1層高粒・横高粒・にぶい赤高粒・横粒	
278	土師器 壺 唇口縁部	口	C	SA3-D	規定	16.6	-	横ナデ/縦線状文/縦ハケム/黒高	横ナデ/ナデ	にぶい	～3にぶい高粒・～2層高粒・横高粒・～1粗赤高粒・灰白粒	
279	土師器 壺	底	C	SA3-C	-	規定	-	ナデ	ナデ	にぶい	縦線透明状灰粒含む	B系統
280	土師器 壺	底	C	SA3-19	-	4.4	-	工具ナデ/スス付/黒高	工具ナデ	横	～4赤高粒・～3層高粒含む/～3軟高粒・～2透明状	
281	土師器 壺	底	C	SA3-B	-	8.2	-	工具ナデ後ナデ/ナデ	工具ナデ後ナデ	にぶい	～4層紋・軟高粒多/黒高粒	滑手の平底
282	土師器 壺	底付近	C	SA3-C	-	-	-	ナデ	斜ナデ/粗・横が斜方向に多敷あり	横	～4にぶい高粒多・灰高粒・横高粒・横高粒・灰白粒	
283	土師器 壺	底	C	SA3-C	-	-	-	ナデ後一部斜状工具高	指高後斜工具ナデ	にぶい	～3層高粒・横高粒・～2灰白粒・横高粒・横高粒	縁部か?
284	土師器 壺 底付	D付近	C	SA3-20	規定	14.6	-	斜工具ナデ	横工具ナデ/斜工具ナデ	横	～4層高粒/～2層高粒/～1軟高赤高粒	
285	土師器 壺 底付	底	C	SA3-D/ SC9	規定	14.6	-	斜ハケム/横ナデ	縦ハケム	横	～2層高粒・横粒・黒高粒・灰白粒	小型高杯/在来
286	土師器 壺 底付	底	C	SA3/SA3-SC1/SA3-SC1-15	-	規定	-	縦・斜ハケム/ミガキ後ナデ	ナデ	横	～3層高粒・～2にぶい赤高粒・横高粒・横高粒・灰白・灰沢粒	縁が3層高 胴に溝が浅く厚けとしした縁部あり
287	土師器 壺 底付	底	C	SA3-B	-	-	-	斜ハケム	縦・横ハケム	にぶい	～1層高粒・横高粒・横高粒含む	
288	土師器 壺 底付	底	C	SA3-A	-	-	-	横ナデ	横ナデ後横・横へらミガキ	横	～1層高粒・赤高粒・灰白粒・光沢高粒	
289	土師器 壺 底付	底	C	SA3-A	-	-	-	ナデ/スス付	ナデ?	横	～4層高粒多/～2灰白粒含む	風化深いための調整不明
290	土師器 壺 底付	底	C	SA3-B	-	-	-	斜ハケム/ナデ	ミガキ後ナデ/黒高	横	～1層高粒・横高粒・灰高粒含む	

掲載 番号	種別	部位	区	出土位置	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色顔		備考
					口径	底径	高さ	外面	内面	上段・下段 内径	胎土(数単位はmm)	
291	土師器 高杯	杯	C	SC9 B4CII	-	-	-	縦ハケ後横ヘラミガキ/ 刷毛	縦・横ヘラミガキ	磨	磨	～1周縁・赤褐色・灰白粒 含む・微細透明光沢
292	土師器 甗台	受部	C	SA3-B-C	-	-	-	ナデ/縦刷毛・横ヘラミガキ	丁寧ナデ	磨	磨	～3周縁・横反粒・黒褐色多 ～軟黄白色
293	土師器 甗台	受部	C	SA3-A/ SC9	-	-	-	工具ナデ	ナデ後ミガキ	磨	磨	～1周縁粒・CII・赤粒・灰濁 灰・灰白粒多
294	土師器 高杯	脚	C	SA3-D	-	-	-	調整不明	ナデ/胎土のしぼり	磨	磨	～2反周縁・赤褐色・明反 粒含む
295	土師器 高杯	脚	C	SA3-D	-	-	-	縦ミガキ/刷毛	横ナデ/横ナデ	CII・黄粒/ 横反	磨	～1周縁粒・明反粒・灰濁含む
296	土師器 高杯	脚	C	SC9	-	高さ 27.6	-	縦ミガキ/横ハケ	横ハケ/ス付磨	磨	磨	～1周縁・反粒含む
297	土師器 高杯	脚	C	SA3-C/ B4CII	-	高さ 21.1	-	ヘラミガキ/横ナデ	斜・横ハケ/横ナデ	磨	磨	～2反白粒含む/～1周・灰 粒多
298	土師器 高杯	脚	C	SA3- D/SC9	-	高さ 20.9	-	縦ヘラミガキ	横ハケ	磨	磨	～3・CII・赤周縁・横反粒多 /～1微細透明粒
299	土師器 高杯	脚	C	SA3-C	-	-	-	縦ミガキ	ハケミ横ナデ/横ナデ	CII・黄粒	磨	～3周縁・～2周縁粒・微細 透明光沢
300	土師器 高杯	脚縁	C	SC9	-	-	-	横ナデ	ハケ	洗刷磨/磨	磨	～1反周縁・赤褐色・反白粒 含む
301	土師器 甗台	口	C	SC9	-	-	-	縦・横ナデ	横ナデ	CII・黄粒	磨	～2周縁含む/～高周 反周縁
302	土師器 甗台	口	C	SC9	-	-	-	横ナデ後縦ミガキ/横ナ デ/口唇縁に連続的突文	横ナデ後横文状ヘラミガ キ	CII・黄粒	磨	～2周縁粒・～3周縁・軟黄 色
303	土師器 甗台	口	C	SA3-C	-	-	-	横ナデ/横ナデ後縦ミガ キ/口唇縁に連続的突 文	横ナデ/横ナデ後横ヘラ ミガキ	洗刷磨	磨	反周縁・CII・黄粒
304	土師器 甗台	口	C	SC9	-	-	-	口唇縁に連続的突文 縁/口唇縁に連続的突文	調整不明	磨	磨	～2周縁粒・周縁粒・反白粒 /～軟黄白色含む
305	土師器 甗台	口	C	SA3-A	-	-	-	横ナデ/ナデ後縦ミガキ/ 口唇縁に連続的突文	横ミガキ	反周縁	磨	～1周縁粒・横反粒・軟黄 色粒含む
306	土師器 甗台	受部	C	SA3-C-D	高さ 27.7	-	-	横ナデ/多方向工具ナデ 後一側ミガキ/口唇縁に 連続的突文	ナデ後ミガキ	磨	磨	～3周縁・軟黄赤粒・～2周 縁粒・～1透明明粒
307	土師器 甗台	受部	C	SA3-D/ SA12-B/ B4CII	-	-	-	調整不明	多方向ミガキ	CII・黄粒	磨	～3周縁粒・～2反白粒・透明 光沢・軟黄光沢
308	土師器 鉢	口～底	C	SA3-A-B- D/SC9 B4B-DII	高さ 20.6	高さ 6.4	-	コビオサエ/横ハケ	横ナデ/多方向ハケ	CII・黄粒/ 横反	磨	～3反周縁多/～3反粒・～4 赤周縁少
309	土師器 鉢	口～底	C	SA3- D/SC9	高さ 15.0	-	-	斜・横ハケ/横ナデ	斜・横ハケ	磨	磨	～3反粒含む/～2周縁少/～ 1反白粒
310	土師器 鉢	脚～底	C	SA3- C/ SC10/ B4DII	-	-	-	ナデ/横ナデ反ナデ	横ナデ/斜・横工具ナデ	黄粒	磨	～4周縁・～3反白粒含む/～ 2半透明明粒
311	土師器 鉢	受部	C	SA3-SC3-1	13.1	4.9	11.5	横ナデ/コビオサエ/ス ス付磨/横磨	斜・横ナデ/コビオサエ/ 斜・横ナデ	CII・黄粒	磨	～4周縁多/～3周縁含む/～ 1反白粒少
312	土師器 鉢	口	C	SA3-C/ B4CII	高さ 15.2	-	-	横ナデ/横工具ナデ	横ナデ/横工具ナデ/高 反	CII・黄粒	磨	～2周縁多/～1反白少
313	土師器 鉢	口～底	C	SA3-SC1- 19	高さ 14.6	-	-	横工具ナデ/コビオサエ/ 一部スス付磨	ナデ/調整不明横/コビ オサエ	磨	磨	～4赤褐色・横反粒・黒褐色 多
314	土師器 鉢	口～脚	C	SA3-SC1	高さ 10.9	-	-	コビオサエ/横ハケ	横ナデ/ナデ	磨	磨	～3周縁含む/～1赤褐色・黒 色光沢
315	土師器 鉢	口～底	C	SA3-A-C-D	高さ 14.0	13.7	-	縦ヘラミガキ/ナデ/コ ビオサエ/刷毛	縦ハケ後横ヘラミガキ/ 斜・横ヘラミガキ/丁寧 ナデ/灰化物付磨	CII・黄粒	磨	～2周縁多・微細透明光 沢・黒光沢
316	土師器 鉢	脚～底	C	SC9-1	高さ 5.5	-	-	縦ミガキ/横工具ナデ/多 方向ミガキ/高反	ナデ/コビオサエ	CII・黄粒	磨	～1周縁含む/微細透明明 粒
317	土師器 鉢	口	C	SA3-D	-	-	-	横ナデ/横工具ナデ	ナデ/斜・横工具ナデ	CII・黄粒	磨	～3周縁粒・横反多/～1軟 黄赤粒
318	土師器 鉢	口～脚	C	SA3-A	-	-	-	横ナデ後縦ミガキ	ハケミ横工具ナデ	磨	磨	～2周縁粒・反白粒・微細 透明光沢
319	土師器 鉢	口	C	SA3-B	高さ 8.0	-	-	縦ヘラミガキ	横ナデ後ヘラミガキ	CII・黄粒	磨	～2周縁反粒/～2周縁 含む
320	土師器 鉢	口～底	C	SA3-B- C/B4DII	6.9	4.1	11.0	横ナデ後ヘラミガキ/ ナデ/刷毛	横ナデ/コビオサエ	磨/横反	磨	～2周縁反粒・横反粒・横 反含む/～軟黄赤粒
321	土師器 甗	底	C	SA3-B	-	高さ 3.0	-	工具ナデ/横文付磨	工具ナデ/横文付磨	磨/横反	磨	～2周縁反粒・横反粒・横 反含む/～軟黄赤粒
322	土師器 鉢	口	C	SA3-C	高さ 11.2	-	-	ナデ/磨反粒状文	コソナデ/ナデ	CII・黄粒/横 反	磨	～1周縁含む/～1黄褐色・ 明反粒・反白粒含む
323	土師器 小型甗	口	C	SA3-A	高さ 5.9	-	-	横ナデ後縦ミガキ	横ナデ/横ナデ	CII・黄粒	磨	～1周縁粒・周縁粒・透明 明反粒
324	土師器 ミニチュア 土師器 小型甗	口	C	SA3-C	高さ 4.8	-	-	横ナデ	斜・横ナデ	洗刷磨	磨	～2反周縁・黒褐色・赤褐色 少
325	土師器 ミニチュア 土師器 小型甗	脚	C	SC9	-	-	-	ハケミ横ヘラミガキ	ヘラミガキ	洗刷磨/洗刷 磨	磨	～1反白粒含む
326	土師器 ミニチュア	脚～脚	C	SA3-D/ SA3-SC1- 14/SA3- SC1	-	6.8	-	ハケミ横ナデ/横ハケ ミ/横ナデ	ナデ/コビオサエ	CII・黄粒	磨	～5周縁・CII・黄粒・～1周 縁反粒・明赤褐色少
327	土師器 ミニチュア	脚～底	C	SA3-D/ B5A	-	高さ 2.9	-	多方向ナデ/刷毛	横ナデ	横反	磨	～3周縁反/ナデ/周縁・周 縁反粒・黒褐色含む
328	土師器 ミニチュア	脚～脚	C	SC9/SC10	-	-	-	多方向工具ナデ/刷毛	工具ナデ	CII・黄粒	磨	～2・CII・黄粒粒・横反粒・ CII・黄粒
329	土師器 ミニチュア	脚	C	SC9	-	-	-	横ハケ	多方向工具ナデ	CII・黄粒	磨	反白・CII・黄 粒
330	土師器 ミニチュア	脚～底	C	SA3-C	-	高さ 1.4	-	横ナデ/コビオサエ後縦 ナデ/ナデ	コビオサエ/ナデ	CII・黄粒	磨	～2周縁・黒光沢粒・磨

海龍 番号	種別	部位	区	出土位置	造量(cm)			手法・調整・文様注		色澤	胎土(数値はmm)	備考
					口径	底径	器高	外面	内面			
331	土師器 ミニチュア	胴~底	C	SC9	-	底定 2.0	-	斜ハケメ	ユビオヤエ/ナデ	上段:外面 下段:内面 にひい黄褐色	~4赤褐色含む/軟質赤褐色	
332	土師器 壺	口~胴	C	SA4-D	底定 18.6	-	-	斜~横ハケメ/スス付着	横ハケメ一部工具ナデ/斜ナデ	にひい黄褐色	~5白~赤褐色/反白含む ~2黒褐色、~3透明光沢含む	
333	土師器 壺	口	C	SA4-B	底定 21.0	-	-	横心の横ハケメ/スス付着	斜ハケメ	にひい黄褐色	~3白~赤褐色/~1黒褐色に ~1赤褐色/反白含む	外底の横筋1層 丸底か?
334	土師器 壺	底	C	SA4-A	-	6.3	-	ナデ/指線横筋後ナデ/ナデ/スス付着	ナデ/スス付着	にひい黄褐色	~5黒褐色、~4黒褐色/赤褐色 含む/~3反白含む	
335	土師器 壺	口	C	SA4-C-D	底定 12.1	-	-	横ナデ/横ナデ後斜ハケメ/横ナデ	横ナデ/横ナデ	にひい黄褐色	~2反白含む/黒褐色に 横筋、顔赤色沢少含む	
336	土師器 壺	胴~底	C	SA4-J0-C	-	底定 4.6	-	斜工具ナデ	斜工具ナデ	黄褐色	~5黒褐色/黄褐色/~6黒 含む	
337	土師器 壺	胴	C	SA4-1-C/ D6DII	-	-	-	斜ナデ/斜ハケメ/ナデ/ 工具黒スス付着	ナデ/斜工具ナデ/黄褐色 付着	にひい黄褐色	~2反白含む/~2黒褐色、黒 褐色にひい赤褐色、反白含む	
338	土師器 壺	胴~底	C	SA4-19	-	4.9	-	調整不明	ユビオヤエ後ナデ上げ/ 縦状工具斜ハケメ	黄褐色	~3赤褐色、黒褐色、黒褐色 含む	平手の平直/風化著しい/電 線なつくのだがゆり方は手 取通り
339	土師器 高脚杯	胴	C	SA4-B	-	-	-	縦スガキ/全面スス付着	ナデ/ユビオヤエ	明赤褐色	~2赤褐色/反白含む/反白 含む/~1黒赤褐色	外壁にもより盛り/黒塗り?
340	土師器 高脚杯	胴	C	SA4-A-C	-	-	-	縦スガキ/全面スス付着	ユビオヤエ/横工具ナデ	明赤褐色	~2黒褐色/反白含む/反白 含む	外壁に横ナデ直す?
341	土師器 高脚杯	胴~底	C	SA4-B	-	-	-	縦スガキ/全面スス付着	横工具ナデ	明赤褐色	~2反白含む/反白含む/黒 褐色含む/~1軟質赤褐色	
342	土師器 高脚杯	底	C	SA4-4	-	4.7	-	縦ハケメ/横斜状の横 筋の横スス付着	工具ナデ	にひい黄褐色	横含む 顔赤褐色透明光 沢含む	岩盤地方の技法(基部に粘 土光沢)
343	土師器 高脚杯	口	C	SA4-C	底定 6.2	-	-	横へらスガキ	横へらスガキ	黄褐色	~2黒褐色/反白含む	
344	土師器 高脚杯	口	C	SA4-C	-	-	-	横ナデ/横斜状文/新 へらスガキ	横ナデ/斜工具ナデ	黄褐色	~2反白含む/黒褐色/反白 含む	
345	土師器 複合口縁壺	口	C	SA4-B	底定 12.8	-	-	調整不明	横ナデ	黄褐色	~2黒褐色/反白多	
346	土師器 複合口縁壺	口	C	SA4-C	-	-	-	拡張部上部にハケメ層 体による横方向施文、そ の下の縦線状文/厚文	横ナデ	灰	~2黒褐色/反白多	
347	土師器 複合口縁壺	口~胴	C	SA4-C	-	-	-	縦線状文/ナデ/指線 横ナデ/横ナデ	工具ナデ後ナデ/指線 横ナデ/横ナデ	黄褐色	~4黒褐色/~2反白含む/光 沢含む	
348	土師器 複合口縁壺	口	C	SA4-B	底定 14.6	-	-	ナデ後縦線状文/横ナ デ/横工具ナデ	ナデ/横工具ナデ/前工 具ナデ	黄褐色	~3反白含む/~2反白少	
349	土師器 複合口縁壺	口~胴	C	SA4-D	-	-	-	縦線状文/調整不明	調整不明	黄褐色	~4黒褐色/反白、~3反白 含む	複合口縁壺/外壁にスス、内 面に灰化付着か
350	土師器 複合口縁壺	口	C	SA4-C	-	-	-	横工具ナデ/横ナデ後 ハケメ	横ナデ後斜ハケメ	黄褐色	~2黒褐色/黒褐色/横筋、反 白含む/赤褐色	
351	土師器 壺	口	C	SA4-D	底定 17.8	-	-	ナデ/黒直/モミ直	ナデ	新黄褐色	~3黒褐色/~2赤褐色/反 白含む	
352	土師器 壺	底	C	SA4-C	-	底定 5.4	-	工具ナデ後ナデ/横ナ デ/黒直	工具ナデ	黄褐色	~3黒褐色、黒褐色、~2軟質赤 褐色含む	
353	土師器 壺	底	C	SA4-B	-	底定 6.4	-	多区に工具ナデ/横ナ デ/黒直	斜工具ナデ/黒直	横筋、横 筋反/黒直	~1黒褐色、黒褐色、横筋、反 白含む含む/反白含む	外壁の調整は粗直
354	土師器 高杯	坪	C	SA4-D	-	-	-	斜へらスガキ/ハケメ スガキ	斜へらスガキ/斜工具 後ナデ	黄褐色	~2反白含む含む/~2黒褐色、 ~1透明光沢少	
355	土師器 高杯	胴	C	SA4-B	-	-	-	横へらスガキ	指ナデ	黄褐色	~2黒褐色含む/~2透明含む	透かしあり/前部扁平?
356	土師器 甗台	胴	C	SA4-16	-	底定 25.2	-	調整不明/横スガキ/横 スガキ	斜工具ナデ	黄褐色	~2黒褐色/横褐色/反白 含む	基部部に補修あり
357	土師器 甗台	受部	C	SA4-C	底定 32.3	-	-	縦位の横状工具透筋 直文/横ナデ/横へらスガ キ	横ナデ/横へらスガキ	にひい黄褐色	~2黒褐色(縦筋含む)含む	
358	土師器 甗台	胴	C	SA4-C	-	底定 20.7	-	横ハケメ/スス付着	灰化無付着か	にひい黄褐色	~2黒褐色/横筋、横褐色含む	
359	土師器 甗台	胴	C	SA4-C	-	-	-	調整不明	斜ハケメ	にひい黄褐色	~2明赤褐色/横褐色含む/ 横筋	風化著しい
360	土師器 壺	口	C	SA4-D	底定 8.0	-	-	縦スガキ/横ナデ	横スガキ	灰黒 褐色	縦線透明光沢含む	
361	土師器 壺	口~底	C	SA4-B	11.3	4.3	5.1	ナデ/ユビオヤエ後ナ デ/横ナデ	ユビオヤエ/横ナデ/多 区向ナデ	にひい黄褐色	~4黒褐色/横褐色含む/~1 反白含む	内面にも横筋?
362	土師器 壺	胴~底	C	SA4-14	-	3.4	6.8	横ナデ/ユビオヤエ/ナ デ	斜ナデ/黒直	にひい黄褐色	~5反白含む/反白多 含まれ5~6もある	外底の半分は黒直/ 基部に横筋付すの正直
363	土師器 壺	口	C	SA4-C	底定 17.0	-	-	斜~横スガキ/スガキ	斜~横スガキ	黄褐色	~1反白含む/黒褐色、赤褐色、 横褐色含む	
364	土師器 壺	口	C	SA4-C/ D6BII	底定 16.0	-	-	斜~横スガキ/スガキ	斜~横スガキ	黄褐色	~1反白含む/黒褐色、 横褐色含む	
365	土師器 壺	口~底	C	SA4-15-C	10.7	2.4	8.6	横ナデ/横ナデ後斜ハ ケメ/横ナデ後斜ハケ メ/斜ナデ/黒直	横ナデ/ナデ/黒直	黄褐色	~2黒褐色/赤褐色少/~2反 白含む/透明光沢少	
366	土師器 壺	尻部	C	SA4-7-D	底定 8.5	底定 5.0	-	横ナデ/ナデ	横ナデ/ナデ	黄褐色	~4黒褐色、~3反白含む/~2 透明含む	風化著しい調整不明
367	土師器 壺	胴~底	C	SA4-18	-	6.3	-	ナデ/横ナデ	ナデ?	黄褐色	~2黒褐色、横褐色少/~2反白 含む	風化著しい
368	土師器 ミニチュア	口~底	C	SA4-13	底定 7.0	-	-	ユビオヤエ/横スガキ/ハ ケメ/スス付着/黒直	ユビオヤエ/横工具ナ デ	にひい黄褐色	横、黒褐色、透明光沢含む	
369	土師器 ミニチュア	口~底	C	SA4-12	9.8	2.8	6.4	横ナデ/ナデ後斜ハケ メ/ユビオヤエ/ナデ	横ナデユビオヤエ/部 分斜へらスガキ	黄褐色	~2黒褐色含む/~1透明含む	胴部に打ち欠け済
370	土師器 小型甗台	胴	C	SA4-D	-	-	-	横ハケメ	ナデ	黄褐色	~2反白含む/~1透明光沢 含む	透かし3ヶ所
371	土師器 ミニチュア	口~底	C	SA4-C	底定 5.4	-	-	ナデ	ナデ/工具	黄褐色	~4反白含む/にひい赤褐色、 反白含む、黒褐色含む/横線透明 光沢含む	
372	土師器 ミニチュア	口~底	C	SA4-B	底定 6.2	-	4.5	ナデ/黒直	ナデ	にひい黄褐色	~3黒褐色/~4黒褐色少/~3 横褐色含む/反白含む	

規格番号	種別	部位	区	出土位置	寸法(cm)			手法・調整・文様ほか		色遣		胎土(単位はmm)	備考	
					口徑	底径	器高	外面	内面	上段・外面	下段・外面			
373	土師器	甕	口	C	SA5-D	-	-	縦ノ子	縦ノ子	褐色	→2褐粒			
374	土師器	甕	底形	C	SA6	18.5	5.3	21.0	ナデ/コビオサエ/スエ多 敷ノ子	ナデ/コビオサエ/炭化多 敷ノ子	→1にコ・焼粒・黒褐色粒 ノ子	→1焼粒・褐粒多		
375	土師器	甕	口	側	C	SA6-6	規定	-	新工長ノ子/横ノ子/黒 土師工長ノ子/黒	新工長ノ子/内面口の一 部ノ黒	→1にコ・焼粒 ノ子	→7焼粒・→2褐粒少ノ反 白粒		
376	土師器	鉢	口	側	C	SA6-C-D/ ASD	16.5	-	縦ノ子/縦ノ子の後ヘラ ノ子/黒	縦ノ子	→1にコ・焼粒・黒粒・褐粒 ノ子	→1反焼粒・黒粒・褐粒		
377	土師器	甕	口	側	C	SA6-A-B	規定	19.3	縦ノ子/縦ノ子/新ハケ メ/横ノ子/ス付	新ハケメ	→1にコ・焼粒 ノ子	→3褐粒少ノノ→2反粒少		
378	土師器	甕	底	C	SA6-C	-	5.7	-	コビオサエ/黒土師ノ子 ノ子/コビオサエ	ナデ/コビオサエ	→1にコ・焼粒 ノ子	→6焼粒・反粒多		
379	土師器	甕	側	底	C	SA6-1	-	6.6	工長ノ子/ナデ/指頭 ノ子	工長ノ子/指頭	→1にコ・焼粒 ノ子	→5焼粒・黒粒・反粒少ノノ→2 反白粒		
380	土師器	甕	口	底	C	SA6-12-B	10.4	-	縦ノ子/横ノ子/新ハケ メ/横ノ子/存文	横ノ子/コビオサエ/新 ハケメ	→1にコ・焼粒 ノ子	→3褐粒多		
381	土師器	甕	口	側	C	SA6-8-9- C-D	規定	13.2	-	縦ノ子/横ノ子/ナ デ	横ノ子/横ノ子/横ノ子 ナデ	→1にコ・焼粒 ノ子	→4焼粒多ノノ→2反粒・透明 反粒	
382	土師器	甕	口	側	C	SA6-A-D/ SA6-SC5	-	-	縦ノ子/コビオサエ/横ノ子 ノ子/横ノ子/新ハケメ	横ノ子/横ノ子/コビオサ エ	→1にコ・焼粒 ノ子	→2反焼粒・黒焼粒・赤焼粒		
383	土師器	甕	側	底	C	SA6-2-5- 14-C	-	-	縦ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子/横ノ子/横ノ子	多方向ノ子/コビオサエ/ 横ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→2褐粒少ノノ→2焼粒・反 白粒		
384	土師器	甕	口	底	付	C	SA6-D	規定	9.4	-	調整不明	縦ノ子/コビオサエ	→3反白粒・焼粒・反粒少 ノ子/透明反粒・黒光反粒	
385	土師器	甕	口	側	C	SA6	規定	-	縦ノ子/調整不明/ス ス付	ナデ/調整後ノ子	褐色	→3反焼粒・→2焼粒・反 白粒		
386	土師器	甕	口	側	C	SA6-C-D/ ASD	9.8	6.8	-	縦ノ子/縦ノ子の後ヘラ ノ子/黒	横ノ子/横ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→2褐粒少ノノ→1赤焼粒	
387	土師器	甕	口	側	C	SA6-SCI	規定	7.4	-	横ノ子	横ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→2褐粒少	
388	土師器	甕	口	側	C	SA6-SCI	規定	9.6	-	縦ノ子/横ノ子/黒 土師工長ノ子	横ノ子/黒土師工長 ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→1反粒少	
389	土師器	甕	口	側	C	SA6-C	-	-	横ノ子	横ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→2にコ・赤焼粒・反焼粒・ 焼粒・反白粒		
390	土師器	甕	口	側	C	SA6-C	-	-	ナデ	横ノ子/コビオサエ/工 具ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→2暗赤焼粒・褐粒・反白 粒		
391	土師器	甕	口	側	C	SA6-C	規定	27.9	-	沈積・層相状況/存文	ナデ	→1にコ・焼粒 ノ子	→3反焼粒・褐粒多	
392	土師器	甕	口	側	C	SA6-C-D/ SC4/SSD II	-	-	横ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	横ノ子/ナデ	→1にコ・焼粒 ノ子	→2褐粒・反粒・赤土 師工長ノ子		
393	土師器	甕	口	側	C	SA6-C-D	規定	13.5	-	縦ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	横ノ子/コビオサエ/ナ デ	→1にコ・焼粒 ノ子	→5暗赤・→1に赤焼・反 白粒	
394	土師器	甕	口	側	C	SA6-C	規定	13.8	-	縦ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	横ノ子/横ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→2反粒少	
395	土師器	甕	口	側	C	SA6-D	-	-	縦ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	横ノ子/工長ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→2焼粒・赤土師多ノノ→1 反粒		
396	土師器	甕	側	底	C	SA6-7	-	5.2	-	横ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	新ハケメ/指頭/黒 土師工長ノ子/黒	→1にコ・焼粒 ノ子	→1反粒・反白粒 ノ子	
397	土師器	甕	側	底	C	SA6-3D	-	規定	3.4	-	新工長ノ子/横ノ子 ノ子	横ノ子/横ノ子/黒 土師工長ノ子/黒	→1にコ・焼粒 ノ子	→4褐粒少ノノ→1赤焼 粒
398	土師器	甕	側	底	C	SA6-39	-	-	-	多方向ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	多方向ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→2反焼粒・黒焼粒・反粒 少ノ子	
399	土師器	甕	底	C	SA6-10-11	-	規定	8.7	-	新工長ノ子/ナデ	新工長ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→3焼粒・褐粒少	
400	土師器	甕	側	C	SA6-D	-	-	-	縦ノ子/横ノ子の2本の横 ノ子	ナデ	→1にコ・焼粒 ノ子	→3焼粒・→2褐粒・透明 反粒		
401	土師器	甕	側	底	C	SA6-C	-	-	ヘラノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	新工長ノ子/コビオサエ ノ子/横ノ子/ス付	→1にコ・焼粒 ノ子	→2焼粒・黒褐色粒		
402	土師器	甕	底	C	SA6-B	-	規定	4.8	-	縦ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子	新ハケメ	→1にコ・焼粒 ノ子	→2焼粒・焼粒・黒焼粒・ 赤焼粒	
403	土師器	甕	側	底	C	SA6-B	-	-	-	調整不明	調整不明	褐色	→3反焼粒・赤焼粒・黒 光反粒	
404	土師器	甕	側	底	C	SA6-D	-	-	-	調整不明	調整不明	褐色	→2暗赤・黒焼粒・黒焼粒 ノ子	
405	土師器	甕	側	底	C	SA6-C-D	-	-	-	ナデ/横ノ子/横ノ子 ノ子	ナデ	→1にコ・焼粒 ノ子	→2にコ・赤・焼粒多ノノ→1 透明反粒	
406	土師器	甕	側	底	C	SA6-B	-	-	-	横ノ子	横ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→1横焼粒・→1に赤焼粒・ 赤焼粒	
407	土師器	甕	側	底	C	SA6-C	-	-	-	横ノ子	横ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→2焼粒・焼粒・→1透明 反粒	
408	土師器	甕	側	底	C	SA6-B	-	-	-	縦ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	ナデ/コビオサエ	→1にコ・焼粒 ノ子	→2反焼粒・赤焼粒・黒 光反粒	
409	土師器	甕	側	底	C	SA6-B	-	-	-	横ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	横ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→2にコ・焼粒・→1黒焼 粒	
410	土師器	甕	側	底	C	SA6-3-C-D	16.2	5.3	8.2	ナデ/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	横ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→4暗赤・褐粒少ノノ→1 反粒・黒粒・暗赤	
411	土師器	甕	側	底	C	SA6-B	-	-	-	横ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	横ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	→1にコ・焼粒 ノ子	→3反焼粒・→1に赤・ 赤焼粒	
412	土師器	甕	側	底	C	SA6-36	16.2	5.5	10.5	横ノ子/横ノ子/横ノ子 ノ子/横ノ子	横ノ子/コビオサエ	→1にコ・焼粒 ノ子	→5反焼粒・赤焼粒少ノノ→3 反白粒少ノノ	

掲載番号	種別	部位	区	出土位置	遺量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調	胎土(数単位[2mm])	備考
					口径	底径	高さ	外面	内面			
413	土師器 土師鉢	口-胴	C	SA6-C-D	高さ 11.6	-	-	ナデ/調整不可/厚肉	コビオサエ/新ハケム/黒	にぶい・橙	～4黒陶粒・黒辰砂・灰白粒多	風化重しい
414	土師器 鉢	口-頸	C	SA6-C	高さ 11.0	-	-	横ナデ/後継ナデ/新ナデ	横ナデ/新・横工具痕 ナデ	にぶい・黄橙	～1辰砂・黒辰砂含む/～1 陶粒多	
415	土師器 土師鉢	口-胴	C	SA6-D	高さ 17.4	高さ 15.6	16.2	横ナデ/黒ヘラミガキ/黒 辰砂	横ナデ/黒・新ナデ/黒辰 砂	黄辰砂	～2陶粒含む/～2黒粒少/～ 2白粒	
416	土師器 土師鉢	口-胴	C	SA6-B-C- D/ASD II	高さ 12.0	-	-	ミガキ/黒ミガキ	ナデ/黒辰/モミ辰	にぶい・黄橙	～3黒辰砂含む/～3黒粒～2 白粒	
417	土師器 土師鉢	胴-底	C	SA6-4-D ASC II	-	5.2	-	横ナデ/後多方向ミガキ/ 横工具ナデ/ナデ	新工具ナデ	にぶい・黄橙/ 黄辰砂	～1黒辰砂・辰砂多	内面に黒変
418	土師器 土師鉢	胴-底	C	SA6-10-C	-	-	-	黒辰砂/粘土つなぎ/工 具ナデ	黒ミガキ	橙	～3赤陶粒・赤辰砂・黒辰砂 多/～1透明光沢陶粒	外面、赤い?
419	土師器 鉢	胴-底	C	SA6-B-C	-	4.4	-	新ハケム後ヘラミガキ/黒 ナデ/後多方向ミガキ/調整 不可/横ナデ	横・新工具ナデ	にぶい・橙	～2黒陶多/～2赤陶粒少	
420	土師器 土師鉢	口-胴	C	SA6-SCI	13.5	5.4	13.4	横ナデ/黒ミガキ/内面の 斜線刻ナデ/調整ナデ	横ナデ/ハケムの横ナデ	にぶい・橙	～3赤陶粒・黒陶粒・辰砂・黒辰 砂含む	縁刻線文様部張り出し感 を伴ふ/縁刻線は矢印状
421	土師器 土師鉢	胴-底	C	SA6-C	-	2.5	-	新・横ナデ/横ナデ/ナデ	ナデ	橙	～2陶粒・黒陶・にぶい赤 辰砂/～1透明光沢陶粒	
422	土師器 土師鉢	底	C	SA6-B	-	4.6	-	横ナデ/ナデ	ナデ	橙	辰砂・黒辰砂含む/白辰・黒辰少	底面及び内面に三角文
423	土師器 土師鉢	胴	C	SA6-C/ ASB II	-	高さ 10.2	-	新・横ミガキ/ミガキ	ナデ/新・横ミガキ	黄辰砂	透明光沢粒・陶粒・灰白粒 多	
424	土師器 土師鉢	胴	C	SA6-C-D	-	高さ 11.5	-	工用ナデ/後ミガキ/横 ナデ/調整ナデ/工具刻文	ナデ/工具ナデ/後ミガキ	橙	斜線・黒辰砂・辰砂・赤辰砂 多	測定位置は竹木製線4本 計16本を束ねて置いた可 能性
425	土師器 土師鉢	胴	C	SA6-C	-	-	-	多方向ミガキ	ミガキ	黄辰砂	～1黒陶粒	透かしあり
426	土師器 土師鉢	底	C	SA6-C	-	高さ 11.7	-	新ハケム/工具ナデ/スス 付付	新工具ナデ	にぶい・黄橙	～2黒陶粒・辰砂・黒辰砂・透明 光沢陶粒	
427	土師器 土師鉢	口-胴	C	SA6-D	高さ 12.8	-	-	横ナデ/横工具ナデ/後ナ デ/黒辰	丁寧なナデ後工具ナデ	にぶい・橙	～2陶粒・黒辰砂・～1透明 光沢陶粒	
428	土師器 土師鉢	胴-底	C	SA6-D	-	1.6	-	横ナデ/丁寧なナデ/黒 辰砂/調整ナデ	丁寧なナデ/黒辰	にぶい・橙	～2灰白・赤陶・にぶい赤 陶粒・黒辰砂/透明光沢陶粒 含む	外面に黒色付着物/底面に 黒変
429	土師器 土師鉢	口-底	C	SA6-A-D	高さ 2.7	-	-	ナデ/丁寧なナデ	指節面/ナデ/黒色付着 物	にぶい・黄	～4にぶい赤陶粒・～2黒 陶粒・黒辰砂/～1灰白陶 粒/透明光沢陶粒	内面に黒色付着物
430	土師器 土師鉢	口-胴	C	SA7-14/ SA8	高さ 22.0	-	-	調整不可	調整不可/コビオサエ	橙	～4赤陶粒/～1辰砂多	風化重しい
431	土師器 土師鉢	腹	C	SA7-A	-	-	-	横・新ハケム/新工具ナ デ/ミガキ	新ハケム/工具ナデ/後ミ ガキ	橙	～2陶粒少/光沢陶粒	
432	土師器 土師鉢	底	C	SA7-B	-	6.2	-	新・横ナデ/強いコビオ サエ/横ナデ	ナデ/コビオサエ	橙	～5にぶい赤陶粒・黒辰砂・ 灰白粒・黒陶多	
433	土師器 土師鉢	胴	C	SA7-A-B/ SA8	-	-	-	多方向ハケム	ケズリ	にぶい・黄橙	～3黒陶粒・～2灰白陶 辰砂・黒辰砂/透明光沢陶 粒	口縁(1999)
434	土師器 土師鉢	胴	C	SA7-A	-	-	-	多方向ハケム	新・横強い工具ナデ	にぶい・橙	～1辰砂・黒辰砂	底部丸縁
435	土師器 土師鉢	口-頸	C	SA7-B- SA7	8.9	-	-	横ナデ	横ナデ/黒辰	黄辰砂	～5陶粒・～3黒辰砂・黒辰 砂多	
436	土師器 土師鉢	胴-底	C	SA7-19- 22-24-27- B	-	-	-	横ハケム/多方向ハケム/ 右下部の強い縁刻	ナデ/胎ナデ/新ハケ ム	黄辰砂	～2黒辰砂含む/～2白粒/～1 透明陶粒	口縁部平
437	土師器 土師鉢	胴-底	C	SA7-10-A/ B/SA7	-	-	-	ナデ/新工具ナデ/工 具ナデ/黒辰	工具ナデ/新・新工具ナ デ	黄辰砂	～2赤陶粒・黒辰砂・辰砂・黒 辰砂	平底
438	土師器 土師鉢	口-底	C	SA7-5-A-B	-	-	15.3	コビオサエ/ナデ/ハケム または多方向/黒辰	コビオサエ/ナデ/ハケム/ 横ハケム/横ナデ/胎ナ デ	にぶい・橙	～1赤陶粒・黒辰砂多/～3赤 陶粒・横辰砂含む/調整透明 光沢陶粒	
439	土師器 土師鉢	口	C	SA7-B	-	-	-	横ナデ	横ナデ	黄辰砂	～1赤陶粒・黒辰砂	口縁部が上方に延びる
440	土師器 土師鉢	唇口-胴	C	SA7-5-A	高さ 14.0	-	-	横ナデ/唇部状況/横・ 新・横工具ナデ	横工具ナデ	橙	～2陶粒・辰砂含む/～2透明 光沢陶粒	
441	土師器 土師鉢	胴-底	C	SA7-9-A	-	高さ 4.1	-	ナデ/強いケズリ/横ナ デ/胎ナデ	横・新ハケム/中心から 斜刻・新ナデ	にぶい・橙	～3黒陶多/～1灰白・黒 陶多/調整透明光沢・黒辰 砂	内面に黒色付着
442	土師器 土師鉢	胴-底	C	SA7-4	-	5.6	-	新ハケム/強いナデ/ス ス付付/黒辰	コビオサエ/新ハケム	にぶい・黄橙	～2黒辰砂・赤赤陶粒・黒 辰砂含む/～1透明光沢陶 粒	
443	土師器 土師鉢	胴-底	C	SA7-6	-	高さ 3.5	-	横・新ハケム/ナデ/横 ナデ/縁刻/厚文/黒辰	コビオサエ/新ハケム/ 横	にぶい・黄橙	～3黒陶粒・辰砂・黒辰砂 多/調整透明光沢	胴部中に浮文
444	土師器 土師鉢	胴-底 付足	C	SA7-25	-	-	-	多方向ハケム	横・新工具ナデ	橙	～2黒陶粒・陶粒・辰砂・黒 辰砂	外面にもミガキ?
445	土師器 土師鉢	胴-底	C	SA7-7-B	-	-	-	新ハケム/縁刻	工具痕/調整不可	黄辰砂	～3黒陶粒・辰砂多	
446	土師器 土師鉢	唇-胴	C	SA7-A	-	-	-	横・ヘラミガキ	ヘラミガキ	橙	～1赤陶粒・黒辰砂・辰砂・黒 辰砂	
447	土師器 土師鉢	胴	C	SA7-3	-	-	-	ナデ/横ミガキ	粘土のり/強い横工具 ナデ/胎ナデ/黒辰	にぶい・橙	～6灰白粒/～3黒陶粒・黒辰 砂少/調整透明光沢陶粒	唇部との接合部分の黒変を 打ち消している可能性
448	土師器 土師鉢	胴	C	SA7	-	-	-	ナデ	ナデ	にぶい・橙	～2黒陶粒・辰砂	透かしあり
449	土師器 土師鉢	腹	C	SA7-A	-	高さ 18.4	-	ハケム/コビオサエの後 多方向ナデ/横ナデ/横 工具ナデ	横・横工具ナデ	橙	～3赤陶粒/～1黒陶・調整多 少	唇部の縁部が縁状
450	土師器 土師鉢	胴	C	SA7-7-B	-	高さ 26.6	-	横ミガキ/横ナデ	横ナデ	黄辰砂	～2灰陶粒多/～1透明光 沢陶粒	内面に種子痕/透かし
451	土師器 土師鉢	胴	C	SA7-B	-	-	-	調整不可	調整不可	橙	～1黒陶粒・辰砂・赤陶粒・ 光沢陶粒	透かしあり
452	土師器 土師鉢	胴	C	SA7-A-B	-	高さ 26.8	-	横ナデ	横ナデ	橙	～3黒陶粒・辰砂・赤陶粒 多	外面に唇部部の縁状あり
453	土師器 土師鉢	胴	C	SA7-A	-	-	-	調整不可	調整不可	にぶい・橙	～3黒陶粒・黒辰砂多	

機軸 番号	種別 名称	部位	区	出土位置	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色塗	胎土(数字単位はmm)	備考
					口径	底径	器高	外面	内面			
454	土師器 甕台	受部	C	SA7-A	-	-	-	新ハケメ	新ハケメ	いぶい焼 いぶい焼	~2焼灰粒多	
455	土師器 甕台	ほぼ完成	C	SA7-11-12/ 18-A-B	高さ 26.9	高さ 25.4	-	ミボケ/新ハケメ/履 新ハケメ	履子/履ミボケ/新ハケ メ/工具/履子	焼 焼	~2いぶい焼/履底/履底 白粉粒多/1透明光沢粒含む	透しが4か所あり
456	土師器 甕台	部	C	SA7-B	-	高さ 16.2	-	ナデ/履子/ナデス付着	ナデ/工具ナデ	焼	~5いぶい焼/履底~3黒 粉粒/履底白粉粒	
457	土師器 甕台	部	C	SA7-B	-	高さ 19.6	-	ナデ/履子ナデ	丁寧なナデ/ナデ	焼	~3灰粒粒多~2黒粉粒含む ~2灰粒粒多~1透明光沢 粒	
458	土師器 鉢	口~底	C	SA7-29	高さ 23.9	-	9.3	新ナデ/ナデス付着/履底 /新ハケメ/履子/履底	新ハケメ/履子/履底	焼	~4焼灰・灰粒多/履底白 粉粒	79%の可能性
459	土師器 鉢	口~底	C	SA7-2-A-B	27.4	8.4	17.3	ナデ/ハケメ/右下のナ デを全周にわたる履子 ナデ/コビヤス	履子ナデ/履子ナ デ	焼	~5いぶい焼/履底・灰白粒少 /履底黒粉・履底粒多	
460	土師器 鉢	胴~胴	C	SA7-B	-	-	-	貼付突刺/ミボケ	ナデ	焼	~2焼灰粒・灰粒粒多/履 底白粉粒・履底粒多	
461	土師器 鉢	胴~底	C	SA7-B	-	-	-	調整不明/ナデス付着	ナデ	焼	~2焼灰粒・履底粒多/履 底黒粉・履底白粉粒	履底黒い
462	土師器 鉢	口~胴	C	SA8	-	-	-	履子ナデ/履底ハケ メ	履底ハケメ/履子ナ デ/履底	いぶい焼 いぶい焼	~4焼・灰量多/2いぶい 焼/履底・履底透明灰粒	
463	土師器 甕	胴~胴	C	SA8	-	-	-	新ハケメ/履子/履底 ナデ/スス付着	新ハケメ/履子ナ デ/履底	いぶい焼 いぶい焼	~3焼灰・履底粒・履底透 明灰粒	内面に灰化物付着?/465 と同一体か?
464	土師器 甕	口	C	SA8	-	-	-	履子/履子/履底ナ デ/スス付着	新ハケメ/履底	焼	~2黒粉粒/履底粒多	
465	土師器 甕	口	C	SA8/5CB	高さ 15.6	-	-	新ハケメ/履子/履底 ナデ	新ハケメ/履子ナ デ/履底	いぶい焼	~4焼灰・履底粒・履底透 明灰粒	463と同一体か?
466	土師器 甕	胴	C	SA8	-	-	-	履底ハケメ	履子ナデ/ナ デ	焼	~2灰粒含む/履底粒少/半 透明粒	
467	土師器 甕	胴	C	SA8	-	-	-	履底ハケメ	履底ハケ メ	いぶい焼 いぶい焼	~1灰粒含む/履底黒 粉粒	留痕多
468	土師器 甕	口	C	SA8	高さ 14.2	-	-	履子ナデ/履子ナ デ	調整不明	焼	~2焼灰粒多/履底粒少	履底黒い
469	土師器 甕	胴	C	SA8	-	-	-	新ハケメ/履底	コビヤス/ハケ メ	いぶい焼 灰濁	~3灰粒含む/履底透 明灰粒	
470	土師器 甕	胴~底	C	SA8	-	高さ 4.6	-	新ハケメ/履子ナ デ	多方向ハケ メ	いぶい焼 いぶい焼	~2灰粒/履底透 明灰粒	内面、部分的に履底
471	土師器 高杯	部	C	SA8	-	-	-	調整不明/履底ミ ボケ	ナデ	焼	~3灰粒/履底白粉・履底 黒粉・履底透明灰粒多/履 底粒含む	履底黒い
472	土師器 高杯	部	C	SA8	-	-	-	履底ミボケ/履底	丁寧なナデ/ナ デ	いぶい焼 いぶい焼	~2灰粒粒多/履底粒・履 底赤粉含む	
473	土師器 高杯	部	C	SA8	-	-	-	新ハケメ/履底	多方向ミ ボケ	いぶい焼 いぶい焼	~2灰粒粒多/履底透 明灰粒含む/履底透 明灰粒	
474	土師器 高杯	部	C	SA8	-	高さ 21.8	-	調整不明/履底ミ ボケ	調整不明	いぶい焼 いぶい焼	~3明焼粒・履底粒多	履底黒い
475	土師器 高杯	部	C	SA8	-	高さ 23.6	-	ヘラミボケ/ハケ メ	ナデ/ハケ メ	いぶい焼 いぶい焼	~2焼灰粒・履底粒・履 底赤粉	
476	土師器 小形丸蓋	口~胴	C	SA8	-	-	-	ヘラミボケ	ヘラミ ボケ	焼 明赤	履底透明灰粒・透 明灰粒含む	口縁にわずかに内周/小形 丸底
477	土師器 甕	口~胴	C	SA9-C/ A4B	高さ 20.6	-	-	履子ナデ/履底ハケ メ/ナデ/スス付着	新ハケメ/履子 ナデ	いぶい焼	~6灰粒粒・灰粒多	483と同一体か?
478	土師器 甕	口~底	C	SA9-7-8-C	高さ 27.1	-	-	履子ナデ/コビヤス/多 方向/ナデ/履底ハケ メ/スス付着	コビヤス/多方向 ナデ	履底 いぶい焼	~5灰粒粒・履底粒・赤 粉粒	近畿系統の履底/笠ノ口 縁
479	土師器 甕	口~胴	C	SA9-1-B/ A4B	高さ 23.0	-	-	履子ナデ/履底ハケ メ/ナデ/スス付着	履子ナデ/履底 ハケメ/ナデ	いぶい焼 いぶい焼	~4灰粒/履底透 明灰粒	
480	土師器 甕	口	C	SA9-7- B-D/ A4C	高さ 25.4	-	-	履子ナデ/履子ナ デ/履子ナデ/履底 ハケメ/スス付着	新工具ナデ/多方向 ナデ	いぶい焼 焼	~5赤粉粒・履底粒含む	
481	土師器 甕	口~底	C	SA9-10	高さ 25.6	-	-	履子ナデ/履底 ハケメ/ナデ	ナデ/履底	焼	~5焼・履底粒含む/履 底白粉・履底透明灰粒	
482	土師器 甕	胴~底	C	SA9-1-6-B	-	高さ 5.8	-	ナデ/履底ハケメ/コ ビヤス/履子ナデ	履底ハケ メ	いぶい焼	~4灰粒含む/履底・赤 粉粒	履底黒い/履底透 明
483	土師器 甕	胴~底	C	SA9-2-B- C-D/A4B- C	-	高さ 5.6	-	ナデ/履底ハケメ/履 子ナデ/履底ハケ メ/スス付着	ナデ/履子ナ デ/コビヤス	焼	~6焼灰多/履底透 明灰粒	477と同一体か?
484	土師器 甕	胴~底	C	SA9-A/ A4B	-	高さ 6.9	-	多方向ハケメ/コビ ヤス/履子ナデ	履底ハケ メ	焼	~3灰粒多/履底透 明灰粒/履底 白粉粒	内面、全体的に灰化物付 着/履底内面にも79%
485	土師器 甕	口	C	SA9-C	高さ 9.0	-	-	履子ナデ/コビヤス/履 底ハケメ	ナデ	履底 いぶい焼	~4焼灰/履底透 明灰粒・赤粉粒 含む	
486	土師器 甕	口~底	C	SA9-11	高さ 10.4	-	-	履子ナデ/履底ハ ケメ/ナデ	履子ナ デ	履底 焼	~3焼灰含む/履底透 明灰粒	
487	土師器 甕台	口	C	SA9-5	-	-	-	履子ナデ/履子ナ デ	履子ナ デ/履底ミボケ	焼	~1履底粒・履底透 明灰粒	口縁部にキズ
488	土師器 甕台	部	C	SA9-C	-	-	-	調整不明	履子ナ デ	焼	~2灰粒多/履底透 明灰粒	透しが1あり
489	土師器 甕台	部	C	SA9-1	-	-	-	調整不明	履子ナ デ/履子ナ デ	焼	~2焼灰粒・履底透 明灰粒	
490	土師器 甕台	胴	C	SA9-4-A/ A4A	-	高さ 25.0	-	ナデ/履子ナ デ	履子ナ デ/履子ナ デ	焼	~2灰粒多/履底透 明灰粒含む/履 底透明灰粒	
491	土師器 鉢	口~底	C	SA9-3	高さ 8.1	3.3	8.0	ナデ/コビヤス/スス 付着	コビヤス/ナ デ	いぶい焼 いぶい焼	~3焼灰含む/履底透 明灰粒	
492	土師器 鉢	部	C	SA9-9	-	高さ 6.8	-	履底ミボケ/履底	ナデ	焼	~3焼灰粒/履底透 明灰粒/履底透 明灰粒	履底黒い
493	土師器 鉢	ほぼ完成	C	SA11-3- 4-5-6-D/ B5B	19.4	5.3	25.4	履子ナデ/多方向ハ ケメ/履子ナ デ/履子ナ デ/履底ハケ メ/履底	履底ハケ メ/履子ナ デ/履子ナ デ/履底ハケ メ/履底	いぶい焼 いぶい焼	~5焼灰粒・履底透 明灰粒多/履底透 明灰粒少	口縁部の履底黒い/前 期後半
494	土師器 甕	部	C	SA11-C	-	-	-	履子ナデ/履底ハ ケメ	履子ナ デ/履底ハ ケメ	いぶい焼 履底	~2焼灰粒多/履底透 明灰粒少	内面小型

海龍 番号	種別	部位	区	出土位置	重量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調	土土(数単位12mm)	備考
					口径	直径	高さ	外面	内面			
495	土師器 壺	底	C	SA11-C	-	4.8	-	新工具ナリ後コビオサセ/指ナリ/コビオサセ	調整不明瞭	灰黄褐色	～4層灰多/～5層灰較	磨面透光沢合む
496	土師器 壺	口-胴	C	SA11SA12/SSB	規定	11.6	-	指ナリ/新ハケメ/スス付	指ナリ/丁寧ナリ	にぶい・黄褐色	～1層白粉・透明光沢合む/～1層赤粉	磨面/黒光
497	土師器 壺	胴	C	SA11-B	-	-	-	新ハケメ/履ハケメ	新工具ナリ	橙	～1層白粉/～1層黒粉少/～1層赤粉	
498	土師器 壺	胴	C	SA11-A	-	-	-	新ハケメ	新ケズリ	灰黄褐色	～1層灰・棕色透明沢合む	
499	土師器 壺	口	C	SA11-B	-	-	-	指ナリ/履工具ナリ/履ハケメ	新・履ハケメ	にぶい・黄褐色	～1層白粉・磨面透明沢合む	
500	土師器 壺	口	C	SA11-C	規定	9.6	-	指ナリ/履ハケメ/スス付	指通ぬ/黒色付着物	にぶい・黄褐色	～2層白粉・軟質赤粉較/磨面透明光沢合む	
501	土師器 瓶	口	C	SA11-B	10.5	-	-	履ハケメ/履ハケメ	履ハケメ後工具ナリ	にぶい・黄褐色	～2層白粉・～2層赤粉・黒沢合む	
502	土師器 壺	口	C	SA11-D	12.6	-	-	指ナリ/履ハケメ	指ナリ	にぶい・黄褐色	～5層白粉合む/～2層赤粉	
503	土師器 壺	口	C	SA11-C	規定	15.8	-	指ナリ/指ナリ	指ナリ/指ナリ/黒澤	橙	～2にぶい・赤粉・灰黄褐色	
504	土師器 壺	口-底付足	C	SA11-3-T/D	12.6	-	-	指ナリ/履ハケメ/履工具ナリ/スス付	指ナリ/指ナリ/コビオサセ付	にぶい・黄褐色	～1層赤粉・黒沢合む/黒粉多/～4層赤粉較	
505	土師器 長頸瓶	口	C	SA11-C	9.0	-	-	指ナリ/履ハケメ/履ハケメ後ヘラミガキ	新・履ハケメ/一部履ハケメ後ヘラミガキ	橙	～4層白粉・～2層赤粉・2層黒粉	
506	土師器 壺	胴-底	C	SA11-8	-	2.3	-	ナリ後ヘラミガキ/履ハケメ	丁寧な工具ナリ	黄褐色	～2層白粉合む/～1層黒粉	磨面土層/外側からの打つた土
507	土師器 壺	口	C	SA11-A	-	-	-	指ナリ/履ハケメ後指ナリ/スス付	指ナリ/履ハケメ後指ナリ	にぶい・黄褐色	～2層白粉・～2層赤粉	
508	土師器 壺	口	C	SA11-C	-	-	-	指ナリ/指ナリ	指ナリ/指ナリ/履ハケメ	橙	～2層白粉・灰合粉・磨面透明光沢合む	
509	土師器 唇口鉢	口	C	SA11-C	-	-	-	磨面調整状	調整不明瞭	橙/灰濁	～3層白粉・～2層赤粉・透明光沢・軟質赤粉合む	
510	土師器 唇口鉢	口	C	SA11-C	-	-	-	指ナリ/磨面調整状	ナリ	にぶい・黄褐色	～2層白粉・赤粉合む	
511	土師器 高坪	坪	C	SA11-5-T/A-B-C	16.9	-	-	指ナリ/履ハケメ/履ハケメ後工面/履ハケメ	履ハケミガキ/履ハケミガキ	橙	～1層白粉・磨面透明光沢合む	磨面(厚35mm、径45mm)/外側系/内系
512	土師器 高坪	口	C	SA11-B	-	-	-	指ナリ	履ハケミガキ	にぶい・黄褐色	～1層赤粉・透明光沢少	
513	土師器 高坪	坪	C	SA11-C	-	-	-	調整不明瞭	新ヘラミガキ	橙	～1層白粉・赤白合粉/磨面透明光沢合む	
514	土師器 高坪	坪	C	SA11-C	-	規定 27.0	-	指ナリ/履ハケミガキ	履ハケミガキ	にぶい・黄褐色	～1層白粉・黒沢合む/にぶい・赤粉	
515	土師器 鉢	口-胴	C	SA11-C	規定	14.2	-	新・履ハケミガキ	履ハケミガキ	橙	～1層白粉・赤粉・黒粉合む/～1層赤粉・透明光沢合む	
516	土師器 鉢	底	C	SA11-C	-	規定 5.6	-	新ミガキ/履ナリ	新ミガキ	にぶい・黄褐色	～1層白粉・磨面透明光沢合む	
517	土師器 ミニチュア	口-底付足	C	SA11-A	規定	4.4	-	指ナリ/履ハケメ/履工具ナリ/コビオサセ	指ナリ	にぶい・黄褐色	～1層赤粉・磨面透明光沢合む	
518	土師器 小型丸底壺	口	C	SA11-A	-	-	-	指ナリ/履ハケメ後ヘラミガキ	指ナリ後ヘラミガキ	明赤褐色	～1層赤粉・黒澤	
519	土師器 壺	口-胴	C	SA12-4	規定	25.2	-	指ナリ/履ハケメ/スス付	指ナリ/新ケズリ?	にぶい・黄褐色	～3層白粉・黒沢合む/黒粉多	磨面?
520	土師器 壺	底	C	SA12-B	-	規定 5.8	-	履工具ナリ/履ナリ	ナリ	にぶい・黄褐色	～4層白粉・黒粉少/～3層赤粉	
521	土師器 壺	口-胴	C	SA12-B	規定	16.6	-	ナリ後ヘラミガキ/履ハケメ	履ハケメ/指ナリ	橙	磨面光沢/～1層白粉・黒粉	小笠原/有首系
522	土師器 壺	胴	C	SA12-B	-	-	-	新ハケメ/スス付	新ケズリ	明赤褐色	～2層白粉・赤粉合む	
523	土師器 壺	肩部	C	SA12-B	-	-	-	指ナリ/履ハケメ後指ナリ/履工具ナリ/履ハケメ	指ナリ/コビオサセ/履工具ナリ/履ハケメ	にぶい・黄褐色	～3層白粉・黒沢合む/赤粉多	
524	土師器 三日月形土師器	口-胴	C	SA12-1-3	13.4	-	-	ナリ/履ハケメ/履工具ナリ/スス付	履工具ナリ	灰白	～1層白粉・磨面透明光沢合む/赤粉多	山崎本橋土師土/坪土
525	土師器 小笠原	口-底	C	SA12-C	-	-	-	指ナリ/指ナリ	指ナリ/指ナリ	橙	～3層白粉・灰合粉・磨面透明光沢合む	
526	土師器 小笠原	坪	C	SA12-B	-	-	-	ヘラミガキ/スス付	ナリ	にぶい・黄褐色	～2層白粉・赤粉合む/磨面透明光沢合む	
527	土師器 高坪	坪	C	SA12-A	-	規定 25.8	-	履ハケミガキ	指ナリ	橙/にぶい・黄褐色	～3層白粉・にぶい・赤粉・黒沢/～1層光沢合む	
528	土師器 小型高坪	口-底	C	SA12-2	規定	11.3	-	指ナリ/履ハケメ/履工具ナリ/スス付	ミガキ	にぶい・黄褐色	～4層赤粉・灰合粉・～2層黒粉/～1層透明光沢合む	
529	土師器 唇口鉢	口-底	C	SA12-B	規定	9.8	-	指ナリ/履ハケメ後履ハケミガキ	履ハケミガキ/ヘラミガキ	にぶい・黄褐色	～2層白粉・黒粉・灰白合む	外側赤色顔料?/在東橋
530	土師器 ミニチュア	口-底	C	SA12-B	-	規定 2.4	-	指ナリ/コビオサセ	指ナリ	黄褐色/黒沢	～1層白粉・磨面透明光沢合む	
531	土師器 壺	口	C	SB2-SC1	規定	18.8	-	指ナリ/履ハケメ後履工具ナリ	指通ぬ/履工具ナリ	橙	～4層白粉合む/～6層白粉・～3層赤粉	
532	土師器 壺	口-胴	C	SB2-SC1-15	規定	15.0	-	指ナリ/履ハケメ	ナリ/履ハケメ	橙	～1層透明光沢/黒粉・灰合粉	
533	土師器 壺	口-胴	C	SB2-SC1-B	規定	19.6	-	指ナリ/履ハケメ後指ナリ/部分に黒澤	履ハケミガキ	灰黄褐色	～4層白粉・灰黄粉多/磨面透明光沢合む	
534	土師器 壺	底	C	SB2-SC1	-	6.4	-	指ナリ	指ナリ	にぶい・黄褐色/にぶい・赤粉	～3層白粉・～2層赤粉・黒粉	磨面透明光沢合む
535	土師器 壺	口	C	SB2-SC1	規定	17.0	-	指ナリ	指ナリ	にぶい・黄褐色	軟質赤粉合む/～3層赤粉	
536	土師器 壺	口-胴	C	SB2-SC1-5	規定	9.3	-	指ナリ/履ハケメ/履ハケメ後	新・履ハケメ/指ナリ	にぶい・黄褐色	～2層白粉合む/～1層白粉・透明光沢合む	
537	土師器 小笠原	胴-底	C	SB2-SC1-11	-	-	-	新工具ナリ	新・履ハケミガキ/履ハケメ	橙	～2層赤粉・黒粉合む	
538	土師器 壺	胴-底	C	SB2-SC1	-	-	-	多方向工具ナリ	指ナリ	にぶい・黄褐色	～2層赤粉・黒粉・～1層赤粉少/透明光沢合む	

規格番号	種別	部位	区	出土位置	寸法(cm)			手法・設備・文様ほか		色塗	胎土(数単位はmm)	備考
					口径	底径	器高	外面	内面			
539	土器器 土器器 高台口縁器	胴一底	C	SB2-SC1-A-B-D	-	規定 4.6	-	ナデ	ナ/コビオサエ/新ハケメ	上白・外周 内白塗	~2周粒含む/顔面透明光沢 粒数	
540	土器器 高台口縁器	口	C	SB2-SC1	-	-	-	表面磨状文/横ナデ/新ハケメ	ナ/新ハケメ	内白塗	~2周粒含む	
541	土器器 高台口縁器	口	C	SB2-SC1-A /SB2-SC1	規定 15.5	-	-	縦・横ヘラミガキ/上下に 2周粒の磨状文	縦・横ヘラミガキ	内白塗	~1に1~3周粒・横粒含む	大型の高脚器
542	土器器 器	胴	C	SB2-SC1 -14	-	-	-	ナデ/磨削	新ハケメ	磨	~2周粒・灰白粒少/顔面赤 褐色含む	縁部は2本の沈線を繋ぎ区 分を識す
543	土器器 高台	胴一底	C	SB2-SC1-A	-	規定 4.2	-	ナデ	ナデ/コビオサエ	磨	~2周粒・横粒少 ~2周粒・透明光沢多	
544	土器器 高台	口	C	SB2-SC1-B	規定 24.3	-	-	縦・横ヘラミガキ/底面 ヘラミガキ	縦・横ヘラミガキ	磨	~2赤褐色・灰白粒少	
545	土器器 高台	杯	C	SB2-SC1	-	-	-	ミガキ/ハケメ後ミガキ	ミガキ	磨	~3赤褐色・横粒・灰白粒 多	
546	土器器 高台	杯	C	SB2-SC1-A	-	-	-	新ミガキ	ナデ	磨	~1灰粒・透明光沢多	
547	土器器 高台	胴	C	SB2-SC1-4	-	-	-	縦・横工具ナデ後ナデ	縦・横工具ナデ	磨	~3周粒含む/~1灰白粒少/~ 1透明光沢多	長脚/前期後半
548	土器器 高台	胴	C	SB2-SC1	-	規定 21.6	-	縦・横ミガキ	横工具ナデ/新ハケメ	磨	~2に1赤褐色・~1透明 光沢・横粒多	透かしあり
549	土器器 高台	胴	C	SB2-SC1	-	規定 11.6	-	新ミガキ/横ナデ	横工具ナデ	磨	~3周粒・~2周粒含む	透かしあり
550	土器器 高台	胴	C	SB2-SC1-7	-	-	-	ナデ	ナデ	磨	~2灰白粒含む/~2周粒 含む/透明光沢多	
551	土器器 高台	杯一底	C	SB2-SC1- 8-9-12/ B8B8	-	-	-	丁寧なナデ/ヘラミガキ	丁寧なヘラミガキ/横工 具ナデ	磨	~1横粒・透明・赤褐色 多	透かしあり
552	土器器 高台	胴	C	SB2-SC1/ B8B8	-	規定 28.0	-	横工具ナデ後縦ヘラミガ キ	多方向工具ナデ	磨	~2明赤・内白赤褐色・横 粒少/~1磨削・赤褐色・横 粒多	
553	土器器 鉢	口一胴	C	SB2-SC1 B-D	規定 18.2	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	磨	~3周粒含む/~2灰白粒 透明光沢・赤褐色	
554	土器器 鉢	口	C	SB2-SC1-A	規定 14.9	-	-	調整不明確	調整不明確	磨	~2周粒・透明光沢・横 粒・軟質多	
555	土器器 鉢	口	C	SB2-SC1	規定 4.0	-	-	横ナデ/縦・横ミガキ	横丁寧ナデ	磨	~2周粒含む	
556	土器器 鉢	胴一底	C	SB2-SC1-B	規定 10.6	-	-	横ナデ/新・横工具ナデ	ナデ/多方向工具ナデ	内白塗/磨 削/磨削/磨削	~1周粒・透明光沢粒数	外面部分的に黒変
557	土器器 鉢	口一底	C	SB2-SC1	規定 35.7	-	-	縦・横ナデ後ミガキ	横ナデ/ハケメ後ミガキ	内白塗	~2周粒少/~2周粒多	同一と思われる2個器片を 合成
558	土器器 器	胴	C	SC1/SC2	-	-	-	新工具ナデ	コビオサエ/横工具ナデ	内白塗 洗液磨	~3周粒・横粒含む	
559	土器器 鉢	口一底	C	SC1	規定 10.3	規定 8.1	2.4	丁寧なナデ/縦・横ヘラ ミガキ/コビオサエ	工具肌/磨削後の磨削	内白塗	~3に1赤褐色・横粒・ 灰白粒・横粒多	
560	土器器 鉢/口縁器	口一底	C	SC1	-	-	-	縦・横工具ナデ	ナデ	内白塗/磨削	~3周粒含む/~1灰白粒 多	透かしあり
561	土器器 器	底	C	SC2	-	-	-	ナデ	調整不明確	内白塗	~3周粒・横粒含む/顔面 透明光沢粒数	
562	土器器 器	胴一底	C	SC2	-	規定 4.1	-	ナデ/磨ナデ/状ナデ	ナデ/新ハケメ	洗液磨	~3周粒多/~1赤褐色粒 少	
563	土器器 器	口	C	SC2	規定 13.8	-	-	縦・横工具ナデ/洗液の 磨削状文	横工具ナデ	内白塗 洗液磨	~3灰粒・赤褐色少	
564	土器器 高台	口	C	SC2	-	-	-	縦・横ヘラミガキ/スス付 目	横ヘラミガキ	内白塗 洗液磨	~2周粒・赤褐色含む/顔面 透明光沢粒数	
565	土器器 器	底	C	SC3	-	3.6	-	コビオサエ後丁寧なナデ	横ナデ後ナデ	内白塗 洗液磨	~3周・~2灰白・横粒・~1軟 質・赤褐色透明光沢	
566	土器器 器	胴一底	C	SC3	-	規定 4.0	-	ナデ/磨ナデ	ナデ	内白塗 洗液磨	~4周粒・~3灰白粒少/~2 周粒・光沢多	
567	土器器 器	底	C	SC3	-	5.0	-	新ナデ/状ナデ/コビオサ エ	ナデ/磨削/モミ直	磨	~6周粒・灰粒・灰白粒多/磨 削透明光沢粒数	
568	土器器 器	口	C	SC3	規定 10.2	-	-	横ナデ/縦・横ヘラミガキ 後横ナデ	横ナデ/コビオサエ	内白塗 洗液磨	~2周粒・横粒・灰白粒 多	
569	土器器 器	口	C	SC3	規定 14.3	-	-	磨状文具用状文/横ナデ /新ハケメ	ハマ後横ナデ/新ハケ メ	磨	~2灰白粒・横粒少/~2周 粒多	
570	土器器 高脚器	口	C	SC3	規定 10.2	-	-	横ミガキ/縦・横ミガキ	新・横工具ナデ	磨	~1周粒含む	
571	土器器 高脚器	胴	C	SC3	-	-	-	横ナデ	横ナデ/コビオサエ	内白塗 洗液磨	~1周粒・赤褐色粒	
572	土器器 小型器	胴	C	SC3	-	-	-	横工具ナデ/新ハケメ 部分付着	横工具ナデ	内白塗 洗液磨	~1に1赤褐色・横粒・赤 褐色・横粒	一部粘土塊あり
573	土器器 二重口縁器	胴一胴	C	SC3	-	-	-	縦・横ハケメ/磨削に粘 付異所	縦・横ハケメ/コビオサエ /異所	内白塗 洗液磨	~2周粒・赤褐色・内白赤 褐色含む/透明光沢 粒数	
574	土器器 複合口縁器	口	C	SC3	規定 21.0	-	-	横ナデ/磨削状文/コビ オサエ後工具ナデ	横ナデ/新ハケメ	洗液磨 洗液磨	~2周粒・灰粒・~1透明光 沢粒数	
575	土器器 複合口縁器	口	C	SC3	規定 14.8	-	-	横ナデ/磨削状文	横工具ナデ	磨	~1灰粒・横粒多	
576	土器器 器	底	C	SC3	-	規定 4.0	-	コビオサエ/横工具ナデ	横ヘラミガキ	内白塗 洗液磨	~2周粒・横粒多/顔面透 明光沢粒数	内外面に一部黒変
577	土器器 器	胴一底	C	SC3-1	-	3.2	-	縦・横工具ナデ後ナデ/ 工具肌/磨削	新ハケメ	内白塗 洗液磨	~5に1赤褐色・横粒・ 赤褐色	B基礎
578	土器器 高台	杯	C	SC3	規定 29.4	-	-	横ナデ/多方向ヘラミガ キ	横・横工具ナデ後丁寧 なナデ	磨	~2周粒含む/~2灰白粒 透明光沢少	V基礎(内層2023)
579	土器器 高台	杯	C	SC3/ B6D	-	-	-	調整不明確	調整不明確	磨	~3周粒含む・4周粒含む/~ 3灰白粒・軟質赤褐色	黒化異所
580	土器器 高台	杯	C	SC3	-	-	-	縦ヘラミガキ	縦ヘラミガキ	磨	~1周粒・横粒・赤褐色 粒・灰白粒含む	

掲載 番号	種別	部位	区	出土位置	造量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土(数値は12mm)	備考	
					口径	口径	器高	外面		内面	上面・外面 下面・内面			
								外面	内面					
581	土器類 高杯	脚	C	SC3	-	-	-	縦ミガキ	ナデ	橙	～3浅黄緑彩～2透明光沢		透かしあり	
582	土器類 高杯	脚	C	SC3	-	-	-	縦ミガキ	ナデ	橙	～3浅黄緑彩～2透明光沢		透かしあり	
583	土器類 高杯	脚	C	SC3	-	既定	20.8	縦丁寧ヘラミガキ	丁寧ヘラミガキ	橙	～2黄緑彩・赤黄緑彩・黄緑彩含む			
584	土器類 高杯	脚	C	SC3	-	既定	23.8	ミガキ/工具類	新ナデ/黒刷	橙	～3黄緑彩含む①～黄緑彩、 ～4黄緑彩		表面に浅い穴跡あり	
585	土器類 高杯	脚	C	SC3	-	-	-	ミガキ/新ナデ	ハケミ後ナデ/ハケミ	橙	～3黄緑彩～1黄緑彩・黄白 彩・黄緑彩の混			
586	土器類 高杯	脚	C	SC3	-	既定	21.2	工具ナデ後ヘラミガキ	ナデ/工具ナデ	橙	～2黄緑彩少～1胡赤黄緑彩、 黄緑彩・黄緑彩・黄緑彩含む			
587	土器類 高杯	脚	C	SC3	-	既定	21.5	縦ヘラミガキ/縦ヘラミガキ	縦ハケミ	橙	～2①～②黄緑彩少～1①②混 黄緑彩・赤黄緑彩・黄緑彩含む			
588	土器類 高杯	脚	C	SC3	既定	20.2	-	縦新ヘラミガキ/横洗刷	新工具ナデ	黄緑 黄緑	～2黄緑・黄白・黄緑彩含む			
589	土器類 鉢	口～脚	C	SC3	既定	10.4	-	コビオサエ/新工具ナデ	ナデ/縦ナデ後ミガキ/黒 刷/黒刷	橙	～3黄緑彩・黄緑彩・黄緑彩、反 白彩含む			
590	土器類 鉢	口～脚	C	SC3	-	-	-	縦ハケミ/縦ハケミ	横ナデ/縦工具ナデ	黄緑彩 黄緑彩	～2黄緑彩・黄緑彩・赤黄緑 彩含む			
591	土器類 鉢	口	C	SC3	-	-	-	新ナデ	新ヘラミガキ	黄緑彩	～2黄緑彩・黄緑彩少			
592	土器類 鉢	脚～底	C	SC3	-	-	-	縦ミガキ	ミガキか?	橙/赤黄 彩	～3黄緑彩・黄緑彩～2黄 彩赤彩少～1透明光沢彩 含む		表面に種子状痕?	
593	土器類 鉢	脚～底	C	SC3	-	既定	5.6	調整不明確	調整不明確	橙	～4①～②黄緑彩含む①/黄 緑彩・黄緑彩		黒化痕あり	
594	土器類 鉢	口	C	SC3	-	-	-	ナデ/横ナデ/横洗状 文/横ナデ	横ナデ/横ハケミ	黄緑彩 黄緑彩	～1黄緑彩・黄緑彩含む			
595	土器類 鉢	脚～底	C	SC3	-	既定	5.6	縦・横工具ナデ/コビオ サエ	新・横ハケミ	黄緑彩	～2黄緑彩・黄緑彩含む/黒 刷洗状			
596	土器類 鉢	口～底	C	SC3	-	-	-	縦工具ナデ/コビオサ エ	縦・新工具ナデ/コビオ サエ	黄緑彩 橙	～1黄緑彩・黄緑彩・赤黄緑 彩含む			
597	土器類 壺	口	C	SC4	既定	11.0	-	ミガキ/横・新ミガキ	横ナデ後・縦ミガキ	①～② ①～②	～1黄緑彩・黄緑彩・黄緑彩 含む			
598	土器類 壺	底	C	SC4	-	6.4	-	ナデ/工具類	コビオサエ後ナデ	黄緑彩	～5黄緑彩・黄緑彩・黄緑彩多 含む			
599	土器類 高杯	脚	C	SC4	-	-	-	縦ミガキ	コビオサエ後ナデ	黄緑彩	～2黄緑彩・黄緑彩含む①/ 1黄緑彩・黄緑彩透明光沢 彩含む		透かし4か所	
600	土器類 高杯	杯	C	SC4	既定	11.1	-	斜ミガキ	斜・横ナデ	橙	～2黄緑彩・黄緑彩多 含む			
601	土器類 壺	口～脚	C	SC5	既定	24.0	-	横ナデ/ハケミ後ナデ/工 具ナデ	工具ナデ/横ナデ	①～② ①～②	～4黄緑彩～3黄緑彩含む①/ 3黄緑彩・黄緑彩赤黄 緑彩含む		片来系	
602	土器類 壺	口	C	SC5	既定	14.9	-	横ナデ/ハケミ後ナデ/ 後ナデ	横ハケミ/ハケミ後ナデ/ 一部黒刷	①～② ①～②	～3黄緑彩含む①～2透明光 沢彩含む			
603	土器類 高杯	脚	C	SC5	-	-	-	縦ミガキ	縦工具ナデ	黄緑彩	～1黄緑彩・黄緑彩含む/黒 刷洗状			
604	土器類 鉢	口	C	SC5	既定	16.5	-	ハケミ後ヘラミガキ・部分 のハケミ黒	横ナデ/ハケミ後ヘラミ ガキ/黒刷	①～② ①～②	～2黄緑彩～3黄緑彩 含む			
605	土器類 鉢	脚～底	C	SC5	-	既定	7.8	新ハケミ	横ハケミ/多方向ハケ ミ	①～② ①～②	～3黄緑彩多 含む			
606	土器類 覆合口縁壺	脚	C	SC6	-	-	-	横洗状文/横ナデ/横 ハケミ黒	横ハケミ	①～② ①～②	～2黄緑彩含む①～2黄緑彩少/ 1黄緑彩多			
607	土器類 覆合口縁壺	柱	C	SC6	-	-	-	新ハケミ	コビオサエ/ナデ	①～② ①～②	～2黄緑彩含む/黒刷洗状 彩少			
608	土器類 鉢	脚～底	C	SC6	-	-	-	縦ヘラミガキ	新ヘラミガキ/黒刷	①～② ①～②	～2黄緑彩含む①～1赤黄 緑彩含む			
609	土器類 モチユア	脚	C	SC6	-	既定	6.1	縦ハケミ/ナデ	ナデ	橙	～2黄緑彩含む①～1黄緑彩 含む		1ニモチユア原料/透かしは 2か所程度 全体で6か所 の可能性	
610	土器類 鉢	脚	C	SC7	-	-	-	斜洗の列点文に順じた 横洗刷	斜・横ミガキ	①～② ①～②	～1黄緑彩・①②混・赤黄 緑彩・黄 白彩		加飾跡?	
611	土器類 鉢	脚	C	SC7	-	-	-	斜洗刷列点文?/横洗 刷	ナデ	①～② ①～②	～1黄緑彩・赤黄緑彩・黄 緑彩			
612	土器類 高杯	脚	C	SC7	-	-	-	横ナデ後ヘラミガキ	横ナデ後ヘラミガキ	黄緑彩 黄緑彩	～3①～②黄緑彩・黄緑彩 含む			
613	土器類 壺	底	C	SC7	-	-	-	斜・横ナデ/黒かなコビ オサエ/黒	ナデ/コビオサエ	①～② ①～②	～5黄緑彩・黄緑彩・黄緑彩、 黄白彩・赤黄緑彩			
614	土器類 壺	脚	C	SC8	-	-	-	縦ハケミ/スス付	ナデ/横ハケミ	①～② ①～②	～5黄緑彩含む			
615	土器類 壺	口	C	SC8	既定	10.8	-	横ナデ/横ナデ後新工 具ナデ	横ナデ	①～② ①～②	～2黄緑彩～1黄緑彩少			
616	土器類 壺	口	C	SC8	-	-	-	縦ヘラミガキ	縦ヘラミガキ	①～② ①～②	～2黄緑彩含む			
617	土器類 覆合口縁壺	口～脚	C	SC8	既定	14.8	-	ナデ/横ナデ/洗刷の横 洗状文/多方向ハケ ミ	コビオサエ後ナデ/新 ハケミ	①～② ①～②	～2黄緑彩・黄緑彩・黄緑彩赤 彩含む			
618	土器類 甕	口～底	C	SC8-4	既定	13.0	5.1	13.7	横ナデ/横ハケミ/横ナ デ	調整不明確	①～② ①～②	～5黄緑彩・赤黄緑彩多 含む		横割 甕生後継ぎ手?
619	土器類 高杯	杯	C	SC8	-	-	-	斜ミガキ	斜ミガキ	橙	～2黄緑彩多・黄緑彩赤 彩・黄緑彩含む			
620	土器類 甕	口～底	C	SC10-2	既定	14.4	5.8	-	多方向ハケミ/多方向 ナデ/コビオサエ後横ナ デ	新工具ナデ/横ナデ/ コビオサエ	①～② ①～②	～5黄緑彩・黄緑彩・黄緑彩 多		
621	土器類 甕	口～底	C	SC10-8・9	既定	14.3	5.3	-	横ナデ/新工具ナデ/ コビオサエ/スス付	コビオサエ後/横ナデ/ 工具ナデ/コビオサエ	①～② ①～②	～5黄緑彩・①②混・黄 緑彩多		
622	土器類 甕	口	C	SC10	-	-	-	縦新ヘラミガキ/下部に 横洗	縦・横ハケミ	黄緑彩 黄緑彩	～1黄緑彩・赤黄緑彩・黄 緑彩		B系(V様式)類	
623	土器類 甕	口～脚	C	SC10-1	既定	8.1	-	-	ナデ/新洗ナデ	コビオサエ/ナデ	黄緑彩 黄緑彩	～4黄緑彩含む/黒刷洗状 彩		口縁部打つ
624	土器類 甕	脚～脚	C	SC10	-	-	-	縦・横ハケミ一部黒 刷	コビオサエ後横・横工 具ナデ	①～② ①～②	～2黄緑彩含む①～3赤黄 緑彩少			

施設番号	種別 設備	部位	区	出土位置	寸法(cm)			手法・設備・文様ほか		色塗	胎土(数字単位はmm)	備考
					口径	底径	器高	外面	内面			
625	弥生土器 高脚杯	口	C	SC10	規定 10.0	-	-	横子/横子後ハケ /丹塗	横子	青	~1灰粒少	
626	弥生土器 高脚杯	底	C	SC10	-	-	-	横へら/丹塗/丹塗	ナデ/高麗	赤黒	~1透明光沢・褐粒較多 ~2灰粒	
627	弥生土器 高脚杯	底	C	SC10	-	-	-	横へら/丹塗/丹塗	ナデ	赤黒	~2褐粒	
628	弥生土器 高脚杯	底	C	SC10	-	2.2	-	工具ナデ/無造作な横刷	ナデ	褐色	~3赤褐粒・灰褐粒・黒褐粒 少	
629	弥生土器 高脚杯	底	C	SC10	-	-	-	へら/ハケ	へら/ハケ	褐色	~2灰褐粒・褐色粒	
630	弥生土器 高脚杯	底	C	SC10-6-7	規定 29.7	-	-	横子/へら/ハケ	横子/へら/ハケ	青	~2褐粒含む/~1灰白粒少/ 微細な灰粒	631と同一個体
631	弥生土器 高脚杯	底	C	SC10-3	-	-	-	縦ハケ	丁寧なナデ	青	~2褐粒含む/~1灰白粒少/ 微細な灰粒	630と同一個体
632	弥生土器 高脚杯	底	C	SC10	-	規定 22.8	-	縦ハケ/横子	調整不明	青	~3灰粒多/~2褐粒含む/1 透明光沢少	透かしあり
633	土師器 土師器 土師器	胴~底	C	SC11	-	規定 3.7	-	横ハケ/横子後ハケ	横子/高麗	青	~4C.IV・赤黒/~2高麗・灰 白・赤黒・透明光沢	
634	土師器 土師器	口~底	C	SC12-3-4	規定 19.3	-	-	横子/横ハケ後横子 /横ハケ/ス付書	横ハケ	C.IV・青	~5赤褐粒・褐粒・黒褐粒 多	
635	土師器 土師器	口~底	C	SC12	規定 17.2	-	-	横子/横ハケ後横子 /ス付書	横子/横子	C.IV・青	~4C.IV・赤黒/~1高麗 ・灰白・C.IV・赤黒粒	
636	土師器 土師器	口~胴	C	SC12	規定 24.4	-	-	調整不明	横子/横子/横ハケ	C.IV・青	~3灰粒/~1透明光沢/1 赤粒	
637	土師器 土師器	胴~底	C	SC12-6	-	4.4	-	横ハケ/横ハケ/コビオサエ /高麗	放射状工具	C.IV・青	~1灰粒・黒赤・赤黒粒多/微 細透明光沢	
638	土師器 土師器	口	C	SC12	規定 14.7	-	-	横子/多方向ハケ	ナデ	C.IV・青	~1褐粒含む/~2透明光沢 不明	
639	土師器 土師器	口	C	SC12	規定 10.2	-	-	横子/横ハケ/透かし した刷刷	横ハケ	青	~3褐粒/~1灰粒含む/1 灰白粒	
640	土師器 高脚杯	底	C	SC12/ SC12-5	-	-	-	横へら/ハケ	横子/横子	C.IV・青	~1C.IV・赤黒粒・灰粒含む/ 微細透明光沢	透かし残存2か所
641	土師器 土師器	胴~胴	C	SC12	-	-	-	横ハケ	横ハケ後横ハケ	青	~2C.IV・赤黒粒・褐粒含む/ 透明光沢	
642	土師器 土師器	底	C	SC13/ B45B	-	-	-	ハケ/ナデ	ナデ	C.IV・青	~5褐粒/~4褐粒含む/1 3灰白粒	丸底
643	土師器 高脚杯	底	C	SC13	-	-	-	調整不明	調整不明	青	~3軟赤・赤粒・灰粒少/1 灰粒・微細透明光沢	黒化著しい
644	土師器 土師器	口~胴	C	SC13	規定 5.6	-	-	横子/コビオサエ後ナ デ	調整不明	青	~4褐粒/~3褐粒少/1灰 白粒/1軟赤粒	口縁部に穿孔
645	土師器 土師器	胴~胴	C	SC15-2	-	-	-	横ハケ/横刷	ナデ/高麗	C.IV・青	~4灰褐粒・~2褐粒・黒 赤・灰白粒・赤黒粒多	
646	土師器 土師器	胴~胴	C	SC15-1/ SC15	規定 9.2	6.9	-	横子/横ハケ/横 ハケ/ス付書	横子/横子後横子/横 ハケ/コビオサエ	青	~4褐粒・灰粒多	透かし/磨鉢系統/丸底
647	土師器 土師器	底	C	SC15	-	-	-	多方向ハケ/横刷	ナデ	青	~2黒褐粒・黒粒少	
648	弥生土器 高脚杯	底	C	SC15-3	規定 32.6	-	-	ハケ/横ハケ	丁寧なナデ	青	~3C.IV・褐粒/1黒褐粒・ 微細透明光沢	Vb~Vc(河野2037)/ 丁寧なナデ
649	土師器 高脚杯	底	C	SC15	-	-	-	へら/横ハケ	調整不明	青	~2褐粒/赤黒・灰白 粒含む	黒化著しい
650	土師器 高脚杯	底	C	SC15	-	-	-	ハケ/横ハケ	調整不明	褐色	~2褐粒・褐粒・黒褐粒多/ ~1灰白粒・透明光沢	黒化著しい
651	土師器 高脚杯	底	C	SC16-2	16.2	-	-	ナデ/横ハケ後横刷の 横ハケ/コビオサエ	横へら/ハケ/コビオサエ	C.IV・青	~1褐粒・褐粒含む/1~2赤 褐粒	丸底・微細工具
652	土師器 高脚杯	底	C	SC16-3	-	10.1	-	横へら/横ハケ	横子/横子後横子	C.IV・青	~無黒褐粒	庄内系 651とは別個体
653	土師器 土師器	口~底	C	SC17	規定 30.2	-	-	ナデ/横ハケ	横ハケ/コビオサエ	青	~4褐粒含む/1灰白粒	外面に横刷
654	土師器 土師器	口~底	C	土師器中1	規定 27.0	規定 6.8	規定 32.0	ナデ/横ハケ/コビ オサエ/ス付書	横子/横子/灰化物 付書	褐色	~5灰白粒・褐粒多/5褐粒 ・黒粒多	
655	土師器 土師器	口~底	C	土師器中1	規定 30.2	-	-	横子/横子後横子	横子/横子/横子	褐色	~3C.IV・赤黒・灰白・褐粒・ 黒褐粒少/1灰白粒	
656	土師器 土師器	口~底	C	土師器中1	規定 20.5	-	-	横ハケ/横ハケ/コビ オサエ/横ハケ後横子	横ハケ/横ハケ/コビ オサエ	C.IV・青	~4褐粒多/1透明光沢 微	
657	土師器 土師器	胴~底	C	土師器中1	-	規定 5.9	-	横子/ナデ	横子/横子	青	~3褐粒・黒粒多	
658	土師器 土師器	底	C	土師器中1	-	-	-	ナデ/横ハケ	横子/高麗	青	~6褐粒・灰粒多/1赤褐粒	
659	土師器 土師器	底	C	土師器中1	-	-	-	横ハケ	ケズリ	C.IV・青	~2灰白・透明光沢・褐粒・黒 赤・灰粒・微細透明光沢含む	
660	土師器 土師器	胴~胴	C	土師器中1	-	-	-	横子/ナデ	ナデ/コビオサエ/横子	C.IV・青	~3褐粒・灰粒多/微細透明 光沢含む	
661	土師器 土師器	底	C	土師器中1	-	-	-	横子/横子	ナデ	C.IV・青	~3褐粒含む	
662	土師器 土師器	口	C	土師器中1	-	-	-	横子/横子後横子	横子	C.IV・青	~2褐粒・灰粒含む/微細透 明光沢	
663	土師器 土師器	口	C	土師器中1	-	-	-	横子/横子後横子	調整不明	青	~1灰褐粒・赤褐粒・灰白粒少 赤	
664	土師器 土師器	口	C	土師器中1	-	-	-	横子/横子/工具	横子/コビオサエ/ナ デ	青	~2C.IV・赤黒粒含む/1 褐粒・乳白・透明光沢	
665	土師器 土師器	底	C	土師器中1	-	-	-	横ハケ	ナデ/高麗	青	~2褐粒/灰白粒・黒粒少	
666	土師器 土師器	底	C	土師器中1	-	規定 4.0	-	ナデ	ナデ/全体黒塗	青	~5褐粒・灰粒多	
667	土師器 土師器	底	C	土師器中1	-	規定 9.0	-	工具ナデ	調整不明	C.IV・青	~4暗赤褐粒/~3褐粒・灰 粒	
668	土師器 土師器	胴~底	C	土師器中1	-	-	-	横子/ナデ	横子/ナデ	C.IV・青	~4C.IV・赤黒粒多/1高 麗・透明光沢・褐粒・灰白粒少	

掲載番号	種別	用途	部位	区	出土位置	通量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土(数値以下2mm)	備考
						口径	底径	器高	外底	内底	上段・外底 下段・内底	胎土		
669	土師器 土師壺	胴~底	C	土師集申1	-	規定 3.6	-	-	斜ナデ/ナデ/伏ナデ	ナデ/内底	滑	滑	~4C:5A:1陶粒含む?~2黒 陶粒・灰白胎土	
670	土師器 腹合口甕	口~底	C	土師集申1	-	規定 15.5	-	-	磨削痕状文・刷毛目土等 に染込文・横ナデ/斜ナ デ/斜ナデ/高麗/高麗 ノケ/灰付等	斜・横ナデ/横ナデ/斜ナ デ/斜ナデ/横ナデ/横ナ デ/斜ナデ/横ナデ/横ナ デ	滑	滑	~4C:5A:1赤白陶粒・陶粒・ 陶粒・灰白胎土・陶粒・透明 灰胎土	大底面
671	土師器 高坏	坏	C	土師集申1	規定 25.1	-	-	-	ナデ/横ナデ/高麗/ス ス付	調整不明確	滑	滑	~1黒陶粒・陶粒・明赤陶 陶粒・透明灰胎土	672と同じ個体
672	土師器 高坏	坏	C	土師集申1	-	-	-	-	調整不明確	調整不明確	滑	滑	~1黒陶粒・陶粒・明赤陶 陶粒・透明灰胎土	671と同じ個体
673	土師器 高坏	坏	C	土師集申1	-	-	-	-	縦へらミガキ	縦へらミガキ	滑	滑	~3黒陶粒・灰胎土・1灰白 胎土・赤陶粒	
674	土師器 高坏	坏	C	土師集申1	-	-	-	-	縦ミガキ	ミガキ	滑	滑	~黒陶粒・透明灰胎土・明赤 陶粒	
675	土師器 高坏	坏	C	土師集申1	-	-	-	-	斜ミガキ	ナデ	滑	滑	~4黒陶粒含む?~3灰白胎 土	透かしあり
676	土師器 甕	胴部	C	土師集申1	-	規定 28.6	-	-	横ナデ/横ナデ/横へらミ ガキ/スス付	横ナデ/横ナデ/横へらミ ガキ/横ナデ/横ナデ/横 へらミガキ	滑	滑	~2黒陶粒・灰白胎・赤陶粒 多	
677	土師器 高坏	坏	C	土師集申1	-	規定 17.3	-	-	斜ハケミ/横ナデ/横ナ デ	丁寧ナデ	滑	滑	~1陶粒含む	
678	土師器 高坏	坏	C	土師集申1	-	規定 22.0	-	-	縦へらミガキ/スス付	斜工具ナデ/斜ハケミ	滑	滑	~4黒陶粒・灰白胎・C:5A:1 赤陶粒少/微細透明灰胎土	透かしあり/外底・内面に種 子状痕
679	土師器 高坏	坏	C	土師集申1	-	規定 21.7	-	-	縦へらミガキ/ナデ/高麗	横ハケミ/横削	滑	滑	~3C:5A:1陶粒・赤陶粒少/ ~1黒陶粒・C:5A:1陶粒多	
680	土師器 甕	柱	C	土師集申1	-	-	-	-	調整不明確	粗い横ナデ	滑	滑	~3C:5A:1赤陶粒含む?~2 透明灰胎土・黒陶粒~1陶 粒・黒陶粒・灰白胎多	
681	土師器 甕	口~胴	C	土師集申2	規定 31.2	-	-	-	工具押し引き痕/調整不 明確	斜・横工具ナデ/横削	滑	滑	~3赤陶粒・灰陶粒多	風化著しい
682	土師器 甕	口~胴	C	土師集申2	規定 28.4	-	-	-	横ナデ/横・斜ハケミ/ 筋高麗	横ハケミ/ナデ	滑	滑	~3灰陶粒・灰胎多	内面に種子状痕?
683	土師器 甕	胴	C	土師集申2	-	-	-	-	斜ハケミ/ナデ/斜削ミ ガキ	強いヒョオサテ/横ナデ	滑	滑	~3黒陶粒多/微細透明灰胎 土	胴下部に輪郭状の浅 痕
684	土師器 高坏	坏	C	土師集申2	-	-	-	-	調整不明確	横ナデ	滑	滑	~3黒陶粒・灰胎多?~1白 胎土	透かしなしが所残存
685	土師器 高坏	口~底	C	土師集申3	20.4	-	-	-	横ナデ/横・斜ミガキ	縦・横ミガキ/筋土ボリ	滑	滑	~4黒陶粒・~2黒陶粒・微細 灰胎土	透かし孔底3箇所一部高 麗
686	土師器 甕	口~底	C	土師集申3	規定 14.1	5.5	15.5	-	横ナデ/横・斜へらミガ キ/工具ナデ/横削	縦・斜へらミガキ/高麗 ノケ	滑	滑	~3黒陶粒・赤陶粒多	
687	土師器 甕	口~底	C	土師集申3	-	3.8	13.9	-	横ナデ/横・横ハケミ/ ノケ	ナデ/多方向ハケミ/ナ デ/高麗	滑	滑	~5黒陶粒・灰胎多?~2白胎 土	底部外面に横割痕?右底 縁?内底(複製2023)
688	土師器 甕	口~底	C	土師集申3	規定 14.8	4.0	9.2	-	横ナデ/斜ハケミ/斜ハ ケミ/スス付	横ナデ/横ヒョオサテ/横 ハケミ	滑	滑	~3C:5A:1赤陶・灰陶粒多/ ~2陶・灰白・黒陶粒含む	
689	土師器 甕	胴~底	C	SI12	-	4.3	-	-	横・横ナデ/コヒョオサ テ/高麗	斜ハケミ	滑	滑	~2黒陶粒・赤陶粒少	V様式系
690	土師器 甕	胴	C	SH3	-	-	-	-	ハケミ/筋目染込	斜ハケミ/ナデ/灰化物付 け	滑	滑	~1黒陶粒・黒陶粒・陶粒・灰 白胎含む	
691	土師器 甕	口~胴	C	SH4	規定 12.6	-	-	-	ナデ/工具ナデ/斜ハケ ミ/スス付	工具ナデ/横ナデ/横削工 具ナデ	滑	滑	~3黒陶粒・灰陶粒・赤陶粒 多	
692	土師器 甕	胴	C	SH4	-	規定 21.8	-	-	斜へらミガキ	横工具ナデ	滑	滑	~2黒陶粒・灰陶粒・赤陶粒 含む	透かしあり
693	土師器 甕	口	C	SE1	規定 13.6	-	-	-	横工具ナデ	斜・横ハケミ	滑	滑	~1灰白胎・黒陶粒	
694	土師器 高坏	口	C	SE2	-	-	-	-	斜丁寧ミガキ	横丁寧ミガキ	滑	滑	~1黒陶粒・陶粒・陶粒・灰 白胎含む	
695	土師器 甕	口	C	SE3	-	-	-	-	横ミガキ/斜丁寧ミガ キ	横丁寧ミガキ/高麗	滑	滑	微細灰胎土・陶粒・黒胎含む	
696	土師器 甕	胴	C	SE6	-	-	-	-	磨削痕状文	斜・横工具ナデ	滑	滑	~3灰陶粒・黒陶粒・赤陶粒 少	腹入型?
697	土師器 甕	口~胴	C	SE8	規定 14.6	-	-	-	ナデ/横ナデ/横コヒョオ サテ/横工具ナデ	斜工具ナデ/横コヒョオサ テ/横工具ナデ	滑	滑	~3黒陶粒・灰陶粒・赤陶粒・ 灰白胎	
698	土師器 甕	胴	C	A2CII	-	-	-	-	斜丁寧工具ナデ	斜工具ナデ/横コヒョオサ テ	滑	滑	~2灰陶粒・赤陶粒・黒陶粒 含む	右底面平?
699	土師器 甕	胴	C	A4AII	-	-	-	-	工具ナデ/タタキ	斜・横工具ナデ	滑	滑	~3赤陶粒多/微細透明灰胎 土	内外面に多数の種子状痕
700	土師器 甕	底	C	A4CII	-	3.6	-	-	斜ハケミ/横工具ナデ/ナ デ	ナデ	滑	滑	~2灰陶粒含む	底部光澤/白系統
701	土師器 甕	口	C	A4CII	-	-	-	-	横ナデ/斜ハケミ/口唇部 に磨削痕状文	横ナデ	滑	滑	~3黒陶粒	
702	土師器 高坏	坏	C	A4BII	-	-	-	-	へらツルミガキ	へらツルミガキ	滑	滑	~1黒陶粒・黒陶粒・陶粒多	
703	土師器 高坏	坏	C	A4BII	-	-	-	-	へらミガキ/高麗	調整不明確	滑	滑	~1黒陶粒・赤陶粒・明赤陶 粒多	風化著しい
704	土師器 甕	胴	C	A4BII	-	規定 22.2	-	-	縦ミガキ/横工具ナデ/横 ナデ	斜・横ハケミ	滑	滑	~5灰陶粒含む	透かしあり
705	土師器 甕	胴	C	A4CII	-	規定 27.0	-	-	調整不明確/圧痕	調整不明確	滑	滑	~4黒陶粒・灰陶粒・黒陶粒 多	
706	土師器 甕	口~底	C	A4CII	規定 12.9	-	-	-	多方向工具ナデ/コヒョ オサテ	斜・横工具ナデ	滑	滑	~2灰陶粒含む/微細透明灰 胎土	外底一部高麗/底部光澤/白 系統
707	土師器 甕	胴~胴	C	A4BII	-	-	-	-	タテツルミガキ/筋高麗	ミガキ	滑	滑	微細赤胎含む	口唇部内面?腹入? B系統/赤帯高麗/V形(複製 2023)押付
708	土師器 腹合口甕	胴	C	ASDII	-	-	-	-	上下2段の磨削痕状文/口 唇部に磨削痕状文	横ヒョオサテ/コヒョナ デ	滑	滑	~2赤陶粒・黒陶粒少	
709	土師器 甕	胴	C	ASDII	-	-	-	-	横ナデ/筋部に染込	斜ハケミ/横ナデ	滑	滑	~2赤陶粒・陶粒・黒陶粒 含む	母に好して磨削?灰 質赤胎含む
710	土師器 甕	胴~底	C	ASDII	-	-	-	-	縦ハケミ/斜工具底	横ナデ/横ハケミ/横削 ハケミ	滑	滑	~2黒陶粒・灰陶粒含む?~1 赤陶粒・明赤陶粒	B系統

機軸 番号	種別 器種	部位	区	出止位置	寸法(cm)			手法・調整・文種ほか		色塗		数値(単位はmm)	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	上唇・外刃 下唇・内刃	色		
711	土器器 高杯	坪	C	A5BII	規定 19.2	-	-	縦ヘラミガキ	縦ヘラミガキ	比色い青 比色い青	～2風乾・明赤乾・比色 い青乾を含む		
712	土器器 高杯	狭一底	C	B4AII	-	規定 4.6	-	ハケム後手子で滑し ナデ/厚底	ナデ	比色い青 比色い青	～4風乾・黒乾・灰白乾 い少乾	黒入品	
713	土器器 尊	口	C	B4AII	-	-	-	丁寧な手子でハケム	斜・縦ハケム	比色い青 比色い青	黒乾/黒乾・灰白乾乾 黒乾		
714	土器器 樽	腹	C	B4AII	-	-	-	縦ハケム/横ナデ	横ハケム	比色い青 比色い青	黒乾/黒乾・灰白・黒乾乾含む	布留系(横紋土器)	
715	土器器 鉢	口	C	B4CII	-	-	-	横ナデ/器縁の縦線乾 状況をも一段に黒文	横工器具ナデ	比色い青 比色い青	黒乾/黒乾・赤乾・黒乾・光沢乾 乾		
716	土器器 鉢	口	C	B4CII	-	-	-	横ナデ/器縁縦線状文	横工器具ナデ	比色い青 比色い青	～1赤乾乾		
717	土器器 二重口縁壺?	腹	C	B4AII	-	-	-	調整不明	調整不明	比色い青 比色い青	～2風乾・黒乾・透明光沢乾・赤乾を含む	器形不明	
718	土器器 二重口縁壺	狭一腹	C	B4BII	-	-	-	ハケム途中にココナデ/滑し 縦線縦線状文/スス付着	横ナデ/コビオサエ/黒文	赤黒 赤黒	～2灰白・1黒乾・赤黒乾・赤黒乾を含む	黒入土器(第四因素?)	
719	土器器 二重口縁壺	口一腹	C	B4BII	-	-	-	横ナデ/ハケム後横ナデ	横ナデ	比色い青 比色い青	～4数直乾・～灰白乾・～2 黒乾	黒入/外赤黒・器縁の縦線 がコナデ(黒文)	
720	土器器 樽	狭一腹	C	B4C/DII	-	-	-	横ナデ/縦・横ハケム/ス ス付着	横工器具ナデ/縦・横ハケム	比色い青 比色い青	～1灰白・黒・黒・透明・黒乾乾 乾多/金雲母乾	黒入/黒赤黒?799同一 器種か?	
721	土器器 鉢	口一底	C	B4BII	15.8	-	-	横ナデ/斜ハケム	横ナデ/コビオサエ/ハケ ム後ナデ	比色い青 比色い青	～2風乾・黒・黒乾乾含む/黒 乾乾赤赤・透明光沢乾		
722	土器器 鉢	口一腹	C	B4BII	-	-	-	工具押し引き乾	横工器具ナデ	比色い青 比色い青	～4赤乾・黒乾・黒乾乾 灰白乾乾		
723	土器器 鉢	口一腹	C	B4CII	13.6	-	-	横工器具ナデ/縦ヘラミガ キ	同心円状のヘラミガキ	比色い青 比色い青	～2灰乾・赤乾・黒乾・灰白乾 乾	洗の目/縦線乾/布留系	
724	土器器 ヒトチャップ 小皿	狭一底	C	B4DII	-	1.7	-	工器具ナデ	コビオサエ	比色い青 比色い青	～3風乾・赤乾赤乾・～2灰白 乾	器面に神杖工具による縦 線	
725	土器器 小皿	口一腹	C	B5AII	規定 18.4	-	-	コビオサエ/ナデ	コビオサエ/斜ハケム	黒 黒	～4風乾・黒乾乾含む/～2透 明光沢乾・赤乾赤乾乾		
726	土器器 樽	腹	C	B5AII	-	-	-	斜・縦ハケム	斜ハケムナデ	比色い青 比色い青	～2黒乾乾・灰白乾・～1数直 赤乾乾	布留系(黒入品)	
727	土器器 小皿	口	C	B5DII	-	-	-	斜ハケム	調整不明	比色い青 比色い青	～2風乾・黒乾乾多		
728	土器器 二重口縁壺	口	C	B6CII	規定 16.8	-	-	横工器具ナデ/器付突	横工器具ナデ	比色い青 比色い青	黒乾/灰白乾・黒乾乾・光沢乾 乾	外赤系(粘土土器)	
729	土器器 樽	口	C	B-BII	-	-	-	横工器具ナデ	横工器具ナデ	比色い青 比色い青	黒乾/灰白乾・赤乾乾・透明乾 乾	口唇部二重の凸線	
730	土器器 鉢	口	C	B6DII	-	-	-	横ナデ/器付突着/縦線 縦線縦線状文/斜ミガ キ	調整不明	比色い青 比色い青	～2風乾乾・灰乾乾・黒乾乾 透明光沢乾乾		
731	土器器 高杯	腹	C	B6CII	-	-	-	斜・縦ミガキ/横ナデ	横ナデ	比色い青 比色い青	～2比色い青・赤乾乾・黒乾乾 乾・光沢乾乾		
732	土器器 樽	口	C	B7BII	-	-	-	横ナデ/多方向ハケム	ナデ後横ハケム	比色い青 比色い青	～3灰白乾・赤乾赤乾乾	布留系(黒入品?)/732と 同一器種	
733	土器器 樽	腹	C	B7BII	-	-	-	ハケム後横ナデ/斜ハケム	横ナデ/ナデ	比色い青 比色い青	黒乾乾赤赤乾・光沢乾・灰白 乾乾	布留系(黒入品?)/732と 同一器種	
734	土器器 樽	口	C	B7BII	-	-	-	多方向のハケム	多方向のハケム後手子ナ デ	比色い青 比色い青	～2数直乾・～1光沢乾・灰 白乾	布留系(黒入品?)	
735	土器器 樽	口	C	B7C	-	-	-	縦平打タケ	横ナデ	比色い青 比色い青	～2黒乾乾・赤乾乾		
736	土器器 樽	口一腹	C	B7BII	規定 11.3	-	-	横ナデ/縦・斜ハケム	ナデ	比色い青 比色い青	～3比色い青・黒乾乾・灰乾 乾乾	V形(四割2割)/在家の 器	
737	土器器 集合口縁壺	口	C	B7BII	-	-	-	横ナデ/器縁縦線状文	横ナデ	比色い青 比色い青	～2灰白乾・透明光沢乾・黒 乾乾		
738	土器器 高杯	坪	C	B7BII	-	-	-	縦ヘラミガキ乾	調整不明	比色い青 比色い青	黒乾/黒乾乾・光沢乾乾	外赤黒赤赤を出している? /地元産/器縁後半	
739	土器器 高杯	腹	C	B7CII	-	-	-	縦ミガキ	調整不明	比色い青 比色い青	～3黒乾・黒乾乾・灰白乾多 赤乾乾		
740	土器器 高杯	口	C	B7CII	規定 20.0	-	-	器杖工具による縦線乾 突文/横ヘラミガキ	横・縦工器具ナデ	比色い青 比色い青	～2赤乾乾・比色い青乾多 赤乾乾		
741	土器器 鉢	狭一底	C	B7AII	-	-	-	丁寧な手子/4角の縦線乾 縦・黒文	丁寧な手子	比色い青 比色い青	黒乾/黒乾乾・赤乾赤乾・透明 乾乾含む		
742	土器器 鉢	口	C	B7BII	規定 17.6	-	-	横ナデ/斜ハケム	調整不明	比色い青 比色い青	～3風乾乾・比色い青乾含む 乾		
743	土器器 樽	口	C	B7CII	規定 11.8	-	-	縦ミガキ/多方向ミガキ	縦・横ミガキ	比色い青 比色い青	～2風乾乾・灰白乾・透明光 沢乾乾		
744	土器器 樽	口一腹	C	B7BII	-	-	-	斜ハケム後横ナデ/調整 横ナデ	横ナデ/縦ヘラミガキ後 ナデ	比色い青 比色い青	～2灰白乾・黒乾乾	布留系小皿型/小型のA系 類/黒入品?	
745	土器器 ヒトチャップ	口一底	C	B7BII	7.9	-	4.1	ナデ/コビオサエ	コビオサエ	比色い青 比色い青	～4風乾乾・黒乾乾		
746	土器器 樽	口一底	C	B7DII	-	-	-	縦・斜ハケム/黒文	斜工器具ナデ	比色い青 比色い青	黒乾赤乾乾・黒乾乾乾	器面に貫通孔	
748	土器器 樽	口一腹	C	C4A/D	-	-	-	横工器具ナデ	斜工器具ナデ	比色い青 比色い青	黒乾/黒乾乾多/～1黒乾乾・黒乾 乾乾含む		
749	土器器 高杯	口	C	C4DII	-	-	-	ナデ/前ミガキ/黒底	斜ミガキ	比色い青 比色い青	～2風乾乾・黒乾乾含む	口唇部に種子窪痕/在赤黒 杯/器縁後半	
750	土器器 樽	口	C	C4DII	規定 10.6	-	-	横ナデ/スス付着	横ナデ	比色い青 比色い青	黒乾/黒乾乾・灰白乾・金雲母乾 乾	布留系/器縁後半/口唇部 凹部へ凸線	
751	土器器 樽	口一腹	C	C5CII	規定 18.1	-	-	横工器具ナデ/横ハケム	横工器具ナデ/ケズリ	比色い青 比色い青	～3風乾乾・赤乾乾		
752	土器器 樽	狭一腹	C	C5DII	-	-	-	斜ハケム後横工器具ナデ滑 し/スス付着	コビオサエ/粘土の上の滑 し	比色い青 比色い青	～1灰乾乾・黒乾乾・赤乾乾少 黒乾乾	器縁後半	
753	土器器 二重口縁壺	口一腹	C	C5AII/ B4AII	-	-	-	ナデ/ハケム器縁による 縦線乾及び器縁縦線状文	横ナデ	比色い青 比色い青	～2風乾乾・黒乾乾・黒乾乾乾 乾・赤乾赤乾乾		
754	土器器 二重口縁壺	腹	C	C6DII	-	-	-	ナデ/縦ハケム後横工器具 ナデ	横ナデ/ハケム後横ナデ	比色い青 比色い青	黒乾/黒乾乾・黒乾乾・黒乾乾乾 乾含む	外赤黒系土器	
755	土器器 二重口縁壺	口	C	C5B/C	-	-	-	横工器具ナデ	横工器具ナデ	比色い青 比色い青	～4明赤乾乾・黒乾乾・比色 い青乾乾含む		

階層番号	種別	部位	区	出土位置	造量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調	粘土(数値は±mm)	備考		
					口径	底径	高さ	外面	内面					
756	土師器 壺	胴	C	CSAⅡ	-	-	-	ナデ/刷削	横工具ナデ/コビオサエ	浅黄褐色	～1赤褐色・褐色斑紋	縁部あり		
757	土師器 壺	口	C	C5CⅡ	-	-	-	横ナデ	ハケメ横ナデ/ケズリ	褐色	～3に深い赤褐色/濃褐色斑紋含む・金雲母散	布容系小形壺/口縁がふくらみ/土師器/山陽系		
758	土師器 壺	底	C	C5CⅡ	-	規定	4.0	斜・横ハケメ/ハケメ横ナデ	斜・横刷削/ハケメ	褐色	～2褐色斑紋・灰褐色・灰白紋	B系統		
759	土師器 浅鉢	胴・底	C	CSAⅡ	-	-	-	横ナデ/刷削/刷削/ハケメ	横工具ナデ/コビオサエ	褐色	～4赤褐色・褐色斑紋・褐色斑紋含む・濃褐色斑紋含む	在来/内面/前期後半		
760	土師器 ミニチュア	底	C	C5DⅡ	-	1.4	-	ナデ/コビオサエ/刷削	ナデ/コビオサエ	褐色	～2灰白色・黒褐色斑紋・赤褐色斑紋			
761	土師器 ミニチュア	底	C	C-DⅡ	-	2.1	-	調整不明	ナデ	褐色	～4灰褐色・褐色斑紋			
762	土師器 壺	口・胴	C	C6AⅡ	規定	16.7	-	ナデ/ハケメ/スチ付番	ハケメ/刷削/ナデ	褐色	～3明褐色斑紋・褐色斑紋			
763	土師器 壺	口・胴	C	C6BⅡ	規定	31.8	-	横ナデ/刷削/ハケメ横ナデ/斜・横ハケメ/スチ付番	横ハケメ/刷削/斜・横ハケメ/刷削/横ナデ	褐色	～3に深い赤褐色・灰褐色斑紋含む/黒褐色斑紋含む			
764	土師器 壺	口・胴	C	C6CⅡ	規定	26.6	-	横ナデ/刷削/横ナデ/スチ付番	横ナデ/ナデ	褐色	～4黒褐色・軟質赤褐色含む/～2濃褐色斑紋			
765	土師器 壺	胴・底	C	C6BⅡ	規定	43.0	-	横ナデ/刷削/ハケメ横ナデ/斜・横ハケメ	横ナデ/刷削/横ナデ/ケズリ/多方向ヘラミガキ	褐色	～3に深い赤褐色・黒褐色斑紋含む/～2明褐色斑紋	在来/内面/編み込み		
766	土師器 壺	口	C	C6BⅡ	規定	18.4	-	ナデ/横ナデ/刷削/ハケメ	ハケメ横ナデ/コビオサエ	褐色	～3褐色斑紋/～1褐色斑紋	布容系/前期後半		
767	土師器 壺	口	C	C6BⅡ	規定	18.6	-	縦・横ミガキ/工具ナデ	斜ミガキ?調整不明	褐色	～3褐色斑紋/～1褐色斑紋	地元/土師		
768	土師器 壺	口	C	C6DⅡ	-	-	-	横ナデ/刷削/横ナデ/横ナデ	横工具ナデ/横ナデ/ハケメ	褐色	～2灰白紋・褐色斑紋含む/濃褐色斑紋	近畿系/口縁部が膨張		
769	土師器 壺	口・胴	C	C6CⅡ	規定	25.8	-	ナデ/刷削/斜・横ハケメ	斜・横工具ナデ	浅黄褐色	～2浅黄褐色・赤褐色斑紋・灰白紋	布容系/黒色土器/地元/土師/Ⅱ式		
770	土師器 複合口縁壺	口	C	C6BⅡ	-	-	-	ハケメ扉の上に横刷削/および横刷削状/上方/2条の筋付相互等	横ナデ	褐色	～3褐色斑紋～2褐色斑紋～1灰白紋			
771	土師器 壺	胴・底	C	C6CⅡ	-	3.9	-	斜・横工具ナデ/ナデ	斜・横工具ナデ	褐色	～4赤褐色斑紋/～3に深い赤褐色斑紋			
772	土師器 高杯	胴	C	C6CⅡ	-	-	-	縦ミガキ	ミガキ/ナデ	褐色	～2褐色斑紋～1褐色斑紋			
773	土師器 高杯	胴	C	C6BⅡ	-	-	-	ミガキ?調整不明	ナデ?調整不明	褐色	～3褐色斑紋含む/～3褐色斑紋			
774	土師器 壺	口	C	C6CⅡ	規定	18.2	-	横ナデ/刷削/工具用刷削/変色/横工具ナデ	ミガキ	褐色	～1褐色斑紋	新発見は1本単位として 発見		
775	土師器 鉢	胴	C	C6BⅡ	-	-	-	横ミガキ/腹面に小さな三角変色	横ミガキ	褐色	～2褐色斑紋・褐色斑紋・褐色斑紋含む			
776	土師器 壺	口	C	C6DⅡ	規定	10.0	-	ナデ/1mm程度の刷削/凹凸ミガキ	斜・横ヘラミガキ	褐色	～1赤褐色斑紋・灰白紋	精製器種の白磁		
777	土師器 小瓶/灰倉	口・胴	C	C6AⅡ	7.6	-	9.0	横ナデ/多方向ミガキ/唇/孔/刷削	横ナデ	褐色	～1灰白紋/～1赤褐色斑紋	地元/黒色土器/腹面中部に内側からの打ち欠き		
778	土師器 ミニチュア	底	C	C6AⅡ	-	-	-	ナデ	ナデ	褐色	～1透明光沢斑紋・灰白紋・褐色斑紋	底面に浅溝入		
780	土師器 壺	口・底	C	CTB/CⅡ	規定	29.2	7.5	34.4	縦・横ハケメ/コビオサエ/スチ付番/刷削	斜・横ハケメ/ナデ/刷削/スチ付番	褐色	～5黒褐色斑紋・褐色斑紋・灰白紋		
781	土師器 壺	口・胴	C	CTCⅡ	規定	17.0	-	-	横工具ナデ/刷削/ハケメ/スチ付番	横工具ナデ/ナデ/刷削/凹凸コビオサエ/変化物少/曇付	褐色	～3赤褐色斑紋・灰白紋・濃褐色斑紋	布容系/西部内河内からの 輸入/薄中/前期後半	
782	土師器 壺	口	C	CTBⅡ	規定	14.7	-	-	横ナデ	横ナデ/刷削	褐色	～3褐色斑紋～2灰白紋～2透明光沢斑紋	布容系/黒色土器/口縁部が内側に拡張/口縁部にごおり/口唇部に浅溝/95A/前期後半	
783	土師器 小瓶	口	C	CTBⅡ	規定	10.2	-	-	ハケメ横ナデ	横ハケメ	黒褐色	濃褐色斑紋・灰白紋・軟質赤褐色含む		
784	土師器 壺	口	C	CTCⅡ	-	-	-	横ナデ/工具ナデ	横ナデ	褐色	～2軟質赤褐色・濃褐色斑紋	布容系		
785	土師器 壺	胴・底	C	CTBⅡ	-	規定	3.0	-	多方向ハケメ/一部黒変色/エー擦痕	多方向ハケメ/コビオサエ	褐色	～4赤褐色斑紋	在来/内面/前期前半	
786	土師器 壺	口	C	CTBⅡ	規定	13.7	-	-	ハケメ横ミガキ	丁寧な横ミガキ	褐色	～1灰白紋～1褐色斑紋・濃褐色斑紋	口縁部下に内側からの打ち欠き	
787	土師器 壺	胴	C	CTAⅡ	-	-	-	多方向ハケメ	多方向ケズリ/横刷削	灰黄褐色	～2灰白紋含む/～1褐色斑紋	布容系/黒色土器/地元の土		
788	土師器 壺	胴・底	C	CTBⅡ	-	5.1	-	-	ケズリ状ハケメ/斜・横ハケメ/スチ付番/刷削	斜・横ハケメ/ナデ/コビオサエ/スチ付番	褐色	～3褐色斑紋/濃褐色斑紋	在来	
789	土師器 壺	胴	C	CTCⅡ	-	-	-	縦・横ハケメ/刷削/ハケメ/横刷削	コビオサエ/斜・横ハケメ	相黄褐色	～3褐色斑紋/～2褐色斑紋/透明光沢斑紋・黒光沢斑紋	片足/黒色土器/コビオサエ/布容系/輸入品/720E同一個体か?		
790	土師器 壺	口	C	CTCⅡ	-	-	-	横ナデ/刷削/ハケメ横ナデ/斜・横ハケメ/横ナデ/刷削	斜・横ハケメ/ケズリ状ナデ	褐色	～1灰白紋・軟質赤褐色	布容系/濃		
791	土師器 長物器?	口	C	CTCⅡ	-	-	-	横刷削の間に凹状の紋	刷削/斜・横ハケメ	浅黄褐色	～2褐色斑紋・褐色斑紋含む			
792	土師器 壺	胴	C	CTBⅡ	-	-	-	横ヘラミガキ/横ハケメの横刷削	表面刷削	浅黄褐色	濃褐色斑紋・灰白紋・透明光沢斑紋	輸入/丸底物か?		
793	土師器 高杯	杯・胴	C	CTBⅡ	規定	31.4	規定	22.5	26.3	横ナデ/横刷削/横ヘラミガキ/横ナデ/横刷削/ヘラミガキ	横ナデ/横刷削/横ヘラミガキ/横ナデ/横刷削/ヘラミガキ	褐色	～2褐色斑紋/～1透明光沢斑紋	黒色土器/1号/口縁部が表面に露出/V形/131(内河2023)
794	土師器 壺	杯・胴	C	CTA/B	-	規定	23.0	-	縦ミガキ/腹面に横刷削/ハケメ	斜・横?丁寧なミガキ	褐色	～3黒褐色斑紋・灰褐色斑紋/～1赤褐色斑紋	5本の縦方向の線刻 高さ7.2cmあまりに達し	
795	土師器 高杯	杯	C	CTCⅡ	規定	17.4	-	-	横ナデ/刷削/ハケメ横ナデ	横ハケメ横ナデ/ヘラミガキ	褐色	～1褐色斑紋	表面部に粘土層が付付/布容系/小形/中野部/イザノ	
796	土師器 高杯	杯	C	CTBⅡ/CTCⅡ	規定	15.6	-	-	横工具ナデ	横工具ナデ	褐色	～3赤褐色斑紋・褐色斑紋含む	片足/黒色土器/土師系/厚中/布容系/前期後半	
797	土師器 高杯	胴	C	CTCⅡ	-	規定	12.3	-	縦・横ヘラミガキ	横工具ナデ	浅黄褐色	～2赤褐色斑紋・灰褐色斑紋		

施設番号	種別	部位	区	出土位置	位置(cm)			手法・調整・文様ほか		色遣		胎土(数土単位:mm)	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	上・内・底 土質・文様	胎土		
798	土器器 高坪	坪	C7BII	-	-	-	削-横ミガキ	削-横ミガキ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	2-2黄 赤黄	1-1白 赤黄	
799	土器器 高坪	堀	C7BII	-	規定 11.8	-	横ナデ	横ナデ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	2-2黄 赤黄	2-2白 赤黄	
800	土器器 香台	口	C7CII	-	-	-	横ナデ/横筋状文	ナデ横ミガキ	黄	黄	1-1黄 赤黄	1-1白 赤黄	
801	土器器 香台	堀	C7BII	-	-	-	調整不明	調整不明	黄	黄	2-2黄 赤黄	赤黄	黒化著しい 透かしが残り
802	土器器 香台	堀	C7BII	-	-	-	横へろミガキ	多方向工具ナデ	黄	黄	1-1赤黄 赤黄	赤黄	透かしが残り
803	土器器 香台	堀	C7CII	-	-	-	横ナデ/横ミガキ	横ミガキ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	2-2黄 赤黄	2-2赤黄 赤黄	黒化著しい
804	土器器 香台	堀	C7CII	-	-	-	多方向ハケメ	ナデ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	2-2黄 赤黄	1-1赤 赤黄	
805	土器器 香台	口-堀	C7CII	規定 12.6	-	-	横ナデ/削-横へろミガキ/黒	削-横ナデ/横へろミガキ/黒	黄	黄	1-1黄 赤黄	赤黄	実証意味の丸透かし/胎土 品?/内底面/前期前半
806	土器器 鉢	堀-堀	C7BII	-	-	-	ナデ/ハケメ後へろミガキ	ミガキ?調整不明	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	2-2黄 赤黄	赤黄	丸筋跡
807	土器器 鉢	口-堀	C7CII	規定 33.4	規定 1.7	規定 4.7	横ナデ/削-横ハケメ/ハケメナデ	横ハケメ/ハケメナデ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	2-2黄 赤黄	2-2赤黄 赤黄	
808	土器器 鉢	堀	C7AII	-	-	-	横ミガキ/コビヤセ	ナデ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	1-1黄 赤黄	1-1黄 赤黄	
809	土器器 ヒョウ	堀	C7AII	-	3.1	-	ナデ	ナデ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	2-2黄 赤黄	1-1白 赤黄	突出し/底面/裏面 丸筋跡
810	土器器 不明	不明	C7BII	-	規定 9.7	-	横へろミガキ/黒/ス 付	ナデ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	3-3黄 赤黄	3-3赤黄 赤黄	外底面 丸筋跡
811	土器器 壺	口-堀	C8DII	規定 31.0	-	-	横ナデ/削-横ミガキ/黒	コビヤセ/削-横ミガキ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	4-4黄 赤黄	3-3赤黄 赤黄	意匠的な縁部
812	土器器 壺	口-堀	C8CII	規定 27.8	-	-	胎付安等の痕跡/浅い文	横ナデ/黒	黄	黄	2-2黄 赤黄	赤黄	黒化/佐土系統
813	土器器 壺	口-堀	C8BII	規定 11.8	-	-	横ナデ/削-横ミガキ	ハケメ/削-横ミガキ	黄	黄	1-1赤黄 赤黄	1-1白 赤黄	布痕系
814	土器器 壺	口	C8BII	-	-	-	横ナデ後縁部状文/横 ナデ	横ナデ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	1-1黄 赤黄	1-1黄 赤黄	口縁部状?
815	土器器 高坪	堀	C8BII	-	-	-	横へろミガキ/黒	ナデ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	3-3黄 赤黄	3-3赤黄 赤黄	透かしが残り/透かしが 残り
816	土器器 香台	口	C8CII	規定 21.7	-	-	横ナデ/ハケメ後ろミガキ	ハケメ横ナデ/ミガキ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	2-2黄 赤黄	2-2赤黄 赤黄	
817	土器器 餅付鉢	堀	C8BII	-	11.4	-	削-横ミガキ/削-横ミガキ 一部スガキ	ナデ/横ナデ/横ミガキ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	1-1黄 赤黄	1-1黄 赤黄	地元の土/厚みナツリ/内 底ナツリ/胎土ナツリ
818	土器器 壺	口-堀	C9CII	規定 14.5	-	-	横ナデ/削-横ミガキ/黒	横ミガキ/削-横ミガキ/多 方向ナデ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	4-4黄 赤黄	4-4赤黄 赤黄	9年産型/口縁部コビヤセ 無し/胎土
819	土器器 鉢	口-堀	D5DII	規定 9.8	-	-	コビヤセ横ナデ	コビヤセ横ナデ	黄	黄	3-3黄 赤黄	2-2黄 赤黄	1-1 赤黄
820	土器器 壺	堀	D6AII	-	-	-	削-ハケメ/横筋	削-横ミガキ	黄	黄	1-1赤黄 赤黄	1-1白 赤黄	
821	土器器 高坪	堀	D6AII	-	-	-	横へろミガキ	削-横ミガキ	黄	黄	1-1白 赤黄	赤黄	
822	土器器 ヒョウ	口-堀	D6AII	6.4	-	-	ナデ/削-横ミガキ/コビヤセ	横ミガキ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	1-1黄 赤黄	1-1黄 赤黄	底部に貫通孔
823	土器器 ヒョウ	堀-堀	D7II	-	-	-	横ナデ/横筋胎付安/横 筋	横ナデ/削-横ミガキ/コビヤセ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	2-2黄 赤黄	2-2黄 赤黄	
824	土器器 壺	堀-堀	D7DII	-	-	-	横ナデ/ハケメ後縁ナ デ/削-ハケメ	削-横ミガキ	黄	黄	2-2赤黄 赤黄	1-1白 赤黄	布痕系/横筋/胎土/地元の 土
825	土器器 香台	堀	D9CII	-	-	-	調整不明	ハケメ横ナデ	黄	黄	4-4黄 赤黄	3-3赤黄 赤黄	透かしが残り
826	土器器 高坪	口-堀	SA1-B	-	-	-	横ナデ/横筋/ス付	横ナデ/削-横ミガキ/ス 付	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	2-2黄 赤黄	2-2赤黄 赤黄	透かしが残り
827	土器器 壺	堀-堀	E9	-	3.7	-	上方向ハケメ	コビヤセ横筋ナデ	黄	黄	4-4黄 赤黄	3-3赤黄 赤黄	
828	土器器 高坪	坪	E9	-	-	-	横ミガキ	横ナデ	黄	黄	3-3黄 赤黄	1-1白 赤黄	
987	縄文 深鉢	口	SC20	-	-	-	横筋胎付安/横筋胎 付安	横ナデ	黄	黄	2-2黄 赤黄	2-2赤黄 赤黄	意匠的な縁部
988	縄文 深鉢	口-堀	SC20	-	-	-	横ナデ/横筋胎付安	横ナデ/横筋	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	3-3黄 赤黄	3-3赤黄 赤黄	口縁部に斜形/意匠的な 筋
989	縄文 深鉢	口	SC20	-	-	-	横ナデ/横筋胎付安	横ナデ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	1-1白 赤黄	1-1白 赤黄	意匠的な 筋
990	縄文 深鉢	口	II-13-20- 42-55	-	-	-	横ナデ/横筋胎付安 の複製文	横ナデ/削-横ミガキ/コビヤセ	黄	黄	3-3黄 赤黄	1-1白 赤黄	管型式
991	縄文 深鉢	口-堀	II-147	-	-	-	横ナデ/削-横ミガキ 具状複製文	横ナデ/削-横ミガキ 具状複製文/コビヤセ	黄	黄	1-1黄 赤黄	1-1黄 赤黄	管型式
992	縄文 深鉢	口	A4B	-	-	-	横筋胎付安/横筋胎 付安	横筋胎付安	黄	黄	1-1黄 赤黄	1-1黄 赤黄	管型式
993	縄文 深鉢	口	D9AII	-	-	-	胎付安/横筋胎付安	横筋胎付安/ナデ	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	2-2黄 赤黄	2-2赤黄 赤黄	
994	縄文 深鉢	口	C7DII	-	-	-	ナデ/横筋胎付安	横筋胎付安	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	3-3黄 赤黄	2-2赤黄 赤黄	
995	縄文 深鉢	口	SE4	規定 9.8	-	-	横ナデ/削-横筋胎付安	横筋胎付安	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	1-1白 赤黄	1-1白 赤黄	
996	縄文 深鉢	口	C7CII	-	-	-	胎付安	胎付安	い-い黄 い-い黄	い-い黄 い-い黄	1-1黄 赤黄	1-1黄 赤黄	
997	縄文 深鉢	堀	D7BII	-	-	-	横筋胎付安	ナデ	黄	黄	1-1黄 赤黄	1-1黄 赤黄	

陶器 番号	種別 器種	部位	区	出土位置	寸量(cm)			手法・調整・文様ほか		色澤	胎土(数値はmm)	備考	
					口径	底径	高さ	外面					内面
								上底・外底	下底・内底				
998	縄文 深鉢	胴	C	C7AⅡ	-	-	-	横線(粘土の粘付)/ナデ	ナデ/横条文	にじい青	～1透明光沢・黒光沢・白粒多		
999	縄文 深鉢	口	C	C7BⅡ	-	-	-	ナデ/漆黒粘付突帯	横ナデ	にじい青	～3黒粒多/～2透明光沢・黒光沢	鼓状口縁	
1000	縄文 深鉢	口	C	A4BⅡ	-	-	-	ナデ	工具ナデ	にじい青	～4黒粒・白粒含む/磨細透明光沢	春日式	
1001	縄文 深鉢	口	C	腰直虎形	-	-	-	斜・横・縦条文/貝殻の面・横線付突帯	貝殻条文	にじい青	～4白粒多/～3赤黒粒少/～3黒粒含む	春日式	
1002	縄文 深鉢	口	C	SC14	-	-	-	横・縦・斜線文/ナデ/短穴縁文	ナデ	にじい青	～2透明光沢・～1白粒含む/～2透明光沢	春日式/口唇部に磨細あり	
1003	縄文 深鉢	口	C	D5DⅡ	-	-	-	キムロ/横ナデ	横ナデ	にじい青	～3乳白粒少/磨細透明光沢	春日式	
1004	縄文 深鉢	口	C	SA3-D	-	-	-	ナデ/工具ナデ	横ナデ	にじい青	～1乳白粒少/磨細透明光沢	春日式/口唇部に押痕	
1005	縄文 深鉢	口	C	B7AⅡ	-	-	-	横線付突帯/新文文/新条文	横条文	にじい青	～2白粒・縦線透明光沢	春日式	
1006	縄文 深鉢	口	C	A5BⅡ	-	-	-	ナデ/新文文/貝殻条文	横ナデ/貝殻条文/ナデ消し	にじい青	～1白粒少/磨細透明光沢	鼓状の可能性もあり	
1007	縄文 深鉢	口	C	SE8	-	-	-	横筋新文/斜・貝殻条文/凹み	横貝殻条文	にじい青	～1透明光沢・白粒多	背之造式/口唇部に斜削目	
1008	縄文 深鉢	口	C	SC15	-	-	-	横穴縁文/扇形新文/斜・貝殻条文/ナデ/工具文	横貝殻条文/扇形	灰黒	～2洗炭粒・灰白粒・焼戻粒・透明光沢	穿孔あり	
1009	縄文 深鉢	胴	C	SC14	-	-	-	縦筋目/横筋新文/横穴縁文/ナデ	ナデ	にじい青	～1透明光沢・白粒含む		
1010	縄文 深鉢	口	C	A2CⅡ	-	-	-	新目/横ナデ	横工具ナデ	にじい青	～1透明粒少/～2黒光沢	口唇部に斜削目	
1011	縄文 深鉢	口	C	D9AⅡ	-	-	-	管状工具刺突文/ナデ	ナデ	にじい青	～3白粒多/～3黒光沢	背之造式	
1012	縄文 深鉢	口～胴	C	A4BⅡ/ B5AⅡ	-	-	-	短穴縁文/横筋目	横ナデ	にじい青	～1乳白粒少・黒粒・金粒	背之造式/鼓状口縁/穿孔あり	
1013	縄文 深鉢	口	C	A4CⅡ	-	-	-	斜・横ナデ/凹線文/斜・新文	横ナデ/短穴縁	にじい青	～1透明光沢・黒光沢	背之造式/鼓状口縁/口唇部に斜削目	
1014	縄文 深鉢	口	C	A4CⅡ	-	-	-	新目/短穴縁文/横ナデ	横ナデ/短穴縁	にじい青	～2透明光沢/～2黒光沢	背之造式/口唇部に斜削目	
1015	縄文 深鉢	胴	C	A4CⅡ	-	-	-	横筋目/横ナデ/横ナデ/凹線文	横ナデ/短穴縁	にじい青	～5黒粒・～3透明粒・～2黒光沢・～3白粒	背之造式	
1016	縄文 深鉢	口	C	SC2-B	-	-	-	横ナデ/凹線文	短穴縁/スス付磨	にじい青	～2光沢・～1黄粒・白粒	背之造式	
1017	縄文 深鉢	口	C	SA1-B	-	-	-	ナデ/子線斜削目/凹線文/ナデ	ナデ/短穴縁	にじい青	～2透明光沢・黒光沢・磨細透明光沢	背之造式/口唇部に斜削目	
1018	縄文 深鉢	口	C	赤ハタケ	-	-	-	ナデ/凹線文/横筋目	ナデ	灰黒	～1透明光沢・半透明粒・白粒・黒粒	背之造式/口唇部に斜削目	
1019	縄文 深鉢	口	C	D6AⅡ	-	-	-	ナデ/短穴縁文/斜・貝殻条文	ナデ	にじい青	～磨細透明光沢/～3透明粒・焼粒・～1白粒	背之造式/口唇部に斜削目	
1020	縄文 深鉢	胴	C	SA2-B	-	-	-	横・短穴縁文/ナデ	横ナデ/スス付磨	にじい青	～2透明粒・白粒・磨細透明光沢	背之造式	
1021	縄文 深鉢	口	C	D6AⅡ	-	-	-	ナデ/短穴縁文	横ナデ	洗炭	～2白粒・灰粒・透明光沢	背之造式/鼓状口縁	
1022	縄文 深鉢	口	C	D5AⅡ	-	-	-	ナデ/短穴縁文/穴縁文	横ナデ	にじい青	～3白粒多/～3黒粒含む/～3黒光沢	背之造式	
1023	縄文 深鉢	口	C	赤ハタケ	-	-	-	凹線文/斜ナデ/スス付磨	横貝殻条文/ナデ消し	にじい青	～3赤黒粒・～1半透明粒・洗炭粒	背之造式/口唇部に押痕	
1024	縄文 深鉢	口	C	SE8	-	-	-	横穴縁文/ナデ/新文文/横筋目	ナデ/短穴縁	にじい青	～3透明光沢・～2黒光沢・半透明粒・～1白粒含む	背之造式/口唇部にナデ	
1025	縄文 深鉢	口～胴	C	A4CⅡ/ A4BⅡ	-	-	-	横筋目	ナデ/短穴縁	洗炭	～1透明光沢・半透明粒含む/～2黄粒・黒粒	背之造式	
1026	縄文 深鉢	口	C	A4BⅡ	-	-	-	穴縁文/斜・横ナデ	横ナデ/横貝殻条文/ナデ消し	にじい青	～3赤黒粒・半透明粒・洗炭粒・～1灰白粒	背之造式/管状の口唇部に凹み	
1027	縄文 深鉢	胴(腹)	C	A4CⅡ	-	-	-	ナデ/穴縁文	横ナデ	灰黒	～3白粒多/～2洗炭透明光沢	背之造式	
1028	縄文 深鉢	口	C	A4BⅡ	-	-	-	不規則な穴縁文/横ナデ	横ナデ/斜・横筋目/条文/ナデ消し	洗炭	～4磨細透明光沢・～3洗炭粒・灰白粒含む	背之造式	
1029	縄文 深鉢	口	C	SA6-C	-	-	-	横ナデ/新文文/横ナデ/穴縁文	横ナデ	にじい青	～2黒粒・灰粒・磨細透明光沢	市家式か?口唇部に磨細する	
1030	縄文 深鉢	口	C	C9AⅡ	-	-	-	横筋目/横条文/斜・貝殻条文/斜・新文/ナデ	貝殻条文	にじい青	～2黒粒・白粒・透明光沢	丸尾式	
1031	縄文 深鉢	口	C	SA3-A	-	-	-	斜・貝殻条文/丁字ナデ	工具底	にじい青	～1乳白粒・透明光沢	丸尾式	
1032	縄文 深鉢	胴	C	SC8	-	-	-	横筋目/横筋目/新文文/ナデ	横ナデ	にじい青	～1乳白粒・透明光沢	丸尾式	
1033	縄文 深鉢	胴	C	SA8	-	-	-	斜・貝殻条文	横貝殻条文	洗炭	～4黒粒・～1透明粒	丸尾式か?	
1034	縄文 深鉢	口	C	C6DⅡ	-	-	-	穴縁文/斜・横筋目/凹線文/斜・横ナデ	横工具ナデ	にじい青	～2白粒多/磨細透明光沢	磨細文	
1035	縄文 深鉢	口	C	SA4-B	-	-	-	穴縁文/斜・凹線文	斜・横ナデ/工具底	洗炭	～1白粒・透明粒少/～1金粒・赤土粒	磨細文	
1036	縄文 深鉢	口～胴	C	D9AⅡ	-	-	-	横穴縁文/斜・貝殻条文/新文文/斜・横ナデ	斜・横ナデ/管状物付磨	洗炭	～1灰白粒・赤黒粒	磨細文	
1037	縄文 深鉢	口	C	SA2-B	-	-	-	縦文/穴縁文/短穴縁文	斜・横ナデ	洗炭	～2にじい青粒・焼戻粒・光沢	磨細文	

機軸番号	類別 器種	部位	区	出土位置	寸法(cm)			手法・調整・文様ほか		色遣		胎土(数値単位mm)	備考
					口径	底径	高さ	外面	内面	上・下・内外 の区別	胎土		
1038	縄文 陶器	口	C	SA2-B	-	-	-	新・鏡子	足付突帯/新・鏡子/新・鏡子/高麗	口:白 底:白	~2灰白粒・透明粒・光沢粒 無	黒色磨研	
1039	縄文 陶器	胴	Ⅰ	SA1-B	-	-	-	鏡子	鏡子/新・鏡子/高麗	底面 厚面	~白粒・透明光沢粒含む	磨製式か?	
1040	縄文 陶器	口	C	B7B	-	-	-	鏡子	鏡子	底面	無透明光沢粒・黒光沢粒	黒色磨研	
1041	縄文 陶器	口	C	SA1	-	-	-	鏡子/鏡子	鏡子	底面	無透明光沢粒含む	黒式か?	
1042	縄文 陶器	胴	C	SA2-B	-	-	-	リボム状突起/鏡子	鏡子	底面/厚面	~3黒戻粒・灰白粒含む/1赤戻粒・半透明粒・光沢粒		入土式か?
1043	縄文? 陶器	口	Ⅰ	D5D	規定 20.4	-	-	足付突帯/鏡子	ナリ/鏡子	底面	~1透明光沢粒・~3半透明 粒・黒光沢粒・灰粒・黒粒・白 戻粒含む		
1044	縄文 陶器	口	Ⅰ	D5D	-	-	-	足付突帯/鏡子	鏡子	底面	~1透明光沢粒・~2白粒含む		
1045	縄文 陶器	口	C	A2C	規定 13.5	-	-	足付前目突帯/鏡子	鏡子	底面	~3透明光沢粒・~1白 粒		
1046	縄文 陶器	胴	C	DSA	-	-	-	新・鏡子/足付前 目突帯	多方向工具	底面	~2黒粒少/1光沢粒・灰 粒・黒粒		
1047	縄文 陶器	口	Ⅰ	C8A	-	-	-	短尻鏡文/鏡子	新・鏡子	底面	~1灰白粒・半透明粒・光沢 粒		
1048	縄文 陶器	口	Ⅰ	C8A	-	-	-	短尻鏡文/鏡子	鏡子	底面	~1灰白粒・灰戻粒・透明粒 含む		
1049	縄文 陶器	胴	C	D10A	-	-	-	磨製工具による穴跡	鏡子	底面	無透明光沢粒少/黒光 沢粒含む		
1050	縄文 陶器	口	C	B5A	-	-	-	鏡子/鏡子	鏡子	底面	無透明光沢粒		
1051	縄文 陶器	口	C	A4-B-II	規定 10.4	-	-	新鏡子	鏡子	底面	~無透明粒・白粒多/1黒 戻粒/1半透明/3白粒	口唇部にキズ	
1052	縄文 陶器	口	C	A2C	-	-	-	丁字ナリ/鏡子	ナリ	底面	~1白粒・無透明光沢粒 少	破状口縁	
1053	縄文 陶器	口	C	キ9	-	-	-	新・鏡子	ナリ	底面	~4灰粒・~2白粒・黒粒・ 光沢		
1054	縄文 陶器	胴	C	鏡区外	-	-	-	鏡子	鏡子	底面	無透明光沢粒・黒光沢粒 少		
1055	縄文 陶器	口	C	C5C	-	-	-	鏡子	鏡子	底面	~3黒粒多/3白粒	口唇部に押圧	
1056	縄文 陶器	口	C	C5A	-	-	-	鏡子	鏡子	底面	~1白粒少/無透明光沢 粒	口唇部に押圧	
1057	縄文 陶器	口	Ⅰ	D8A	-	-	-	鏡子	鏡子	底面	~1白粒少/無透明光沢粒 多/2黒 粒・黒粒		
1058	縄文 陶器	胴	C	D6B	-	-	-	新・鏡子	鏡子	底面	~2白粒多/1透明光 沢粒少/無透明光 沢粒		
1059	縄文 陶器	胴	C	C5B	-	-	-	鏡子	鏡子	底面	無透明光沢粒/無透明 光沢粒		
1060	縄文 陶器	底	C	B5A	-	-	-	鏡子	鏡子	底面	~1透明光沢粒/1白 戻粒含む		
1061	縄文 陶器	底	C	B5B	-	規定 9.3	-	鏡子	鏡子	底面	~1透明光沢粒/1白 戻粒含む		
1062	縄文 陶器	底	C	A4C	-	規定 7.0	-	鏡子	鏡子	底面	~3白粒・洗滌粒・灰白 粒・半透明粒		
1063	縄文 陶器	底	C	SA2-B/ C6B	-	規定 11.6	-	鏡子	鏡子	底面	~3白粒・黒粒・~2透明 光沢粒含む	底部外側に削代	
1064	縄文 陶器	底	C	SA11-C/ SA2-C	-	規定 9.8	-	鏡子	鏡子	底面	~2白粒・黒粒多/1透明 光沢粒 含む	底部外側に削代	
1065	縄文 陶器	底	C	SA2-B	-	規定 8.9	-	ナリ	鏡子	底面	~1透明光沢粒・半透明 粒・白 戻粒	底部外側に削代	
1132	縄文 陶器	胴	C	SI12/ SI12	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~2白粒・黒粒多/2透明 光沢 粒	下割式	
1133	縄文 陶器	胴	C	SI12	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~3白粒・灰粒含む/2黒 粒	山形押型	
1134	縄文 陶器	胴	C	SI14	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~3白粒多/2灰粒 少	黒化着色/辻タイプ	
1135	縄文 陶器	胴	C	SC21	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~3白粒含む/1無透明 光 沢粒少/2黒粒	下割式	
1136	縄文 陶器	胴	C	SC22	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~1白粒少/2黒粒・無 透明 光沢	下割式	
1137	縄文 陶器	胴	C	SC22	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~1白粒・無透明光 沢 粒	下割式	
1138	縄文 陶器	胴	C	SC45	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~1白粒・無透明光 沢 粒	下割式	
1139	縄文 陶器	胴	C	SC47	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~3白粒多/5黒粒含む/1 透明 光沢	山形押型	
1140	縄文 陶器	胴	C	SC55	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~2白粒多/1黒粒含む/1 透明 光沢	下割式	
1141	縄文 陶器	口	Ⅰ	SC55	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~4透明光沢・白粒 多		
1143	縄文 陶器	胴	C	SC61/ SC69	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~3黒粒・2白粒含む/2 透明 光沢	下割式	
1144	縄文 陶器	口	Ⅰ	SC69-1	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~4灰粒多/1白粒含む/ 2黒 光沢	下割式	
1145	縄文 陶器	底	C	SC69-1	-	規定 8.0	-	ナリ	鏡子	底面	無透明光沢粒		
1146	縄文 陶器	口	C	SC69	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~5白粒・灰粒・~3透明 光 沢	破状口縁/山形押型	
1147	縄文 陶器	胴	C	SC69/ B3V-7637	-	-	-	ナリ	鏡子	底面	~3白粒・~3灰粒・~2 透明 光沢		

編制番号	種別	部位	区	出土位置	寸法(cm)			重量(g)	手法・調整・文様ほか	色部		胎土(数単位2mm)	備考
					口径	底径	器高			外面	内面		
1190	縄文 弥生	胴	C	B3V/D3V	-	-	-	約50g	横丁字女子	灰青	白	約100g	別府式
1191	縄文 弥生	胴	C	B3V	-	-	-	横条状	丁字女子	灰青	白	約100g	別府式
1192	縄文 弥生	胴	C	B3V	-	-	-	約50g	横丁字女子	灰青	白	約100g	別府式
1193	縄文 弥生	胴	C	A2V	-	-	-	約50g	丁字女子	灰青	白	約100g	別府式
1194	縄文 弥生	胴	C	A3V	-	-	-	約50g	多方向女子	灰青	白	約100g	別府式
1195	縄文 弥生	口～底 付足	C	C9V/C10V	高さ 19.9	-	-	丁字女子/縦・横具 敷線刻文	指環/横丁字	灰青	白	約100g	別府式/底付/口唇に 丁字女子
1196	縄文 弥生	口～胴	C	A5V	高さ 26.6	-	-	横丁字/縦・横具敷 線刻文	横線/ナリ/ナリ/コビエ サエ	灰青	白	約100g	別府式
1197	縄文 弥生	口～口 付足	C	A5V	-	-	-	横丁字/縦・横具敷 線刻文	横へうし女子	灰青	白	約100g	別府式/穿孔あり
1198	縄文 弥生	口～胴	C	C5V	-	-	-	丁字女子/縦・横具敷 線刻文	ナリ	灰青	白	約100g	別府式
1199	縄文 弥生	口～胴	C	B6V	-	-	-	ナリ/縦具敷線刻文/ 彫刻文	横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1200	縄文 弥生	口	C	A4V	-	-	-	横丁字/縦・横具敷 線刻文	縦・横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1201	縄文 弥生	口～口 付足	C	B5V	-	-	-	横丁字/縦具敷線刻文 /穿孔あり	横へうし女子	灰青	白	約100g	別府式
1202	縄文 弥生	口～胴	C	B5V	-	-	-	縦・横具敷線刻文	ナリ	灰青	白	約100g	別府式/穿孔あり
1203	縄文 弥生	口	C	C4V	-	-	-	縦・横具敷線刻文	ナリ/指環	灰青	白	約100g	別府式
1204	縄文 弥生	口	C	C4V	-	-	-	丁字女子/斜刻文/ スス付着	ナリ	灰青	白	約100g	別府式
1205	縄文 弥生	口	C	C4V	-	-	-	縦・横具敷線刻文	縦具敷線刻文	灰青	白	約100g	別府式
1206	縄文 弥生	口	C	C4V	-	-	-	斜刻文/スス付着	斜ナリ/指環	灰青	白	約100g	別府式
1207	縄文 弥生	口	C	A3V	-	-	-	横丁字/斜具敷線刻文	横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1208	縄文 弥生	胴	C	C5V	-	-	-	縦・横具敷線刻文/ 彫刻	横丁字/黒瓦	灰青	白	約100g	別府式
1209	縄文 弥生	胴	C	A5V	-	-	-	縦具敷線刻文	横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1210	縄文 弥生	胴	C	B4V	-	-	-	縦具敷線刻文	斜ナリ	灰青	白	約100g	別府式
1211	縄文 弥生	胴	C	B5V	-	-	-	縦具敷線刻文	横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1212	縄文 弥生	胴	C	B6V	-	-	-	縦具敷線刻文	横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1213	縄文 弥生	胴	C	C4V	-	-	-	縦具敷線刻文	横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1214	縄文 弥生	胴	C	A4V	-	-	-	縦具敷線刻文	横へうし女子	灰青	白	約100g	別府式
1215	縄文 弥生	胴	C	B6V	-	-	-	縦具敷線刻文/黒瓦	横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1216	縄文 弥生	胴	C	B4V	-	-	-	縦具敷線刻文/黒瓦	横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1217	縄文 弥生	胴	C	C4V	-	-	-	横線刻文	スス付着	灰青	白	約100g	別府式
1218	縄文 弥生	胴下部	C	C4V	-	-	-	横線刻文/縦具敷線刻文/ 横丁字	ナリ/指環	灰青	白	約100g	別府式
1219	縄文 弥生	胴	C	A2V	-	-	-	縦具敷線刻文/斜刻文	ナリ	灰青	白	約100g	別府式
1220	縄文 弥生	口～胴	C	B6V	-	-	-	丁字女子/多方向具敷 線刻文	斜・横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1221	縄文 弥生	口～胴	C	B6V	-	-	-	斜・横具敷線刻文/ スス付着	斜・横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1222	縄文 弥生	口付足 ～胴	C	D5V	-	-	-	斜・横刻文	丁字女子/コビエサエ	灰青	白	約100g	別府式
1223	縄文 弥生	口付足 ～胴	C	A5V	-	-	-	横刻文/彫刻具敷線 刻文	ナリ	灰青	白	約100g	別府式
1224	縄文 弥生	口	C	D3V	高さ 13.7	-	-	横丁字/横線刻文/ 斜・横具敷線刻文	横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1225	縄文 弥生	口	C	B4V	-	-	-	横丁字/斜・横具敷 線刻文	横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1226	縄文 弥生	口	C	B5V	高さ 15.7	-	-	横丁字/斜付刻文/横丁 字	横丁字	灰青	白	約100g	別府式/穿孔あり
1227	縄文 弥生	口～胴	C	C10V	高さ 21.4	-	-	横丁字/多方向具敷線 刻文	横丁字/コビエサエ/ス ス付着	灰青	白	約100g	別府式/穿孔あり
1228	縄文 弥生	口	C	C10V	-	-	-	横丁字/縦具敷線刻文	横丁字	灰青	白	約100g	別府式
1229	縄文 弥生	口	C	A2V	高さ 17.0	-	-	横丁字/縦線刻文	横ナリ/横丁字	灰青	白	約100g	別府式

掲載 番号	種別	部位	区	出土位置	造量(cm)			手法・調整・文様法		色調	胎土(数値14mm)	備考	
					口径	底径	器高	内面					上段・外正 下段内面
								外面	内面				
1230	縄文 深鉢	口～胴	C	A2V	-	-	-	横ノ子/斜削文	横へうらギキ	灰黄褐色	～2白～1金帯多/3次金帯 母-横紋合凸	下割式	
1231	縄文 深鉢	口	C	D5V	-	-	-	横ノ子/斜削文	ナデ	灰黄褐色	～1白～1金帯多/透明光沢合凸	下割式	
1232	縄文 深鉢	口付近	C	B8V	-	-	-	斜具他条線削文	丁寧なナデ	黄褐色	～2金帯多/～4白合凸	下割式	
1233	縄文 深鉢	胴	C	B5V	-	-	-	斜削文	調整不明	黄褐色	～2白多/～2金帯多/～1金帯多/透明光沢少	下割式	
1234	縄文 深鉢	胴	C	B6V	-	-	-	斜削文	ナデ	灰黄褐色	～2金帯多/～1金帯多/透明光沢少-黒光沢	下割式	
1235	縄文 深鉢	胴	C	B5V	-	-	-	斜削文	調整不明	灰黄褐色	～2白合凸/～1金帯多/透明光沢少	下割式	
1236	縄文 深鉢	胴	C	A3V	-	-	-	斜具他条線削文	ナデ	黒褐色	～1金帯多/透明光沢少	下割式	
1237	縄文 深鉢	胴	C	B4V	-	-	-	斜・横具他条線削文	調整不明	黄褐色	～1金・黒光沢/～2白少	下割式	
1238	縄文 深鉢	胴	C	C6V	-	-	-	横筋状具他条線削文/向起	丁寧なナデ	灰黄褐色	～2白多/～1金帯多	下割式/突起あり	
1239	縄文 深鉢	胴	C	B8V	-	-	-	横筋状具他条線削文/向起	ナデ	灰黄褐色	～2白・透明光沢合凸	下割式/突起あり	
1240	縄文 深鉢	胴	C	A4V	-	-	-	斜具他条線削文	ナデ	灰黄褐色	～1白～1金・透明光沢合凸	下割式	
1241	縄文 深鉢	胴	C	A2V	-	-	-	斜具他条線削文	横へうらギキ	明褐色	～3金帯多/～2白少・ 3横紋	下割式	
1242	縄文 深鉢	胴	C	A3V	-	-	-	削文	工具ナデ	灰黄褐色	～1白少～4黒・金光沢/黒 光沢合凸	下割式/数種の削文	
1243	縄文 深鉢	胴	C	B3V	-	-	-	斜具他条線削文	横具他条線削文	黄褐色	～5白合凸/～3半透明 少/～2金帯多	下割式	
1244	縄文 深鉢	胴	C	D5V	-	-	-	ナデ/斜具他条線削文	ナデ	黄褐色	～1白合凸/～1金帯多/透明光沢少	下割式	
1245	縄文 深鉢	底付近	C	B6V	-	-	-	ナデ/斜具他条線削文	ナデ	灰黄褐色	～3白合凸/～2横紋～2 母合凸	下割式	
1246	縄文 深鉢	底	C	D6V	-	規定 18.6	-	横具他条線削文	ナデ	明褐色	～3透明光沢・黒光沢/～ 4横紋/～1白少	下割式	
1247	縄文 深鉢	胴	C	A2V	-	-	-	短沈線文/横ナデ	斜・横ナデ	灰黄褐色	～2白合凸/～3半透明・ ～1横・横紋	比タイプ	
1248	縄文 深鉢	胴	C	A2V	-	-	-	短沈線文/横ナデ	斜・横ナデ/コビヤサエ	灰黄褐色	～2白合凸～2横・横・手 透和彫	比タイプ	
1249	縄文 深鉢	胴	C	A3V/82V	-	-	-	短沈線文/横ナデ	斜・横ナデ/コビヤサエ	灰黄褐色	～3白合凸～2半透明 比タイプ	比タイプ	
1250	縄文 深鉢	口～胴	C	C5V	-	規定 16.6	-	丁寧なナデ/短沈線文	横ノ子/工具用/指痕/斜ナデ	明褐色/黄褐色	横合凸合凸/横筋透明少/～ 2金帯多/透明光沢	黒ノ丸式	
1251	縄文 深鉢	胴	C	C5V	-	-	-	横ナデ	横ナデ	灰黄褐色	～3白合凸少/～2金帯多	黒ノ丸式	
1252	縄文 深鉢	胴	C	B3V/C4V/ C5V	-	-	-	短沈線文/スス付	斜・横ナデ	黄褐色	～1黒合凸	黒ノ丸式	
1253	縄文 深鉢	口～胴	C	B3V/B4V	-	規定 37.4	-	横ノ子/横筋状文/黒光	横ノ子	灰黄褐色	～4横筋～1透明光沢・黒光 沢/白合凸	黒ノ丸式	
1254	縄文 深鉢	口	C	B3V	-	-	-	横ノ子/横筋状文	横ノ子	灰黄褐色	～4横筋～1透明光沢・黒光 沢/白合凸	黒ノ丸式/突起あり	
1255	縄文 深鉢	胴～底 付近	C	B3V	-	-	-	短沈線文	横へうらギキ	黄褐色	～1白～3金帯多/～2金 帯多/透明光沢少	黒ノ丸式	
1256	縄文 深鉢	口	C	A3V	-	-	-	横ノ子/流水文	斜・横ノ子/横ノ子	灰黄褐色	～4白合凸少～3横・横筋 光沢合凸	黒ノ丸式	
1257	縄文 深鉢	胴	C	B3V	-	-	-	流水文	斜・横ノ子/スス付/スス 付	黄褐色	～5白合凸少～5横・半透 明・透明光沢少	黒ノ丸式	
1258	縄文 深鉢	胴	C	B3V	-	-	-	流水文	斜・横ノ子/スス付/スス 付	黄褐色	～4白合凸少～2黒光沢/透 明・横・横筋光沢	黒ノ丸式	
1259	縄文 深鉢	胴	C	A3V	-	-	-	斜条線文	横ノ子/指痕	灰黄褐色	～4白合凸/～1黒合凸少/～ 2金帯多	黒ノ丸式	
1260	縄文 深鉢	胴	C	A3V	-	-	-	横ノ子/斜条線文	横ノ子/指痕	灰黄褐色	～3白合凸/～2黒合凸・横筋 透明光沢少/～1金帯多	黒ノ丸式	
1261	縄文 深鉢	口	C	A4V	-	-	-	横ノ子/流水文	横へうらギキ	灰黄褐色	～2白・横筋光沢/～1金合凸/～ 2横筋	黒ノ丸式	
1262	縄文 深鉢	胴	C	A2V	-	-	-	流水文	丁寧なナデ	灰黄褐色	～1白・透明光沢合凸	黒ノ丸式	
1263	縄文 深鉢	胴	C	D5V	-	規定 13.6	-	横ノ子/短沈線文	横ノ子/コビヤサエ/横 ノ子	灰黄褐色	～3白合凸少～2横・横筋 光沢合凸	黒ノ丸式	
1264	縄文 深鉢	口	C	A4V	-	-	-	横ノ子/短沈線文	横ノ子	黄褐色	～1黒合凸少～2半透明・横 筋・横筋光沢	黒ノ丸式	
1265	縄文 深鉢	口	C	B3V	-	-	-	丁寧なナデ/横具他条線文	横具他条線文/黒光	灰黄褐色	～3白/～1光沢	黒ノ丸式/口部底に丁寧な ナデ	
1266	縄文 深鉢	口	C	C4V	-	-	-	横ノ子/横条線文	横ノ子	黒褐色	～2白合凸/～1金光沢/横 筋透明少～4半透明	黒ノ丸式/1267・1268・ 1269同一個体か	
1267	縄文 深鉢	胴	C	C4V	-	-	-	横条線文	工具ナデ/横筋ナデ	灰黄褐色	～1白合凸/～2黒合凸・金光 沢	黒ノ丸式/1266・1268・ 1269同一個体か	
1268	縄文 深鉢	胴	C	C4V	-	-	-	横条線文	横ノ子	灰黄褐色	～1白合凸/～1黒合凸・金光 沢少/横筋透明光沢	黒ノ丸式/1266・1267・ 1269同一個体か	
1269	縄文 深鉢	胴	C	B4V	-	-	-	横条線文	横ノ子	灰黄褐色	～1透明光沢/～1白少～2金 帯多	黒ノ丸式/1266・1267・ 1268同一個体か	

施設番号	種別 名称	部位	区	出土位置	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色遣		土質(数単位2mm)	備考
					口径	底径	高さ	外面	内面	上縁・外周 土質	底		
1270	縄文 弥生 弥生	口	C	B3V	-	-	-	横子/横溝内押型文 (短少)ナ子消し	横溝内押型文(短少)ナ 子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	1透明状光沢散	横溝内押型文
1271	縄文 弥生	胴	C	C5V	-	-	-	横溝内押型文(短少) ナ子消し	ナ子	比呂色/黄緑/ 黄緑	黄緑	1透明状光沢散	横溝内押型文
1272	縄文 弥生	口	C	B5V/C5V	-	-	-	横子/横溝内押型文/ ナ子消し	斜・横ナ子/ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	3灰白・黄緑状光沢散	横溝内押型文
1273	縄文 弥生	口	C	A3V	-	-	-	横子/横溝内押型文/ スス付書	斜・横ナ子/ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	1灰白・黄緑状光沢散	横溝内押型文
1274	縄文 弥生	胴	C	B6V	-	-	-	横溝内押型文/ナ子消し	斜・横ナ子/コビオヤエ	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	1灰白・半透明・光沢散	横溝内押型文
1275	縄文 弥生	口	C	C6V	-	-	-	横溝内押型文/ナ子消し	横溝内押型文/スス付書	比呂色/黄緑 黄緑	黄緑	無光沢・白・黒光沢散	横溝内押型文
1276	縄文 弥生	口	C	C6V	-	-	-	ナ子/横溝内押型文/ナ子消し	横溝内押型文	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	3乳白・黄緑透明散	横溝内押型文
1277	縄文 弥生	口	C	C6V	-	-	-	横溝内押型文/ナ子消し /スス付書	横溝内押型文	比呂色/黄緑/ 黄緑	黄緑	黒光沢・黄緑透明散	横溝内押型文
1278	縄文 弥生	胴	C	C6V	-	-	-	横溝内押型文/ナ子消し	横溝内押型文/スス付書	比呂色/黄緑 黄緑	黄緑	無光沢透明光沢少/白粒散	横溝内押型文
1279	縄文 弥生	胴	C	B3V	-	-	-	斜・横溝内押型文	多方向ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	4白粒多/3黒粒/1-2 陶粒含む	横溝内押型文
1280	縄文 弥生	口	C	B3V	-	-	-	斜溝内押型文	斜・横ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	1黒光沢・無光沢透明光沢 1白粒含む/4黄緑・半透明 陶粒	横溝内押型文
1281	縄文 弥生	胴	C	B3V/C3V	-	-	-	斜溝内押型文	横ナ子	比呂色/黄緑 黄緑	黄緑	3黒光沢/1透明光沢・白 粒含む/5黄緑・半透明 陶・赤陶粒	横溝内押型文
1282	縄文 弥生	胴	C	B4V	-	-	-	横溝内押型文	ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	4白/3黒粒含む/2黒 光沢散	横溝内押型文
1283	縄文 (遺村 近)	口	C	A3V	-	-	-	斜溝内押型文	横ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	4黒/3白多/1黒散	横溝内押型文
1284	縄文 弥生	胴	C	B3V	-	-	-	横溝内押型文	横溝内押型文/スス付書	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	無光沢透明光沢・白粒少/黒 光沢散	横溝内押型文
1285	縄文 弥生	胴	C	C6V	-	-	-	横溝内押型文	横工具ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	2黄緑・黄緑・1黒透明 ・無断金光沢散含む	横溝内押型文
1286	縄文 弥生	胴	C	A3V	-	-	-	横溝内押型文/多方向 横ナ子	横ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	3黒/2白粒多/1黒散 陶	横溝内押型文
1287	縄文 弥生	口付縁	C	C4V	-	-	-	横溝内押型文/横山形押 型文	横溝内押型文	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	3白・陶粒多/2透明光 沢散	横溝内押型文
1288	縄文 弥生	胴	C	A2V	-	-	-	斜溝内押型文/ナ子消し	工ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	2金光沢/1白・無断 陶粒散	横溝内押型文
1289	縄文 弥生	口	C	A2V	規定 19.0	-	-	斜溝内押型文/横山形 押型文	横溝内押型文/横ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	2金光沢/1白粒少/3赤 黒・半透明陶	横溝内押型文
1290	縄文 弥生	口	C	A4V	-	-	-	ナ子消し/横山形押型 文	ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	1白・無断透明光沢散少	山形押型文
1291	縄文 弥生	胴	C	B3V	-	-	-	ナ子消し/横山形押型 文	新工具ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	1白・無断透明光沢散少	山形押型文
1292	縄文 弥生	口	C	A3V	-	-	-	ナ子/ナ子消し/横山形 押型文	横工具ナ子/指面 滑	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	4白/3黒粒散少/5 黄/1黒・光沢散	山形押型文
1293	縄文 弥生	胴	C	A2V	-	-	-	横山形押型文	コビオヤエ/ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	5陶粒多/3黒粒/1白 粒含む	山形押型文
1294	縄文 弥生	胴	C	B4V	-	-	-	横山形押型文	ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	2白・黒光沢/1半透明 ・無断陶粒散	山形押型文
1295	縄文 弥生	口	C	A2V	-	-	-	横山形押型文	ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	1半透明・透明光沢/2濁 黄粒散	山形押型文
1296	縄文 弥生	胴	C	B5V	-	-	-	横山形押型文	ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	4白/2黒粒多/2黒 光沢散	山形押型文
1297	縄文 弥生	胴・底	C	C10V	-	-	-	新工具/横山形押型文 /ナ子消し	横ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	2白/1灰・半透明・黒 光沢・黄緑光沢散	山形押型文
1298	縄文 弥生	胴	C	C10V	-	-	-	横山形押型文/ナ子消し	横ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	2灰白・半透明・黒光沢・黄 緑光沢散	山形押型文
1299	縄文 弥生	口	C	C10V	-	-	-	横山形押型文/ナ子消し	横ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	3灰白・半透明・黒光沢 散	山形押型文
1300	縄文 弥生	胴	C	A2V	-	-	-	横ナ子/横山形押型文	ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	4陶粒多/2白・無断透明 光沢散少	山形押型文
1301	縄文 弥生	胴	C	A2V	-	-	-	ナ子/横山形押型文	ナ子/変化物付書	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	1白粒多/2白粒/黒 無断金粒	山形押型文
1302	縄文 弥生	口・胴	C	A2V	-	-	-	ナ子/横山形押型文	横山形押型文/ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	2白粒多/3黒/2黒 含む	山形押型文
1303	縄文 弥生	口・胴	C	B3V	-	-	-	ナ子/横山形押型文	ナ子/横山形押型文	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	2黒/2陶粒含む/1透明 陶粒少	山形押型文
1304	縄文 弥生	口・胴	C	A5V	-	-	-	横子/横溝内押型文/ 横山形押型文	ナ子消し/横山形押型 文	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	無光沢・黒光沢・白粒少	横溝・山形
1305	縄文 弥生	口・胴	C	B4V/C4V	-	-	-	横子/ナ子消し/横溝内 押型文/横山形押型文	横山形押型文/横ナ子	比呂色/黄緑/ 比呂色/黄緑	黄緑	4黒/1黒光沢/1白・無 断透明散	横溝・山形
1306	縄文 弥生	口	C	A5V	-	-	-	横ナ子/ナ子消し/横溝内 押型文	横山形押型文/ナ子消し	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	1透明光沢・灰・白粒少	横溝・山形
1307	縄文 弥生	口	C	C3V-D	-	-	-	横子/横溝内押型文/ スス付書	横工具ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	無断透明光沢/灰粒少/無 断黒光沢散	横溝・山形
1308	縄文 弥生	口	C	A2V	-	-	-	横ナ子/横溝内文/斜・横 糸状文	横ナ子	比呂色/黄緑 比呂色/黄緑	黄緑	1無断白・黒光沢散少/金 光沢散	横溝・山形

掲載 番号	種別	部位	区	出土位置	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色別	胎土(数字は1mm)	備考
					口径	底径	高さ	外底	内底			
1309	縄文 深鉢	口	C	A2V/B3V	-	-	-	横ナ子/横ナ子/スス付着 貝殻系土文/横ナ子	横ナ子	比色I黄 比色I黄/黄 比色I黄	～1灰白・微細透明粒少/黒 沢粒数	罫ノ神式/嵌孔口縁
	深鉢	胴	C	A2V	-	-	-	横ナ子	横ナ子	比色I黄 比色I黄	～2白・微細透明光沢粒少/ 微細黒質点	罫ノ神式
1311	縄文 深鉢	胴	C	A2V	-	-	-	斜ナ子/3条状横文/貝殻 系土文	横ナ子/海胆殻	比色I黄 比色I黄	～2白粒含む/～2乳白粒少/ 微細透明光沢粒	罫ノ神式/穿孔あり
	深鉢	口	C	A2V	-	-	-	斜系土文	工具類/ナデ	比色I黄 比色I黄	～2白・微細透明粒少/微細 黒質点粒数	罫ノ神式
1313	縄文 深鉢	胴	C	A2V	-	-	-	横ナ子	横ナ子	比色I黄 比色I黄	微細透明光沢/～1白粒少/微 細黒光沢粒	罫ノ神式
	深鉢	口	C	C4V	-	-	-	横系土文	横ナ子	比色I黄 比色I黄	微細白・透明光沢少/微細 黒光沢粒	罫ノ神式
1315	縄文 深鉢	胴	C	B3V	-	-	-	横系土文	横系土文	比色I黄 比色I黄	微細透明光沢/微細黒光沢/透 明光沢粒数	罫ノ神式
	深鉢	口	C	C4V/C5V	規定 24.8	-	-	横ナ子/横貝殻系土文/横 ナ子/コビオサエ	横貝殻系土文/横ナ子/コ ビオサエ	比色I黄 比色I黄	～4灰白粒含む/～1黒粒粒 少/赤褐色	内外面に線刻痕あり/1317 と同一ホ
1317	縄文 深鉢	胴	C	C4V/C5V	規定 24.2	-	-	斜・横ナ子/工具類/コビ オサエ	斜・横貝殻系土文	比色I黄 比色I黄	～2灰白粒含む/～1赤褐色 濁粒数	1316と同一ホ
	深鉢	口～胴	C	B5V	-	-	-	横ナ子	横ナ子	比色I黄 比色I黄	～3白粒・黒粒・微細透明光 沢粒含む	
1319	縄文 深鉢	口	C	B3V	-	-	-	横ナ子/丁事ナ子	横ナ子/横ナ子/コビオサ エ	比色I黄 比色I黄	～2白・微細・灰白粒・黒粒粒 少/微細黒質点	
	深鉢	口	C	B5V	-	-	-	横ナ子	横ナ子/黒質 点	比色I黄 比色I黄	～2灰白粒・黒粒粒数	穿孔あり
1321	縄文 深鉢	口～胴	C	C5V	-	-	-	横ナ子/丁事ナ子	丁事ナ子/灰化物附着	比色I黄 比色I黄	～1白粒・微細透明粒・黒粒少 粒数	
	深鉢	口	C	B3V	-	-	-	横ナ子/黒質 点	横貝殻系土文	比色I黄 比色I黄	～6灰・黒粒・～2白粒含む/ 微細透明光沢粒	
1323	縄文 深鉢	口	C	C4V	-	-	-	横ナ子	横貝殻系土文/ナ デ	比色I黄 比色I黄	～1白粒少/微細透明粒数	
	深鉢	口	C	C6V	-	-	-	横ナ子/横ナ子/横貝殻 系土文	横ナ子/横ナ子/コビオサエ/横 貝殻系土文/横ナ子	比色I黄 比色I黄	～2灰白粒・透明粒・黒粒粒 少	外底に点痕あり
1325	縄文 深鉢	口	C	D6V	-	-	-	横ナ子/ナデ	横ナ子	比色I黄 比色I黄	～2白粒少/～1黒光沢粒	
	深鉢	口	C	B5V/C4V	-	-	-	連続刻文/横ナ子/黒 質点	横ナ子	比色I黄 比色I黄	～1灰白粒少/～1灰透明粒	
1327	縄文 深鉢	口	C	A3V	-	-	-	横ナ子/ナデ/コビオサエ	横ナ子/ナデ/コビオサエ	比色I黄 比色I黄	微細透明光沢/～1串透明 粒・白粒含む	
	深鉢	口	C	C5V	-	-	-	丁事ナ子/横ナ子/スス付 着	斜・横ナ子	比色I黄 比色I黄	微細透明光沢/黒粒数/微 細白粒少	口唇部にナ子跡顯著しA
1329	縄文 深鉢	口	C	A3V	-	-	-	横ナ子/コビオサエ	ナデ/コビオサエ	比色I黄 比色I黄	微細透明光沢粒含む/～1白 粒・黒粒少	
	深鉢	口	C	B3V	-	-	-	横ナ子/ナデ	横ナ子/海胆殻	比色I黄 比色I黄	微細透明光沢粒少/～1白 粒	
1331	縄文 深鉢	口～胴	C	C5V	-	-	-	横ナ子/横貝殻系土文/ スス付着	横貝殻系土文/ナ デ	比色I黄 比色I黄	～2灰白粒・黒粒 微細透明光沢粒・白粒数	
	深鉢	口	C	C6V	-	-	-	横ナ子/横ナ子/灰質 点/コビオサエ/横 貝殻系土文/横ナ 子/コビオサエ	横ナ子/コビオサエ/横 貝殻系土文/横ナ 子	比色I黄 比色I黄	～1灰白粒・黒光沢粒・光沢粒 数	穿孔あり
1333	縄文 深鉢	口	C	D6V	-	-	-	横貝殻系土文	横貝殻系土文/海 胆	比色I黄 比色I黄	～1透明光沢粒少/～2白粒	口唇部にナ子
	深鉢	口	C	B3V	-	-	-	横ナ子/斜ナ子	斜・横貝殻系土文	比色I黄 比色I黄	～3黒粒粒/～2赤褐色・微細 透明光沢粒数/～1灰白粒少	
1335	縄文 深鉢	口	C	C6V	-	-	-	横ナ子	横ナ子/横貝殻系土文/ 海胆殻	比色I黄 比色I黄	～1透明光沢粒少/～1白粒	
	深鉢	口	C	B3V	-	-	-	横ナ子/海胆殻/ナ デ	横貝殻系土文	比色I黄 比色I黄	微細白粒・透明光沢粒・黒粒 ～赤褐色・黒光沢粒	
1337	縄文 深鉢	口	C	C6V	-	-	-	横ナ子	横ナ子/斜貝殻系土文	比色I黄 比色I黄	～1灰白粒・黒粒粒数	
	深鉢	口	C	B5V	-	-	-	横ナ子	横貝殻系土文	比色I黄 比色I黄	～1灰白粒・光沢粒少	
1339	縄文 深鉢	口	C	C4V	規定 19.7	-	-	丁事ナ子/横ナ子/スス 付着	ナデ/コビオサエ	比色I黄 比色I黄	～1透明光沢粒・白粒少	
	深鉢	口	C	C4V	-	-	-	横ナ子	斜・横ナ子/横ナ子/スス付 着/工具類	比色I黄 比色I黄	～3灰白粒含む/～3灰光沢 粒/微細黒質点	穿孔あり
1341	縄文 深鉢	口	C	C5V	-	-	-	横ナ子	横ナ子/海胆殻	比色I黄 比色I黄	～1白粒・透明光沢粒少	穿孔あり
	深鉢	口	C	B3V	規定 12.8	-	-	横ナ子/斜・横ナ子/黒質 点/スス付着	斜ナ子/コビオサエ/黒質 点	比色I黄 比色I黄	～3黒粒粒・串透明粒・赤褐 色/灰白粒・微細黒光沢粒	
1343	縄文 深鉢	口	C	B5V	-	-	-	横ナ子	横ナ子	比色I黄 比色I黄	～1透明光沢粒/白粒少	
	深鉢	口	C	B5V	-	-	-	横ナ子	斜ナ子	比色I黄 比色I黄	微細透明光沢・赤褐色	
1345	縄文 深鉢	口	C	C4V	-	-	-	横ナ子	横ナ子	比色I黄 比色I黄	～2透明光沢粒・金粒/～ 1白粒少	焼成痕穿孔
	深鉢	口	C	C4V	-	-	-	横ナ子/ナデ/スス付 着	横ナ子/横ナ子/コビオサエ	比色I黄 比色I黄	～1透明粒・白粒数	
1347	縄文 深鉢	口	C	C4V	-	-	-	斜・横ナ子	横・斜ナ子	比色I黄 比色I黄	～1灰白粒・黄褐色粒少/微細 透明光沢粒	
	深鉢	口	C	C6V	-	-	-	横ナ子/スス付着	横貝殻系土文	比色I黄 比色I黄	～1白粒・微細透明光沢粒	

機軸 番号	種別 形種	部位	区	出土位置	法量(cm)			手法・装飾・文様ほか		色塗		備考	
					口径	底径	器高	外面		内面	上段・外周 下段・内底		胎土(数字単位2mm)
								手	内				
1349	縄文 弥生 弥生	口 C	B6V	-	-	-	横ナゾ/ナゾ	横ナゾ/コビヤエ/貝目 横糸文	比呂・黄褐色	黒陶透明光沢・白粒数			
1350	縄文 弥生	口 C	C6V	-	-	-	横ナゾ/スス付書	横ナゾ	比呂・黄褐色/ 灰黄褐色	～1戻白粒数	(左盛み)		
1351	縄文 弥生	口 C	D6V	-	-	-	ナゾ	横ナゾ	比呂・黄褐色	～2透明光沢・～1白粒少/ 比呂・黄褐色	黒陶黒光沢散		
1352	縄文 弥生	口 C	D6V	-	-	-	横・横ナゾ	横ナゾ/指痕	横 比呂・黄褐色	指痕透明光沢・～2黒光沢 灰少/～6白粒数			
1353	縄文 弥生	口 C	B5V	-	-	-	調整不明瞭	調整不明瞭	横黄褐色	～5白粒・灰粒・～3透明光沢 散・灰粒数・横粒・灰白粒少			
1354	縄文 弥生	口 C	B3V	-	-	-	横ナゾ/ナゾ	横・ナゾ	横灰黄	～1白粒・指痕透明光沢散 指痕	内口縁近くに残1cm、深 さ2～3cmの穴欠		
1355	縄文 弥生	口・胴 C	A3V	-	-	-	ナゾ	ナゾ	比呂・黄褐色	～2灰粒多/～2白粒含む/横 比呂・黄褐色	黒陶透明光沢散		
1356	縄文 弥生	口・胴 C	A2V	-	-	-	横ナゾ	横ナゾ	比呂・黄褐色	～2白粒多/黒陶透明光沢散			
1357	縄文 弥生	胴 C	B6V	-	-	-	工具ナゾ	工具ナゾ	比呂・黄褐色	～2透明光沢・～2白粒少			
1358	縄文 弥生	胴 C	B6V	-	-	-	横工具ナゾ/スス付書	横工具ナゾ/スス付書	比呂・黄褐色	～2黒光沢散・透明光沢散 少/～1白粒少			
1359	縄文 弥生	胴 C	C6V	-	-	-	ナゾ	ナゾ	横灰	～2黒光沢・～3白粒少/横 ～3横粒数	黒化著しい		
1360	縄文 弥生	胴 C	C4V/B5V	-	-	-	丁寧ナゾ/スス付書	丁寧ナゾ	比呂・黄褐色	～3横・～2黒光沢・白粒数 横			
1361	縄文 弥生 弥生	胴 C	B3V	-	-	-	横・ナゾ/黒灰	横糸散糸文後ナゾ/黒灰	比呂・黄褐色	～5横粒多/～3戻白粒含む/ 灰黄褐色			
1362	弥生	胴 C	A3V	-	-	-	横・横工具ナゾ	横工具ナゾ	比呂・赤褐色	～6赤褐色・～3黄・黒陶光沢散 散			
1363	縄文 弥生	胴 C	A4V	-	-	-	横・横糸散文	横・横工具ナゾ	横	～1白粒少/黒陶透明光沢散			
1364	縄文 弥生	胴 C	B4V	-	-	-	丁寧ナゾ	調整不明瞭	比呂・黄褐色	黒陶白・透明光沢散			
1365	縄文 弥生	胴 C	A2V	-	-	-	調整不明瞭	調整不明瞭	横	～1白粒少/～1黒光沢散	黒化著しい		
1366	縄文 弥生	胴・底 C	C5V/B5V	-	-	-	横丁寧ナゾ	横ナゾ	横黒/黒	～1透明光沢散/～4白粒 比呂・黄褐色			
1367	縄文 弥生	底付成 へ底 C	D3V	-	-	-	ナゾ/凹底	横糸散	横黄褐色	～2白粒・灰粒・黒粒・半透明 比呂・黄褐色	横多/～2透明光沢散		
1368	縄文 弥生	胴・底 C	C4V/C5V	-	規定 9.0	-	横ナゾ/指痕/スス付 書	貝目糸散糸文後ナゾ/指痕 底	灰黄褐色	～1白粒少/黒陶光沢散			
1369	縄文 弥生	胴・底 C	B5V	-	規定 9.2	-	ナゾ	ナゾ	横黄	～1白粒・透明光沢散			
1370	縄文 弥生	底 C	B4V	-	規定 11.0	-	横・横ナゾ/指痕	ナゾ	灰黄	～2白粒多/～1金粒少/横 黒			
1371	縄文 弥生	底 C	A6V	-	規定 9.0	-	ナゾ/丁寧ナゾ	横ナゾ	比呂・黄褐色	～1白粒・透明光沢散含む/			
1372	縄文 弥生	底 C	A4V/B3V	-	規定 10.6	-	調整不明瞭	ナゾ	横黄	～2透明光沢散少/～1白粒 散			
1373	縄文 弥生	底 C	A3V	-	-	-	ナゾ/コビヤエ	ナゾ/コビヤエ	横黄/白	～1白粒含む/～半透明 比呂・黄褐色	透明光沢散少		
1374	縄文 弥生	底 C	B6V	-	規定 14.0	-	丁寧ナゾ	調整不明瞭	比呂・黄褐色	～1白粒含む/指痕透明光沢 比呂・赤褐色	散少/横糸金光沢散		
1375	縄文 弥生	底 C	B4V	-	規定 5.4	-	横ナゾ/エギキ	ナゾ	横黒/黒	～1透明光沢散少/指痕透明 比呂・黄褐色	光沢散・白粒数		
1376	縄文 弥生	底付成 へ底 C	B3V/B4V	-	-	-	ナゾ/コビヤエ	ナゾ/コビヤエ	比呂・黄褐色	～1白粒含む/指痕透明光沢 比呂・黄褐色	散		
1377	縄文 弥生	底付成 へ底 C	B3V	-	-	-	横エギキ	ナゾ/スス付書	比呂・黄褐色	～1白粒・指痕透明光沢散 比呂・黄褐色	含む		
1378	縄文 弥生	口 C	C10V	-	-	-	貝目糸散文	横ナゾ	横黄褐色	指痕白粒少/指痕透明光沢散 散	黒糸文		
1379	縄文 弥生	胴 C	A2V	-	-	-	横ナゾ/指痕	ナゾ	比呂・赤褐色	～4白・～3横粒多/指痕透明 横赤褐色	光沢散少		
1380	縄文 弥生	胴 C	A3V	-	-	-	横ナゾ/指痕	ナゾ	横赤褐色	～3横粒多/～2白粒含む/横 比呂・黄褐色	指痕透明光沢散		
1381	縄文 弥生	口 C	A2V	-	-	-	横・横糸散文/凹糸文/ス ス付書	調整不明瞭	横黄	～指痕白粒少/指痕透明光沢 比呂・黄褐色	散		
1382	縄文 弥生	口・胴 C	A4V	-	規定 13.6	-	丁寧ナゾ/横糸散文	ナゾ	比呂・黄褐色	指痕透明光沢・透明光沢散少/	指痕白粒数		
1383	縄文 弥生	口・胴 C	B6V	-	-	-	横糸散文/黒灰	横糸散文/黒灰	比呂・黄褐色/ 灰黄褐色	～5横・～3白・～2黒光沢/ 灰粒数	身土器小穴あり/黒灰 /1384と同一体か		
1384	縄文 弥生	口 C	B6V	-	-	-	横糸散文/黒灰	横糸散文/黒灰	比呂・黄褐色/ 黒灰	～3黒光沢・透明光沢・横白 粒数	1383と同一体か/黒灰 粒数		
1385	縄文 弥生	口 C	A5V	-	-	-	横丁寧ナゾ/斜短足 横糸文	横丁寧ナゾ	横	～1戻白・指痕金光沢散	辻タイプに似る		
1386	縄文 弥生	胴 C	A5V	-	-	-	横糸散文	丁寧ナゾ	横赤褐色	指痕透明光沢・白粒少			

第4表 石器観察表

石料 鹿島安山岩・鹿島多孔質安山岩・高野山酸性片岩、赤O・黒O・水原岩質輝石、上中O・上中黒島輝石、近O・近O・針尾黒輝石、黒O・黒島黒輝石、ゴウ安・ゴウ安質安山岩、鹿安・鹿島
 鹿島打穴安山岩
 時期 弥生前期-弥生中期後葉-古墳時代前期、縄文時代晩-縄文時代前期-晩期

調査 時期	発掘 番号	出土位置	時期	石料	長さ(幅/厚さ)(cm)/重量(g)			観察所見等	
					長さ	幅	厚さ		
10	碓石	A SG1	近世	多色頁岩	3.3	2.9	0.5	4.9	矢張り強い。正面のみ砥面がある。上面・右面に磨面が認められる。
11	打穴石	A SG1	近世	多色頁岩	2.2	1.4	1.1	2.9	右側に強い。砥面は強い。上面の砥面に、使用による磨面がある。
13	碓石	A 物産庫跡	近世	黒色頁岩	10.4	4.9	2.0	175.4	海に浸食された跡がわずかに認められる。砥面は砥面に磨面があり、中央が鋭く凹み、横方向の磨面がある。砥面は砥面に磨面がある。砥面は砥面に磨面がある。砥面は砥面に磨面がある。
22	打穴石	A 榎原	近世	玉鋼	1.8	1.5	0.9	2.2	右側の砥面に使用に伴う磨面が認められる。砥面は砥面に磨面がある。
23	碓石	A CS-1	近世	多色頁岩	3.5	3.7	0.5	9.8	矢張り強い。正面のみ砥面あり。上面・磨面あり。上面は砥面に磨面がある。砥面は砥面に磨面がある。
78	碓石	A SG1	近世	砂岩	7.4	7.8	2.5	179.4	正面及び上面にあびた砥面あり。下半欠損。裏面に砥面に全体に磨面が認められる。
79	碓石	A SB6-SG1	近世	砂岩	9.5	7.5	6.7	458.5	正面及び上面にあびた砥面あり。下面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
80	碓石	A SG1	縄文	砂岩	10.9	4.5	2.3	176.8	正面・裏面のわずかにあびた砥面あり。砥面は砥面に磨面がある。
81	碓石	A SB7-P1	縄文	砂岩	8.8	6.0	3.1	213.4	正面中央に凹みになる砥面あり。砥面は砥面に磨面がある。砥面は砥面に磨面がある。
82	碓石	A SB7-P9	縄文	砂岩	16.0	7.7	5.8	978.3	全体の磨面を切って正面・裏面中央付近にあびた砥面あり。砥面は砥面に磨面がある。
83	二次加工 石	B IS-田	縄文晩	チヤート	4.1	1.9	1.0	7.0	不定形な割片の砥面に不規則に二次加工。
93	碓石	B SE2	縄文晩	砂岩	8.6	3.2	3.1	143.2	砥面の使用。正面・右面あり。正面・右面に砥面に磨面がある。砥面は砥面に磨面がある。
94	打石	B 榎原	縄文晩	黒色安	10.2	7.6	4.9	498.6	正面中央に凹み。裏面中央に凹み。裏面・上面は全面に砥面あり。裏面は砥面に磨面がある。
95	碓石	B SE2	縄文晩	砂岩	1.1	9.0	4.3	578.3	正面・裏面の半厚面に砥面あり。右面は砥面に磨面あり。正面・右面に砥面に磨面がある。
96	磨製石片	B 榎原-S1	縄文晩	砂岩	6.8	3.4	1.5	47.5	矢張り強い。砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。砥面は砥面に磨面がある。
111	磨石製品	C ASD 1	近世	滑石	1.6	1.8	0.4	2.0	砥面の砥面。右面に約1.5cmに近辺に平行する砥面に磨面がある。
112	打穴石	C 1	近世	玉鋼	1.9	1.3	0.8	1.7	右側に砥面に磨面。裏面・左面に砥面に磨面がある。
113	打石	C 1	近世	玉鋼	1.2	1.1	0.8	1.3	サイコ状に砥面は強い。砥面に砥面に磨面がある。
829	碓石	C SA1A	弥生古前	砂岩	8.1	5.6	1.8	101.3	正面に砥面あり。右面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
830	碓石	C SA1	弥生古前	砂岩	13.2	3.7	1.8	122.5	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。砥面は砥面に磨面がある。
831	磨石製品	C SA1	弥生古前	滑石	9.2	8.0	4.6	61.8	正面は大きく凸出。裏面に砥面に磨面あり。裏面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
832	碓石	C SA1A	弥生古前	砂岩	17.0	12.5	5.0	1074.0	矢張り強い。砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。砥面は砥面に磨面がある。
833	存石	C SA1	弥生古前	砂岩	13.3	11.8	4.1	857.9	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
834	存石	C SA1A	弥生古前	砂岩	34.1	11.1	7.0	2056.0	正面・裏面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
835	存石	C SA1A	弥生古前	砂岩	91.2	15.8	11.4	11000.0	正面は中央に凹み。裏面に中央の凹みに砥面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
836	打穴石	C SA2A	弥生古前	砂岩	6.4	9.0	1.9	141.0	両面打穴。打穴部分に砥面あり。砥面は砥面に磨面がある。
837	碓石	C SA2	弥生古前	頁岩	8.1	3.2	0.9	16.2	うすく磨き込まれている。砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
838	存石	C SA2A	弥生古前	砂岩	20.0	12.5	5.1	1739.1	使用面は砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
839	存石	C SA2	弥生古前	砂岩	27.4	14.1	11.0	5600.0	正面は平型で、正面右側に短方向の凹み。正面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
840	存石	C SA2	弥生古前	砂岩	21.6	17.0	5.1	2704.6	正面は砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
841	存石	C SA2-P3	弥生古前	砂岩	9.3	18.6	5.8	1806.4	正面のみわずかに砥面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
842	存石	C SA2-SC3	弥生古前	砂岩	20.1	14.8	7.3	2515.5	正面中央に凹み。砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
843	存石	C SA2-SC3	弥生古前	砂岩	10.7	8.8	5.5	561.9	正面の半厚面に砥面あり。裏面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
844	碓石	C SA2A	弥生古前	砂岩	16.3	4.4	4.8	651.1	正面・右面に砥面に磨面あり。正面・左面・裏面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
845	碓石	C SA2-SC2	弥生古前	砂岩	8.1	6.6	2.7	201.8	面磨面の正面・裏面の中央付近に砥面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
846	碓石	C SA2-SC2	弥生古前	砂岩	11.9	5.1	3.1	240.8	正面・裏面の半厚面に砥面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
847	碓石	C SA2-SC3	弥生古前	砂岩	8.0	5.3	4.6	191.7	正面右方に砥面に砥面に磨面あり。また欠損により生じた下の砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
848	存石	C SA2-SC3	弥生古前	砂岩	6.9	5.0	3.8	139.1	右面に砥面に磨面あり。また、欠損により生じた下の砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
849	碓石	C SA2	弥生古前	砂岩	12.5	6.4	3.9	446.8	正面・裏面の半厚面に砥面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
850	碓石	C SA3	弥生古前	砂岩	13.3	8.3	6.9	1013.5	正面は4か所の凹み。うち2か所は長さ5mmに達する。
851	碓石	C SA3	弥生古前	砂岩	10.4	8.6	4.5	602.4	正面・裏面に砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
852	碓石	C SA3	弥生古前	砂岩	12.2	6.7	4.0	435.7	正面・裏面に砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
853	打穴石	C SA3A	弥生古前	砂岩	6.0	7.5	2.6	154.3	両面打穴。打穴部分に砥面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
854	打製石	C SA3	弥生古前	カワス安	1.6	1.4	0.4	0.8	両面打製。磨面は全面に砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
855	存石	C SA3A	弥生古前	砂岩	25.3	11.2	7.8	2932.8	正面中央に砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
856	存石	C SA3A	弥生古前	砂岩	30.3	10.9	4.1	1513.3	正面中央に砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
857	存石	C SA3A	弥生古前	砂岩	30.5	9.3	8.9	3256.6	正面の凹みに砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
858	存石	C SA3A	弥生古前	砂岩	21.8	32.5	10.0	9600.0	正面は平型であり、中央に砥面に砥面に磨面あり。裏面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
859	存石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	12.0	11.9	4.3	71.5	砥面に砥面に磨面あり。正面・裏面の中央に砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
860	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	13.2	6.5	5.0	570.2	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
861	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	13.4	6.8	5.2	686.5	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
862	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	13.4	6.8	3.7	495.8	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
863	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	21.1	11.1	7.7	5423.7	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
864	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	15.6	6.1	4.5	547.3	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
865	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	12.8	6.3	5.5	629.9	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
866	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	12.6	6.4	4.4	491.7	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
867	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	16.0	6.3	5.1	625.3	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
868	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	14.0	7.7	4.3	587.7	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
869	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	23.0	8.9	7.8	2145.9	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
870	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	21.1	11.1	7.7	5423.7	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
871	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	21.4	8.1	7.2	2129.1	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
872	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	17.9	9.1	5.7	771.5	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
873	砥石	C SA3-SC1A	弥生古前	砂岩	18.1	7.1	5.7	1083.1	砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。
874	磨石製品	C SA3-SC1	弥生古前	滑石	5.3	5.3	3.0	14.6	正面・裏面に砥面に砥面に磨面あり。また、欠損により生じた下の砥面に砥面に磨面あり。砥面は砥面に磨面がある。

調査番号	砂橋	出土位置	時期	石種	長さ/幅/高さ(cm) ¹ 重量(g)			観察所見等
					長さ	幅	高さ	重量
875	砂石	C SA4床	弥生前期	砂岩	11.9	8.5	4.7	636.4
876	砂石	C SA4	弥生前期	砂岩	14.2	9.7	6.0	116.2
877	砂石	C SA4床	弥生前期	砂岩	22.4	8.9	6.3	1825.3
878	砂石	C SA4床	弥生前期	砂岩	18.5	19.8	7.0	2759.2
879	砂石	C SA4床	弥生前期	砂岩	31.3	20.6	10.8	9200.0
880	砂石	C SA4	弥生前期	砂岩	8.1	7.4	5.3	518.4
881	砂石	C SA5	弥生前期	砂岩	7.6	3.9	3.6	161.6
882	有線石橋	C SA5	弥生前期	砂岩	2.8	1.4	1.4	7.0
883	砂石	C SA6	弥生前期	凝灰岩	6.2	7.3	1.0	43.5
884	砂石	C SA6	弥生前期	砂岩	14.0	10.5	2.4	497.6
885	砂石	C SA6	弥生前期	砂岩	14.4	11.8	4.3	613.6
886	砂石	C SA6	弥生前期	砂岩	7.9	4.4	1.2	61.2
887	砂石	C SA6床	弥生前期	砂岩	15.4	7.8	6.3	615.6
888	砂石	C SA6-SC1	弥生前期	砂岩	30.1	19.9	13.0	1400.0
889	砂石	C SA6床	弥生前期	砂岩	20.0	11.1	4.7	1671.5
890	砂石	C SA6床	弥生前期	砂岩	16.5	7.9	5.3	842.2
891	砂石	C SA7	弥生前期	砂岩	29.8	30.2	14.5	1660.0
892	砂石	C SA7床	弥生前期	砂岩	18.0	15.0	5.7	1637.1
893	砂石	C SA7床	弥生前期	砂岩	55.7	13.7	14.0	18200.0
894	砂石	C SA7床	弥生前期	砂岩	18.2	10.0	7.3	1724.0
895	砂石	C SA7床	弥生前期	砂岩	11.3	10.4	7.8	1160.2
896	砂石	C SA7床	弥生前期	砂岩	12.4	6.5	5.5	632.7
897	打穴石橋	C SA8	弥生前期	凝灰岩	7.7	8.9	1.7	131.2
898	砂石	C SA8	弥生前期	砂岩	14.3	6.9	4.2	514.1
899	砂石	C SA8床	弥生前期	砂岩	18.8	33.2	10.0	10400.0
900	砂石	C SA8床	弥生前期	砂岩	27.3	19.8	13.7	8100.0
901	砂石	C SA8床	弥生前期	砂岩	18.3	30.1	12.5	9800.0
902	内輪	C SA9	彌生前期	凝灰岩	7.7	5.3	2.9	151.1
903	砂石	C SA9	弥生前期	砂岩	6.3	8.5	2.7	119.1
904	砂石	C SA11	弥生前期	砂岩	28.7	27.5	9.2	8600.0
905	砂石	C SA11	弥生前期	砂岩	18.6	18.6	5.0	2318.0
906	砂石	C SA11	弥生前期	砂岩	15.1	7.6	3.2	732.0
907	砂石	C SA11	弥生前期	砂岩	11.9	24.1	10.1	3603.7
908	砂石	C SA11	弥生前期	砂岩	28.3	17.8	8.5	3619.5
909	砂石	C SA11	弥生前期	砂岩	29.8	10.8	4.6	1882.4
910	有線石橋	C SA12	弥生前期	凝灰岩	8.5	7.3	3.7	51.4
911	有線石橋	C SA12	弥生前期	凝灰岩	6.5	4.9	2.9	26.6
912	砂石	C SC1	弥生前期	砂岩	12.0	6.0	4.4	485.8
913	砂石	C SC2	弥生前期	砂岩	11.2	10.4	2.1	353.0
914	砂石	C SC2	弥生前期	砂岩	18.3	7.7	5.3	1201.5
915	砂石	C SC3	弥生前期	砂岩	10.9	8.0	7.0	790.6
916	砂石	C SC3	弥生前期	砂岩	12.7	10.9	5.6	714.6
917	砂石	C SC3	弥生前期	砂岩	19.0	8.0	3.2	814.4
918	砂石	C SC3	弥生前期	砂岩	22.0	6.9	6.2	1531.6
919	砂石	C SC8	弥生前期	砂岩	28.4	6.5	1.7	570.7
920	砂石	C SC9	弥生前期	砂岩	8.7	16.0	5.1	1166.8
921	砂石	C SC9	弥生前期	砂岩	6.9	7.9	4.2	355.0
922	砂石	C SC10床	弥生前期	砂岩	13.7	13.4	6.6	1468.3
923	砂石	C SC10床	弥生前期	砂岩	11.6	7.8	4.2	541.9
924	砂石	C SC10	弥生前期	砂岩	12.5	4.4	1.9	162.6
925	砂石	C SC12	弥生前期	砂岩	9.8	4.5	1.6	69.7
926	砂石	C SC12	弥生前期	砂岩	10.7	9.9	3.8	727.4
927	砂石	C SC15	弥生前期	砂岩	8.8	7.4	3.6	345.8
928	砂石	C SC17	弥生前期	砂岩	8.2	4.8	3.2	186.5
929	打穴石橋	C DS0 II	弥生前期	砂岩	3.8	4.2	1.3	28.1
930	打穴石橋	C BS4 II	弥生前期	砂岩	3.9	3.9	1.5	29.0
931	打穴石橋	C SS8	弥生前期	砂岩	3.5	4.0	1.6	32.8
932	打穴石橋	C BS4 II	弥生前期	砂岩	6.8	6.4	2.0	127.1
933	打穴石橋	C II	弥生前期	砂岩	7.3	8.4	1.5	137.6
934	打穴石橋	C BS0 II	弥生前期	砂岩	6.4	7.4	2.3	136.0
935	打穴石橋	C AS8 II	弥生前期	砂岩	5.3	6.8	1.4	75.5
936	打穴石橋	C BS2	弥生前期	砂岩	4.0	6.4	0.9	33.8
937	打穴石橋	C II	弥生前期	砂岩	5.1	6.0	1.4	66.3
938	打穴石橋	C BS1	弥生前期	砂岩	6.1	5.6	2.4	96.5
939	打穴石橋	C SA3	弥生前期	砂岩	5.8	8.0	2.3	173.0
940	打穴石橋	C BS0 II	弥生前期	砂岩	5.3	6.4	1.6	61.3
941	打穴石橋	C CR2 II	弥生前期	砂岩	8.0	5.7	1.7	66.2

調査 番号	路種	出土位置	時期	石材	高さ(幅/厚さ)(cm)重量(g)			取附品写真	
					高さ	幅	厚さ		
942	石瓦石礎	C5B目	弥生前期	砂岩	6.1	6.1	1.7	83.8	高輪打矢式。
943	石瓦石礎	C II	弥生前期	砂岩	6.2	7.3	1.5	91.1	高輪打矢式。
944	石瓦石礎	C II	弥生前期	砂岩	5.9	7.0	1.9	102.8	高輪打矢式。
945	石瓦石礎	C II	弥生前期	砂岩	5.4	7.3	1.9	116.4	高輪打矢式。
946	石瓦石礎	C II	弥生前期	砂岩	5.9	7.6	2.1	122.3	高輪打矢式。
947	石瓦石礎	C II	弥生前期	砂岩	6.8	9.0	2.0	151.5	高輪打矢式。
948	石瓦石礎	C II	弥生前期	砂岩	5.9	7.1	3.0	160.4	高輪打矢式。
949	石瓦石礎	C II	弥生前期	砂岩	6.8	9.2	1.9	170.0	高輪打矢式。
950	石瓦石礎	C II	弥生前期	砂岩	6.1	9.0	2.2	188.8	三辺打矢式。
951	石瓦石礎	C II	弥生前期	砂岩	6.4	8.1	2.4	196.1	高輪打矢式。
952	石瓦石礎	C II	弥生前期	砂岩	7.3	8.8	2.2	221.7	高輪打矢式。
953	石瓦石礎	C5B目	弥生前期	砂岩	6.5	9.0	2.7	239.1	高輪打矢式。取附によるものなので、取附は黒く、正面から観察は赤褐色。
954	石瓦石礎	C6B目	弥生前期	砂岩	8.5	9.4	2.1	257.3	高輪打矢式。
955	石瓦石礎	IA2目	弥生前期	砂岩	6.0	9.1	3.9	268.1	高輪打矢式。
956	石瓦石礎	C5C目	弥生前期	砂岩	8.8	9.2	2.6	289.1	高輪打矢式。
957	石瓦石礎	C3B目	弥生前期	砂岩	7.5	8.9	3.8	294.2	高輪打矢式。
958	石瓦石礎	C5D目	弥生前期	砂岩	7.4	9.8	3.0	294.9	高輪打矢式。
959	石瓦石礎	C1土庫前1	弥生前期	砂岩	12.3	18.0	4.0	1170.0	最早期の高輪打矢式。他の打矢式石礎より大形で重く、高輪打矢式である点が特徴的。打矢式は中や重減する。全体に黒く染み付く。
960	磁石	C44目	弥生前期	砂岩	12.7	7.5	2.8	336.0	正面・裏面の中央に浅い凹溝をもつ打矢式であり、右面には上下は横状で、中央は縦状打矢式が広く広がる。左面も同様。上面も打矢式であり、取附の凹溝が打矢式の右側に浅く凹み付く。
961	磁石	C94目	弥生前期	砂岩	19.4	10.8	3.0	1144.0	正面は上方に取附を伴った取附であり、裏面は中央凹溝で中央より下部分に打矢式が打附。打矢式の下から下面は平坦化し、黒色付着物あり。縦取附には取附の凹溝がある。
962	磁石	C70目	弥生前期	砂岩	9.3	12.9	2.8	240.0	正面は平坦な面でも黒色光沢となる。矢筈面は、矢筈面も含む取附全体が平坦化する。
963	磁石	C11A目	弥生前期	砂岩	6.4	3.4	0.6	18.0	正面は浅い凹溝。裏面に取附の平坦な面があり、左右面に取附により打矢式が打附。上下面は矢筈面。取附は中央凹溝の取附がある。
964	銅線車	C79目	弥生前期	細砂岩	5.9	5.9	0.7	7.0	黒色の銅線車石。表面は取附の凹溝は光沢が弱く打矢式に染み付いている。
965	磁石(赤心礎)	C79目	弥生前期	頁岩	3.0	2.7	0.5	6.0	黒色の石から下面にかけて磁石したもの。
966	磁石	C85A目	弥生前期	砂岩	38.3	21.6	13.7	16000.0	正面は浅い凹溝で全体に黒減する。正面面に切り取られた取附面。裏面中央付近が浅い凹溝とその取附に打附あり。上面は矢筈面で、中央が凹溝状である。下面は矢筈面。部分が平坦化する。
1068	石瓦石礎	C820面	縄文晩期	砂岩	6.4	8.1	2.3	163.6	高輪打矢式。打矢式は右にも黒減する。取附は黒く染み付く。
1069	石瓦石礎	C820面	縄文晩期	砂岩	5.8	7.5	2.3	132.7	高輪打矢式。打矢式は右にも黒減する。
1070	石瓦	C820面	縄文晩期	砂岩	5.4	7.1	3.8	172.3	取附から打附面側まで全面に黒減で不定形の取附を有する。
1071	磁石	C820面	縄文晩期	砂岩	11.7	8.0	6.9	792.5	取附から打附面側まで全面に黒減で不定形の取附を有する。打附面・取附面に浅く打附あり。
1072	打矢石礎	SA2	縄文晩期	ガラス状	1.8	1.0	0.3	0.7	同様に黒。取附は黒くない。
1073	打矢石礎	SA8	縄文晩期	磁石	2.1	1.9	0.3	1.3	取附は取附の凹溝で、取附の凹溝が打附あり。矢筈面が打附あり。矢筈面は黒く染み付く。
1074	打矢石礎	SA2	縄文晩期	砂岩	2.3	1.6	0.3	0.7	石材は石瓦に不向きながら、二次加工より打附面が打附と見られる。
1075	石瓦	SA6	縄文晩期	チャート	3.3	2.0	0.7	2.3	新片側・取附面・取附の取附が黒く、黒減は中や重減。
1076	石瓦	表面	縄文晩期	チャート	2.8	4.2	0.9	13.4	厚みある新片の取附に二次加工がなされ、中や重減が多少つよみ面で作出される。
1077	磁石	表面	縄文晩期	チャート	4.2	2.2	0.8	5.5	左側面に凹凸二次加工で打附の可能性がある。右側面は矢筈面。つまり取附の取附した石瓦の可能性がある。
1078	磁石	IA2目	縄文晩期	チャート	4.5	3.1	1.2	12.0	左側面および右側面に黒く二次加工がなされ、右側面に浅く凹溝があり、右側の凹凸した石瓦面であった可能性がある。
1079	二次加工 新片	SA7	縄文晩期	砂岩	5.0	6.0	2.2	47.5	打附面から取附された不定形新片の右側面にわずかに二次加工あり。
1080	二次加工 新片	SA3	縄文晩期	チャート	4.0	2.2	2.3	9.9	取附面から取附された新片の上下面。取附には凹凸した新片の取附の凹溝がある。
1081	二次加工 新片	SA2	縄文晩期	砂岩	8.2	3.3	1.9	33.1	不定形新片の取附にやや丸みのある二次加工あり。
1082	二次加工 新片	CA4B目	縄文晩期	砂岩	7.4	7.7	3.0	157.8	打附面から取附された不定形新片の右側面にわずかに二次加工あり。
1083	二次加工 新片	B5B目	縄文晩期	砂岩	7.7	8.9	3.1	194.9	打附面から取附された凹凸不定形新片の右側面に黒く二次加工あり。
1084	新片	SA9	縄文晩期	砂岩	8.9	5.9	11.7	48.6	取附面の取附から打附面側まで全面に黒減で不定形新片。
1085	新片	SA9	縄文晩期	砂岩	8.0	3.3	1.9	39.7	取附面の取附から打附面側まで全面に黒減する。取附に打附面側に打附られ、見かけ上、縦長新片になっている。
1086	東方石礎	C4C目	縄文晩期	砂岩	6.6	5.4	1.8	49.9	取附の取附で二分された新片の一端に二次加工があり、その取附に取附されることから、東方石礎に属する。
1087	東方石礎	SE8	縄文晩期	砂岩	9.6	6.8	3.9	301.0	分割された取附面の取附に取附面が認められる。
1088	東方石礎	ASA目	縄文晩期	砂岩	6.8	7.0	4.9	252.0	分割された取附面の取附に取附面が認められる。全体に広く使われている。
1089	東方石礎	SA7	縄文晩期	砂岩	6.0	8.2	3.3	170.7	分割された取附面の取附面に取附面が認められ、取附面に取附面が認められる。
1090	東方石礎	SA7	縄文晩期	砂岩	10.6	13.0	6.4	960.7	厚みある取附面の取附面に取附面が認められ、取附面に取附面が認められる。
1091	東方石礎	BSA目	縄文晩期	砂岩	7.1	6.3	2.8	170.0	取附面の取附面でも多少欠けた石材。取附面の一端が欠けたが、取附面は黒く染み付く。
1092	磁石	C6B目	縄文晩期	砂岩	7.4	8.0	2.1	171.7	東方石礎の取附面でも多少欠けた石材。右面に取附面の取附面に取附面が認められる。
1093	石礎	C6C目	縄文晩期	頁岩	3.4	5.2	2.7	47.3	分割された取附面に打附面が認められ、不定形新片を有する。
1094	石礎	D6C目	縄文晩期	頁岩	6.1	4.2	2.8	94.3	中央凹溝の取附面に、取附の凹溝が認められる。
1095	石礎	CD6A目	縄文晩期	頁岩	6.3	3.2	2.3	39.3	分割面の取附面が右から、打附面側が不定形新片を有する。
1096	石礎	B4B目	縄文晩期	砂岩	7.2	11.4	5.1	436.0	分割面の取附面が不定形新片を有する。取附面全体が平坦化する。
1097	石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	9.0	5.3	6.6	293.2	取附面の取附面から打附面側まで不定形新片を有する。取附面は黒くない。
1098	石礎	SA11	縄文晩期	砂岩	6.9	10.0	6.0	253.7	取附面の取附面から打附面側まで不定形新片を有する。取附面は黒くない。
1099	石礎	SB8	縄文晩期	砂岩	8.3	9.7	4.1	382.8	取附面から打附面側まで不定形新片を有する。
1100	石礎	SA7	縄文晩期	頁岩	5.9	6.3	3.3	104.9	取附面の取附面から打附面側まで不定形新片を有する。取附面中央に取附面がある。
1101	石礎	SA3	縄文晩期	赤心礎	2.4	4.2	0.9	12.2	左側面も取附面に取附面がある。
1102	石礎	CA4C目	縄文晩期	赤心礎	2.2	4.6	0.6	11.6	矢筈面は、左面に両面に取附面がある。下面は浅く欠けた。矢筈面の取附面に矢筈面が認められる。
1103	石礎	C5D目	縄文晩期	砂岩	3.0	3.7	1.5	20.6	取附面も取附面に取附面がある。
1104	石礎	B6C目	縄文晩期	砂岩	4.1	4.5	1.2	28.4	左右面とも取附面に取附面を入れている。下面は浅く欠けた。全体に黒減が強く、全体に平坦化する。
1105	石礎	SC13	縄文晩期	赤心礎	3.9	5.9	1.6	37.0	左面は取附面の取附面に取附面がある。右面・左面とも中央より上下方向に取附面に取附面がある。
1107	石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	6.2	7.0	1.7	93.0	取附面に取附面が入った欠けた取附面がある。
1110	石礎	SA3	縄文晩期	砂岩	6.1	6.0	1.9	93.5	取附面より取附面を入れた欠けた取附面がある。
1112	石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	5.2	6.8	2.3	96.2	高輪打矢式。
1113	石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	8.3	8.8	1.5	62.3	高輪打矢式。
1114	石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	7.3	8.5	3.4	289.3	高輪打矢式。
1115	石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	7.4	9.0	1.5	151.5	高輪打矢式。
1116	石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	8.0	8.7	1.8	160.5	高輪打矢式。
1109	有線石礎	C5B目	縄文晩期	磁石	4.7	5.0	4.5	132.0	左右両面に取附面に取附面を有する。
1110	有線石礎	B4A目	縄文晩期	砂岩	5.2	6.3	3.3	105.0	左右両面に取附面に取附面を有する。取附面は黒くない。
1111	有線石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	6.2	7.0	1.7	93.0	取附面は取附面が入った打矢式は黒減は黒くない。
1112	有線石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	5.2	6.8	2.3	96.2	高輪打矢式。
1113	有線石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	8.3	8.8	1.5	62.3	高輪打矢式。
1114	有線石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	7.3	8.5	3.4	289.3	高輪打矢式。
1115	有線石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	7.4	9.0	1.5	151.5	高輪打矢式。
1116	有線石礎	CA4B目	縄文晩期	砂岩	8.0	8.7	1.8	160.5	高輪打矢式。

調査 番号	砂橋	出土位置	時期	石材	長さ/幅/厚さ(cm)・重量(g)			観察所見等	
					長さ	幅	厚さ		
1117	打刃石橋	C A4BⅡ	縄文前期	砂岩	7.2	7.8	2.5	192.2	高脚打刃石。
1118	打刃石橋	C A4BⅡ	縄文前期	砂岩	7.2	9.6	2.4	212.8	高脚打刃石。
1119	打刃石橋	C A4BⅡ	縄文前期	砂岩	7.5	8.8	2.9	256.0	両端の隅に打刃石がなかり行っている。
1120	打刃石橋	C A4BⅡ	縄文前期	砂岩	8.5	8.5	3.4	196.2	打刃石打刃石。
1121	打刃石橋	C SA7	縄文前期	砂岩	4.5	5.2	1.6	37.7	円形の手製石片の破片片として存在するもの、石片から見て刃部の一部の可能性もある。
1122	磨製石橋	C SB1	縄文前期	珪石	12.4	6.9	4.8	572.5	上面欠損、矢橋部から平の磨製あり、正面・裏面・側面に剥離層の痕跡が顕著して、矢橋部と持たせ、断面磨製する。刃部は使用によるものか、研削と切った刃部からの小剥離である。
1123	磨製石橋	C Ⅱ	縄文前期	砂岩	10.8	5.3	3.4	205.7	打刃された矢橋部磨製材。磨製部から部分的に剥離層が剥離した状態の磨製を顕著に打刃より刃みを持たせ、断面磨製した状態を認める。磨製部の磨製は部分的に顕著であり、刃部を石片に転用が可能。
1124	磨製石橋	C B5AⅡ	縄文前期	珪石	5.3	1.6	1.1	11.2	自然磨の一部の磨製に由来すると思われる。ノミ状。
1125	磨製石橋	C A2Ⅱ	縄文前期	あん山	6.9	4.1	1.7	81.3	全面磨製で左右側面には断面多量に多少の磨製が認められる。
1126	磨製石橋	C C8DⅡ	縄文前期	あん山	5.5	5.6	2.1	166.0	刃部が欠けて磨中か研中程度。左右面とも磨製あり。
1127	磨製石橋	C C7CⅡ	縄文前期	あん山	4.5	3.9	1.7	14.7	刃部が欠けた状態。厚さ、正面より見て約2cmの高脚部あり、そこから上はほぼ平行に磨製が認められる。
1128	磨石	C A4CⅡ	縄文前期	砂岩	6.6	5.4	2.8	123.0	正面にだけ磨製行っている。下面にわずかに磨製あり。
1129	磨石	C B5AⅡ	縄文前期	砂岩	5.8	5.4	2.1	105.0	正面のみ平らな磨製あり。
1130	磨石	C B5AⅡ	縄文前期	砂岩	28.7	12.9	11.6	5466.0	正面の凸部に引っかけ磨製が顕著に認められる。右面から裏面にほぼ平行に磨製あり。
1131	磨石	C B5AⅡ	縄文前期	砂岩	23.0	28.2	7.5	4836.8	石面に正磨がない凹部が顕著に認められる。その凹部は全体に磨製、水分に由来すると思われる褐色褐色の付着物がある。また、凹部中央付近にはほぼ垂直の溝が磨製が部分的に見える。
1387	磨石	C SⅡ	縄文中期	砂岩	16.5	24.5	5.8	3790.0	正面は広く浅く凹部が顕著に認められる。裏面全体が磨製されている。
1388	磨石	C SⅡ	縄文中期	砂岩	17.1	31.8	5.9	2540.0	正面は浅く凹部が顕著に認められる。裏面全体が磨製されている。
1389	磨石	C SⅡ	縄文中期	砂岩	27.1	20.8	9.0	6820.0	正面は浅く凹部が顕著に認められる。裏面全体が磨製されている。
1390	磨石	C SⅡ	縄文中期	砂岩	20.8	20.2	8.1	3190.0	正面は約5cm下を磨製した凹部の凹部。裏面全体は磨製されている。
1391	磨石	C SⅡ	縄文中期	砂岩	11.0	8.2	5.0	644.0	正面・裏面とも磨製が顕著に認められる。左右側面にも磨製あり。裏面全体が磨製されている。
1392	磨石	C SⅡ 2組	縄文中期	砂岩	5.6	8.9	4.6	514.5	正面・裏面中央に凹部が顕著に認められる。右側面に部分的に磨製あり。裏面全体が磨製されている。
1393	磨石	C SⅡ 6組	縄文中期	砂岩	6.7	5.8	4.2	232.0	内側の上下面にやや磨製が認められる。
1394	二次加工 削片	C SⅡ 14	縄文中期	チャート	4.3	3.1	1.2	14.7	幅広い削片の下部に二次加工による磨製が認められる。
1395	二次加工 削片	C SⅡ 14	縄文中期	チャート	2.7	2.2	0.8	2.7	不定形削片の正面・裏面に両側から磨製が二次加工による磨製が認められる。
1396	二次加工 削片	C SⅡ 14	縄文中期	チャート	2.2	0.9	0.4	0.5	磨製が顕著に認められる。正面・裏面とも磨製が認められる。二次加工削片に含められる。
1397	磨石	C SⅡ 14	縄文中期	珪石	4.3	4.0	3.4	58.1	長さ、多くの磨製が認められる。形状が顕著に認められる。打刃が認められる。不定形削片を剥離する。
1398	磨石	C SⅡ 8	縄文中期	砂岩	14.9	6.1	5.2	556.9	内側の上下面に磨製が認められる。各面に磨製が認められる。打刃が不明。
1399	磨石	C SⅡ 8	縄文中期	砂岩	9.7	8.2	4.6	460.0	内側の下部に磨製あり。正面を中心に磨製が認められる。
1400	磨石	C SC26	縄文中期	チャート	5.0	3.2	2.8	63.3	よく磨製されたもの。
1401	二次加工 削片	C SC45	縄文中期	チャート	10.7	7.2	1.6	159.9	削片に二次加工をし、鋭利な打刃が認められる。
1402	磨石	C SC59	縄文中期	砂岩	16.1	8.2	8.5	684.3	正面は広く磨製で、右下部に部分的に磨製あり。裏面に磨製が認められるものも多少は認められる。
1403	磨石	C SC59	縄文中期	砂岩	10.4	6.3	2.8	309.8	正面・裏面の中央に広く凹部が認められる。
1404	磨石	C SC59	縄文中期	砂岩	8.4	6.7	3.4	236.9	正面に広く凹部が認められる。正面左側の面にも磨製が認められる。
1405	打刃石橋	C SC69	縄文中期	チャート	2.1	1.8	0.4	1.1	左側に磨製したものの、両端部の凹部が顕著に認められる。形状が顕著に認められるものもなく、使用による可能性。
1406	打刃石橋	C SC69	縄文中期	チャート	1.8	1.1	0.2	0.4	打刃欠損。
1407	打刃石橋	C SC69	縄文中期	チャート	1.3	1.3	0.5	0.3	正面に磨製を認める。全体に磨製あり。
1408	打刃石橋	C SC59	縄文中期	高Cb	1.6	1.0	0.3	0.4	左側のみに磨製。
1409	打刃石橋	C SC59	縄文中期	高Cb	1.1	0.7	0.2	0.1	左側のみに磨製。
1410	磨製石橋	C SC72	縄文中期	チャート	4.4	1.8	1.1	7.1	幅広い削片の左側面に磨製が認められる。
1411	打刃石橋 未製品	C SC75	縄文中期	チャート	2.4	1.9	1.0	3.2	正面・裏面とも中央から基部部に磨製あり。
1412	打刃石橋	C SC75	縄文中期	珪石	2.0	1.9	0.2	0.7	先端欠損。裏面は磨製が認められる。
1413	打刃石橋	C SC91	縄文中期	高Cb	1.8	1.3	0.2	0.4	右側欠損。
1414	磨石	C SC83	縄文中期	砂岩	10.7	14.2	7.7	1300.0	欠損が顕著に認められる。正面・裏面とも平らで磨製されている。
1415	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	1.7	1.6	0.2	0.5	丁字な磨製。基部の打刃が顕著に認められる。
1416	打刃石橋	C CSV	縄文中期	珪石	1.6	1.6	0.3	0.6	両面にわずかに磨製。
1417	打刃石橋	BAV	縄文中期	チャート	1.4	1.8	0.3	0.4	丁字な磨製。基部に凹部。基部の打刃が顕著に認められる。
1418	打刃石橋	C ASV	縄文中期	チャート	1.5	1.8	0.5	0.5	先端・右側とも大きく欠損。磨製は丁字。
1419	打刃石橋	C BAV	縄文中期	チャート	1.5	1.5	0.3	0.3	丁字な磨製。特に先端が顕著に認められる。
1420	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	1.4	1.5	0.2	0.3	丁字な磨製。基部の打刃が顕著に認められる。
1421	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	2.0	1.5	0.2	0.3	裏面に二重磨製を認める。
1422	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	1.4	1.3	0.2	0.3	丁字な磨製。基部の打刃が顕著に認められる。
1423	打刃石橋	C ASV	縄文中期	チャート	1.5	1.3	0.2	0.3	両面にわずかに磨製。丁字な磨製。
1424	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	1.3	1.2	0.2	0.3	全体に打刃し中央のみをより打刃が顕著に認められる。
1425	打刃石橋	C ASV	縄文中期	チャート	1.5	1.4	0.2	0.3	磨製がやや顕著で、先端部は二次加工の可能性もある。
1426	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	1.3	1.3	0.2	0.3	磨製が顕著。
1427	打刃石橋	C A4V	縄文中期	チャート	1.1	1.0	0.2	0.2	全体にほぼ磨製が認められる。先端は磨製が顕著。
1428	打刃石橋	C CSV	縄文中期	あん山	1.4	1.4	0.2	0.3	基部が磨製した状態が顕著に認められる。
1429	打刃石橋	C B5V	縄文中期	高Cb	2.0	2.3	0.4	1.0	先端・右側とも大きく欠損。磨製は両面に磨製。
1430	打刃石橋	C A4V	縄文中期	高Cb	1.2	1.1	0.2	0.2	断面に丁字な磨製が認められる。
1431	打刃石橋	C A4V	縄文中期	高Cb	1.1	1.0	0.2	0.2	磨製が顕著。
1432	打刃石橋	C B5V	縄文中期	高Cb	1.4	1.4	0.4	0.4	左側先端部は大きく欠損した後に加工され、再び右側先端部を打刃したものの、
1433	打刃石橋	C B4V	縄文中期	高Cb	1.6	1.4	0.4	0.7	基部の磨製で、正面・裏面とも磨製を認める。先端・左側を欠損。
1434	打刃石橋	C A2V	縄文中期	チャート	3.1	2.3	0.4	2.0	左側欠損。右側打刃が顕著に認められる。
1435	打刃石橋	C B4V	縄文中期	チャート	2.8	1.8	0.3	0.8	丁字な磨製。磨製は打刃が顕著に認められる。
1436	打刃石橋	C CSV	縄文中期	チャート	2.5	2.3	0.4	1.4	中央部の磨製が顕著。
1437	打刃石橋	C A2V	縄文中期	チャート	2.3	1.9	0.4	1.3	先端は高加工の可能性もある。
1438	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	2.2	1.9	0.2	0.8	丁字な磨製。
1439	打刃石橋	C DV5	縄文中期	チャート	2.1	1.8	0.4	0.9	丁字な磨製。特に先端が顕著に認められる。
1440	打刃石橋	C B4V	縄文中期	チャート	2.1	1.7	0.4	0.8	丁字な磨製。特に先端が顕著に認められる。サメ磨製。
1441	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	2.1	1.8	0.4	0.9	基部が磨製した状態が顕著に認められる。サメ磨製。
1442	打刃石橋	C CSV	縄文中期	チャート	2.0	1.4	0.4	0.7	丁字な磨製。
1443	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	1.9	1.7	0.4	0.7	丁字な磨製。
1444	打刃石橋	C A4V	縄文中期	チャート	1.9	1.7	0.4	0.7	V字状に磨製が顕著に認められる。
1445	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	1.9	1.6	0.3	0.6	丁字な磨製。磨製は打刃が顕著に認められる。
1446	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	1.7	1.8	0.3	0.8	先端は、先端部からの加工で大きく欠損。
1447	打刃石橋	C CSV	縄文中期	チャート	1.8	1.7	0.3	0.5	丁字な磨製。磨製はわずかに欠損。
1448	打刃石橋	C B5V	縄文中期	チャート	1.6	1.3	0.3	0.3	削片形状そのままの打刃。先端部の磨製が顕著に認められる。

装置番号	設備	出土位置	時期	石材	板寸(幅/厚さ/高さ)(cm)			重量(g)	観察所見等
					長さ	幅	厚さ		
1449	石製石函	C ASV	縄文草	チャート	1.7	1.3	0.3	0.3	右側面わずかに欠損、丁寧な彫削。
1450	石製石函	C AA4	縄文草	チャート	1.6	1.2	0.3	0.4	彫削は粗め。
1451	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	1.8	1.1	0.2	0.3	右側面欠損、彫削には表面を拘す。
1452	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	1.8	1.7	0.3	0.3	彫削は粗め(表面を拘す)、粗めの彫削。
1453	石製石函	C AA4	縄文草	チャート	1.6	1.2	0.4	0.5	裏面正中央に新瓦材片の突起部が残り、彫削は粗め。
1454	石製石函	C CA4	縄文草	頁岩	2.3	0.7	0.3	0.8	右側面欠損、彫削は特にて丁寧な彫削。
1455	石製石函	C BA4	縄文草	頁岩	2.1	1.5	4.5	0.8	丁寧な彫削、両側面は中程度の仕上げにされる。
1456	石製石函	C BS5	縄文草	礫Ob	1.5	1.3	0.4	0.4	大きさに對しやや狭み、丁寧な彫削。
1457	石製石函	C BS5	縄文草	礫Ob	1.1	1.0	0.2	0.2	裏面に穴への正面の彫削は丁寧な彫削。
1458	石製石函	C AA4	縄文草	チャート	2.2	1.5	0.4	0.8	右側面欠損、彫削は粗め。
1459	石製石函	C BA4	縄文草	礫Ob	2.4	1.7	0.3	0.9	先端・上面を欠損、丁寧な彫削。
1460	石製石函	C BS5	縄文草	礫Ob	2.5	1.9	0.4	1.1	上面を欠損、両側面は粗彫削。
1461	石製石函	C BA4	縄文草	礫Ob	2.8	2.0	0.4	1.2	丁寧な彫削、先端は有角で縁が鋭化、当初から裏面加工、あるいは欠損後の再加工の可能性。
1462	石製石函	C BA4	縄文草	ガラス窓	3.4	1.7	0.5	2.0	左側面欠損。
1463	石製石函	C ASV	縄文草	燧石	2.0	1.1	0.2	0.2	左側面欠損、丁寧な彫削。
1464	石製石函	C ASV	縄文草	燧石	1.9	1.1	0.3	0.4	右側面欠損。
1465	石製石函	C BS5	縄文草	燧石	2.7	1.5	0.3	0.7	右側面欠損、彫削は粗めに削ぐ。
1466	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	1.8	1.6	0.5	0.8	粗めの彫削、先端をわずかに欠損。
1467	石製石函	C CI1V	縄文草	チャート	1.8	1.5	0.3	0.7	正面・裏面とも裏材片を残す、中程度の彫削。
1468	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	1.8	1.5	0.4	0.8	左半は右半より分厚く彫削は粗め(こぼれ未彫削品の可能性もある)。
1469	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	1.7	1.4	0.3	0.6	彫削は粗め、未彫削品の可能性もある。
1470	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	1.6	1.4	0.1	0.4	裏材料片の形状をほぼ保持し、裏面の削り及び先端部にわずかに加工を入れて仕上げている。
1471	石製石函	C DS5	縄文草	チャート	1.8	1.2	0.4	0.7	裏材料片の突起部を表面加工で削り、彫削は粗め。
1472	石製石函	C BS2	縄文草	チャート	1.3	0.8	0.3	0.2	左右非対称、特に右側の突起部は粗削り、右側の突起部の可能性。
1473	石製石函	C CA4	縄文草	頁岩	2.7	2.2	0.4	2.0	正面・裏面とも裏材片の平坦な表面(即ち裏面)が残り、その表面に丁寧な彫削、両側面わずかに加工もつて彫削面に仕上げられる。
1474	石製石函	C CS5	縄文草	柱状頁岩	2.1	1.5	0.3	0.9	彫削は中程度の、未彫削品の可能性を残す。
1475	石製石函	C BS5	縄文草	頁岩	1.5	1.3	0.3	0.6	彫削は粗め、表面加工が認められる。
1476	石製石函	C AA4	縄文草	礫Ob	1.8	1.5	0.5	0.7	彫削は粗め(表面を拘す)、未彫削品の可能性もある。
1477	石製石函	C DS5	縄文草	礫Ob	1.5	1.3	0.3	0.3	中程度の彫削の磨き出し(削り)が、両側面は粗彫削となる。
1478	石製石函	C AA4	縄文草	燧石	1.8	1.6	0.4	0.8	右翼のため大きめの彫削に分類される彫削。
1479	石製石函	C BA4	縄文草	ガラス窓	1.8	1.5	0.4	0.6	中程度の彫削。
1480	石製石函	C AS3	縄文草	ガラス窓	3.2	1.7	0.5	2.1	両側面をわずかに欠損、丁寧な彫削。
1481	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	2.5	2.1	0.4	1.7	平置きで加工しているが、表面品の可能性もある。
1482	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	1.8	1.3	0.2	0.4	裏材料片がわずかに露く、縁部の加工もつて彫削する。
1483	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	2.1	1.5	0.4	0.7	中程度の彫削。
1484	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	2.0	1.5	0.2	0.6	中程度の彫削、先端をわずかに欠損。
1485	石製石函	C CS5	縄文草	頁岩	1.5	1.8	0.3	0.7	裏面中央付近は部分的に欠損、削り(仕上げ)が、両側面は粗彫削、先端からの加工で大きく欠損。
1486	石製石函	C BS6	縄文草	チャート	1.9	1.4	0.3	0.8	裏材料片の突起部(断面)の彫削を留める。
1487	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	2.1	1.7	0.3	0.8	裏材料片の打角の部分を彫削し生かす、縁部は新表面彫削。
1488	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	2.1	1.8	0.3	1.3	裏材料片の突起部(断面)の彫削を留める。
1489	石製石函	C DS5	縄文草	チャート	1.9	1.3	0.3	0.7	裏材料片の突起部(断面)の彫削を留める。
1490	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	2.1	1.7	0.3	0.8	裏材料片をほぼそのまま活かす(削り)、その打角に新表面彫削の彫削を留める。
1491	石製石函	C AA4	縄文草	頁岩	4.1	2.2	0.7	5.6	下部に断面三角形の彫削を留める。粗彫削の可能性を残す。
1492	石製石函	C BA4	縄文草	チャート	2.8	2.2	0.8	3.8	右側に近い全面的な二次加工を経て、新表面彫削の彫削を留める。
1493	石製石函	C AS5	縄文草	チャート	2.5	2.0	0.4	1.6	右側に近い全面的な二次加工を経て、新表面彫削の彫削を留める。
1494	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	2.8	1.9	0.9	3.3	裏材料片の突起部(断面)の彫削を留める。上半は彫削。
1495	石製石函	C AA4	縄文草	チャート	3.5	1.9	0.8	3.2	右側面に粗削り(正面・裏面)が認められる二次加工、裏面に中等程度の平削加工を留める。
1496	石製石函	C BS5	縄文草	柱状頁岩	4.6	3.5	1.2	17.4	縦長形状を有し、左側面に下に、裏面に粗削り二次加工。
1497	石製石函	C CS5	縄文草	ガラス窓	3.6	3.6	1.3	15.0	両側面を用いる。右側面に正面・裏面から二次加工あり、左側面にも粗削り認められる。
1498	石製石函	C BS2	縄文草	頁岩	3.6	3.7	1.0	11.4	短形形状を用いる。右側面に正面・裏面から二次加工あり、下部は削りあり、細かな彫削により彫削。
1499	石製石函	C BS6	縄文草	頁岩	5.3	2.7	1.9	14.8	横置り断面の粗削りされた断面形状を用いる。右側の上半に彫削を留める。
1500	石製石函	C BS5	縄文草	頁岩	4.4	3.1	1.3	17.7	厚手の板片形状、両側から二次加工あり、断面全体の縁部や凸部となる側面に粗削りする。
1501	石製石函	C DS5	縄文草	礫Ob	2.1	1.8	1.1	3.5	正面の削り(下部)の彫削は粗削り、裏面に粗削り二次加工、裏面に中等程度の平削加工を留める。
1502	石製石函	C BA4	縄文草	ガラス窓	1.7	1.6	0.5	1.3	削り下部に彫削の二次加工も入れ彫削する。
1503	石製石函	C AA4	縄文草	チャート	3.0	2.1	0.7	5.2	裏面の加工が先行し、削りて正面を加工する。裏面に厚材料片留まりが大きい。
1504	石製石函	C CS9	縄文草	チャート	1.9	2.3	1.0	4.7	下半欠損、裏面の加工が先行で、正面へ移る。
1505	石製石函	C CS9	縄文草	柱状頁岩	3.2	2.2	1.3	8.0	裏面の加工が先行し、削りて正面を加工する。
1506	石製石函	C DS5	縄文草	頁岩	3.3	2.5	1.4	9.3	右側面未彫削品の可能性もある。削り・彫削の後、裏面に粗削り加工を入れる。
1507	石製石函	C CA4	縄文草	チャート	3.4	2.4	1.6	11.2	右側面未彫削品の可能性もある。正面中央は高く突起する。
1508	石製石函	C AA4	縄文草	頁岩	3.4	2.5	1.1	6.7	正面右下の彫削に彫削を残し、尖鋭的に彫削。
1509	石製石函	C AA4	縄文草	チャート	4.1	3.3	0.9	10.8	正面右下の彫削に彫削を残し、尖鋭的に彫削。
1510	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	2.9	2.4	1.0	6.1	右側面未彫削品の可能性もある。右側面をわずかに欠損。
1511	石製石函	C CS9	縄文草	礫Ob	2.4	1.4	0.5	1.1	裏面に粗削り(削り)が、右側に粗削り(調整加工)により彫削、磨出しすると右側のようにもなる。
1512	石製石函	C AZ2	縄文草	礫Ob	2.1	1.0	0.9	1.1	中央の突起の造形は彫削不良の可能性。
1513	石製石函	C BS5	縄文草	チャート	1.2	0.8	0.3	0.2	削り(断面)全面に粗削り加工も入れ、彫削のための彫削に彫削する。
1514	二次加工 石片	C BA4	縄文草	礫Ob	1.2	1.1	0.4	0.5	削り(断面)から右側の彫削のような二次加工が入る。
1515	二次加工 石片	C AZ2	縄文草	礫Ob	1.2	1.2	0.3	0.3	削り(断面)に粗削り二次加工が入る。
1516	二次加工 石片	C AS3	縄文草	礫Ob	1.9	0.8	0.4	0.3	削り(断面)に粗削り二次加工が部分的に入る。
1517	二次加工 石片	C BS5	縄文草	礫Ob	1.5	1.2	0.6	0.7	削り(断面)から右側の彫削のような二次加工が入る。
1518	二次加工 石片	C BS5	縄文草	礫Ob	1.4	1.4	0.4	0.5	右側の欠損あるいは未彫削品の可能性もあるが、下面の削りを裏面に二次加工の可能性がある。
1519	二次加工 石片	C BS5	縄文草	チャート	1.6	1.3	0.2	0.4	上縁と左側縁は、折角による彫削である。右側縁は、粗削り二次加工、粗削り処理あり。
1520	二次加工 石片	C CI0V	縄文草	チャート	1.6	1.5	0.2	0.3	不定形削り(断面)から一部で削り状となる二次加工、粗削り処理あり。
1521	二次加工 石片	C AA4	縄文草	チャート	2.3	1.2	0.4	0.9	裏材料片の下部に裏面彫削から削り状の二次加工、右側縁に彫削から二次加工、削り(断面)が。

高層 番号	設備	出江位置	時期	石材	高さ・厚さ(cm)・重量(g)				取付け方等
					高さ	厚さ	重量	重量	
1522	二次加工 削片	C A4V	縄文草	チャート	2.8	1.8	0.3	1.6	不定形削片の両面に二次加工が入る。
1523	二次加工 削片	C A2V	縄文草	チャート	2.9	1.6	0.4	1.5	縦長削片の両端はほぼ完全に二次加工が入る、前後の部分を除く。
1524	二次加工 削片	C B5V	縄文草	チャート	3.2	1.6	0.8	2.9	縦長削片素材、左端部に中厚部材となる二次加工、右端部はほぼ平らなまま、前後の部分を除く。
1528	二次加工 削片	C B5V	縄文草	チャート	2.9	2.2	1.0	5.4	不定形削片の表面に二次加工および顔面磨削、前後の部分を除く。
1526	二次加工 削片	C B5V	縄文草	チャート	3.3	2.6	0.6	5.3	不定形削片の縁辺に細かな二次加工、前後の部分を除く。
1527	二次加工 削片	C C5V	縄文草	チャート	3.0	2.4	1.1	5.7	不定形削片の打込面に、正面・裏面と決りの二次加工が入る、挟りを磨削した石面が、
1528	二次加工 削片	C A2V	縄文草	頁岩	3.3	1.9	0.8	2.9	不定形削片の両面に二次加工が入る。
1529	二次加工 削片	C B4V	縄文草	地質頁岩	2.1	1.9	0.5	2.2	縁部から二次加工する、表面にわずかに、縁辺は鋭く磨削する。
1530	二次加工 削片	C G4V	縄文草	頁岩	3.6	3.0	0.7	5.6	不定形削片の両面に二次加工が入る。
1531	磨削面 削片	C A2V	縄文草	硬O石	2.7	3.0	1.7	10.4	不定形削片の左側面に磨削面を。削片
1532	削片	C B5V	縄文草	チャート	4.0	2.3	1.0	6.5	上面は、顔面打撃部から、裏面に打撃部から削片を剥離する。
1533	削片	C C5V	縄文草	赤石	5.4	3.0	1.9	17.8	縦長削片で、正面下部縁部が収め込まれている。
1534	削片	C B5V	縄文草	丹波石	3.7	2.1	0.8	4.6	先行して、右面を打撃部にて、正面右より縦長削片に近い削片を剥離、その後、上面を入れ替る、縦長削片 剥離
1538	削片	C C10V	縄文草	丹波石	4.3	1.5	0.6	3.2	平面的な石のほとんどを磨削する、打込も縁部がつかない、縦長削片で中厚部材がある。
1535	石核	C C5V	縄文草	硬O石	1.7	1.3	0.3	1.4	上下より削片を剥離する。
1537	石核	C B5V	縄文草	硬O石	2.1	1.1	1.2	2.4	打削面縁部が磨削された打撃部から、上下に削片を剥離する。
1538	石核	C A4V	縄文草	硬O石	1.5	2.3	1.1	2.3	上面で打削面調整の上で打撃部から、不定形削片を剥離する。
1539	石核	C D5V	縄文草	硬O石	1.5	1.5	1.5	2.5	打削面打撃部つづつ、打削面磨削を正面と背面で磨削に近い削片を剥離する。
1540	石核	C A3V	縄文草	硬O石	2.7	2.2	1.7	4.9	上面は、顔面打撃部から、裏面に打撃部から削片を剥離する。
1541	石核	C B5V	縄文草	頁岩	2.4	2.6	1.1	5.3	正面・裏面等の中厚部材部に、挟りを正面と上下より磨削を入射する。
1542	石核	C B4V	縄文草	丹波石	2.9	2.7	1.5	9.7	厚手の削片から不定形削片を剥離する。正面の削片は、打削面磨削の石面を打削面から剥離する。
1543	石核	C B6V	縄文草	チャート	2.1	2.5	0.9	2.9	正面は上下方向より不定形削片を剥離、裏面は左右方向より縦長削片に近い削片を剥離する。
1543	石核	C B5V	縄文草	チャート	2.3	2.5	1.4	8.3	正面は左右方向、裏面は上下方向、右側(小口)は上方から縁部に近い削片を剥離する。
1545	石核	C B5V	縄文草	チャート	2.2	3.4	1.1	8.0	正面は上面の磨削面打撃部から不定形削片を剥離、裏面は上面から不定形削片を剥離する。
1546	石核	C B4V	縄文草	チャート	2.4	3.7	3.1	20.9	上面は赤石から削片を剥離する。正面、上面の磨削面を打撃部にて、削片を剥離する。
1547	石核	C B5V	縄文草	チャート	2.7	4.4	1.5	16.6	正面は小口より上下方向から不定形削片を剥離され、その削片を右側に打削面と中削片を剥離する。
1548	石核	C B5V	縄文草	チャート	3.2	3.4	1.3	9.3	縦長削片のラッパ式に不定形削片を剥離する。
1549	石核	C A4V	縄文草	チャート	3.2	4.3	1.3	14.2	縦長より不定形削片を剥離、裏面は下の打削面により、アラックツルム形を打撃部で磨削。
1550	石核	C B6V	縄文草	頁岩	3.3	3.1	2.0	15.4	両面した打削面打撃部から両方向に全面にわたって縦長削片に近い削片を剥離する。
1551	石核	C B3V	縄文草	頁岩	5.3	4.1	2.3	50.6	縁部をつらねた磨削面あるいは一部で磨削面を打撃部にて、削片を剥離する。
1552	石核	C B6V	縄文草	頁岩	6.0	3.7	1.7	39.8	削片素材の石種、削片の石種において、正面の磨削面を打撃部にて不定形削片を剥離する。
1553	石核	C B5V	縄文草	頁岩	9.9	8.2	4.5	412.2	扁平、磨削面縁部が磨削をうける。不定形削片を、裏面に先行して磨削して正面で剥離する。
1554	石核	C B4V	縄文草	頁岩	9.1	8.5	4.0	304.8	縁部あるいは打削面縁部を先行して(裏面)全面に磨削して磨削面を打削面から剥離する。
1555	石核	C A5V	縄文草	地質頁岩	6.3	6.5	4.1	184.7	磨削面、研磨面と見えない、その表面より上は、削片前後はグレーカラー磨削面が強い。不定形削片を剥離するものと思われる。
1556	石核	C C5V	縄文草	チャート	3.0	6.5	2.1	28.2	縁部近く平らな磨削面打撃部から正面で縦削片を剥離する。
1557	石核	C B4V	縄文草	チャート	4.1	5.1	3.6	156.0	上下磨削された断面、部分の石種の変化がみえている。
1558	石核	C C5V	縄文草	頁岩	4.4	4.8	3.0	74.9	上下磨削された面、下部に縁部がある。
1559	石核	C B4V	縄文草	硬O石	1.7	1.7	1.3	3.4	部分の打削面がある。磨削はラッパ式にした打削面。
1560	磨削面 削片	C C5V	縄文草	赤石	6.3	6.7	2.6	107.2	部分のみが磨削、正面は、磨削して磨削面がつくから磨削されるように削り、後は全面磨削、裏面は打削面が 部分的になるより磨削、裏面中央は半端に磨削、右側には、特に底面部を削りこむにけりあり。
1561	打欠石核	C B4V	縄文草	砂岩	3.7	5.5	1.9	46.8	下の挟りは打撃部による、上面は打撃部から打欠の方向、後を縁部で磨く。
1562	打欠石核	C A3V	縄文草	砂岩	4.4	5.2	1.2	36.7	上下とも同面打欠きの方向、縁部は小口より先行する。
1563	打欠石核	C B5V	縄文草	砂岩	4.0	6.2	1.7	52.4	上下とも同面打欠による、下部は打欠欠で、正面は打欠欠。
1564	打欠石核	C B4V	縄文草	砂岩	5.2	6.0	1.8	77.1	上下とも同面打欠きの方向、縁部を磨削する打撃部あり、挟りを磨く、全面が磨削する。
1565	打欠石核	C B6V	縄文草	砂岩	5.6	7.2	1.6	88.1	上下とも同面打欠きの方向、縁部を磨削する打撃部あり、挟りを磨く、全面が磨削する。
1566	打欠石核	C A5V	縄文草	砂岩	5.6	9.6	2.1	212.1	上下とも同面打欠りにより打欠磨削、正面・裏面・縁部中央に近い部分の打撃部あり。
1567	打欠石核	C B3V	縄文草	砂岩	5.5	6.6	2.3	109.1	左右とも同面打欠き、縁部は縁部あり。
1568	打欠石核	C B4V	縄文草	砂岩	6.0	6.3	2.5	124.8	左右とも同面打欠き、縁部は縁部で中央の打欠きは縁部もある。
1569	打欠石核	C A2V	縄文草	砂岩	7.2	7.5	2.5	170.1	上下同面打欠きで縁部磨削する。右は同面打欠きで縁部は打削面に近い磨削面、縁部は、全面に縁部を磨く。 上下同面打欠きで縁部磨削する。
1570	打欠石核	C A2V	縄文草	砂岩	6.5	9.7	1.5	131.9	上下同面打欠き、左右は打欠磨削あり、左の磨削面に磨削面が磨削されている。縁部(左右)の打欠きは磨削面、縁部の打欠き右側の磨削面が強い、全面に磨削し、5.6cmの磨削面によって磨削された 部分がある。
1571	打欠石核	C C5V	縄文草	砂岩	4.0	4.6	2.3	58.1	左右とも同面打欠き、縁部は打欠磨削、部分のみを磨削する。
1572	石核	C B5V	縄文草	砂岩	9.6	7.5	4.0	402.1	正面に打撃部による鋭い「切込み」、左右面中央から打削面打撃部あり、下部は正面・裏面に打削面入り、縁部磨削 面を磨削する。
1573	石核	C A2V	縄文草	砂岩	11.7	6.2	2.9	282.4	右面部分の中厚部から上下が中厚部になる打欠磨削あり、打削面打撃部あり、正面の平らな面近くにて磨削 面あり。
1574	石核	C B5V	縄文草	砂岩	11.5	3.4	2.5	151.5	正面・右面・裏面・左面と中央付近に打削面打撃部あり、正面・裏面に打削面打撃部により、下部に打削面打 撃部あり。
1575	石核	C D5V	縄文草	砂岩	13.9	4.5	4.0	450.9	正面・左面・裏面・中央の部分に打削面打撃部による切込み、下部も打削面打撃部あり、正面・左面・縁部の縁上にも部分の打 撃部あり。
1576	石核	C A5V	縄文草	砂岩	12.1	4.4	3.0	266.2	正面と右面の縁部、裏面と左面の縁部に打削面打撃部あり、表面・上方に打削面打撃部あり、磨削面は 部分のみが磨削する。
1577	石核	C C5V	縄文草	砂岩	6.8	5.4	3.2	165.9	上面から右面に磨削する打撃部あり、左面に部分の打撃部あり、下部は縁部縁部を磨削、磨削面 部分のみが磨削する。
1578	石核	C B3V	縄文草	チャート	5.0	4.1	3.8	106.2	中厚部縁部の上側に打撃部あり、左面の縁部は打削面打撃部により削れられたものと思われる。
1579	石核	C A5V	縄文草	砂岩	10.5	8.6	4.3	559.5	正面は、平らな面石とそれを中心として打削面打撃部がある。裏面は、正面と裏面に同じであるが、磨削ははく むけにつれ磨削が弱くなり、全面に磨削面がある打削面打撃部が磨削する。ひびくは、磨削面が磨削する。 正面・裏面に平らに磨削面がある。上下ともに「打削面打撃部」磨削面が磨削面を磨削する。 正面・左面と中央付近に磨削面に磨かれた部分の打削面打撃部あり。右面に部分の打削面打撃部あり。 打削面打撃部
1580	石核	C A2V	縄文草	砂岩	11.0	8.0	3.3	380.8	正面・裏面と中央付近に磨削面に磨かれた部分の打削面打撃部あり。右面に部分の打削面打撃部あり。 打削面打撃部
1581	石核	C A2V	縄文草	砂岩	9.4	8.0	4.0	423.6	正面・裏面と中央付近に磨削面に磨かれた部分の打削面打撃部あり。右面に部分の打削面打撃部あり。 打削面打撃部
1582	石核	C B5V	縄文草	砂岩	7.4	7.0	3.6	261.8	正面・裏面と中央付近に磨削面に磨かれた部分の打削面打撃部あり。右面に部分の打削面打撃部あり。 打削面打撃部
1583	石核	C B4V	縄文草	砂岩	9.3	9.3	5.2	541.0	正面に中厚部縁部とそれを中心とした打削面打撃部あり、右面から下部には半端に打削面打撃部あり。 打削面打撃部
1584	石核	C C3V	縄文草	砂岩	14.3	9.4	4.5	871.2	正面に磨削面と縁部と中央付近に磨削面に磨かれた部分の打削面打撃部あり、下部に磨削面打撃部あり、下部 に磨削面と中央付近に磨削面に磨かれた部分の打削面打撃部あり、縁部は磨削面と中央付近に磨削面に磨かれた部分の打削面打撃部あり。 打削面打撃部
1585	石核	C C10V	縄文草	頁岩	11.7	8.6	4.8	667.5	正面・裏面に磨削面と縁部と中央付近に磨削面に磨かれた部分の打削面打撃部あり、下部に磨削面打撃部あり。 打削面打撃部
1586	石核	C B4V	縄文草	砂岩	10.0	8.5	6.5	671.5	正面に中厚部縁部とそれを中心とした打削面打撃部あり、右面に部分の打削面打撃部あり。 打削面打撃部
1587	石核	C B4V	縄文草	頁岩	9.2	6.8	5.2	467.2	磨削面磨削面はないもの、磨削面に縁部を引っつく面が磨削面と中央付近にある。石材上、磨削面を磨削する。 打削面打撃部
1588	石核	C A5V	縄文草	磨削面	9.4	7.3	4.0	401.5	正面・裏面に平らな磨削面あり、左右面に部分の打削面打撃部あり、正面に部分の打削面打撃部あり。 打削面打撃部

調査 番号	標識	出土位置	時期	石材	長さ/幅/厚さ(cm)			重量(g)	観察所見等
					長さ	幅	厚さ		
1589	白石	C 06V	縄文早	砂岩	8.5	7.6	4.5	425.0	正面・裏面の中央に広く平準な磨面あり、右側の左端に屈曲した磨面となる。
1590	白石	C A2V	縄文早	砂岩	9.4	9.1	3.6	450.3	正面・裏面に広く浅い磨面による凹凸あり、裏面はほぼ全面に磨面が施される。裏面は磨面のままとなる。
1591	白石	C 04V	縄文早	砂岩	11.1	7.8	4.0	481.2	正面に磨面による凹凸、左・右面に磨面状の磨り跡あり、裏面中央の凸部は鋭い磨面で磨面に磨り跡あり。
1592	白石	C A3V	縄文早	砂岩	10.8	8.5	4.4	580.3	正面に全体に磨り跡が認められ、中央に凹凸あり、磨面はほぼ全面に磨り跡あり、裏面中央および左側の磨り跡あり、磨面全体がやや凸凹し、側面の磨り跡の一部が剥離する。
1593	白石	C B4V	縄文早	砂岩	9.3	8.2	4.0	423.0	正面中央に磨りによる凹凸、左・上・右面に磨り跡が等様に施される。裏面は、中央から下にかけて大きく磨面あり、磨りによりアラックラツタキに割傷した凹痕。
1594	白石	C A3V	縄文早	砂岩	7.2	7.1	2.9	198.5	正面・裏面中央に磨り跡があり、正面の磨り跡は凹凸、裏面はほぼ伏状の磨り跡あり、側面にも部分的に磨り跡あり。
1595	白石	C B6V	縄文早	砂岩	7.7	7.0	2.5	168.0	正面・裏面中央に凹凸伏状の磨り跡あり、磨り跡の3分の2が側面に沿って磨り跡が認められ、凸凹化による磨り跡が認められる。
1596	白石	C 06V	縄文早	砂岩	6.9	6.3	3.3	203.2	正面・裏面中央に磨りによる磨面凹凸あり、裏面は全面にわたり磨り跡が認められて上下に分かれて見える。
1597	白石	C A2V	縄文早	砂岩	6.1	6.5	3.3	209.8	上・右面に大きく欠損、欠損面も凸凹な磨面が凸凹する。正面には、磨面の付着物あり、正面中央の磨りによる凹凸も、磨面の付着物に覆われて入っている。裏面中央に磨りによる凹凸、下部も磨り跡あり。
1598	白石	C 010W	縄文早	砂岩	10.5	14.4	3.6	779.1	正面・裏面の一部に磨り跡が認められる。
1599	白石	C A2V	縄文早	砂岩	10.0	15.6	4.4	1023.2	正面・裏面に磨り跡あり。
1600	白石	C 06V	縄文早	砂岩	28.2	17.7	4.4	3500.0	板状の磨面の正面・裏面に鋭く磨面する。
1601	白石	C A3V	縄文早	砂岩	37.6	20.9	5.7	6840.0	板状の磨面の正面に鋭い磨り跡が部分的に認められる。
1602	白石	C B5V	縄文早	砂岩	24.2	17.7	7.2	1020.0	正面に磨り跡あり、裏面の磨り跡は局所的なもの、全体に凸凹化が認められる。使用面はやや不規則、右から下向き欠損。
1603	白石	C A2V	縄文早	砂岩	17.7	26.0	8.5	6220.0	正面は平準で中央付近に磨り跡あり、裏面はほぼ全面で高所を中心と磨面、下部を欠損。
1604	白石	C A2V	縄文早	砂岩	29.7	33.1	11.2	12600.0	正面は約4分の1程度の磨面、裏面はほぼ全面で高所を中心と磨面、正面・裏面とも磨面、正面中央に後背的な磨り跡あり。
1605	黒石方	C B3V	石臼跡	燧石	0.7	0.4	0.2	0.1	底部なし。正面左の側面にはお椀の磨り跡が確認できる。
1606	黒石方	C B3V	石臼跡	燧石	1.2	0.4	0.2	0.1	底部、両面わずかに欠け、左右両側の磨面磨面使用面とみられる。
1607	黒石方	C B3V	石臼跡	燧石	1.0	0.4	0.2	0.1	底部欠損。
1608	黒石方	C B3V	石臼跡	燧石	1.4	0.4	0.2	0.1	底部まで残存。正面左右に右側の磨り跡が取り入れ、発汗する磨石方は一枚のみ。
1609	黒石方	C B3V	石臼跡	燧石	0.7	0.3	0.1	0.1	中間部のみ、左側面は磨り跡あり、右側面は磨り跡なし。使用面とみられる。
1610	黒石方	C B3V	石臼跡	燧石	0.8	0.7	0.1	0.1	中間部のみ。
1611	黒石方	C B3V	石臼跡	燧石	1.0	0.4	0.1	0.1	中間部のみ。
1612	黒石方	C B3V	石臼跡	燧石	1.4	0.5	0.2	0.1	両面凸する。両側面に磨り跡あり、底部から発汗まで残存。
1613	黒石方	C B2V	石臼跡	燧石	0.8	0.4	0.1	0.1	磨り跡なし、磨面。
1614	黒石方	C B3V	石臼跡	燧石	1.6	0.6	0.2	0.2	黒石方塊の作業面再生等に伴う割片、臼作業面は左面まで4枚以上の黒石方割片。
1615	黒石方	C 06V	石臼跡	燧石	1.2	0.5	0.2	0.1	中間部のみ、左側面に磨り跡あり、右側面にわずかに磨り跡あり。
1616	黒石方	C B3V	石臼跡	燧石	0.9	0.4	0.2	0.1	底部・両面凸する。裏面左側に使用面と見られる磨り跡あり。
1617	黒石方塊	C B4V	石臼跡	燧石	1.1	1.4	1.3	1.6	分節面打痕、3枚以上の長さ1.5cm程度の黒石方を両打痕より割断、右・左面は磨面、左面背面の一部に磨り跡。
1618	黒石方塊	C D6V	石臼跡	燧石	1.9	1.4	1.4	3.3	分節面を右面にし、磨り打痕が4枚以上の長さ2cm程度の黒石方を割断、正面・裏面の側面は、下端がステップ状で黒石方塊の欠けがあり、これにより黒石方塊が終了、右面に磨り跡。
1619	黒石方塊	C B4V	石臼跡	燧石	2.8	1.2	1.4	4.7	磨面を磨り跡なしの打痕が3枚以上の長さ2cm程度の黒石方を割断、下・右・左・裏面は磨面。
1620	黒石方塊	C A4V	石臼跡	燧石	3.0	1.2	1.4	3.4	磨り跡打痕から黒石方割片、最終磨り跡は幅広い。正面の黒石方割片に先行し、側面により磨り跡がなされる。
1621	黒石方塊	C B4V	石臼跡	燧石	2.6	0.9	2.2	4.8	上面は臼作業面であり、それを打痕として正面で2枚以上の黒石方割片、左・右面は、部分的に右側磨り跡の磨り跡あり、ほぼ平準な磨面のままとなる。磨り打痕の作業面も残存する。
1622	黒石方塊	C B4V	石臼跡	燧石	2.5	1.4	1.7	4.8	厚み約1.5cmの割片が磨り、正面で2枚以上の黒石方割片は、長さ2cm程度のものを2枚以上割断、下側磨面を凸し磨り跡する(下面)、上面も長さ2cm程度で2枚以上の黒石方を割断する。同じく下側磨面の上で磨り跡(左・右面)。
1623	黒石方塊	C B5V	石臼跡	チャート	2.1	1.2	1.1	1.6	磨り打痕から正面で磨り方を5枚以上割断、正面の磨り跡は正面中央付近で磨り跡が残りなく、黒石方塊最大で出頭し磨り跡が磨り跡でできている。
1624	黒石	C 表段	石臼跡	珪質頁岩	4.4	5.0	1.8	39.8	厚みのある割片の左右両端から下縁にかけて、磨り跡から二次加工で打痕形成。

第5表 土製品・瓦・瓦製品観察表

掲載番号	器種	出土位置	時期	長さ/幅等の寸法(cm)・重量(g)				手法・調整・文様ほか	色調	胎土 (単位はmm)	備考
				長さ	幅	厚さ	重量				
2	瓦	A SB1-PS	近世～近代	長7.0×幅6.1×厚1.8				薄板。	灰	～100μ少	破片。
3	瓦	A SB1-PS	近世～近代	長6.4×幅6.0×厚2.0				新字ノコ。	灰	～15μの微塵	破片。
4	不明土製品	A SF2	近世～近代	長9.3×幅9.1				板木マツカ。	にひい・赤褐色	微塵不透明多	欠損重しい。
6	平瓦	A SC1	近世～近代	長14.2×幅12.5×厚2.3				沈積3本。	灰・灰白	～100μ少	ほぼ完成、茶褐色の付着あり。
7	平瓦	A SC1	近世～近代	長18.1×幅16.2×厚1.7				なめらか。	灰	微塵透明少	破片。
8	平瓦	A SC1	近世～近代	長25.5×幅18.8×厚1.8				なめらか。	灰	～100μ少	破片。
9	平瓦	A SC1	近世～近代	長14.9×幅20.8×厚1.9					灰	～100μ少	破片。
18	土人形	A SH1	近世～近代	長4.2×幅3.8×厚0.9				ナデ	糖	～100μ少	残存率1/2。
19	瓦玉	A SH2	近世～近代	長3.7×幅3.6×厚1.2					灰黄	～100μ少	
45	輪郭口	A SB6-SC1	古代	長11.5×幅10.3×孔径2.8以上					残黄褐色	～200～1白微	全体がゴビに埋め込み多。
68	管状土器	A SE8	古代	長5.7×幅1.9×孔径0.8×重量14.3				ナデ	にひい・黄褐色	微塵濁・灰白微	ほぼ完成。
87	管状土器	B 試掘トレンチ 少	近世	長2.0×幅1.1×孔径0.3×重量1.6				ナデ	にひい	微塵透明、灰白微	残存率1/2。
107	瓦玉	C 試掘(南側)	近世	長5.4×幅4.0×厚1.6×重量49.8				-	外：灰黄・内：緑灰	精光	肥田、鉄線粒、ISC。
108	瓦玉	C D6B付	近世	長3.4×幅3.1×厚1.5×重量7.0				-	外：灰黄・内：灰白	精光	開口部～一部。
109	管状土器	C 試掘	近世	長1.9×幅1.0×孔径0.5×重量1.0				-	にひい・糖	～100μ少	～100μ少
110	百字目土器	C BG1	近世	長4.7×幅3.0×厚3.0×重量34.0					灰白	～100μ少	胎土はアルファベットの「D」字。彫刻工具ナデ。
241	円筒状土器片	C SA2-B	弥生後前期中～古墳前期	径2.8×重量10.2				ナデ	にひい・糖	～100μ少	透明、糖粒、糖粉。
747	不明土製品	C B7B目	弥生後前期中～古墳前期	-				-	残黄褐色	微塵灰濁粒・赤褐色粒	残存する。
779	土器片加工品	C C6C-1	弥生後前期中～古墳前期	-				ナデ	糖・にひい・糖	～100μ少	土器片を円形に加工。
1066	土器片鏝	C C8-B-11	縄文後期	長3.5×幅2.1×厚1.2×重量13.0				-	にひい・黄褐色	～100μ少	胎土利用で残存は切目/外周部とみられる。
1067	土器片鏝	C C7-B-11	縄文後期	長3.8×幅2.1×厚1.1×重量9.3				-	にひい・黄褐色	～100μ少	胎土利用で残存は切目/外周部とみられる。
1142	筒状土器	C SC684	縄文早期	長7.0×幅6.3×厚3.8×重量92.3				-	残黄褐色	～100μ少	～100μ少

第6表 ガラス製品観察表

掲載番号	器種	出土位置	時期	長さ/幅等の寸法(cm)・重量(g)				色調	高さ/径等の寸法(cm)・重量(g)	備考
				長さ	幅	厚さ	重量			
12	コップ水風	A 即置跡	近代	含む付目(口部～底部)				無	高54.0×底部径25.5	
25	瓶蓋	A 一組	近代	含む付目(口部付～底部)				-	高32.8	完好。
24	文具類瓶	A 一組	近代	含む付目なし(完品あり)				透緑	高35.4	完好。
68	おはじき	B 面録 B4-1	近代	含む付目なし(完品あり)				透明ガラス	高1.8×幅1.5×厚0.5×重量2.2	完好。

第7表 鉄器・銭貨観察表

掲載番号	器種	出土位置	時期	長さ/幅/厚さ(cm)・重量(g)				観察所見等
				長さ	幅	厚さ	重量	
114	鏡釘	C SB6	中世	13.8	-	-	59.4	ほぼ完成。
115	鍔金鍔蓋	C 表録	近世	1.2	-	-	0.9	全体の3分の1のみ残存。寛・通の文字のみ認識可能。
977	銭貨的針	C SA1	古墳前期	6.8	3.2	0.2～2.4	5.2	鏡が外側に付く(文様面側で埋込み)が、鏡は埋込みの可能性もあり、完好。
968	鏡か	C SA1	-	1.5	-	0.2前後	1.5	縁がへた状に折れ、磨滅で不明瞭であるが、縁が欠けるように見える。
969	鏡蓋	C SA1	-	3.2	-	0.4	2.3	中心部の地金が磨く残る形状から、鏡蓋等の小鏡蓋の基部と考えられる。
970	鏡状鏡片	C SA2	古墳前期	7.0	2.9	-	29.1	鍔や部分から断面に接する11箇条あり、それら上部の表面は刃部から2箇条の条帯に磨る。5mm程度の粗さにより表面に粗粒を残す可能性がある。
971	刀子鏡か	C SA2	-	2.2	-	0.3	1.3	
972	三角鏡片か	C SA2-SC6	-	-	-	-	1.0	非常に薄手。鏡等の縁が磨いたものか。
973	鏡状鏡片	C SA2-SC3	-	4.2	0.7	-	3.6	
974	鏡状鏡片か	C SA2	-	3.3	-	-	2.2	鏡蓋等の蓋の可能性あり。
975	不明鏡蓋	C SA3	古墳前期	2.1	-	-	1.3	何らかの用途の蓋か。鏡上部の断面は前方、鏡下部の断面は円形。
976	鏡片	C SA3	-	2.2	-	-	2.5	方形の鏡片の残欠文。粗さ不明。
977	鏡状鏡片	C SA3	-	3.4	-	-	3.2	大きい方の両面に鏡蓋材のみの確認できるため、鏡蓋等の蓋が本鏡蓋している可能性もある。
978	鍔蓋鏡	C SA4	古墳前期	3.3	2.9	-	4.0	ALA鏡(1993)に相当。弁部は欠失。
979	鏡か	C SA4	-	3.4	1.8	-	2.6	鏡蓋の縁を整形して蓋を埋め込んだもの。あるいは鏡蓋の埋め込み。
980	鏡か	C SA4	-	1.8	1.6	1.5	0.9	かなり薄手。形状から無蓋鏡の鏡蓋部か。
981	鏡か	C SA4	-	5.4	1.6	0.4	8.2	鏡か。縁が磨滅しており、形状が不明瞭。
982	不定形小鏡片	C SA4	-	1.6	2.7	-	1.8	
983	鍔蓋鏡	C SA7-SC1	古墳前期	4.6	1.6	-	5.3	小形の鍔蓋鏡。完好か。
984	鍔蓋鏡	C SA7	-	4.2	2.6	0.2～0.3	3.1	無蓋鏡。川越(1993)のA28に相当か。鏡蓋はSA7-SC1から出土。
985	不明鏡蓋 (鍔蓋鏡片か)	C SA7	-	3.0	-	-	0.3	出土遺物の詳細、注目する形状、他遺物から鏡蓋的性質とある点から、鏡蓋的性質の可能性を考えた。ただし、全体的に欠失による確認できない。出来かたが不明瞭である。出来かたが不明瞭である。出来かたが不明瞭である。出来かたが不明瞭である。
986	鍔蓋鏡	C SA	弥生後前期中～古墳前期	6.0	2.1	-	8.8	鏡蓋部が埋め込まれている。小形の鍔蓋鏡。完好か。

第Ⅶ章 自然科学分析の結果

第1節 自然科学分析の項目と概要・目的

① テフラ分析

C区の1・3・4・6・8号溝状遺構において、特徴の異なるテフラ(火山灰や軽石・スコリア等)と思われるものがそれぞれの埋土中に含まれていた。このテフラの種類が明らかになれば、各溝状遺構が構築された、あるいは埋没した年代やその過程を推定する手がかりが得られるものと期待し、各溝状遺構から土壌各1点、合計5点を採取し分析を行った。

② 植物珪酸体分析

A・C区では、主に縄文時代早期～晩期・弥生時代後期後半～古墳時代前期・古代・中世にかけての遺構・遺物が発見され、通史的な人間活動があったことが確認された。そこで、当遺跡での通史的な植生や古環境に関する情報を得ることができれば、発見された遺構・遺物の特徴と考え合わせることで、植生や土地利用の歴史を解明する手がかりが得られるものと期待し、調査区の土層断面及び遺構埋土から土壌16点を採取し、分析を行った。

③ 花粉分析

前項の植物珪酸体分析と同じく、植生や土地利用の歴史を解明することを目的とするが、植物珪酸体のみでなく花粉も対象とすることで、当遺跡やその周辺における通史的な植生や古環境に関する、より確度の高い情報が得られると期待し、調査区の土層断面及び遺構埋土から土壌11点を採取し、分析を行った。

④ 種実同定

A・C区で発見された竪穴建物跡等の21遺構から、フローテーション法により、種実835点を回収した。これらの種実は、当遺跡で栽培あるいは食用とされたものの一部と推定されることから、その種類を特定するための同定を行った。

⑤ 樹種同定

A・C区で発見された竪穴建物跡及び土坑等から炭化した木材が出土した。これらの木材は、当遺跡で用いられた建築部材や木製品、燃料材であったと推定され、15点についてその樹種同定を行った。

⑥ 放射性炭素年代測定

種実・樹種同定を行った植物資料について、その実年代を把握することにより、客観的かつ科学的な歴史資料とできる。そこで、同定対象のうち、21点について年代測定を行った。

⑦ 漆分析・有機物分析(FT-IR分析)

C区で発見された竪穴建物跡から、内面に黒色のものが付着した土器底部片が1点出土したため、この付着物が漆かどうかの分析を行った。

第2節 テフラ分析

1 対象試料と分析方法

テフラ(火山灰)の岩石学的諸特性(鉱物組成、火山ガラスの形態、火山ガラスと斜方輝石の屈折率など)を明らかにすることにより、指標テフラとの対比を試みた。なお、テフラの岩石学的諸特性や年代については新編火山灰アトラス(町田・新井, 2003)を参照した。分析試料は、C区において1・3・4・6・8号溝状遺構の埋土から採取されたNa1からNa5の計5点である(写真1)。

試料を超音波洗浄機で分散し、1φ(0.5mm)、2φ(0.25mm)、3φ(0.125mm)、4φ(0.063mm)の篩を重

ねて湿式篩分けを行った。4φ篩残渣についてテトラブロムエタン(比重:2.96)を用いて重液分離を行い、重鉱物と軽鉱物のフラクションに区分した。重鉱物は封入剤を用いてプレパラートを作成し、偏光顕微鏡下で斜方輝石(Opx)、単斜輝石(Cpx)、角閃石(Ho)、磁鉄鉱(Mg)、不明(Opq)などを同定・計数した。軽鉱物は簡易プレパラートを作製し、軽鉱物組成と火山ガラスの形態分類を行った。火山ガラスの形態は、町田・新井(2003)の分類基準に従い、バブル型平板状(b1)、バブル型Y字状(b2)、軽石型繊維状(p1)、軽石型スポンジ状(p2)、急冷破砕型フレーク状(c1)、急冷破砕型塊状(c2)に分類した。火山ガラスと斜方輝石の屈折率は、4φ篩残渣について温度変化型屈折率測定装置(古澤地質製,MAIOT2000)を用いて測定した(横山ほか,1986)。

2 分析結果

分析結果を第8表及び第160図・写真2に示し、以下に各資料の特徴を記載する。

(1) Na1(SE1) 黒色土壌で2mm程度の白色軽石を含む。粒度組成は4φ篩残渣が多く、重液分離では軽鉱物の割合が高い。軽鉱物では火山ガラスが多く、軽石型スポンジ状ガラス(p2)が主体で、軽石型繊維状ガラス(p1)、バブル型平板状ガラス(b1)、Y字状ガラス(b2)なども含まれる。重鉱物では斜方輝石(Opx)と磁鉄鉱(Mg)が多く、単斜輝石(Cpx)なども含まれる。火山ガラスの屈折率は1.5092-1.5143(平均値1.5124)、斜方輝石(Opx)の屈折率は1.7001-1.7076(平均値1.7041)である。

(2) Na2(SE4) 暗灰黄色の細粒軽石である。粒度組成は2φと3φの篩残渣が多く、重液分離では軽鉱物の割合が高い。軽鉱物では火山ガラスが多く、軽石型スポンジ状ガラス(p2)が主体で、軽石型繊維状ガラス(p1)、バブル型Y字状ガラス(b2)なども含まれる。重鉱物では、磁鉄鉱(Mg)と斜方輝石(Opx)が多く、単斜輝石(Cpx)なども含まれる。火山ガラスの屈折率は1.5098-1.5151(平均値1.5123)、斜方輝石(Opx)の屈折率は1.7088-1.7141(平均値1.7118)である。

(3) Na3(SE3, 3層) 黒色土壌で1mm程度の白色軽石を含む。粒度組成は2φの篩残渣が多く、重液分離では軽鉱物の割合が高い。また、1φ篩残渣中では白色軽石(最大3mm)が主体で、他起源の砂粒を少量含む。軽鉱物では、火山ガラスは比較的少なく、軽石型スポンジ状ガラス(p2)が主体で、バブル型平板状ガラス(b1)、Y字状ガラス(b2)なども含まれる。重鉱物では、斜方輝石(Opx)が多く、磁鉄鉱(Mg)、単斜輝石(Cpx)、角閃石が含まれる。火山ガラスの屈折率は1.5096-1.5150(平均値1.5127)、斜方輝石(Opx)の屈折率は1.7096-1.7158(平均値1.7123)である。

(4) Na4(SE8, 2層) 黒色土壌で1~2mmの白色軽石を含む。粒度組成は2φの篩残渣が多く、重液分離では軽鉱物の割合が高い。また、1φ篩残渣中では白色軽石(最大2mm)が主体で、他起源の砂粒をやや多く含む。軽鉱物では、火山ガラスは比較的少なく、軽石型スポンジ状ガラス(p2)が主体で、バブル型平板状ガラス(b1)、Y字状ガラス(b2)、軽石型繊維状ガラス(p1)が含まれる。重鉱物では斜方輝石(Opx)が多く、磁鉄鉱(Mg)、単斜輝石(Cpx)が含まれる。火山ガラスの屈折率は1.5105-1.5152(平均値1.5127)、斜方輝石(Opx)の屈折率は1.7099-1.7146(平均値1.7125)である。

(5) Na5(SE6, 3層) 黒色土壌で1~2mmの白色軽石を含む。粒度組成は2φの篩残渣が多く、重液分離では軽鉱物の割合が高い。また、1φ篩残渣中では白色軽石(最大4mm)が主体で、他起源の砂粒は少ない。軽鉱物では、火山ガラスは多く含まれ、軽石型スポンジ状ガラス(p2)が主体で、バブル型平板状ガラス(b1)、Y字状ガラス(b2)、軽石型繊維状ガラス(p1)が含まれる。重鉱物では、斜方輝石(Opx)が多く、磁鉄鉱(Mg)、単斜輝石(Cpx)が含まれる。火山ガラスの屈折率は1.5098-1.5155(平均値1.5126)、斜方輝石(Opx)の屈折率は1.7099-1.7152(平均値1.7122)である。

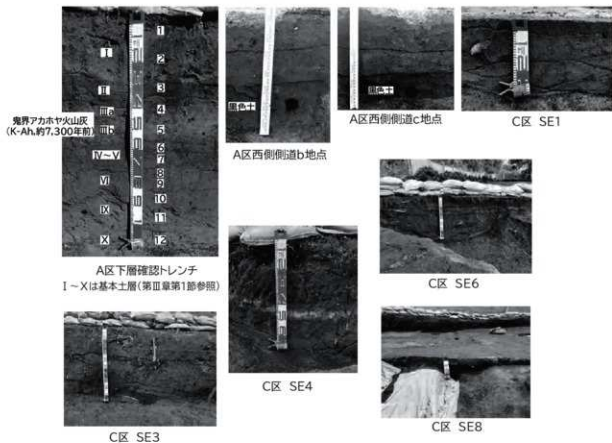


写真1 試料採取箇所

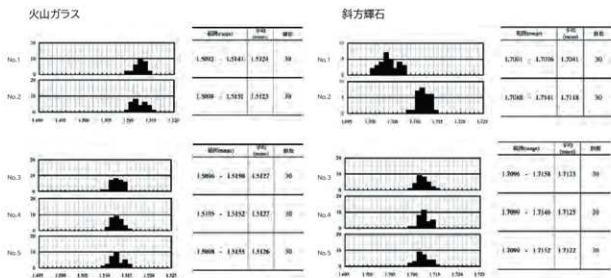
No.	遺構	取埋深 (g)	砂粒分の粒度組成 (重量g)				黏土組成 (重量g)	
			1.0	2.0	3.0	4.0	軽黏土	重黏土
1	SE1	31.07	0.24	0.27	0.44	0.64	0.12	0.01
2	SE4	23.92	0.22	2.97	2.73	2.11	0.23	0.02
3	SE3	21.38	1.19	2.08	1.90	1.49	0.11	0.01
4	SE8	22.07	1.79	2.77	2.04	1.53	0.13	0.02
5	SE6	22.97	0.91	2.63	1.85	1.46	0.13	0.01

分析計	長石 (Pl)	不明 (Opx)	火山ガラス					ガラス 合計	軽黏土 合計	重黏土					重黏土 合計		
			バブル (泡) 型		軽石型		急冷溶融型			単方輝石 (Opx)	単斜輝石 (Cpx)	角閃石 (Ols)	磁鉄鉱 (Mg)	鉄片 (Fr)		不明 (Opx)	
			平板状 (b1)	Y字状 (b2)	繊維状 (a1)	スポンジ 状 (a2)											フレーク 状 (c1)
No.																	
1	23	27	8	9	7	166	-	-	190	250	118	34	-	96	1	9	250
2	17	5	-	5	14	208	1	-	228	250	89	14	-	159	-	8	250
3	7	58	91	9	24	1	60	-	94	250	103	43	2	62	39	250	
4	10	18	132	3	4	4	79	-	90	250	122	33	-	62	33	250	
5	2	8	52	3	6	8	171	-	188	250	117	28	-	96	15	250	

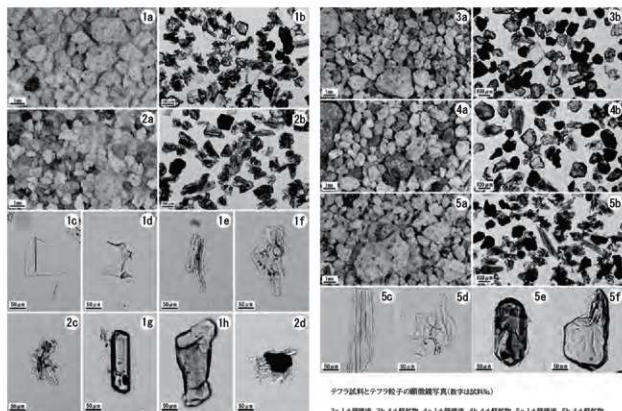
第8表 テフラ分析結果

3 所見

テフラの岩石学的諸特性(鉱物組成、火山ガラスの形態、火山ガラスと斜方輝石の屈折率)、顕微鏡観察の所見、及び土層の堆積状況などから、SE1のテフラ(Na1)は霧島新燃享保テフラ(Kr-SmK,1717年)、SE4のテフラ(Na2)、SE3(3層)、SE8(2層)、SE6(3層)は桜島文明テフラ(Sz-3,1471年)に由来すると考えられる。



第160図 屈折率測定結果



テフロン試料とテフロン粒子の顕微鏡写真 (数字は拡大率)

1a, 1b 難燃性 1b, 1c 難燃物 2a, 1d 難燃性 2b, 1e 難燃物
 1c, パブル型平板状ガラス 1d, パブル型V字状ガラス 1e, 軽石型繊維状ガラス
 1f, 軽石型メッシュ状ガラス 2c, 軽石型メッシュ状ガラス 1g, 斜方輝石
 2d, 単斜輝石 2f, ガラス付巻線状物

テフロン試料とテフロン粒子の顕微鏡写真(数字は拡大率)

3a, 1d 難燃性 3b, 4d 難燃物 4a, 1d 難燃性 4b, 4d 難燃物 5a, 1d 難燃性 5b, 4d 難燃物
 5c, 軽石型繊維状ガラス 5d, 軽石型メッシュ状ガラス 5e, 斜方輝石 5f, 単斜輝石

写真2 テフロン試料とテフロン粒子の顕微鏡写真

霧島新燃享保テフラ(Kr-SmK)は、AD1717年に霧島火山新燃岳から噴出した降下軽石(pfa)で、主に東方向に分布している。火山ガラスの屈折率(n)は1.511-1.515、斜方輝石の屈折率(γ)は1.689-1.708である。桜島文明テフラ(Sz-3)は、AD1471年に桜島火山から噴出した降下軽石(pfa)で、主に東北東方向100kmの範囲に分布している。火山ガラスの屈折率(n)は1.510-1.515、斜方輝石の屈折率(γ)は1.710-1.715である(町田・新井,2003)。

第3節 植物珪酸体分析

1 はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸(SiO_2)が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定及び古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山,2000,2009)。

2 対象試料と方法

分析試料は、A区下層確認トレンチの基本土層I～X層から採取された12点、A区西側側道b地点・c地点の基本土層のII層相当から採取された2点、及びC区においてSE1とSE4の埋土(テフラ直下)から採取された2点の計16点である。

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法(藤原,1976)を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加(0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、主にイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、主な分類群についてはこの値に試料の仮比重(1.0と仮定)と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる(杉山,2000)。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

3 分析結果

(1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第9表及び第161図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真(写真3)を示す。

[イネ科]

イネ、イネ(穎の表皮細胞由来)、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヨシ属、シバ属型、キビ族型、ススキ属型(主にススキ属)、ウシクサ族A(チガヤ属など)、ウシクサ族B(大型)、Bタイプ

[イネ科-タケ亜科]

メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型(主にメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型(ササ属チマキザサ節・チンマザサ節など)、ミヤコザサ節型(ササ属ミヤコザサ節など)、マダケ属型(マダケ属、ホウライチク属)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体(主に結合組織細胞由来)、莖部起源、未分類等

[樹木]

ブナ科(シイ属)、クスノキ科、マンサク科(イスノキ属)、その他

(2) 植物珪酸体の検出状況

1) A区下層確認トレンチ

下位の基本土層X層(試料12)から基本土層IX層(試料11)にかけては、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が比較的多く検出され、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、イネ科Bタイプ、ネザサ節型なども認められた。基本土層VI層(試料8~10)では、ネザサ節型が増加してメダケ節型が出現し、ミヤコザサ節型は減少している。基本土層IV~V層(試料6、7)ではネザサ節型が大幅に増加し、チマキザサ節型は減少している。K-Ah層準の基本土層IIIb層(試料5)では、ほとんどの分類群が減少し、樹木(その他)が出現している。基本土層IIIa層(試料4)から基本土層II層(試料3)にかけては、ネザサ節型が大幅に増加し、メダケ節型も増加している。また、基本土層II層(試料3)ではイネ、ヨシ属、シバ属型、及び樹木(照葉樹)のマンサク科(イスノキ属)などが出現している。イネの密度は1,600個/gと比較的低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/g(状況により3,000個/gとする場合もある)を下回っている。基本土層I層(試料1、2)では、イネが増加し、ムギ類(穎の表皮細胞)、マダケ属型、及び樹木(照葉樹)のクスノキ科などが出現している。イネの密度は、試料1では3,600個/g、試料2では3,300個/gといずれも比較的高い値である。ムギ類(穎の表皮細胞)の密度は1,000個/g程度と低い値であるが、穎(穀殻)が栽培地に残される確率は低いことから、少量が検出された場合でも過大に評価する必要がある。主な分類群の推定生産量によると、基本土層X~VI層にかけては量的には少ないもののチマキザサ節型が優勢、基本土層IV~V層から基本土層I層にかけてはネザサ節型が優勢であり、とくに基本土層II層ではネザサ節型が卓越している。

2) A区西側側道b地点・A区西側側道c地点

各地点の基本土層のII層相当では、ネザサ節型が多量に検出され、ススキ属型、メダケ節型も比較的多く検出された。また、イネ、ヨシ属、シバ属型、キビ族型、ウシクサ族A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、及び樹木(照葉樹)のマンサク科(イスノキ属)なども認められた。イネの密度はいずれも500個/gと低い値である。主な分類群の推定生産量によると、ネザサ節型が優勢となっている。

3) C区SE1・SE4(溝状遺構)

SE1の埋土(Kr-SmK直下)では、ネザサ節型が多量に検出され、ススキ属型、メダケ節型も比較的多く検出された。また、イネ、ヨシ属、シバ属型、キビ族型、ウシクサ族A、チマキザサ節型、及び樹木(照葉樹)のマンサク科(イスノキ属)なども認められた。SE4の埋土(Sz-3直下)でも、おおむね同様の結果であり、樹木(照葉樹)のブナ科(シイ属)も認められた。イネの密度はいずれも500個/gと低い値である。主な分類群の推定生産量によると、ネ

ザサ節型が優勢となっている。

4 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

(1) A区下層確認トレンチ

下位の基本土層X層からIX層にかけては、ササ属(チマキザサ節やミヤコザサ節)をはじめ、ススキ属やチガヤ属なども生育するイネ科植生であったと考えられる。タケ亜科(竹笹類)のうち、メダケ属は温暖、ササ属は寒冷な気候の指標とされており、メダケ率(両者の推定生産量の比率)の変遷は、地球規模の水期-間水期サイクルの変動と一致することが知られている(杉山,2001,2010,2017)。ここではササ属が優勢であり、メダケ率が3~4%と低いことから、当時は比較的寒冷な気候環境であったと推定される。

基本土層VI層の堆積当時は、ササ属やメダケ属(主にネザサ節)をはじめ、ススキ属やチガヤ属、キビ族なども生育するイネ科植生であり、周辺にはヨシ属が生育するような湿潤なところも存在していたと考えられる。基本土層VI層上部にかけては、メダケ属(主にネザサ節)の増加に伴ってササ属が減少し、メダケ率は55%まで上昇している。このような植生変化は、後水期(縄文時代早期以降)における気候温暖化に対応していると考えられる。これと同様の植生変化は、宮崎県南部の比較的広い地域で認められており、その層位は桜島IIテフラ(Sz-II,約8,000年前)を混在する層位であることが多い。

鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah,約7,300年前)直下の基本土層IV~V層では、メダケ属(主にネザサ節)を主体としてススキ属やチガヤ属、キビ族なども生育するイネ科植生であったと考えられる。メダケ率は94%まで上昇しており、現在とおおむね同様の温暖な気候環境であったと推定される。その後、K-Ahの降灰によって当時の植生は一時的に大きな影響を受けたと考えられるが、K-Ahより上位の基本土層IIIa層の時期には基本土層IV~V層とおおむね同様の植生が回復しており、遺跡周辺には何らかの樹木が生育していたと推定される。

基本土層のII層相当では、比較的少量ながらイネが検出されることから、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。同層の堆積当時は、メダケ属(主にネザサ節)を主体として、ススキ属やチガヤ属、シバ属、キビ族なども生育する日当たりの良い草原的な環境であり、周辺にはヨシ属が生育するような湿潤なところも存在していたと考えられる。また、遺跡周辺にはイスノキ属などの照葉樹が分布していたと推定される。

イネ科植物(ササ属を除く)は日当たりの悪い林床では生育が困難であり、ススキ属やチガヤ属の草原が維持されるためには定期的な刈り取りや火入れ(焼き払い)が必要である(堀田,1991,近藤,1995)。このことから、当時は何らかの目的で火入れなど人間による植生干渉が行われていた可能性が考えられ、このような植生環境下で土壌中に多量の有機物が供給されて、炭素含量の高い黒色土壌(黒ボク土)が形成されたと推定される(杉山ほか,2002)。

基本土層I層では、イネが比較的多く検出されることから、稲作が行われていた可能性が高いと考えられ、ムギ類が栽培されていた可能性も認められた。同層の堆積当時は、基本土層II層とおおむね同様の日当たりの良い草原的な環境であったと考えられ、遺跡周辺にはイスノキ属やクスノキ科などの照葉樹が分布していたと推定される。基本土層I層ではメダケ属が出現しているが、メダケ属にはメダケやモウソウチクなど有用なものが多く、建築材や生活用具、食用などとしての利用価値が高い。

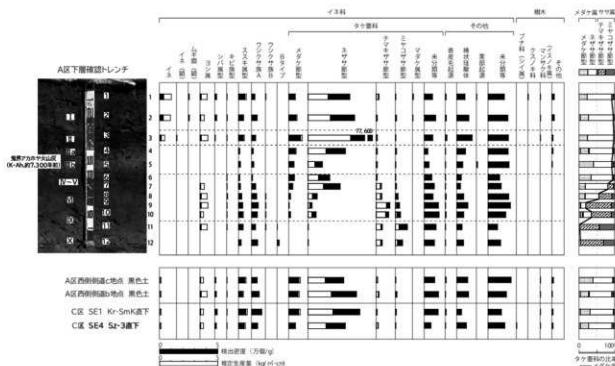
(2) A区西側側道b地点・A区西側側道c地点

各地点の基本土層のII層相当では、少量ながらイネが検出されることから、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。同層の堆積当時は、メダケ属(主にネザサ節)を主体として、ススキ属やチガヤ属、シバ属、キビ族なども生育する日当たりの良い草原的な環境であり、周辺にはヨシ属が生育するような湿潤な

検出濃度(単位:×100 μg)		地点・採科		A区												西側斜面		C区	
分類群	学名	下層埋設トレンチ												C地点	W地点	SE1	SE4		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12						
イネ科	<i>Gramineae</i>																		
イネ	<i>Oryza sativa</i>	36	33	16												5	5	5	5
イネ科類(籾の表皮細胞)	<i>Oryza sativa</i> (husk Physolith)			5															
ムギ科類(籾の表皮細胞)	<i>Hordeum Triticum</i> (husk Physolith)	10	11																
コシ属	<i>Phragmites</i>	10	6	11					5	10	11	5	10		5	10	5	5	
シバ属型	<i>Zizania</i> type	16	17	5											10	15	21	15	
年忌型	<i>Panicum</i> type	5	6	5					5	5	10	5	5		5	5	5	5	
スズメ草属型	<i>Miscanthus</i> type	57	39	43	11	16	10	16	25	32	36	35	20		55	36	63	50	
ウツクザ草属A	<i>Andropogoneae</i> A type	31	50	37	16	21	10	38	46	59	51	35	55		50	67	89	54	
ウツクザ草属B	<i>Andropogoneae</i> B type	5							5	5	5	5							
ヒメタイプ	B type											5	20						
タネ科類	<i>Bombacaceae</i>																		
メダケ草属	<i>Phytolacca</i> sect. <i>Nipponcalamus</i>	52	66	106	59	42	46	33	15	5	15				90	82	89	54	
メダケ草属	<i>Phytolacca</i> sect. <i>Nitens</i>	367	409	776	328	127	192	282	82	37	72	5	5		314	426	454	327	
ナマケザ草属	<i>Sua</i> sect. <i>Sua</i> etc.	26	11	11	11	11	10	49	51	122	112	56	55		15	26	10	20	
ミヤコザ草属	<i>Sua</i> sect. <i>Craspedioides</i>	5	11	5	11	5	5	11	25	37	46	106	64		5	15	10	5	
マダケ草属	<i>Phytolacca</i>	10	6																
非分類等	Others	72	99	74	32	42	66	87	76	122	128	101	89		90	123	120	59	
その他のイネ科	Others																		
表皮毛起源	<i>Husk hair origin</i>	10	11	16	5	5	5	5	10	5	10	5	10	5		5	10	5	10
棒状細胞	<i>Rod-shaped</i>	72	105	133	75	53	40	33	61	96	61	46	60		95	103	42	84	
葉脈起源	<i>Stem origin</i>	5																	
未分類等	Others	140	171	175	172	180	101	114	178	192	153	81	109		199	159	115	144	
菌糸起源	<i>Fungal</i>																		
ブナ科(シイ属)	<i>Casuarinaceae</i>																		5
クスノ科	<i>Lauraceae</i>	5																	
マンサク科(イスノキ属)	<i>Dicranum</i>	5	6	5															5
その他	Others	21	22	11	11	5													5
植物群総数	Total	963	1077	1436	731	518	491	677	597	730	700	497	481		967	1087	1054	852	

おこなひ分類群の検出生産量(単位:μg/ml-cm)に試料の検出量を1.0と仮定して算出		A区												西側斜面		C区			
イネ	<i>Oryza sativa</i>	1.07	0.97	0.47															
コシ属	<i>Phragmites</i>	0.65	0.35	0.67					0.34	0.64	0.67	0.32	0.64		0.31	0.65	0.33	0.31	
スズメ草属	<i>Miscanthus</i> type	0.71	0.48	0.53	0.13	0.20	0.13	0.20	0.32	0.40	0.44	0.44	0.25		0.68	0.45	0.78	0.61	
メダケ草属	<i>Phytolacca</i> sect. <i>Nipponcalamus</i>	0.60	0.77	1.23	0.69	0.49	0.53	0.38	0.18	0.06	0.18		1.04	0.95	1.03	0.63			
メダケ草属	<i>Phytolacca</i> sect. <i>Nitens</i>	1.76	1.96	3.73	1.57	0.61	0.92	1.35	0.39	0.18	0.34	0.02	0.02		1.51	2.04	2.18	1.57	
ナマケザ草属	<i>Sua</i> sect. <i>Sua</i> etc.	0.19	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.37	0.38	0.92	0.84	0.42	0.41		0.11	0.19	0.08	0.15	
ミヤコザ草属	<i>Sua</i> sect. <i>Craspedioides</i>	0.02	0.03	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03	0.08	0.11	0.14	0.32	0.19		0.01	0.05	0.03	0.01	

第9表 植物珪酸体分析結果



第161図 植物珪酸体分析結果

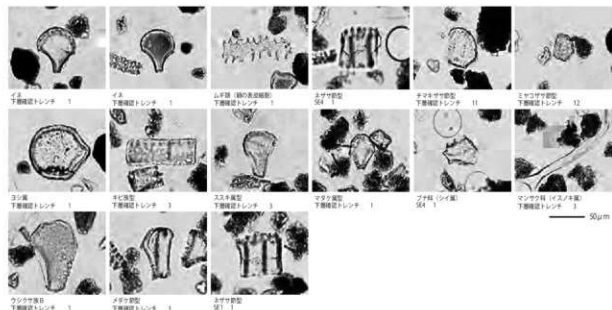


写真3 植物珪酸体(プラントオパール)

ところも存在していたと考えられる。また、遺跡周辺にはイヌノキ属などの照葉樹が分布していたと推定される。

(3) C区SE1・SE4(溝状遺構)

SE1の埋土(Kr-SmK直下)とSE4の埋土(Sz-3直下)では、少量ながらイネが検出されることから、当時は周辺で稲作が行われていた可能性が考えられるが、溝状遺構の埋土であることから、ここで検出されたイネについては何らかの形で利用された稲藁に由来する可能性も考えられる。稲藁の利用としては、藁製品(俵、縄、ムシロ、草履など)、建物の屋根材や壁材、敷き藁、燃料など多様な用途が想定される。各遺構の埋土の堆積当時は、A区の基本土層のⅡ層相当とおおむね同様の日当たりの良い草原的な環境であったと考えられ、遺跡周辺にはイヌノキ属やシイ属などの照葉樹が分布していたと推定される。

第4節 花粉分析

1 はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの有機質遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2 対象試料と方法

対象試料は、A区下層確認トレンチの基本土層Ⅰ～X層から採取された7点、A区西側側道b地点・c地点の基本土層のⅡ層から採取された2点、及びC区においてSE1とSE4の埋土(テフラ直下)から採取された2点の計11点である。試料採取箇所を写真1に示す。

花粉の分離抽出は、中村(1967)の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から1cm³を秤量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加えて15分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去

- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 5) 水洗処理の後、水酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す
- 6) 再び水酢酸を加えて水洗処理
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)及び中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節及び種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。イネ属については、中村(1974,1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

3 分析結果

(1) 分類群

検出された分類群は、樹木花粉19、樹木花粉と草本花粉を含むもの5、草本花粉16、シダ植物孢子2形態の計42分類群である。なお、寄生虫卵は認められなかった。分析結果を第10表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した(第162図)。主要な分類群について顕微鏡写真(写真4)を示す。以下に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、ヤナギ属、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属-マテバシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、サンショウ属、カエデ属、トチノキ、ブドウ属

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科-イラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ゴマノハグサ科

[草本花粉]

イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キンボウケ属、アブラナ科、ノアズキ属、アリノトウグサ属-フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、オミナエシ科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

[シダ植物孢子]

単条溝孢子、三条溝孢子

(2) 花粉群集の特徴

1) A区下層確認トレンチ

下位の基本土層X層(試料12)から基本土層IV～V層(Na6)にかけては、花粉がほとんど検出されなかった。基本土層IIIa層(試料4)では、草本花粉のイネ科、ヨモギ属、樹木花粉のシイ属-マテバシイ属、コナラ属コナラ亜属などが検出されたが、いずれも少量である。基本土層II層(試料3)では、草本花粉の占める割合が高く、イネ科、ヨモギ属が優勢で、キク亜科、アリノトウグサ属-フサモ属、カヤツリグサ科などが伴われる。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属が優勢で、クリ、シイ属-マテバシイ属、コナラ属コナラ亜属、マツ属複雑管束亜属、スギなどが伴われる。基本土層I層(試料1)では、イネ科(イネ属型含む)が大幅に増加し、樹木花粉ではスギが増加している。

2) A区西側側道b地点・A区西側側道c地点

A区西側側道b地点・c地点の基本土層Ⅱ層では、草本花粉の占める割合が高く、イネ科（イネ属型含む）、ヨモギ属が優勢で、キク亜科、アリノトウグサ属-フサモ属、カヤツリグサ科などが伴われる。樹木花粉では、クリ、シイ属-マテバシイ属、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、マツ属複雑維管束亜属などが認められた。

3) C区：SE1・SE4(溝状遺構)

SE1の埋土(Kr-SmK直下)では、草本花粉の占める割合が高く、イネ科、ヨモギ属が優勢で、タンポポ亜科、キク亜科、アリノトウグサ属-フサモ属などが伴われる。樹木花粉では、シイ属-マテバシイ属、コナラ属アカガシ亜属、クリ、コナラ属コナラ亜属、マツ属複雑維管束亜属などが認められた。SE4の埋土(Sz-3直下)でも、おおむね同様の結果である。

4 花粉分析から推定される植生と環境

1) A区下層確認トレンチ

下位の基本土層X層から鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah,約7,300年前)直下の基本土層Ⅳ～Ⅴ層にかけては、花粉がほとんど検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

K-Ahより上位の基本土層Ⅲa層では、花粉があまり検出されないことから植生と環境の詳細な推定は困難であるが、周辺にはイネ科やヨモギ属などの草本類が生育し、周辺地域には照葉樹のシイ類(シイ属-マテバシイ属)、二次林要素のナラ類(コナラ属コナラ亜属)、マツ類(マツ属複雑維管束亜属)などが分布していた可能性が考えられる。

基本土層Ⅱ層の堆積当時は、イネ科(ススキ属など)やヨモギ属をはじめ、キク亜科なども生育する日当たりの良い比較的乾燥した人里周辺の環境であったと考えられる。森林植生としては、周辺地域にシイ類やカシ類などの照葉樹林が分布し、二次林要素のナラ類、クリ、マツ類なども生育していたと推定される。

基本土層Ⅰ層では、少量ながらイネ属型が検出されることから、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。同層の堆積当時は、基本土層Ⅱ層とおおむね同様の植生環境であったと考えられるが、周辺地域では照葉樹林が減少し、造林とみられるスギ林が増加したと推定される。

2) A区西側側道b地点・A区西側側道c地点

基本土層のⅡ層相当では、少量ながらイネ属型が検出されることから、周辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。同層の堆積当時は、イネ科(ススキ属など)やヨモギ属をはじめキク亜科なども生育する日当たりの良い比較的乾燥した人里周辺の環境であり、周辺にはアリノトウグサ属-フサモ属が生育するような湿潤なところも存在していたと考えられる。森林植生としては、周辺地域にシイ類やカシ類などの照葉樹林が分布し、二次林要素のナラ類、クリ、マツ類なども生育していたと推定される。

3) C区SE1・SE4(溝状遺構)

SE1の埋土(Kr-SmK直下)及びSE4の埋土(Sz-3直下)の堆積当時は、イネ科(ススキ属など)やヨモギ属をはじめタンポポ亜科、キク亜科なども生育する日当たりの良い比較的乾燥した人里周辺の環境であり、アリノトウグサ属-フサモ属が生育するような湿潤なところも存在していたと考えられる。森林植生としては、周辺地域にシイ類やカシ類などの照葉樹林が分布し、二次林要素のナラ類、クリ、マツ類なども生育していたと推定される。

第5節 種実同定

1 はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内などに残存している場合がある。堆積物や遺構

埋土などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や植物利用の実態を明らかにすることができる。

2 対象試料と方法

試料は、A区の畝状遺構①・②・⑤・⑧・⑩、掘立柱建物跡に伴う土坑(SB6-SC1)、C区の竪穴建物跡及び竪穴建物跡に伴う土坑(SA1-SC2、SA4、SA8-SC1、SA3、SA7-SC1)、掘立柱建物跡に伴う土坑(SB2-SC1)、土坑(SC3、SC9、SC10、SC12、SC14、SC15、SC69、SC87)、集石遺構(SI1)からフローテーションにより採取された種実類376-1～8及び404-1～16である。

種実類について肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴及び現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

3 同定結果

種実同定の結果、樹木8、草本17の計22分類群が同定された。分析結果を第11表に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載し、主要な分類群について写真(写真5)を示す。

(1) 分類群

[樹木]

ヤマモモ *Myrica rubra* S. et Z. 炭化核(破片) ヤマモモ科

黒色で楕円形を呈し、両端がややとがる。一端にへそがあり、表面は粗い。断面は扁平である。

ツブラジイ *Castanopsis cuspidate* Schott. 炭化子葉(半形) ブナ科

黒色で、楕円形を呈する。表面はなめらかで縦方向に一条の凹線が入る。

イチイガシ *Quercus gilva* Blume 炭化子葉(略完) ブナ科

黒色で、楕円形を呈する。表面はなめらかで縦方向に一条の凹線が入る。

コナラ属 *Quercus* 炭化果皮(破片・細片)・炭化子葉(破片) ブナ科

果皮、子葉は黒褐色で表面は平滑である。この分類群は殻斗が欠落し、破片、細片の状態であるため属レベルの同定に留めた。

ブドウ属 *Vitis* 炭化種子(完形) ブドウ科

黒色で卵形を呈し先端がとがる。腹面には二つの孔があり、背面には先端が楕円形のへそがある。

ガズミ属 *Viburnum* 炭化核(完形) スイカズラ科

黒色で楕円形を呈す。腹面に1本と背面に2本の溝が走り、下端に小さなへそがある。

クマノミズキ *Cornus brachypoda* C. A. Mey. 核(破片) ミズキ科

淡褐色で球形を呈す。表面に一本の広い溝がめぐり、数本の細い縦筋が走る。

[草本]

イネ *Oryza sativa* L. 果実(破片) イネ科

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がかくぼむ。表面には数本の筋が走る。状態の良い個体(130粒)について測定したところ、粒長は平均4.38mm(最大6.29mm、最小3.14mm)、粒幅は平均2.34mm(最大3.28mm、最小1.69mm)であった(第12表)。

ヒエ *Echinochloa utilis* Vigna 炭化果実(完形・破片) イネ科

黒色で類円形を呈し胚の部分がかくぼむ。

イヌビエ属 *Echinochloa* Beauv. 炭化果実(完形・破片) イネ科

黒色で楕円形を呈す。表面には微細な縦方向の模様がある。ヒエの変異の範囲内である可能性がある。

オオムギ *Hordeum vulgare* L. 果実 イネ科

炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく、胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。未成熟である。

ムギ類(オオムギ-コムギ) *Hordeum-Triticum* 果実(破片) イネ科

オオムギもしくはコムギと思われるが、発泡しているためムギ類とした。

イネ科 Gramineae 類

黒褐色で紡錘形を呈す。腹面はやや平ら。背面は丸い。表面は滑らかである。

ハタルイ属 *Scirpus* 炭化果実(完形) カヤツリグサ科

黒色で広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起がある。

カヤツリグサ科 *Cyperaceae* 炭化果実(完形)

黒色で倒卵形を呈す。断面は三角形である。

キンバイザサ *Curculigo orchioides* Gaertn. 種子 キンバイザサ科

漆黒で卵形体や楕円体を呈し、基部の片側から鉤状の太い突起がでる。へそは突起の先端の内側にある。

ノビル *Allium macrostemon* 鱗茎(炭化) ヒガンバナ科

黒色でやや円形を呈す。横断面は筒状葉、表皮細胞は丸みをおびた歪な長方形で、葉肉細胞は横軸方向に長い六角形である。

ササゲ属 *Vigna* 炭化子葉(完形) マメ科

黒色で楕円形を呈す。へそは欠落している。ササゲ属にはリョクトウ、アズキ、ササゲなどの栽培植物が含まれるが、現状の研究では識別は困難である。

マメ科 *Leguminosae* 炭化子葉(完形) マメ科

黒色で楕円形を呈し、縦に一本の溝状の筋が走る。

アカネ科 *Rubiaceae* 炭化種子(完形)

黒色で偏球形を呈し、背面は広楕円状円形である。中央に円形の穴がある。

不明種実 Unknown seeds

種実と考えられるが、表面模様、特徴などが観察されないため、不明種実とした。

不明植物遺体 Unknown Plant remains

植物ではあるが、種実かどうか不明のため、不明植物遺体とした。

不明 Unknown

植物の特徴が観察されず、種実かどうか不明である。

(2) 種実群集の特徴

376-1(A区畝状遺構①): イネ炭化果実破片1個、不明植物遺体1個が同定された。

376-2(A区畝状遺構⑤): クマノミズキ炭化核破片1個、不明植物遺体1個が同定された。

376-3(A区畝状遺構②): イネ炭化果実破片1個、オオムギ炭化果実3個、不明植物遺体3個が同定された。

376-4(A区畝状遺構①): イネ炭化果実破片1個、オオムギ炭化果実(未成熟)1個、キンバイザサ種子1個、不明植物遺体4個が同定された。

376-5(A区畝状遺構⑧): ムギ類炭化果実破片1個、不明植物遺体2個が同定された。

粒形	粒長(mm)	粒幅(mm)	粒長(mm)	粒幅(mm)	粒長(mm)	粒幅(mm)	粒長(mm)	粒幅(mm)
1	4.29	2.73	51	3.87	1.81	101	4.53	2.48
2	4.96	3.12	52	3.94	2.25	102	4.19	2.06
3	4.32	2.57	53	3.84	2.02	103	4.87	2.76
4	4.77	2.55	54	4.54	2.37	104	4.22	2.13
5	3.81	2.19	55	4.15	2.40	105	4.35	1.95
6	3.68	1.91	56	4.80	2.43	106	4.22	2.41
7	4.77	2.64	57	4.71	2.20	107	4.59	2.59
8	4.54	2.47	58	5.75	3.28	108	4.13	1.84
9	4.15	2.48	59	5.12	2.50	109	4.35	2.51
10	4.55	2.51	60	4.49	2.52	110	4.64	2.56
11	4.94	2.58	61	3.68	2.30	111	4.78	1.96
12	3.88	1.95	62	4.30	2.52	112	3.64	1.88
13	5.41	2.35	63	5.50	2.71	113	4.87	2.47
14	4.13	1.98	64	3.30	1.97	114	4.37	2.57
15	3.19	1.80	65	3.42	2.05	115	5.19	2.48
16	3.74	2.36	66	4.74	2.06	116	4.46	2.14
17	4.55	2.51	67	4.90	2.85	117	4.83	2.45
18	3.69	1.99	68	3.79	2.25	118	4.29	2.67
19	5.07	2.45	69	3.14	1.88	119	4.44	2.07
20	4.57	2.22	70	5.26	3.25	120	3.23	2.06
21	4.71	1.85	71	5.04	2.49	121	4.66	2.68
22	4.33	2.26	72	4.73	2.60	122	3.56	2.27
23	5.04	2.81	73	3.64	2.00	123	4.34	2.28
24	4.70	2.48	74	6.04	2.67	124	3.50	2.06
25	5.80	2.72	75	4.28	2.23	125	4.08	2.19
26	4.33	2.11	76	4.47	1.94	126	4.34	2.15
27	5.05	2.58	77	4.57	1.95	127	3.99	2.16
28	3.36	2.57	78	5.00	2.65	128	3.86	2.35
29	5.17	2.68	79	4.17	2.51	129	4.34	3.02
30	3.83	2.17	80	5.17	2.78	130	3.99	2.32
31	4.29	2.57	81	4.96	2.58			
32	3.68	1.71	82	4.36	2.37			
33	4.83	2.58	83	5.51	2.65			
34	4.35	2.28	84	5.18	2.63			
35	3.42	1.96	85	3.87	2.11			
36	4.97	3.78	86	3.51	2.26			
37	4.00	1.69	87	5.25	2.65			
38	4.77	2.58	88	4.24	2.48			
39	3.30	2.30	89	6.29	2.64			
40	4.79	2.78	90	4.93	2.31			
41	3.87	1.77	91	5.25	3.00			
42	4.00	2.50	92	3.82	2.04			
43	3.75	2.10	93	4.32	2.39			
44	3.37	2.08	94	3.96	2.27			
45	4.15	2.14	95	3.38	2.01			
46	4.31	2.40	96	3.46	2.05			
47	4.12	2.51	97	3.63	1.98			
48	4.50	2.81	98	4.09	2.20			
49	2.46	2.24	99	3.61	2.12			
50	4.06	2.00	100	5.10	2.11			

粒形	粒大		粒中		粒小		小		中		合計	%
	2.6-3.0	3.1-3.5	3.6-4.0	4.1-4.5	4.6-5.0	5.1-5.5	5.6-6.0	6.1-6.5	6.6-7.0	7.1-7.5		
L	2.6-3.0										0	26.9
	3.1-3.5											
	3.6-4.0											
M	2.6-3.0											79.1
	3.1-3.5											
	3.6-4.0											
S	2.6-3.0											0
	3.1-3.5											
	3.6-4.0											
合計	30	63	93	4	130							100
%	23.1	48.5	25.4	3.1								

*粒形は粒長/粒幅、粒の大きさは粒長×粒幅で表す。

第13表 イネの粒形と大きさ

粒長(mm)	粒幅(mm)
平均値	4.38 2.34
最大値	6.29 3.28
最小値	3.14 1.89

第12表 イネ炭化果実の計測値(粒長・粒幅)

376-6(C区SC3)：草本種実のイネ炭化果実(未成熟)1個が同定された。

376-7(C区SC12)：草本種実のイネ炭化果実破片1個、イネ科炭化穎1個、不明植物遺体5個が同定された。

376-8(C区SA8-SC1)：不明種実炭化破片1個が同定された。

404-1(A区SB6-SC1,NE区)：草本種実のイネ果実(炭化米)68個、破片119個、ヒエ果実47個、イヌビエ属果実34個、オオムギ果実1個、ムギ類果実破片1個、イネ科果実破片3個、ホタルイ属果実6個、破片2個、キンバイザサ種子5個、破片2個、ササゲ子葉1個、マメ科子葉3個、破片2個、不明植物遺体89個、炭化材細片1個が同定された。

404-2(A区SB6-SC1,SW区)：樹木種実のブドウ属種子1個、草本種実のイネ果実(炭化米)73個、破片152個、ヒエ果実3個、イヌビエ属果実13個、オオムギ果実2個、ムギ類果実破片2個、イネ科果実破片3個、ホタルイ属果実24個、キンバイザサ種子2個、破片1個、マメ科子葉1個、不明植物遺体69個、炭化材細片1個が同定された。

404-3(A区SB6-SC1,焼土)：樹木種実のヤマモモ核破片1個、草本種実のイネ果実(炭化米)9個、破片20個、イヌビエ属果実2個、破片1個、ホタルイ属果実1個が同定された。

404-4(C区SA1-SC2)：樹木種実のツブラジイ子葉半片1個、コナラ子葉破片2個、ガマズミ属核1個が同定された。

404-5(C区SA4.7~8層)：草本種実のイネ果実(炭化米)破片1個、不明植物遺体2個が同定された。

404-6(C区SA3,C5付近):樹木種実のイチイガシ子葉1個、コナラ属果皮破片23個、細片(+)、子葉破片10個、ブドウ属種子6個、不明植物遺体1個、炭化材細片1個が同定された。

404-7(C区SB2-SC1,3層下部):草本種実のイネ果実(炭化米)1個が同定された。

404-8(C区SA7-SC1):草本種実のカヤツリグサ科果実2個、不明植物遺体1個が同定された。

404-9(C区SC9,5層下部):草本種実のイネ果実(炭化米)1個、不明植物遺体4個が同定された。

404-10(C区SC10,6・7層下部):不明植物遺体1個が同定された。

404-11(C区SC14,2層下部):不明植物遺体4個が同定された。

404-12(C区SC15,7層):草本種実のイネ果実(炭化米)破片1個、カヤツリグサ科果実4個、不明植物遺体10個が同定された。

404-13(C区SI1,1層操中):種実とは同定されなかった。

404-14(C区SI1,2層配石下):種実とは同定されなかった。

404-15(C区SC69,3層):樹木種実のサンショウ種子1個、草本種実のノビル鱗莖1個、不明植物遺体1個が同定された。

404-16(C区SC87,1層):草本種実のアカネ科種子1個が同定された。

4 所見

(1) 376-1～5:A区畝状遺構①・②・⑤・⑧・⑪

イネ、オオムギ、ムギ類、イネ科、キンバイザサ、クマノミズキが認められた。イネ、オオムギ、ムギ類は食用となる栽培植物である。キンバイザサは、20～30cmほどの単子葉の草本で、山地の林縁や草地などに生育する多年草である。クマノミズキは、やや湿気のある肥沃な緩傾斜地や谷間などに生育する落葉高木で、人里周辺に多い二次林種である。

(2) 376-6,7:C区土坑(SC3,SC12)

イネ、イネ科が認められた。

(3) 376-8:C区竪穴建物跡内の炉(SA8-SC1)

不明種実炭化破片1個が認められた。

(4) 404-1～3:A区掘立柱建物跡に伴う土坑(SB6-SC1)

栽培植物関連では、イネ(炭化米)、ヒエ、イヌビエ属(ヒエの可能性あり)、オオムギ、ムギ類(オオムギ-コムギ)、ササゲ属が認められた。イネが最も多く、ヒエも比較的多い。イネの形状については、粒長は平均4.38mm、粒幅は平均2.34mm(第12表)、粒形(粒長/粒幅)は短粒S、大きさ(粒長×粒幅)は極小に分類されるものが中心であり(第13表)、この時期の標準といえる(佐藤,1988)。その他の分類群では、ヤマモモ、ブドウ属、イネ科、ホタルイ属、キンバイザサ、マメ科が認められた。ヤマモモとブドウ属は食用になる有用植物である。ホタルイ属は水生植物であり、キンバイザサ、マメ科は山地の林縁や草地で見られる多年草である。

(5) 404-4～6:C区竪穴建物跡ならびに竪穴建物跡内の炉(SA1-SC1,SA3,SA4)

栽培植物ではイネ(炭化米)が認められた。その他の分類群では、ツブラジイ、イチイガシ、コナラ属、ガマズミ属、ブドウ属が認められた。いずれも食用になる有用植物であり、ツブラジイとイチイガシのドングリはアク抜き無しで食べられる。ツブラジイ、イチイガシ、コナラ属は照葉樹林の主要構成要素あるいは二次林要素であり、ガマズミ属は陽当たりの良い山野に生育する落葉低木である。

(6) 404-7,8:C区竪穴建物跡及び掘立柱建物跡に伴う土坑(SA7-SC1,SB2-SC1)

イネ(炭化米)、カヤツリグサ科が認められた。カヤツリグサ科は一年生または多年生で、道端や田畑に生育する。

(7) 404-9～12 : C区土坑(SC9,SC10,SC14,SC15)

イネ(炭化米)、カヤツリグサ科が認められた。

(8) 404-13,14 : C区集石遺構(SI1)

種実類は認められなかった。

(9) 404-15,16 : C区土坑(SC69,SC87)

サンショウ、ノビル、アカネ科が認められた。サンショウは食用になる有用植物で、山地、丘陵などの林内から人為環境に接する林縁に自生する落葉低木であり、二次林種でもある。ノビルは葉とともに地下にできる鱗茎が食用、薬用になる有用植物であり、原野や道ばたに生育する多年草である。アカネ科はつる性の多年生植物で、山地や野原、路傍、林の縁などに生育する。

第6節 樹種同定

1 はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2 方法

以下の手順で樹種同定を行った。

- 1) 試料を洗浄して付着した異物を除去
- 2) 試料を割折して、木材の基本的三断面(横断面:木口,放射断面:柾目,接線断面:板目)を作成
- 3) 落射顕微鏡(40～1000倍)で観察し、木材の解剖学的形質や現生標本との対比で樹種を同定

3 同定結果

第14表に同定結果を示し、写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す(写真6)。以下に同定根拠となった木材構造の特徴を記す。

1) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科

年輪のはじめに大型の道管が数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型である。以上の特徴からクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。

2) ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* Schottky ブナ科

年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔であり、放射組織は平伏細胞からなる同性放射組織型で、単列のものと集合放射組織が存在する。以上の特徴から、ツブラジイに同定される。ツブラジイは関東以南の本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。

3) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科

中型から大型の道管が1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。道管の穿孔は単穿孔であり、放射組織は平伏細胞からなる同性放射組織型で単列のものと大型の広放射

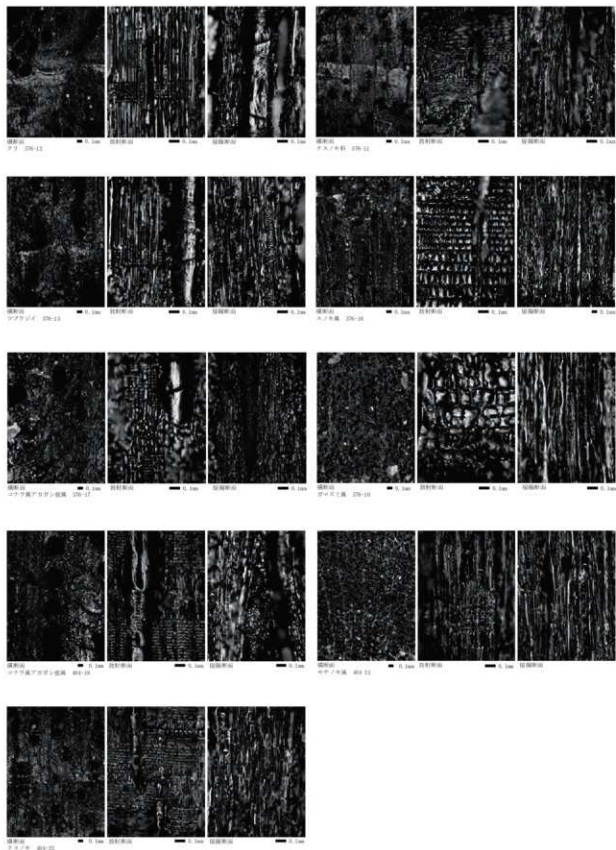


写真6 樹種同定における顕微鏡写真

試料No.	地区	試料出土遺構等		結果(学名/和名)
376-9	C区	SA8-SC1	Lauraceae	クスノキ科
376-10	C区	SA11 建築材	<i>Viburnum</i>	ガマズミ属
376-11	C区	SC8 埋土下層	Lauraceae	クスノキ科
376-12	C区	SA1 C4	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ
376-13	C区	SA1 C6	<i>Castanopsis cuspidata</i> Schottky	ツブラジイ
376-14	C区	SA1 C11	<i>Vaccinium</i>	スノキ属
376-15	C区	SA1 C12	<i>Vaccinium</i>	スノキ属
376-16	C区	SA2 建築材	<i>Vaccinium</i>	スノキ属
376-17	C区	SA3 C6	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
404-17	C区	SA3 C1	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
404-18	C区	SA3 C4	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
404-19	C区	SA3 C7	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
404-20	C区	SA3 C10	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
404-21	C区	SA12 C2	<i>Ilex</i>	モチノキ属
404-22	C区	SA12 C3	<i>Cinnamomum camphora</i> Presl	クスノキ

第14表 樹種同定結果

組織からなる複合放射組織である。以上の特徴からコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。

4) クスノキ *Cinnamomum camphora* Presl クスノキ科

中型から大型の道管が単独及び2～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にらせん肥厚が存在する。放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅である。上下の縁辺部の直立細胞のなかには、しばしば大きく膨れ上がったものが見られる。以上の特徴からクスノキに同定される。クスノキは、関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の高木で、通常高さ25m、径80cmぐらいであるが、高さ50m、径5mに達するものもある。

5) クスノキ科 Lauraceae

中型から小型の道管が単独及び2～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。道管の穿孔は単穿孔のものが存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる異性放射組織型で1～3細胞幅である。

以上の特徴からクスノキ科に同定される。クスノキ科には、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキ、カゴノキ、シロダモなどがあり、道管径の大きさ、多孔穿孔及び道管内壁のらせん肥厚の有無などで細分できるが、本試料は道管径以外の点が不明瞭なため、クスノキ科の同定にとどめた。

6) スノキ属 *Vacciniu* ツツジ科

小型で角張った道管が単独ないし2～3個複合して散在する散孔材である。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は比較的少なく10本前後のものが多く、まれに単穿孔も認められる。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は多列のものはほとんどが平伏細胞からなるが、上下縁辺部と側面に直立細胞

が見られる異性放射組織型で、直立細胞からなる単列のものと同6～8細胞幅で長い紡錘形を示す多列のものからなる。以上の特徴からスノキ属に同定される。スノキ属にはシャシャンボ、コケモモ、ウスノキ、イワツツジなどがあり、関東南部以西の本州、四国、九州に分布する。常緑の低木で、通常高さ1～5m、径10cmぐらいの低木であるが、稀に高さ10m、径70cmに達するものもある。

7) ガマズミ属 *Viburnum* スイカズラ科

小型でやや角張った道管がまばら単独で均一に散在する散孔材である。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は数十本である。放射組織は異性放射組織型で、1～10個の直立細胞からなる単列のもの、1～4細胞幅で細長い紡錘形の多列のものからなる。以上の特徴からガマズミ属に同定される。ガマズミ属には、ガマズミ、ゴマキ、サンゴジュなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑の小高木で通常高さ10m、径30cmぐらいである。

8) モチノキ属 *Ilex* モチノキ科

小型でやや角張った道管が単独あるいは数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の径はあまり変化しない。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～40ぐらいである。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は平伏細胞と直立細胞からなる。放射組織は異性放射組織型で、直立細胞のみからなる単列のもの、2～6細胞幅で上下の縁辺部の1～3細胞高が多列のものからなる。以上の特徴からモチノキ属に同定される。モチノキ属は常緑または落葉性の高木または低木で、モチノキ、アオハダ、クロガネモチ、イヌツゲなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。モチノキは、常緑高木で高さ15m、径50cmに達する。

4 所見

樹種同定の結果、クリ1点、ツブラジイ1点、コナラ属アカガシ亜属5点、クスノキ1点、クスノキ科2点、スノキ属3点、ガマズミ属1点、モチノキ属1点が同定された。

クリは、重硬で耐朽性が高く、水湿によく耐え保存性の極めて高い材で、柱材などの建築部材としての利用が多い。クリの果実は優良な食物として利用される。クリは温帯に広く分布する落葉広葉樹であり、乾燥した台地や丘陵地を好み、二次林要素でもある。

ツブラジイなどのシイ属は、やや重硬で耐朽・保存性は低い材であるが、九州では古くから建築部材などに広く利用されている。シイ属は成長が早く採取が容易であることや、タンニンが多く防腐・防虫効果を持つため、湿度の高い九州では利用が多かったと考えられる。

コナラ属アカガシ亜属(カシ類)は、強靱で弾力に富むことから建築部材や農具などに用いられ、火力が強火持ちが良いことから燃料材(薪炭材)としても優良である。照葉樹林の主要構成要素であり、弥生時代以降の西南日本ではとくに農具に用いられることが多い。

クスノキは、堅硬で保存・耐朽性が高く芳香がある材で、防虫・防腐効果がある。ひび割れが起りにくい長所があり、木臼のほか、槽、鉢などの容器、柱などの建築部材、井戸側板、鎌や舟などの用材に利用される。クスノキを含むクスノキ科の木材は、割裂は難しいが火持ちが良くきれいに燃え、灰も少ない特徴がある。

クスノキ科は、概して強さ中庸で、古くから九州における報告例が見られ、油分が多く耐水性があり建築材や井戸側板などに利用される。薪炭材としては、油分が多い火持ちの良い材である。

スノキ属は、概して強靱、堅硬で従曲性が大きい材である。スノキ属はほとんどが低木であるが、シャシャンボは比較的高木に成長する種であり、家具、刺物や器具の柄などに利用される。また、実を食することができる種が多く、庭木に利用されるものが多い。スノキ属は照葉樹林の構成要素である。

ガマズミ属は、堅硬で粘り気が強く弾力性に富んだ材であるが、大きな板や長く太い角材を得にくいので、建築材としての利用は少ない。同定例は少ないが、農具・工具の柄、杭、小細工物などに利用される。ガマズミの果実は食用にもなる。

モチノキ属は、概して強さ堅さともに中庸の材であり、器具、彫刻、細工物などに用いられる。

第7節 放射性炭素年代測定

1 はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素(^{14}C)の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用して年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である(中村,2003)。

2 対象試料と方法

対象試料は、376-3・4(オオムギ・イネ)、376-9~17(クリ・ツブラジイ・アカガシ亜属・クスノキ科・スノキ属・ガマズミ属)、404-1・4・6・15(イネ・ツブラジイ・イチイガシ・ノビル)、404-17~22(アカガシ亜属・クスノキ・モチノキ属)の計21点である。

試料の前処理・調整として酸-アルカリ-酸処理(AAA処理)を実施し、測定は加速器質量分析法(AMS法: Accelerator Mass Spectrometry)で行った。

3 測定結果

AMS法によって得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素(^{14}C)年代及び暦年代(較正年代)を算出した。第15表にこれらの結果を示し、第163図に暦年較正年代マルチプロット図、第164・165図に各試料の暦年較正結果(較正曲線)を示す。

(1) δ (デルタ) ^{13}C 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正している。

(2) 放射性炭素(^{14}C)年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、現在(AD 1950年基点)から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5568年を使用している。付記した統計誤差(±)は1 σ (シグマ)(68.2%確率)である。 ^{14}C 年代値は下1桁を丸めて表記するのが慣例であるが、暦年較正曲線が更新された場合のために下1桁を丸めない暦年較正用年代値を併記した。

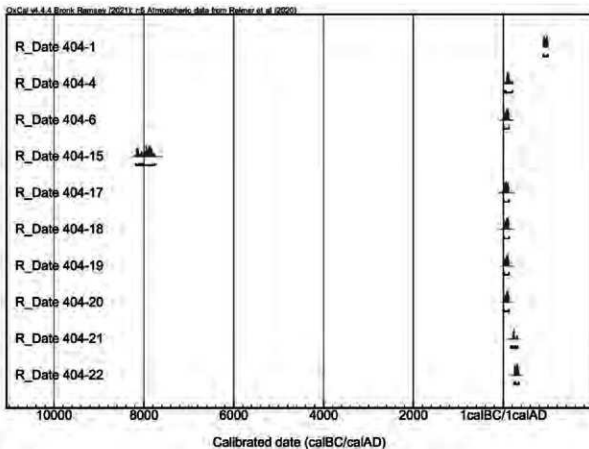
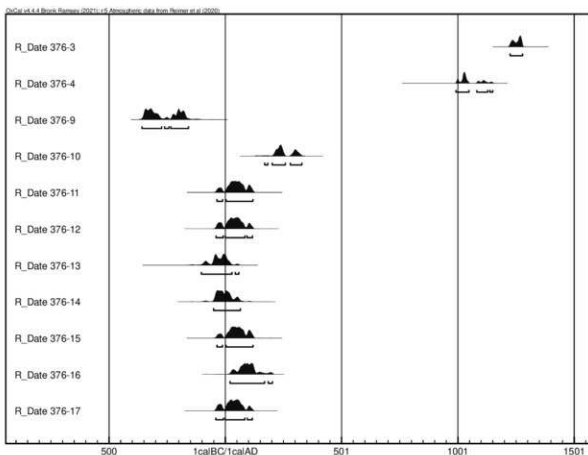
(3) 暦年代(Calendar Years)

放射性炭素(^{14}C)年代を実際の年代値に近づけるために、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動や ^{14}C の半減期の違いを較正している。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}C 測定値及び福井県水月湖の年縞堆積物データなどにより作成された較正曲線を使用した。較正曲線のデータはIntCal 20、較正プログラムはOxCal 4.4である。

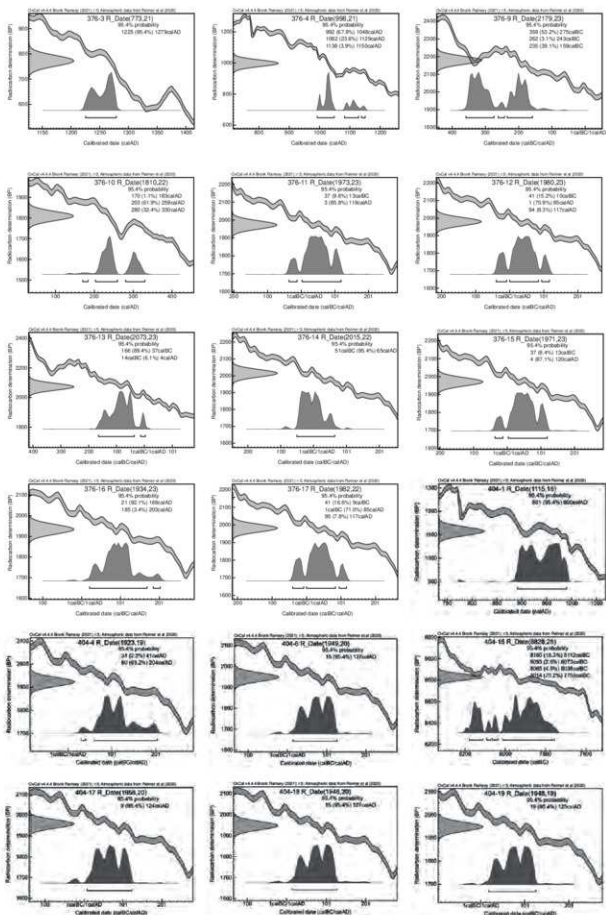
暦年代(較正年代)は、 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCalの確率法により2 σ (95.4%確率)で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の値が表記される場合もある。()内の%表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

試料 No.	測定法 [AAA-]	地区	試料の種類	種類	前処理	$\delta^{13}C$ (‰)	^{14}C 年代 (年BP)	暦年校正 年代(年BP)	暦年代(校正年代)	
									1 σ (68.2%確率)	2 σ (95.4%確率)
376-3	211215	A/E	紙状遺物②	炭化樹皮 (オオムギ)	AAA処理 AMS/E	-25.23±0.21	770±20	773±21	cal AD 1231-1243 (21.2%) cal AD 1258-1277 (47.1%)	cal AD 1225-1279 (95.4%)
376-4	211216	A/E	紙状遺物③	炭化樹皮 (イネ)	AAA処理 AMS/E	-22.85±0.20	1000±20	998±21	cal AD 995-1005 (8.9%) cal AD 1016-1044 (47.3%) cal AD 1087-1092 (2.8%) cal AD 1106-1119 (9.2%)	cal AD 992-1048 (67.9%) cal AD 1082-1129 (23.8%) cal AD 1138-1150 (3.9%)
376-9	211217	C/E	SA8-SC1	炭化材 (タヌキ糞)	AAA処理 AMS/E	-25.41±0.24	2180±20	2179±23	cal BC 351-295 (43.1%) cal BC 209-174 (25.1%)	cal BC 359-275 (53.2%) cal BC 262-243 (3.1%) cal BC 235-159 (39.1%)
376-10	211218	C/E	SA11 建築材	炭化材 (ガマズミ糞)	AAA処理 AMS/E	-26.23±0.27	1810±20	1810±22	cal AD 215-250 (52.2%) cal AD 295-310 (16.0%)	cal AD 170-183 (1.1%) cal AD 203-259 (61.9%) cal AD 286-330 (32.4%)
376-11	211219	C/E	SC8 埋土下層	炭化材 (タヌキ糞)	AAA処理 AMS/E	-27.39±0.22	1970±20	1973±23	cal AD 15-79 (62.7%) cal AD 100-108 (5.6%)	cal BC 37-13 (9.6%) cal AD 3-119 (85.8%)
376-12	211220	C/E	SA1 C4	炭化材 (ウリ)	AAA処理 AMS/E	-24.62±0.20	1980±20	1980±23	cal BC 25-20 (3.2%) cal AD 8-76 (65.1%)	cal BC 41-10 (15.2%) cal AD 1-85 (70.9%) cal AD 94-117 (9.3%)
376-13	211221	C/E	SA1 C6	炭化材 (ツブツブイ)	AAA処理 AMS/E	-24.42±0.23	2040±20	2037±23	cal BC 51-AD 30 (68.3%)	cal BC 194 -AD 29 (93.2%) cal AD 43-59 (2.2%)
376-14	211222	C/E	SA1 C11	炭化材 (タヌキ糞)	AAA処理 AMS/E	-26.01±0.21	2020±20	2015±22	cal BC 42-AD 20 (68.3%)	cal BC 51-AD 65 (95.4%)
376-15	211223	C/E	SA1 C12	炭化材 (タヌキ糞)	AAA処理 AMS/E	-26.74±0.24	1970±20	1971±23	cal AD 17-80 (61.6%) cal AD 99-108 (6.4%)	cal BC 37-13 (8.4%) cal AD 4-120 (87.1%)
376-16	211224	C/E	SA2 建築材	炭化材 (タヌキ糞)	AAA処理 AMS/E	-27.68±0.25	1930±20	1934±23	cal AD 62-126 (68.3%)	cal AD 21-169 (92.1%) cal AD 185-203 (3.4%)
376-17	211225	C/E	SA3 C6	炭化材 (アカガシ糞)	AAA処理 AMS/E	-27.31±0.22	1980±20	1982±22	cal BC 31-18 (8.6%) cal AD 7-70 (59.7%)	cal BC 41-9 (16.6%) cal BC 1-AD 85 (71.9%) cal AD 95-117 (7.8%)
404-1	46753	A/E	SB6-SC1 NE区	炭化樹皮 (イネ)	AAA処理 AMS/E	-26.90±0.31	1115±20	1115±18	cal AD 894-925 (33.8%) cal AD 948-977 (34.4%)	cal AD 891-990 (95.4%)
404-4	46754	C/E	SA1-SC2	炭化樹皮 (ツブツブイ)	AAA処理 AMS/E	-27.64±0.26	1925±20	1923±19	cal AD 66-130 (66.9%) cal AD 148-151 (1.3%)	cal AD 30-40 (2.2%) cal AD 60-204 (93.2%)
404-6	46755	C/E	SA3 CS#E区	炭化樹皮 (イネイガシ)	AAA処理 AMS/E	-27.65±0.34	1950±20	1949±20	cal AD 30-40 (9.1%) cal AD 60-86 (30.4%) cal AD 93-118 (28.8%)	cal AD 15-126 (95.4%)
404-15	46756	C/E	SC59 古層	炭化樹皮 (アヒメ)	AAA処理 AMS/E	-27.12±0.29	8830±30	8828±28	cal BC 8165-8120 (15.8%) cal BC 7965-7931 (12.4%) cal BC 7922-7820 (39.1%)	cal BC 8180-8112 (18.3%) cal BC 8093-8072 (2.5%) cal BC 8065-8038 (4.5%) cal BC 8014-7756 (70.2%)
404-17	46757	C/E	SA3 C1	炭化材 (アカガシ糞)	AAA処理 AMS/E	-27.94±0.33	1960±20	1958±20	cal AD 26-83 (51.7%) cal AD 96-114 (16.6%)	cal AD 8-124 (95.4%)
404-18	46758	C/E	SA3 C4	炭化材 (アカガシ糞)	AAA処理 AMS/E	-27.35±0.38	1950±20	1948±20	cal AD 30-40 (8.5%) cal AD 60-118 (59.8%)	cal AD 15-127 (95.4%)
404-19	46759	C/E	SA3 C7	炭化材 (アカガシ糞)	AAA処理 AMS/E	-27.93±0.31	1950±20	1948±19	cal AD 30-40 (8.4%) cal AD 60-118 (59.9%)	cal AD 19-125 (95.4%)
404-20	46760	C/E	SA3 C10	炭化材 (アカガシ糞)	AAA処理 AMS/E	-26.77±0.28	1950±20	1948±18	cal AD 31-40 (7.5%) cal AD 60-118 (60.8%)	cal AD 20-124 (95.4%)
404-21	46761	C/E	SA12 C2	炭化材 (オキナギ糞)	AAA処理 AMS/E	-30.12±0.33	1815±20	1817±19	cal AD 213-246 (68.3%)	cal AD 168-185 (1.9%) cal AD 202-255 (75.9%) cal AD 285-324 (18.1%)
404-22	46762	C/E	SA12 C3	炭化材 (タヌキ糞)	AAA処理 AMS/E	-28.01±0.31	1765±20	1766±18	cal AD 247-256 (11.7%) cal AD 282-328 (56.6%)	cal AD 238-263 (21.5%) cal AD 275-344 (74.0%)

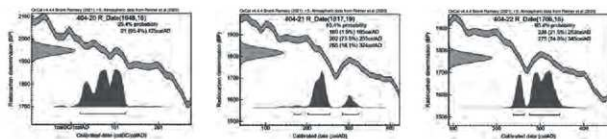
第15表 放射性炭素年代測定結果



第163図 暦年較正年代マルチプロット図



第164図 暦年校正結果(1)



第165図 暦年較正結果(2)

4 所見

加速器質量分析法(AMS)による放射性炭素年代測定の結果、炭化種実の376-3(オオムギ)では770±20年BP(2σの暦年代でAD 1225～1279年)、376-4(イネ)では1000±20年BP(AD 992～1048, 1082～1129, 1138～1150年)の年代値が得られた。また、炭化材の376-9では2180±20年BP(BC 359～275, 262～243, 235～159年)、376-10では1810±20年BP(AD 170～183, 203～259, 280～330年)、376-11では1970±20年BP(BC 37～13, AD 3～119年)、376-12では1980±20年BP(BC 41～10, AD 1～85, 94～117年)、376-13では2040±20年BP(BC 104～AD 29, 43～59年)、376-14では2020±20年BP(BC 51～AD 65年)、376-15では1970±20年BP(BC 37～13, AD 4～120年)、376-16では1930±20年BP(AD 21～169, 185～203年)、376-17では1980±20年BP(BC 41～9, BC 1～AD 85, 95～117年)、404-1(炭化米)では1115±20年BP(AD 891～990年)、404-4(ツブラジイ)では1925±20年BP(AD 30～40, 60～204年)、404-6(イチイガシ)では1950±20年BP(AD 15～126年)、404-15(ノビル)では8830±30年BP(BC 8180～8112, 8093～8072, 8065～8038, 8014～7756年)の年代値が得られた。また、404-17(アカガシ垂属)では1960±20年BP(AD 8～124年)、404-18(アカガシ垂属)では1950±20年BP(AD 15～127年)、404-19(アカガシ垂属)では1950±20年BP(AD 19～125年)、404-20(アカガシ垂属)では1950±20年BP(AD 20～124年)、404-21(モチノキ属)では1815±20年BP(AD 168～185, 202～255, 285～324年)、404-22(クスノキ)では1765±20年BP(AD 238～263, 275～344年)の年代値が得られた。

なお、樹木(炭化材)による年代測定結果は、樹木の伐採年もしくはそれより以前の年代を示しており、樹木の心材に近い部分や転用材が利用されていた場合は、考古学的所見よりも古い年代値となることがある。

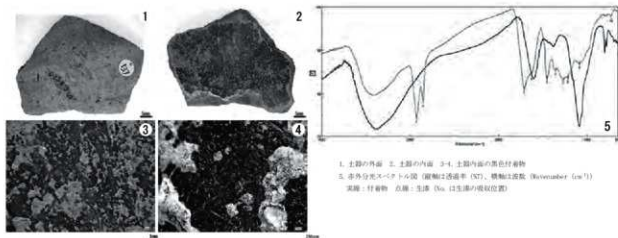
第8節 漆分析・有機物分析(FT-IR分析)

1 はじめに

障ノ元遺跡では、内面に塗膜状の黒色物質が付着した土器が検出された。そこで、付着物の材質を調べる目的で赤外分光分析(FT-IR分析)を行った。この分析は、有機化合物に赤外線を照射して、吸収される光の波長分布から化合物の構造を解析する方法である。また、参考分析として付着物の元素分析を行った。

2 試料

分析試料は、土器(321, 第64図)の内面に付着した光沢のある塗膜状の黒色物質である。なお、付着物の表層部には繊維状(棒状)の夾雑物が認められる。



第166図 土器内面付着物と赤外線分光分析結果

単位:重量%

点No.	C	O	S	Cl	H	Si	Na	Mg	Al	P	K	Ca	Mn	Fe	total
1	60.5	19.0	10.9	5.9	2.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
2	50.7	15.0	8.7	23.4	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
3	69.4	21.8	0.0	7.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
4	49.8	18.3	10.6	18.1	2.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
5	66.3	22.3	10.6	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
6	68.9	20.5	7.4	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
7	49.4	28.0	11.8	4.0	5.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
8	55.7	19.8	15.8	2.8	3.1	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
9	62.9	19.9	8.2	5.0	3.1	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
平均値	59.3	20.5	9.3	7.4	2.5	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

第16表 元素分析結果

3 方法

(1) 赤外分光分析(FT-IR分析)

黒色付着物から0.5mm角程度を採取してダイヤモンドセル上に薄く押延ばし、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計(日本分光(株)製 FT/IR-410、IRT-30-16)を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。測定条件は、測定面積100×100 μ m、測定時間200秒である。

(2) 元素分析

黒色付着物(9カ所)について、レーザー元素分析装置(キーエンス社製 EA-300 VHXシリーズ)を用いて、レーザー誘起ブレイクダウン分光法(LIBS)により元素分析を行った。測定条件は、クラス1レーザー、測定雰囲気大気、レーザー波長355nm、スポットサイズ10 μ m、測定感度1%以上である。

4 結果

第166図に赤外吸収スペクトル図、第16表に元素分析結果を示す。スペクトル図の縦軸は透過率(%R)、横軸は波数(Wavenumber (cm⁻¹); カイザー)である。スペクトルはノーマライズしており、吸収スペクトルに示した数字は生漆の赤外吸収位置を示す。

(1) 赤外分光分析(FT-IR分析)

分析の結果、生漆を特徴づけるウルシオール(吸収No.6～No.8)や生漆に見られるCH基に由来する吸収(吸収No.1, No.2)は認められなかった。なお、漆などの劣化に伴うゴム質の大きな吸収(吸収No.9付近)が確認された。

(2) 元素分析

黒色付着物の元素組成は、炭素(C)が平均59.3%、酸素(O)が平均20.5%、イオウ(S)が平均9.3%、塩素(Cl)が平均7.4%、水素(H)が2.5%、ケイ素(Si)が1.1%である。

5 考察

土器の内面に付着した光沢のある塗膜状の黒色物質について、赤外分光分析(FT-IR分析)を行った。その結果、生漆を特徴づけるウルシオール(吸収No.6～No.8)や生漆に見られるCH基に由来する吸収は認められなかった。なお、漆などの劣化に伴うゴム質の大きな吸収が認められることや、元素分析では炭素が主成分となっていることなどから、劣化した漆に由来する可能性も否定できない。

文献

【テフラ分析】

町田 洋・新井朋夫(2003)新編火山灰アトラス-日本列島とその周辺-, 東京大学出版会, 336p.

横山卓雄・植原 徹・山下 透(1986)温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定, 第四紀研究, 25, p.21-30.

【植物珪酸体分析】

近藤謙三(1995)日本における植物珪酸体研究とその応用, 近堂祐弘教授退官記念論文集刊行会, p.31-56.

杉山真二・藤原宏志(1986)機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定-古環境推定の基礎資料として-, 考古学と自然科学, 19, p.69-84.

杉山真二(1999)植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史, 第四紀研究, 38(2), p.109-123.

杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール), 考古学と植物学, 同成社, p.189-213.

杉山真二・渡邊真紀子・山元希里(2002)最終氷期以降の九州南部における黒ボク土発達史, 第四紀研究, 41(5), p.361-373.

杉山真二(2009)植物珪酸体と古生態, 人と植物の関わりあい④, 大地と森の中で-縄文時代の古生態系-, 縄文の考古学Ⅲ, 小杉康ほか編, 同成社, p.105-114.

杉山真二(2010)更新世の植生と環境, 旧石器時代, 講座日本の考古学第1巻, 青木書店, p.156-177.

杉山真二(2017)植物珪酸体分析による古環境推定-タケ亜科の植生変遷と気候および積雪量の変動-, 文化財技術研究会編, 文化財学研究, 2, p.1-14.

藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法-, 考古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の探査-, 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

堀田 満(1991)日本列島の植物, カラー自然ガイドⅡ, 保育社, p.68-69.

【花粉分析】

金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原, 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.

島倉巳三郎(1973)日本植物の花粉形態, 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.

中村 純(1967)花粉分析, 古今書院, p.82-110.

中村 純(1974)イネ科花粉について, とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として, 第四紀研究, 13, p.187-193.

中村 純(1977)稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.

中村 純(1980)日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.

【種実同定】

笠原安夫(1985)日本雑草図説. 養賢堂, 494p.

笠原安夫(1988)作物および田畑雑草種類. 弥生文化の研究第2巻生業. 雄山閣出版, p.131-139.

佐藤敏也(1988)弥生のイネ. 弥生文化の研究第2巻生業. 雄山閣出版株式会社, p.97-111.

南木睦彦(1991)栽培植物. 古墳時代の研究第4巻生産と流通I. 雄山閣出版株式会社, p.165-174.

南木睦彦(1993)葉・果実・種子. 日本第四紀学会編 第四紀試料分析法. 東京大学出版会, p.276-283.

吉崎昌一(1992)古代雑穀の検出. 月刊考古学ジャーナル№355. ニューサイエンス社, p.2-14.

【樹種同定】

伊東隆夫・山田昌久(2012)木の考古学. 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.

島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司(1985)木材の構造. 文永堂出版, 290p.

島地 謙・伊東隆夫(1988)日本の遺跡出土木製品総覧. 雄山閣, 296p.

山田昌久(1993)日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成-用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究特別1号. 植生史研究会, 242p.

【放射性炭素年代測定】

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」. 日本第四紀学会, p.3-20.

中村俊夫(2003)放射性炭素年代測定法と暦年代校正. 環境考古学マニュアル. 同成社, p.301-322.

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), p.337-360.

Paula J Reimer et al., (2020) The Int20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 kBP). Radiocarbon, 62(4), p.725-757

第Ⅷ章 総括

県道改良工事に伴う今回の陣ノ元遺跡の発掘調査は、河口から約2km西の清武川右岸、標高約10～15mの低位台地上に位置し、清武川とその分流である久保川による段丘崖の上面の畑地から、その南側の宮ヶ田瀬集落の一部ならびに畑地等を対象とするものであった。調査では、時代の古い順に、旧石器時代、縄文時代早期・前期～晩期、弥生時代後期後半～古墳時代前期、古代、中世、近世～近代の遺構・遺物という、長きにわたる人々の生活痕跡が発見された。以下、古い時代から順に様相をまとめる。

第1節 旧石器時代の様相

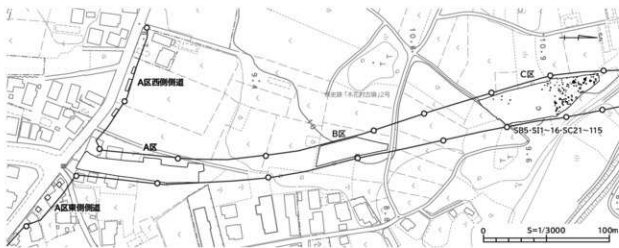
旧石器時代の遺物は、C区北半でのみ、縄文時代早期の遺物に混在して石器19点を確認した。旧石器時代末以降の細石刃石器群であり、ナイフ形石器・剥片尖頭器等はない。石器石材は、桑ノ木津留産黒曜石製が半数以上を占め、西北九州産石材が少量組み合っており、近隣遺跡の様相と共通する。また、現地地形で標高10m前後の低位段丘上で細石刃石器群が発見された点は、これまで周辺地では知られていなかった新発見であり、当時の人類活動の広がりを示す大きな成果となった。

第2節 縄文時代早期の様相

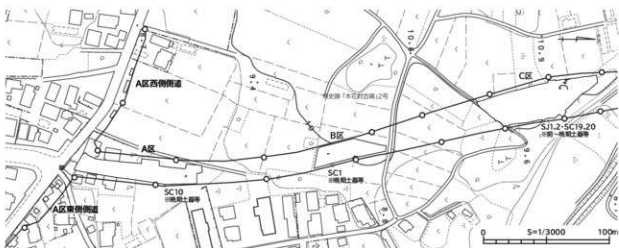
縄文時代早期の遺構としては、C区から、散礫8群、集石遺構16基、平地式建物跡1軒、土坑95基、小穴105基が検出された。

散礫は清武川流域で多く見られるものであり、本遺跡でも、拳大以上のもののみでも53,067点という夥しい数の赤化礫が絨毯のように一面に広がって検出された。今回、3次元座標によるデータ化によって8つの群が可視化され、散礫といくつかの集石遺構のセットが判明した。C区北半の散礫等は西側の調査区外に広がるのが明確であり、C区南半の散礫等も西側の調査区外に中心があるものと予想される。散礫・集石遺構を構成する礫石材はほぼ砂岩で占められ、本遺跡北側を東流する清武川がその供給源と考えるとよい。散礫等と重複して検出された土坑については、周辺遺跡で多く発見される連結土坑・炉穴・ハイヒール状土坑等はなく、比較的浅く小形のもので大半であった。また、平地式建物跡や小穴は、散礫・集石遺構とやや位置を違えて検出され、遺構年代の特定に課題を残すものの、空間の使い分けの一端を示す可能性がある。

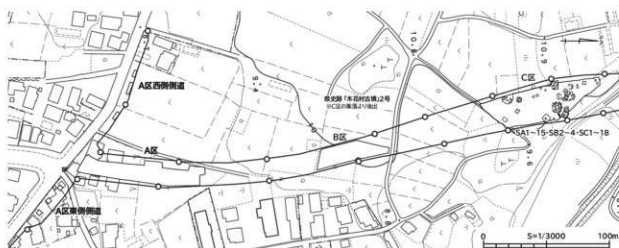
土器は、摩滅の進んだ小片が大多数であったものの、早期前葉から中葉までの貝殻円筒形土器・押型文土器・無文土器等が多く出土し、早期後葉から末にかけての土器は限定的かつ少量であった。無文土器ならびに摩耗・小片による型式不明品を除くと、型式別の出土点数では、下刺峯式土器が全体の12.7%と突出して多く、押型文土器(楕円文・山形文)がこれに次ぐ。これに関連し、全形がわかるほどまで接合できたのは下刺峯式土器1例のみである。また、土坑SC69に伴う炭化種実の¹⁴C年代が8830±30BPであり、清武上猪ノ原遺跡第5地区における下刺峯式期(8960±70BP～8880±40BP)に相当することから、早期中葉に本遺跡のピークの1つがある。また、石器石材に注目すると、五ヶ瀬川・耳川水系産であろうチャートが点数で83.4%、総重量の29.6%と突出し、半数強が重量0.1g以下の小片であることから、C区北半は石籾等の石器製作空間でもあったと考えられる。次いで多い石材は、清武川等で得られる頁岩(珪質頁岩)、砂岩となり、チャートと合わせると全体の9割強を占めている。また、少数派ながら遠隔地から持ち込まれた石材があり、出土点数が多い順に、姫島(大分県)産ガラス質安山岩(全体の4.0%/343.9g)、桑ノ木津留(宮崎・鹿児島・熊本県境)産黒曜石(全体の2.3%/164.0g)、肉眼推定:西北九州産のガラス質安山岩(全体の1.0%/86.5g)、上牛鼻(鹿児島県)産黒曜石(全体



縄文時代早期の遺構分布図

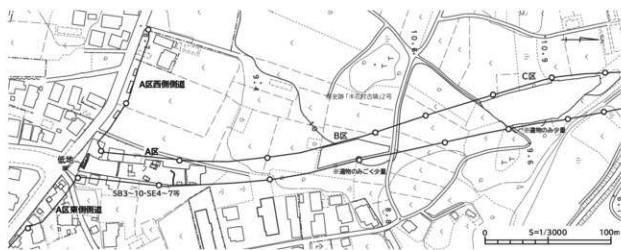


縄文時代前期～晩期の遺構分布図

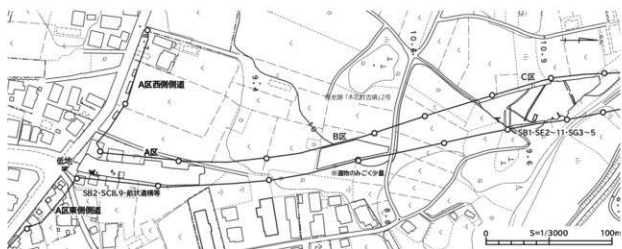


弥生時代後期後半～古墳時代前期の遺構分布図

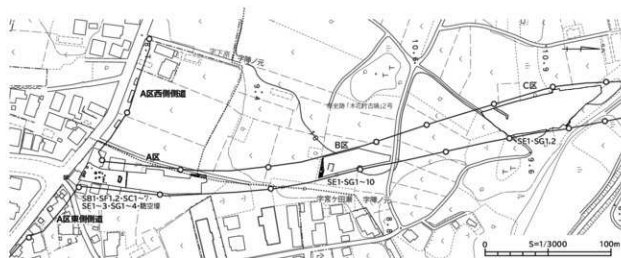
第167図 陣ノ元遺跡における時代別主要遺構変遷図(1)



古代の遺構分布図



中世の遺構分布図



近世～近代の遺構分布図

第168図 陣ノ元遺跡における時代別主要遺構変遷図(2)

の0.3%/18.6g)、針尾・淀姫(長崎県佐世保市)産黒曜石(全体の0.2%/31.0g)、姫島産黒曜石(全体の0.2%/11.5g)となる。これらは、東九州あるいは南九州、遠くは西北九州から陸路・海路等により持ち込まれたものであり、土器型式にも東九州・南九州との関係が伺える点と一致している。

第3節 縄文時代前期～晩期の様相

当該期の遺構には、C区北半において、前期後葉(曾畑式土器併行期)の竪穴状遺構1基、後期初頭までに収まる竪穴状遺構1基、後期初頭(宮之迫式～南福寺式土器併行期)の土坑1基、前期～晩期に収まる可能性の高い土坑1基・柱穴列1基が検出された。また、A区において前期～晩期のいずれかであろう土坑(形状から陥し穴と考えられる)1基、B区において土坑1基(周辺遺物から晩期か)が検出された。

出土遺物のうち、最も多いのは前期の曾畑式土器であり(189点/2803.3g)、その7割がC区A4Gr.に集中して出土し、同Gr.から出土した打欠石錘も曾畑式土器期のものと考えられる。その他、C区では、春日式をはじめとする前期から中期の土器、宮之迫式・市来式土器や磨消縄文土器・黒色磨研土器といった後期から晩期の土器が少数出土した。また、A区では刻目突帯文土器が、B区では晩期土器がそれぞれ出土した。

土地利用の観点からは、縄文後期末までがC区に限定して遺構・遺物が残され、晩期になるとA・B区にも広がる様相である。いずれの時期も、縄文時代早期に比べると、小規模かつ断続的なものである。

第4節 弥生時代後期後半～古墳時代前期の様相

弥生時代後期後半～古墳時代前期の遺構はC区でのみ検出され、竪穴建物跡15軒・掘立柱建物跡3棟・土坑18基・土器集中3か所・小穴多数がある。竪穴建物跡の時期について、各遺構出土土器から判断すると、宮崎平野南部における河野編年(河野2023)でいうVI期にSA1～10が、VIII期にSA11・12(SA13～15は時期不明)が該当する。また、土坑のうちSC10がVI期にあたる。弥生時代前期～後期前半の遺構・遺物はなく、また、C区の集落跡よりも後出する「木花村古墳」と同時期の遺構・遺物も未見である。

河野編年VI期の竪穴建物跡10軒のうち、間仕切りを持つもの(いわゆる花弁状住居)が3軒あって(SA1～3)、いずれも円形基調である。清武川流域では、間仕切り住居が熊野原遺跡・堂地東遺跡・前原北遺跡・椎屋形第1遺跡で検出されており、本遺跡のものはその中で新しい段階となる。宮崎平野や以北の当該期の間仕切り住居は方形プラン基調のものが多く中で、円形基調のものは熊野原遺跡A・B地区のみであり、霧島山北麓や都城盆地等の竪穴形態との共通性が窺えるとともに、新たな事例を追加することとなった。また、SA1～3はいずれもいわゆる焼失住居であり、床面上で炭化した建築材が検出され、特にSA1・3では中心から放射状に炭化材が広がることから明瞭である。一方で、建物規模からみて床面上に残された土器等が少数であったことから、建物の焼失は突発的なものというよりも意図的な焼却等であった可能性が高いと考えられる。なお、炭化材の¹⁴C年代と共伴する土器の年代観に一定の開きが生じており、その成因は、いわゆる古木効果等の可能性を含め、今後の検討課題である。その他、SA2では、竪穴外壁沿いの床面に掘り込まれた土坑が特徴的であり、土坑の多くが竪穴埋没に先行して人為的に埋め戻されていた。これらは竪穴内の貯蔵穴と推定され、竪穴建物跡の周辺に広がる、やはり形状から貯蔵穴と考えられる土坑群との関係が注視される。また、独立棟持柱を持つ掘立柱建物跡の1つ(SB2)は、建物跡中央に土坑を伴うものであり、県内では他に例をみない。当遺跡では3棟中2棟が独立棟持柱建物跡であり、規模は3棟とも同時期のものと比べ平均的なものである。

河野編年VIII期の竪穴建物跡はいずれも方形プランであり、VI期の方形プランのものよりも小形である。また、

河野編年Ⅷ期等では、外から持ち込まれた(持ち込んだ)搬入品と思われる土器とともに、外来系土器の製作技術が備わっている(習得した)人が本遺跡周辺のいわゆる在地の原料で製作したと考えられる外来系模倣土器が出土し、広範な地域間交流を垣間見せている。

この他、鎌や斧・鉋・釣針等の鉄器について、周辺の集落遺跡の出土量よりも多い点が特筆される。当該期の鉄製釣針は宮崎県内でも事例が少ないもので、打欠石錘等の漁労具とともに、清武川・日向灘等での漁労活動を物語っている。また、ミニチュア土器の中で、張り出した底部に貫通孔を有するものが7点出土した。同様の土器は宮崎県内でもいくつか出土例が知られているものの、貫通孔の意図や機能は不明なままであり、今後の説明が待たれる。

第5節 古代の様相

古代の遺構としては、A区において掘立柱建物跡8棟、溝状遺構7条、土坑13基、多数の小穴が検出されたほか、B・C区でも古代遺物が少量出土した。年代は、土師器甕・坏等の型式や須恵器甕の調整等の特徴、多くの布痕土器の存在、1点のみながら黒色土器坏を伴う点から、8世紀末にはじまって、9世紀中葉～後葉を中心とするものと考えたい。

A区の南端付近は、田上川に向かう低地となっており、建物群はその低地から北側の微高地上に展開している。古墳時代前期までの集落等をはじめとする旧石器時代以来の生活空間が相対的に高所かつ清武川に近いC区を中心としていた点から様相が変わり、それまで遺構等の広がらなかったA区に集落が移動している。

A区は南北に長い調査区であり、調査が集落等の西側一部となった点は否めず、東に接する宮ヶ田瀬の集落下にも遺跡が広がると予想される。掘立柱建物跡は全て側柱建物であり、うち1棟のみ庇付きである。8棟の掘立柱建物跡は3つのグループに分けられる。1つは、SE4を挟んで南北にあるSB3とSB4であり、溝と建物の軸が直交ないし並行する。2つめは、建物軸がN-27°E前後で揃うSB5・7・8の3棟である。3つめは、SB9・10の2棟で、SB10がSE7に並行し、SB9はこれらと直交する。また、SB8と重複するSB6は時期差の存在を示し、SB6建物中央には焼土や籾羽口を伴う土坑1基が掘り込まれていた。焼土や籾羽口の存在からは、鍛冶遺構等の可能性が想定されたため、鍛冶滓の回収を意図し土坑埋土の1/2について水洗選別(フローテーションの残渣を精査)したものの鍛冶滓は皆無であった。一方で、予想に反して炭化種実(イネが最も多く、次いでヒエほかがある)を多く回収することとなった。なお、建物規模については、近隣の陣ノ内遺跡・前原南遺跡・平畑遺跡・赤坂遺跡の掘立柱建物跡とほぼ同様である一方で、本遺跡では周辺遺跡で多く検出されるカマド付竪穴建物跡は未確認であり、集落の性格や年代の違いを示す可能性がある。

また、「熊野」地名や宮崎学園都市遺跡群の調査成果等から、本遺跡の周辺は「延喜式」記載の日向16駅の1つ「救麻駅」に比定する見解もあるため、それらとの関係が調査上の焦点の1つとなっていた。今回の調査では、布痕土器が多量に出土した点は注目されるものの、周辺遺跡で見られる越州系青磁や緑釉陶器・灰釉陶器等は出土せず、そもそもの道路痕跡となる遺構等が確認できていないこと、建物群の南側の低地には官道を想定しにくいこと等から、積極的に駅ないし官道沿いの集落等としての性格を見出せる状況ではない。少なくとも、清武川からA区南端に接して東西に走る県道338号線(大久保木崎線)までの間には官道は存在しないと考えてよからう。

第6節 中世の様相

中世の遺構としては、A区で掘立柱建物跡1棟、土坑2基、小穴1基、畝状遺構、C区で掘立柱建物跡1棟、溝状遺構10条、道路状遺構3条が検出された。年代は、A区については、埋土中遺物の年代観や炭化種実の放射性炭素年代測定の結果等を根拠に、C区はテフラ分析により桜島文明テフラが埋土上部に堆積する遺構群があること等により、14世紀代を中心にするものと考えたい。

A区に集落が広がる点は古代から継続の様相と考えられ、中世については、遺構分布から見て、東に隣接する宮ヶ田瀬集落側にその中心があるものと予想される。また、C区の溝状遺構・道路状遺構については、1棟のみ掘立柱建物跡が溝状遺構と並行して組み合わせるものの、その方向や規模等は一定でなく、さらに包含層中や遺構中からは投棄されたような中世遺物が出土することもなかった。この状況や周辺地形からは、C区については、清武川の氾濫原から連続する原野に、例えば集落と清武川等を結ぶ道等として解釈できよう。

第7節 近世以降の様相

近世では、A区で掘立柱建物跡1棟、溝状遺構3条、道路状遺構4条、井戸2基、土坑43基(うち3基は漆喰張りのもの)等、B区で掘立柱建物跡1棟、溝状遺構1条、道路状遺構10条、畑跡1面、C区で溝状遺構が1条、道路状遺構2条が検出された。遺物は、18世紀後半以降のものが大半を占めている。

A区北西端で検出された道路状遺構は、埋没後にも畑地等へ出入りする道として利用されており、字宮ヶ田瀬・字陣ノ元・字下原との字界とも重複していた。地籍の上では、A区は同字界から東側に位置する字宮ヶ田瀬の西端に相当する。A区の掘立柱建物跡・井戸・漆喰張りの土坑等は、南端にあった低地がほぼ埋没し全体に緩斜面となったA区南半に分布しており、東西に走る溝状遺構の北側には、近代以降の畑耕作に伴う土坑等が広がるばかりで、建物跡等の遺構はない。これは、A区南半に宅地・A区北半は畑地という、発掘調査直前までの土地利用とよく符合するものであり、近世以来、同じような土地利用が継続したものと見られる。また、掘立柱建物跡等からやや離れた北側で検出された防空壕跡は、家屋の北端に防空壕を掘り込んでいたという聞き取りと調査結果がよく一致している。B区は、A区北西端で検出された道路状遺構の延長上に直交する道路状遺構等と、それに沿う掘立柱建物跡1棟があり、建物を切って畑耕作土が広がっていたことから、建物廃棄後には畑として利用されていたとわかる。この畑としての利用や畑区画等は、発掘調査直前までの土地利用とよく符合する。また、C区は中世以降、原野とそこにいくつか道等が走るという景観が継続したようであり、わずかではあるものの陶磁器や土鍾等も出土している。

以上をまとめると、おおよそA区南半に宅地が展開したほかは、A区北半からB区・C区まで畑地や原野、その間の道等が広がるという景観が復元される。これは、現代の土地利用や地籍境界と連続的な様相であり、近世以降の土地利用形態は、発掘調査直前まで大きな変化がなかったようである。

第8節 結語

前節でまとめたとおり、土地利用を変化させつつ、断続的に現在へと繋がって活動してきた人々の生活痕跡を見出した点は、清武川流域をはじめとする宮崎平野南部地域の歴史様相の一端を捉える大きな成果となった。今回の発掘調査の成果が、今後の調査・研究の一助になり、地域史を知る契機の一つとなることを期待したい。

主な参考文献

- 秋成雅博 2023「清武川中・下流域における細石刃石器群」『九州旧石器』第27号、橘昌信先生追悼論文集、211-220頁、九州旧石器文化研究会
- 今集屋毅行 2022「日向における古墳時代後期の集落と古墳」『集落と古墳の動態Ⅲ-古墳時代中期末～古墳時代後期-』第23回九州前方後円墳研究会福岡大会資料集、251-289頁、九州前方後円墳研究会
- 岩永哲夫 2006「南九州の埴野文土器」『宮崎考古』第20号、21-55頁、宮崎考古学会
- 甲斐康大・近沢恒典 2019「日向における古墳時代中期の集落と墳墓の動態」『集落と古墳の動態Ⅱ-古墳時代前期末～古墳時代中期-』第22回九州前方後円墳研究会宮崎大会資料集、197-216頁、九州前方後円墳研究会
- 加藤淳一 2009「宮崎県における弥生時代後期の社会変化」『弥生時代後期の社会変化』第58回埋蔵文化財研究集会、353-358頁
- 加藤 徹 2019「宮崎県における弥生時代鉄器の様相について」『研究紀要』第15号、1-12頁、宮崎県立西都原考古博物館
- 加藤 徹 2020「宮崎県における弥生時代鉄器の様相について(2)」『研究紀要』第16号、9-21頁、宮崎県立西都原考古博物館
- 川越哲志 1993「弥生時代の鉄器文化」『雄山閣』
- 河野裕次 2015「宮崎平野南部における弥生集落の様相」『ArChaeology From the South Ⅲ』本田道輝先生追悼記念論文集、87-99頁
- 河野裕次 2015「宮崎平野南部における弥生時代後期～古墳時代初期の土器編年試案」『宮崎考古』第26号、1-15頁、宮崎考古学会
- 河野裕次 2023「中九州系土器の動態からみた弥生時代後半期の地域間交流-宮崎県域を対象として-」『古文化談叢』第8集、61-80頁、九州古文化研究会
- 河野裕次・加藤淳一 2018「宮崎県の様相-集落と古墳の動態について-」『集落と古墳の動態Ⅰ-弥生時代終末期～古墳時代前期-』第21回九州前方後円墳研究会鹿児島大会資料集、317-342頁、九州前方後円墳研究会
- 木下 良 2009「事典 日本古代の道と駅」吉川弘文館
- 九州縄文研究会 2004「九州における縄文時代のおとし穴状遺構」第14回九州縄文研究会鹿児島県分会大会資料
- 九州縄文研究会 2010「九州の縄文時代中期土器を考える」第20回九州縄文研究会佐賀大会資料
- 九州縄文研究会 2011「九州における縄文時代後期前葉の土器-中津式・福田KⅡ式併行期を中心として-」第21回九州縄文研究会宮崎大会資料
- 清武町合併特例区 2014「清武町史 通史編上巻 原始・古代・中世・近世」
- 清武町合併特例区 2015「清武町史 資料編2 文化財関係資料」
- 久住猛雄 1999「北部九州における庄内式併行期の土器様相」『庄内式土器研究』19 庄内式土器研究会
- 小林達雄 編 2008「総覧 縄文土器」アム・プロモーション
- 柴田博子 2012「長門本平家物語」『破黄島配流道行き説話の研究状況』『宮崎県地域史研究』第26号、27-44頁、宮崎県地域史研究会
- 下山 寛 2000「九州地方のはたけ研究の現状と課題」『はたけの考古学』日本考古学協会2000年度鹿児島大会資料集第1集、40-49頁
- 太宰府市教育委員会 2000「大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-」太宰府市の文化財第49集
- 谷口武範 2023「弥生時代集落の理解に向けた一視点-掘立柱建物集大成から見えてくること-」『研究紀要』第8集、19-36頁、宮崎埋蔵文化財センター
- 長津宗重 1985「日向型間仕切り住居研究序説」宮崎県教育委員会
- 永山修一 1999「特論 1 日向国の官道」『宮崎県史 通史編 古代2』、711-778頁、宮崎県
- 堀田孝博 2012「宮崎平野部における平安時代の土器について-土器供養具を中心として-」『宮崎考古』第23号、日高正晴先生追悼記念号(上巻)、55-77頁、宮崎考古学会
- 堀田孝博 2016「宮崎平野部の中世土器」『宮崎県史地域の考古資料に関する編年研究Ⅱ』発表要旨、35-44頁、平成27年度宮崎考古学会研究会、宮崎考古学会
- 南九州縄文研究会 2002「南九州貝殻文系土器Ⅰ～鹿児島県～」南九州縄文集成1
- 南九州縄文研究会 2003「南九州貝殻文系土器～宮崎・熊本・大分編～」南九州縄文集成2

- 山下大輔 2005「下割峯式および桑ノ丸式土器の再検討」『南九州縄文通信』16、53-72頁、南九州縄文研究会
- 山下大輔・栗畑光博 2007「南九州貝殻文土器と押型文土器の関係-宮崎県における遺構内出土資料の検討から-」『縄文時代』第18号、185-203頁、縄文時代文化研究会
- (発掘調査報告書) ※発行機関別で、書名の一部は短縮している
- 始良町教育委員会 2005『建昌城跡』始良町埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
- 鹿児島県教育委員会・公益財団法人鹿児島県文化財振興財団・埋蔵文化財調査センター 2022『春日堀遺跡2～縄文時代早期編～』第3分冊、公益財団法人鹿児島県文化財振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(48)
- 清武町教育委員会 1980『若宮田遺跡発掘調査報告書』/1980『土遺跡』/1989『角上原遺跡群』第3集/1990『清武町遺跡詳細分布調査報告書』第4集/1993『角上原遺跡群Ⅱ』第4集/2004『須田木遺跡』第12集/2004『上猪ノ原遺跡3-下猪ノ原遺跡』第14集/2005『坂元遺跡』第15集/2005『上猪ノ原遺跡4-下猪ノ原遺跡2-』第17集/2006『山田第1遺跡』第18集/2006『山田第2遺跡』第20集/2006『滑川第1遺跡』第21集/2007『滑川第2遺跡』第22集/2007『滑川第3遺跡』第23集/2009『清武上猪ノ原遺跡2-』第26集/2009『五反畑遺跡A地区』第28集/2010『下猪ノ原遺跡第一地区』第29集/2010『五反畑遺跡B地区』第30集/2010『岡第4遺跡』第31集
- 熊本県教育委員会 1992『二子塚』熊本県文化財調査報告書第117集/2020『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集(令和元年度 第1分冊)』/2021『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集(令和2年度 第1分冊)』
- 佐賀県教育委員会 2019『雙屋竈跡・袴野城跡』221集/2022『古瓶屋下瀬跡』230集
- 東京都埋蔵文化財センター 2013『東京都埋蔵文化財センター 研究論集XXVII』
- 宮崎県教育委員会 1980『九州縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告(3)』/1984『山内石塔群』学園都市第1集/1985『浦田遺跡・入料遺跡・堂地西遺跡・平畑遺跡・堂地東遺跡・熊野原遺跡』本文編・図面編・図版編、学園都市第2集/1985『下田畑遺跡・小山尻東遺跡・田上遺跡・赤坂遺跡・小山尻西遺跡』学園都市第3集/1985『宮大農学部平畑遺跡XXV区』宮大埋文報告1/1988『熊野原遺跡A・B地区・前原西遺跡・陣ノ内遺跡・前原南遺跡・前原北遺跡・今江城(仮称)跡・車坂西ノ城跡』本文編・図面編・図版編、学園都市第4集/1991『天神河内第1遺跡』/1993『上山ノ丸遺跡・北ノ迫遺跡・小丸遺跡』/1999『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書』Ⅱ、解説編
- 宮崎県埋蔵文化財センター 1998『市位遺跡』第10集/1999『上の原第3遺跡』第13集/2000『上の原第2遺跡・上の原第1遺跡・上の原第4遺跡・白々野第3遺跡A地区』第25集/2000『白々野第3遺跡B地区』第25集/2000『竹ノ内遺跡』第27集/2001『梅原原第2遺跡・杉木原遺跡・永ノ原遺跡』第33集/2001『梅原原第1遺跡・下屋野遺跡』第47集/2001『枯木ヶ迫遺跡』第55集/2002『白々野第2・第3遺跡(第1分冊 縄文時代草創期・早期編)』第52集/2002『白々野第2・3遺跡(第2分冊 縄文前期～中・近世編)』上の原第1遺跡(B地区)第62集/2004『下那珂遺跡』第90集/2007『赤坂遺跡』第151集/2007『湯平田遺跡』第152集/2023『上平遺跡』第265集
- 宮崎県教育委員会 1992『西ノ原第2遺跡』/1996『椎形形第1遺跡・椎形形第2遺跡・上の原遺跡』/1997『車坂・山下遺跡群 車坂第1・2・3遺跡 山下第1・2・3遺跡』/1999『東宮遺跡』第39集/2006『本野原遺跡三田野町第53集』/2011『下猪ノ原遺跡第二地区』第83集/2011『平畑遺跡』第84集/2012『清武上猪ノ原遺跡4-』第88集/2017『城平遺跡』第115集/2017『木崎遺跡』第116集/2018『清武上猪ノ原遺跡第5地区』第119集